

**和歌山県
障害者福祉に関する実態調査
結果報告書**

**令和 5 年 3 月
和歌山県**

目 次

調査結果のまとめ

図表索引

調査概要

1 調査について	2
2 本書利用上の注意	3

調査結果

1 回答者の状況	6
Q01 アンケート回答者	6
Q02-1 性別	8
Q02-2 年齢	9
Q03 居住地域	11
Q04 障害者手帳の種別等	12
Q05 障害者手帳の取得時期	12
Q06-1 身体障害者手帳の等級	14
Q06-2 身体障害者手帳の障害種別	15
Q07 療育手帳の区分	16
Q08 精神障害者保健福祉手帳の等級	17
2 住居の状況	19
Q09 住居種別	19
Q10 同居家族	20
Q11 住まいへの満足度	21
Q12 将来どのように暮らしたいか	23
Q13 将来暮らしたい場所	24
3 日常生活の状況	26
Q14 日中(昼間)の過ごし方	27
Q15 普段の生活で不便なこと	30
Q16 生活を主に介助・支援しているのは誰か	31
Q17 日中の過ごし方に満足しているか	32

4 障害福祉サービス	33
Q18 障害福祉サービス利用の有無	34
Q19-1 利用している障害福祉サービスは何か	35
Q19-2 障害福祉サービスの利用で困っていること	37
5 就労の状況	39
Q20-1 就労の有無	40
Q20-2 1か月あたりの給料・工賃等	42
Q20-3 仕事をしていて困ったことはあるか	44
Q20-4 将来、どのように働きたいか	46
Q20-5 仕事をしていない理由	48
Q21 就労を進めるにあたり必要なことは	51
6 悩み・相談	54
Q22 困ったことや悩むことがあるとき、だれに相談するか	55
Q23 今、困っていること、悩んでいることは	58
Q24 相談窓口を利用するときに困ることは	60
7 外出・余暇活動	62
Q25 どのくらい外出しているか	63
Q26-1 外出するときに支援は必要か	64
Q26-2 どのような支援で外出しているか	65
Q27 余暇活動の内容	66
Q28 今後、どのような活動をしたいか	69
Q29 今後、余暇活動をするために、どのようなことが必要か	72
8 情報収集手段	73
Q30 日常生活に必要な情報をどのように集めているか	73
9 人権・権利擁護	77
Q31 障害があることで嫌な思いをしたことはあるか	77
Q32-1 障害があることで嫌な思いをした場所はどこか	80
Q32-2 「嫌な思い」とはどのような内容か	83
Q32-3 「嫌な思い」について誰かに相談したか	85
Q32-4 「嫌な思い」について誰に相談したか	88
Q32-5 「嫌な思い」について相談した結果は	92
Q32-6 「嫌な思い」について相談しなかった理由	95
Q33 障害を理由とする差別をなくすために必要なこと	98

10	災害等緊急時の状況	101
Q34	一人で避難所に避難できるか	102
Q35	避難できない理由	104
Q36	災害発生時や避難所での生活に必要なもの	106
11	新型コロナウイルス感染症	108
Q37	コロナ禍が与えた障害福祉サービスの利用に対する影響	108
Q38	コロナ禍で困っていることは何か	110
12	障害のある方への取組	112
Q39	今後、生活するうえで、充実させてほしいこと	113
Q40	夢中になっていること、将来実現したいこと	116
Q41	その他意見	120
13	介助者・支援者(本人の家族)の状況	121
Q42	介助者・支援者の続柄	122
Q43	介助者・支援者の年齢	123
Q44	介助者・支援者の就業状況	124
Q45	介助者・支援者が考える今後充実させてほしいこと	125
Q46	介助・支援するうえでの悩み・心配事	127

参考資料

調査票

調査結果のまとめ

1. 回答者の状況 p. 6

- ・回答者の性別はほぼ同数ですが、女性が男性をやや上回っています。
- ・年齢別では 70 歳以上が約半数となりました。障害者手帳別では身体障害者手帳が最も多く、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の順となりました。

2. 住居の状況 p. 19

- ・一戸建ての家(自宅)にお住まいの方が 74.2%と最も多くなりました。
- ・今の住まいに満足している方が 82.9%、満足していない方が 12.6%となりました。

3. 日常生活の状況 p. 26

- ・日中は自宅で過ごしている方が最も多く 44.2%で、前回調査よりも 12.8 ポイント増加しました。次いで企業や団体、自営業などで働いている方が 15.9%となりました。
- ・普段の生活の中で不便なことは、身体障害者手帳を持っている方は「緊急時の避難」が、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方は、「意思の伝達、コミュニケーション」が多くなっています。

4. 障害福祉サービス p. 33

- ・約3割の方が障害福祉サービスを利用しており、約6割の方が利用していないと回答しています。
- ・訪問系サービスを利用している方が最も多く、困っていることではサービス利用時間・利用量の少なさを挙げる方が最も多くなっています。

5. 就労の状況 p. 39

- ・仕事をしていない方が 65.9%で最も多く、次いで企業や団体などで臨時職員・パート・アルバイトとして働いている方が 7.3%となっています。
- ・仕事をしていない理由は、18 歳～64 歳では「障害や病気で、働くことができない」が多く、65 歳以上では「高齢であるため」が多くなっています。
- ・就労を進めるにあたり必要なことは「障害者に配慮した職場、設備が整っていること」が最も多くなっています。

6. 悩み・相談 p. 54

- ・困ったことや悩みは「家族や親せき」に相談する方が 68.3%と最も多くなっています。困ったことや悩みの内容は「健康、医療のこと」が 36.8%で最も高く、次いで「自分の障害のこと」が 34.3%となっています。

7. 外出・余暇活動 p. 62

- ・1週間に1~2回程度の外出をする方が最も多くなっています。何らかの形で外出に支援が必要な方は約半数となっています。
- ・余暇活動をしなかった方は約半数となっています。
- ・余暇活動で多かったのは「旅行、キャンプ、釣りなどの活動」「コンサートや映画の鑑賞」です。余暇活動をするために「活動に関する情報」や「一緒に活動する仲間」を必要と考える方が多くいました。

8. 情報収集手段 p. 73

- ・情報収集は「テレビ」からが最も多く、次いで「家族」「新聞」「インターネット」からの順となっています。
- ・39歳以下の年代では、インターネットの割合が最も高くなっています。

9. 人権・権利擁護 p. 77

- ・およそ4人に1人が障害があることで嫌な思いをしたと回答しています。そのうち56.2%の方が誰かに相談しています。相談先は「家族・親せき」が最も多く、次いで「友人・知人」となっています。
- ・相談しなかった理由では「相談しても、解決できないと思ったから」が最も多くなっています。
- ・障害を理由とする差別をなくすために必要なことは「学校での教育」と回答した方が最も多く、次いで「行政、企業などでの職員研修」となっています。

10. 災害等緊急時の状況 p. 101

- ・「一人で避難できる」方が30.2%、「支援を受けながら避難できる環境にある」方が34.3%、「避難できない」方が12.8%となっています。
- ・視覚障害のある方で、「避難できない」と答えた割合は20.4%となっており、他の障害の方よりも高くなっています。
- ・災害発生時には「避難所など安全な場所への誘導や介助などの支援」が必要であると最も多くの方が回答しています。

11. 新型コロナウイルス感染症 p. 108

- ・新型コロナウイルス感染症流行下において、障害福祉サービスの利用が減少した方が8.6%、特に影響を受けていない方が49.5%となっています。
- ・困っていることは「外出や余暇活動、友人と会う機会などが減少した」と答えた方が35.0%となっています。

12. 障害のある方への取組 p. 112

- ・今後充実させて欲しいことは「医療費・介護費の負担軽減」が24.8%と最も多く、前回調査と比較しても増えています。次いで「住まいで受けられる訪問サービス」と「災害時の支援」がともに12.7%となっています。

13. 介助者・支援者（本人の家族）の状況 p. 121

- ・介助者・支援者は、「配偶者」が25.9%と最も多く、次いで「親」が13.8%、「子供」が13.5%となっています。
- ・今後充実させて欲しいことは、「医療費・介護費の負担軽減」が17.5%と最も多く、次いで「家族に対する支援」が9.7%となっています。
- ・悩み・心配ごとは、「将来に関すること」が26.6%と最も多くなっています。

図表索引

(※) 数字はページ番号

質問項目	単純集計	前回調査との比較	クロス集計			
			保有手帳別	身体障害種別	年齢別	性別&年齢別
1. 回答者の状況						
Q1 アンケート回答者	6	7	7			
Q2-1 性別	8		8			
Q2-2 年齢	9	9	10			
Q3 居住地域	11		11			
Q4 障害者手帳の種別等	12					
Q5 障害者手帳の取得時期	12		13	13		
Q6-1 身体障害者手帳の等級	14			14		
Q6-2 身体障害者手帳の障害種別	15					
Q7 療育手帳の区分	16	16			17	
Q8 精神障害者保健福祉手帳の等級	17	18			18	
2. 住居の状況						
Q9 住居種別	19		20			
Q10 同居家族	20		21			
Q11 住まいへの満足度	21		22			
Q12 将来どのように暮らしたいか	23		23			
Q13 将来暮らしたい場所	24		25			
3. 日常生活の状況						
Q14 日中(昼間)の過ごし方	27	28	29			
Q15 普段の生活で不便なこと	30		30			
Q16 生活を主に介助・支援しているのは誰か	31		31			
Q17 日中の過ごし方に満足しているか	32		32			
4. 障害福祉サービス						
Q18 障害福祉サービス利用の有無	34		34			
Q19-1 利用している障害福祉サービスは何か	35		36			
Q19-2 障害福祉サービスの利用で困っていること	37		38			
5. 就労の状況						
Q20-1 就労の有無	40		40		41	
Q20-2 1か月あたりの給料・工賃等	42		42		43	
Q20-3 仕事をしていて困ったことはあるか	44		44		45	
Q20-4 将来、どのように働きたいか	46		46		47	
Q20-5 仕事をしていない理由	48		49		50	
Q21 就労を進めるにあたり必要なことは	51		52		53	
6. 悩み・相談						
Q22 困ったことや悩むことがあるとき、だれに相談するか	55		56		57	
Q23 今、困っていること、悩んでいることは	58		58		59	
Q24 相談窓口を利用するときに困ることは	60		60		61	

(※) 数字はページ番号

質問項目	単純集計	前回調査との比較	クロス集計			
			保有手帳別	身体障害種別	年齢別	性別&年齢別
7. 外出・余暇活動						
Q25 どのくらい外出しているか	63		63			
Q26-1 外出するときに支援は必要か	64		64			
Q26-2 どのような支援で外出しているか	65		65			
Q27 余暇活動の内容	66	67	68			
Q28 今後、どのような活動をしたいか	69	70	71			
Q29 今後、余暇活動をするために、どのようなことが必要か	72		72			
8. 情報収集手段						
Q30 日常生活に必要な情報をどのように集めているか	73	74	75	75	76	
9. 人権・権利擁護						
Q31 障害があることで嫌な思いをしたことはあるか	77		78	78		79
Q32-1 障害があることで嫌な思いをした場所はどこか	80		80	81		82
Q32-2 「嫌な思い」とはどのような内容か	83		84	84		
Q32-3 「嫌な思い」について誰かに相談したか	85		86	86		87
Q32-4 「嫌な思い」について誰に相談したか	88		89	90		91
Q32-5 「嫌な思い」について相談した結果は	92		92	93		94
Q32-6 「嫌な思い」について相談しなかった理由	95		95	96		97
Q33 障害を理由とする差別をなくすために必要なこと	98		98	99		100
10. 災害等緊急時の状況						
Q34 一人で避難所に避難できるか	102		103	103		
Q35 避難できない理由	104		105	105		
Q36 災害発生時や避難所での生活に必要なもの	106		107	107		
11. 新型コロナウイルス感染症						
Q37 コロナ禍が与えた障害福祉サービスの利用に対する影響	108		109	109		
Q38 コロナ禍で困っていることは何か	110		111	111		
12. 障害のある方への取組						
Q39 今後、生活するうえで、充実させてほしいこと	113	114	115			
Q40 夢中になっていること、将来実現したいこと	116		118		119	
Q41 その他意見	120		120			
13. 介助者・支援者の状況						
Q42 介助者・支援者の続柄	122		122			
Q43 介助者・支援者の年齢	123		123			
Q44 介助者・支援者の就業状況	124		124			
Q45 介助者・支援者が考える今後充実させてほしいこと	125		126			
Q46 介助・支援するうえでの悩み・心配事	127		127			

調査概要

調査概要

1 調査について

● 調査の目的

本調査は、和歌山県内の障害のある方の生活実態や困りごと、障害福祉サービスに対するニーズに関する調査を実施することにより、「紀の国障害者プラン2024(仮称)」(第6次和歌山県障害者計画・第7期和歌山県障害福祉計画・第3期和歌山県障害児福祉計画)策定に向け必要な基礎データを収集し、障害者施策の一層の推進を図ることを目的として実施しました。

● 調査対象者及び抽出方法

(1)調査対象者：令和4年9月1日現在で和歌山県内に居住する障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)を所持している方5,600人

内 訳

・身体障害者手帳を所持している方	4,000人
・療育手帳を所持している方	800人
・精神障害者保健福祉手帳を所持している方	800人

(2)抽出方法：上記障害者手帳所持者毎に無作為抽出

● 調査方法

(1)郵送による調査票の送付、回収

依頼状及び調査票の各ページに音声コードを記載

視覚障害のある方を対象とする調査票については、点字依頼状を同封

(2)インターネット上での回答受付

調査票の郵送時に、インターネット上での回答 URL 及び QR コードを記載した依頼状を送付

(3)希望者に対しては以下の調査票を送付(本調査では希望者なし)

点字版調査票

拡字版調査票

白黒反転版調査票

● 調査期間

令和4年10月26日(調査票発送)～令和4年11月30日

- 調査項目
調査項目については、巻末の調査票をご参照ください。
- 有効回答数
アンケートの返信は2,035件(回収率 36.3%)あり、これを有効回答数としました。なお、このうち、インターネット上での回答件数は 93 件でした。

2 本書利用上の注意

- 回答結果の割合「%」は、有効回答数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から一つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の場合、有効回答数に対して選択肢ごとの回答数の割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」と記載されているものは、アンケート内に回答が示されていないものです。
- 図表中の n 値(「n=数字」と表記)は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。
- 図表中の「身体障害の種別」については、以下のように区分しています。

図表中の「身体障害の種別」	障害の種類
視覚障害	視覚障害
聴覚・平衡機能障害	聴覚障害、平衡機能障害
音声・言語、そしゃく機能障害	音声・言語機能障害、そしゃく機能障害
肢体不自由	肢体不自由
内部機能障害	心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸器機能障害 ぼうこう・直腸機能障害、小腸機能障害 免疫機能障害、肝臓機能障害
不明	(障害の種類不明)

調査結果

1. 回答者の状況

本節のポイント

- ・回答者の性別はほぼ同数ですが、女性が男性をやや上回っています。
- ・年齢別では 70 歳以上が約半数となりました。障害者手帳別では身体障害者手帳が最も多く、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の順となりました。

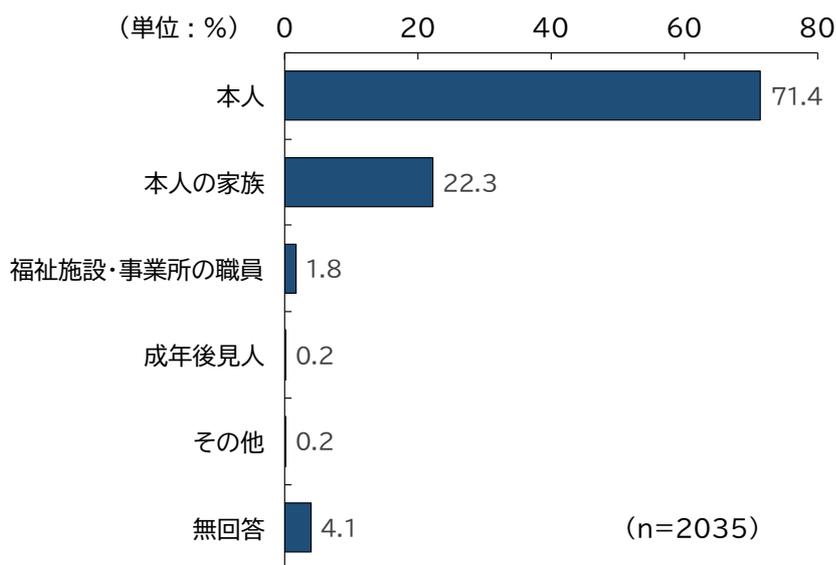
- 身体障害者手帳では 80 歳以上が、療育手帳では 20 代が、精神障害者保健福祉手帳では 50 代が最も多い。(p.10)
- 身体障害者手帳では 1 級の方が 25.8% で最も多い。(p.14)
- 療育手帳では B2 の方が 50.2% で最も多い。(p.16)
- 精神障害者保健福祉手帳では 2 級の方が 44.1% で最も多い。(p.17)

Q01. アンケート回答者 (単一回答)

質問文 このアンケートにお答えいただくのは、どなたですか。(1つに○)

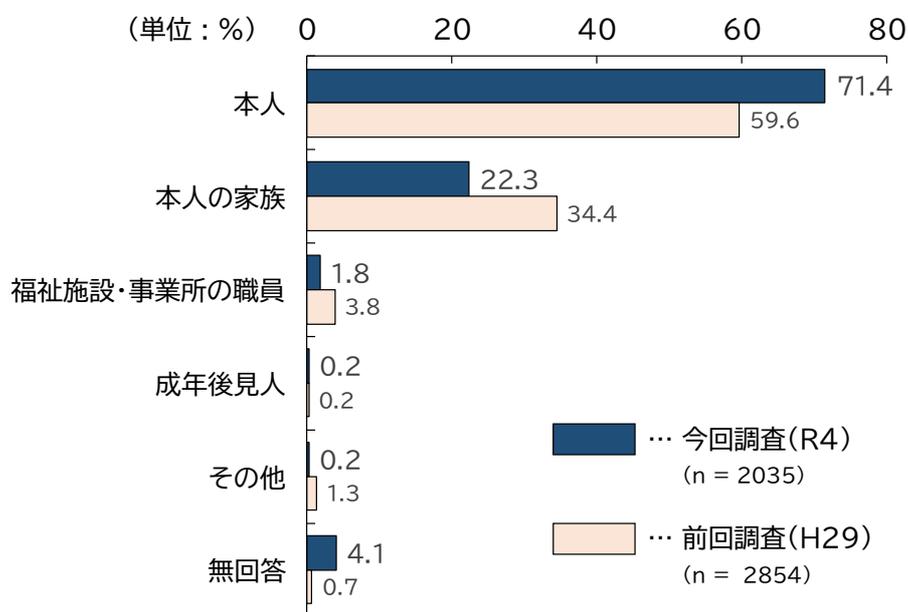
図表 1-1 アンケート回答者 単純集計

71.4%の方が本人により、22.3%の方が本人の家族により回答しています。



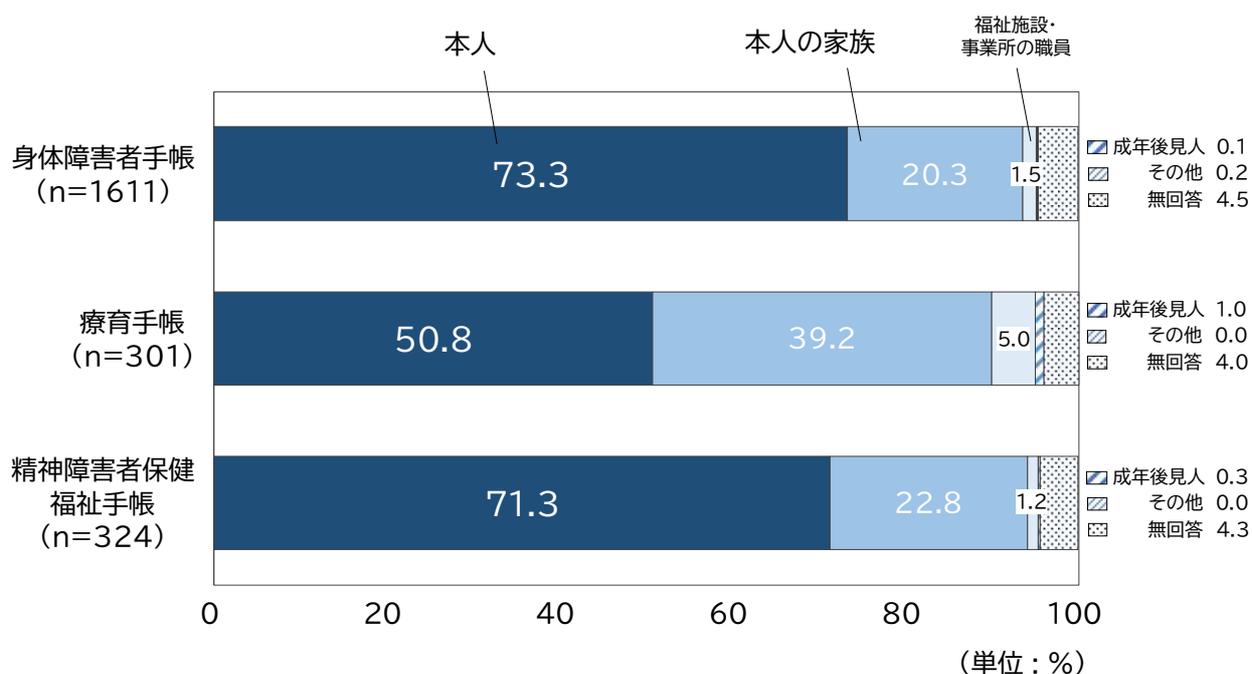
図表 1-2 アンケート回答者 前回比較

本人による回答が 11.8 ポイント増加し、家族による回答が12.1 ポイント減少しました。



図表 1-3 アンケート回答者(保有手帳の種別) クロス集計

療育手帳を持っている方では、本人の家族が回答した割合が高くなっています。



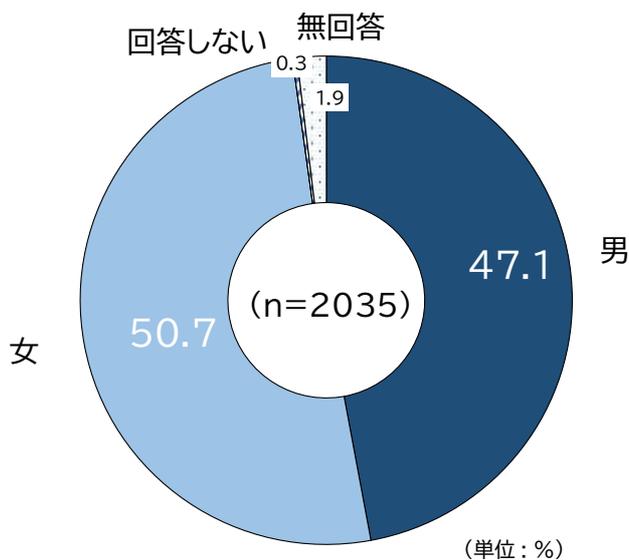
調査結果 (1. 回答者の状況)

Q 02-1. 性別 (単一回答)

質問文 あなたの性別をお答えください。(1つに〇)

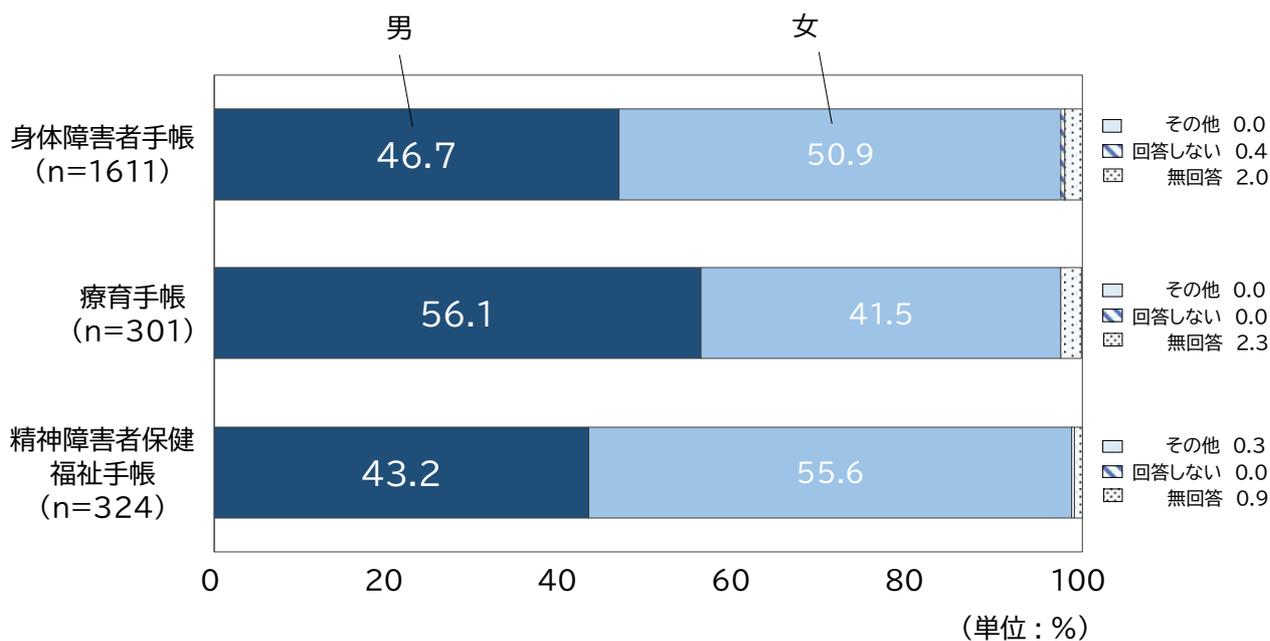
図表 1-4 性別 単純集計

女性が 50.7%、男性が 47.1%と、女性が男性よりも 3.6 ポイント高くなっています。



図表 1-5 性別(保有手帳の種別) クロス集計

身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方では女性が、療育手帳を持っている方では男性がやや多くなっています。

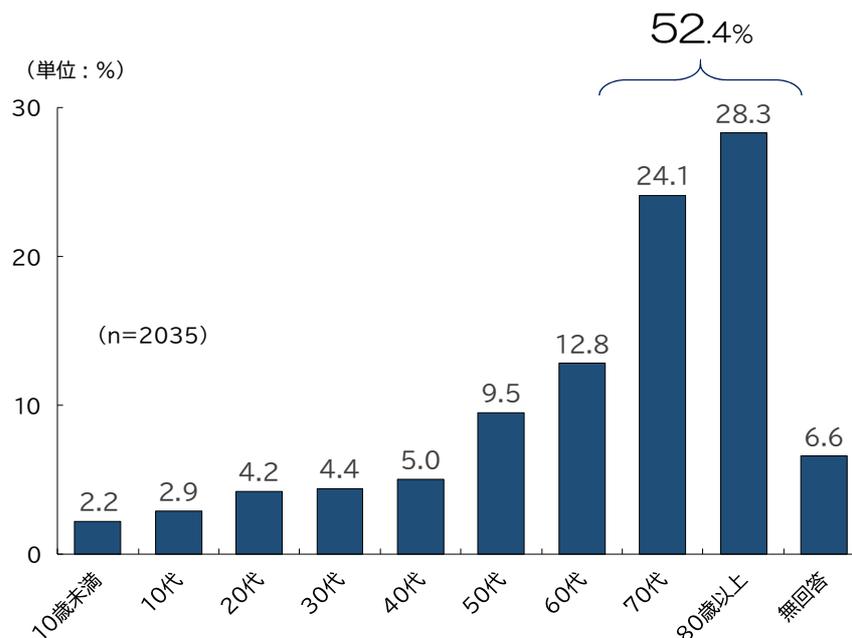


Q 02-2. 年齢 (数値回答)

質問文 あなたの年齢をお答えください。(数字を記入)

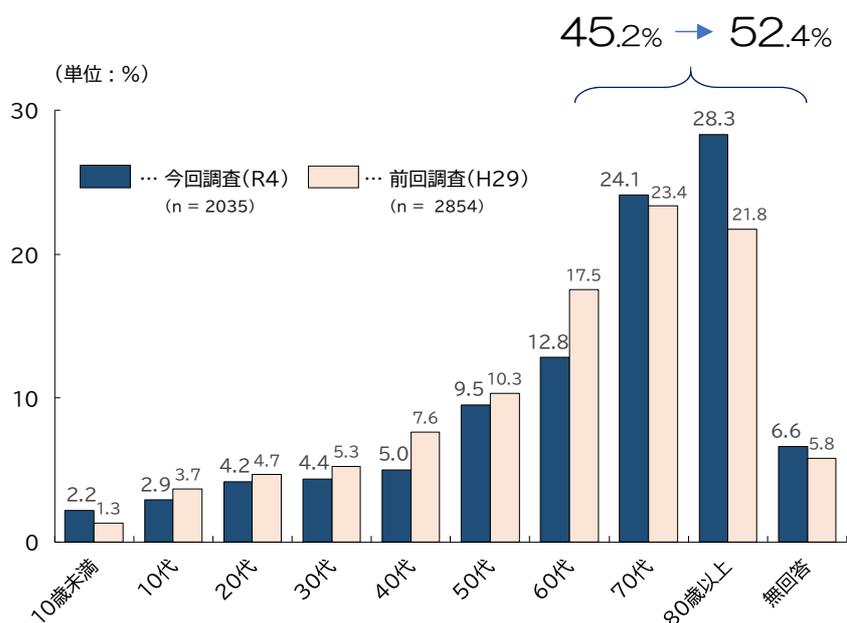
図表 1-6 年齢 単純集計

70代以上の方が多く52.4%と約半数、次いで60代、50代の順で多くなっています。



図表 1-7 年齢 前回比較

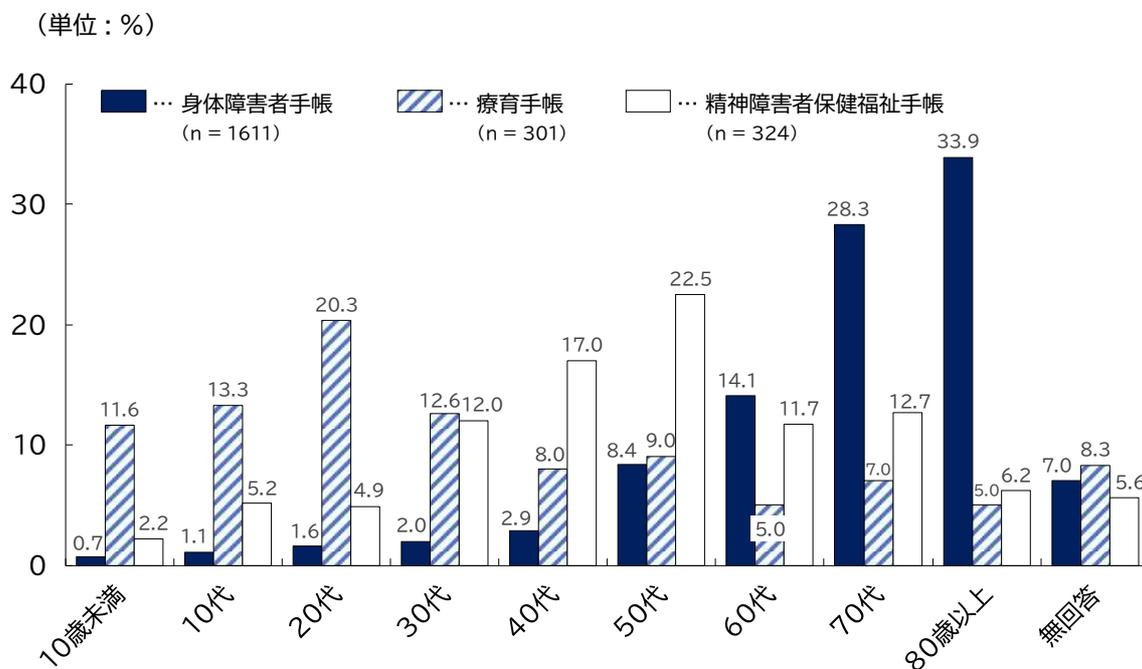
70歳以上で7.2ポイント増加しました。10歳未満を除き他の年代は減少しました。



調査結果 (1. 回答者の状況)

図表 1-8 年齢(保有手帳の種類別) クロス集計

身体障害者手帳では80歳以上が、療育手帳では20代が、精神障害者保健福祉手帳では50代が最も多くなっています。

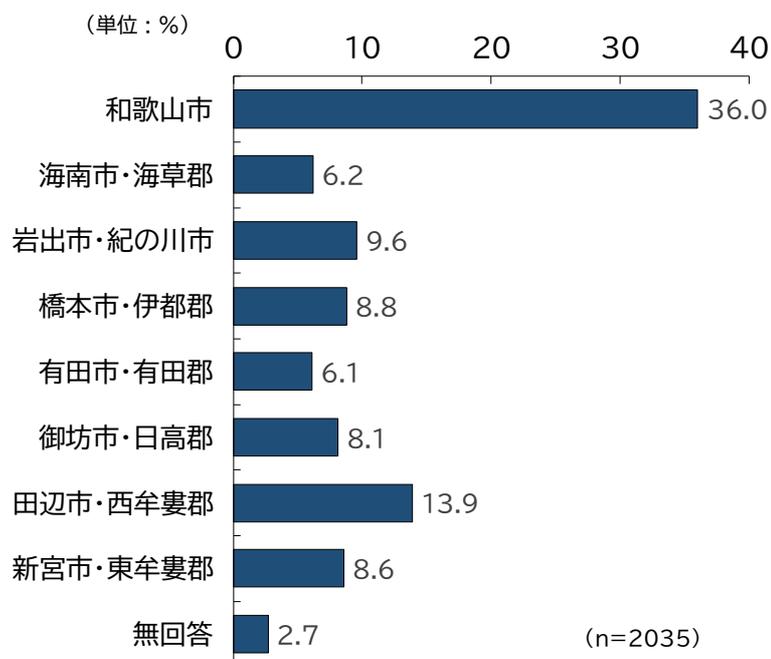


Q 03. 居住地域 (単一回答)

質問文 お住まいの地域はどこですか。(1つに○)

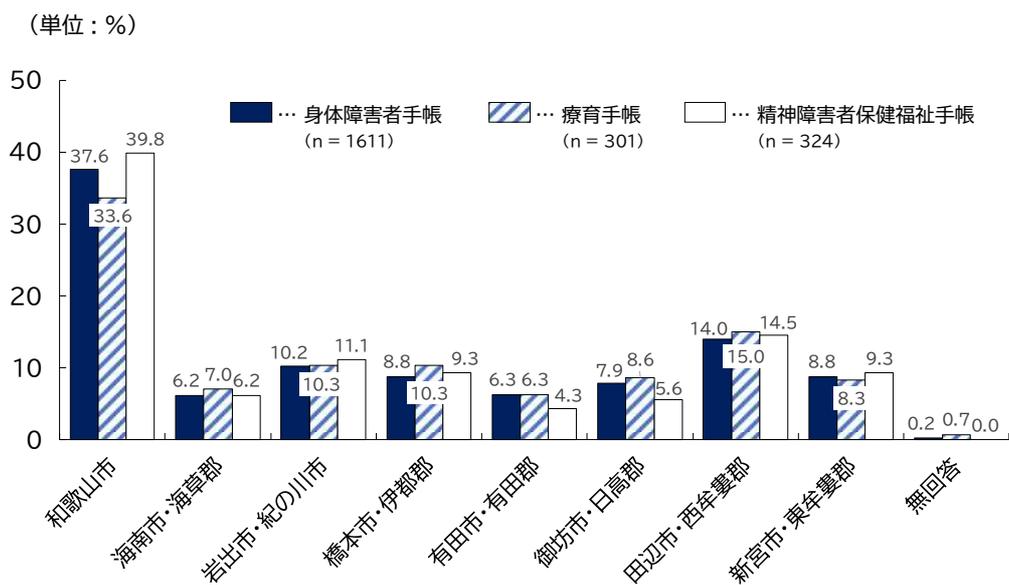
図表 1-9 居住地域 単純集計

和歌山市在住の方が36%と最も多く、次いで田辺市・西牟婁地域となっています。



図表 1-10 居住地域(保有手帳の種別) クロス集計

保有手帳種別による大きな違いは見られませんでした。

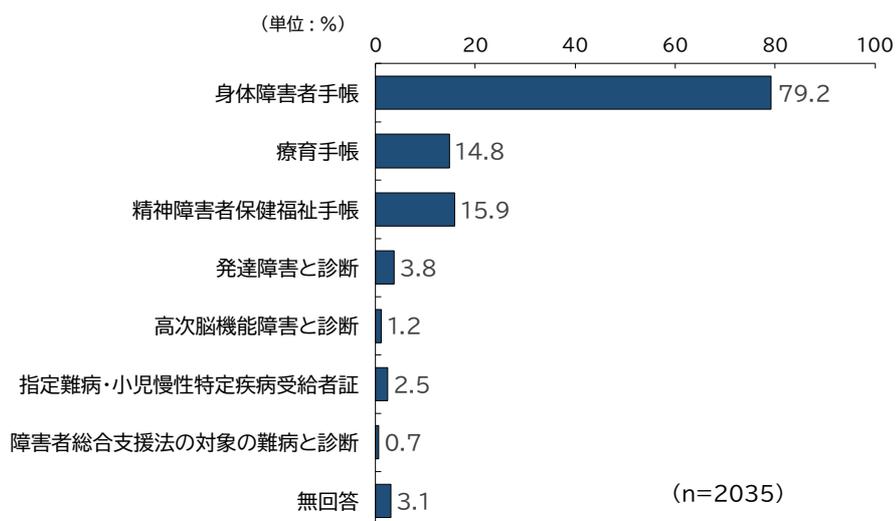


Q 04. 障害者手帳の種別等 (複数回答)

質問文 あなたがお持ちの障害者手帳や障害の診断などについておたずねします。
(あてはまるもの全てに○)

図表 1-11 障害者手帳の種別・障害の診断等 単純集計

身体障害者手帳を持っている方が最も多く 79.2%、次いで精神障害者保健福祉手帳15.9%、療育手帳14.8%となっています。

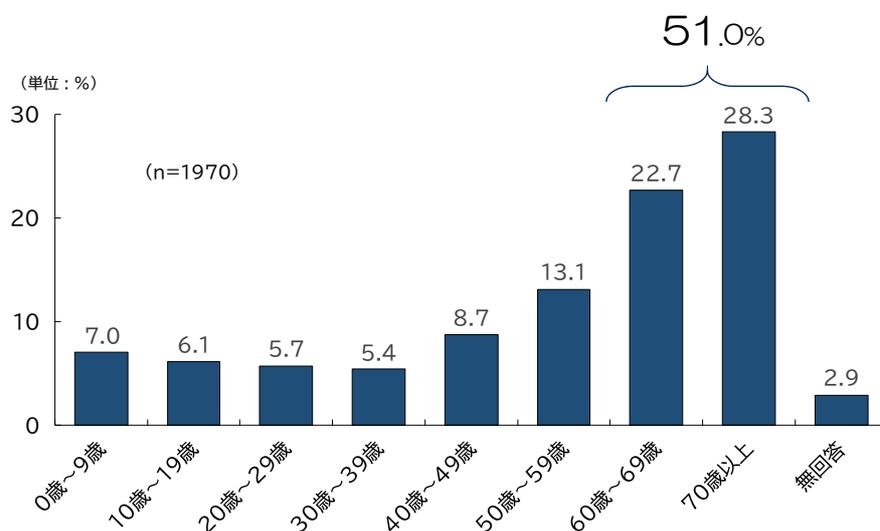


Q 05. 障害者手帳の取得時期 (単一回答)

質問文 あなたがお持ちの障害者手帳や障害の診断などについておたずねします。(1つに○)

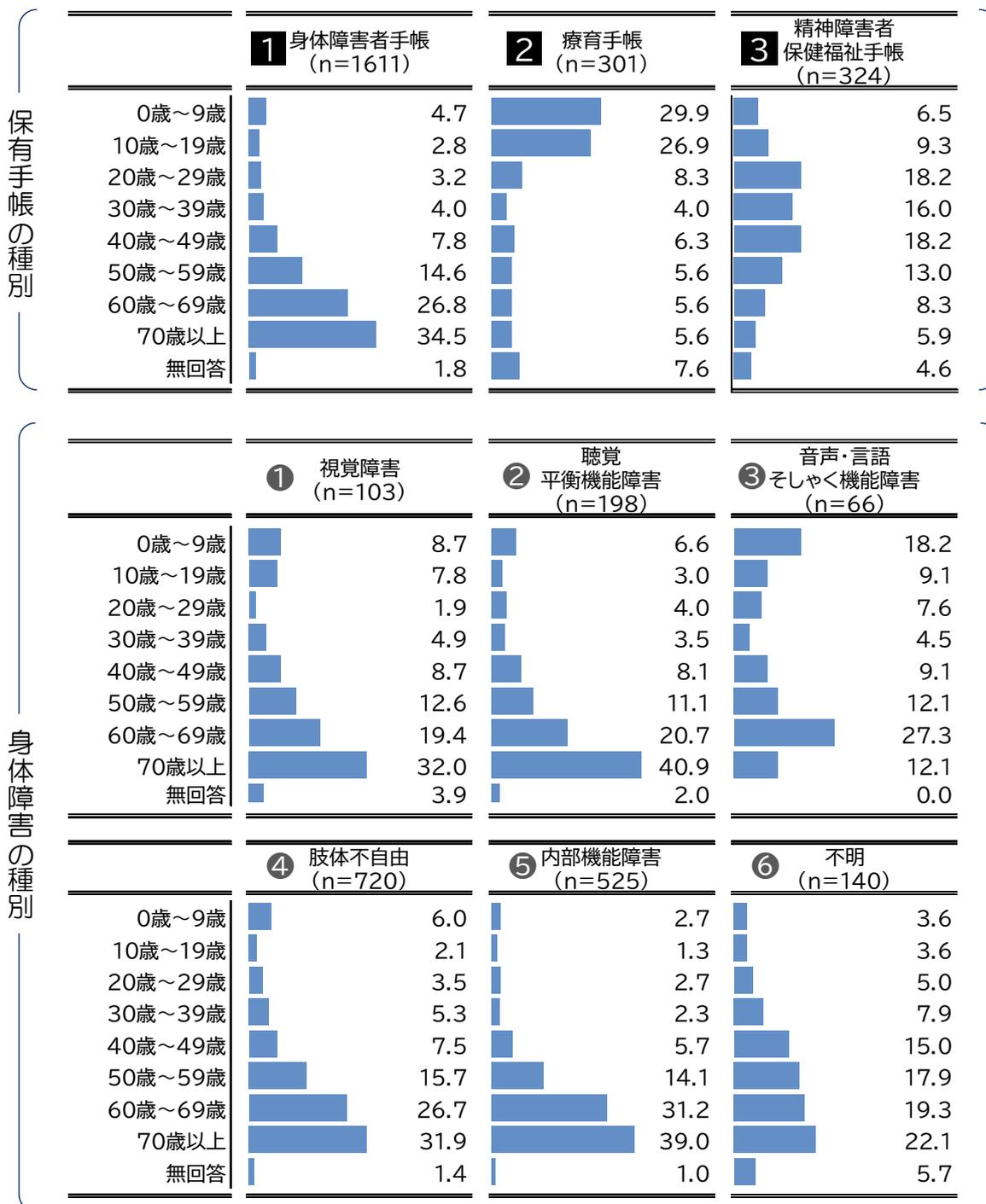
図表 1-12 障害者手帳の取得時期 単純集計

60歳以上で取得された方が 51.0%で約半数となっています。



図表 1-13 障害者手帳の取得時期(保有手帳の種別・身体障害の種別) クロス集計

身体障害者手帳では 70 歳以上が、療育手帳では 10 歳未満が、精神障害者保健福祉手帳では 20 代と 40 代が最も多くなっています。

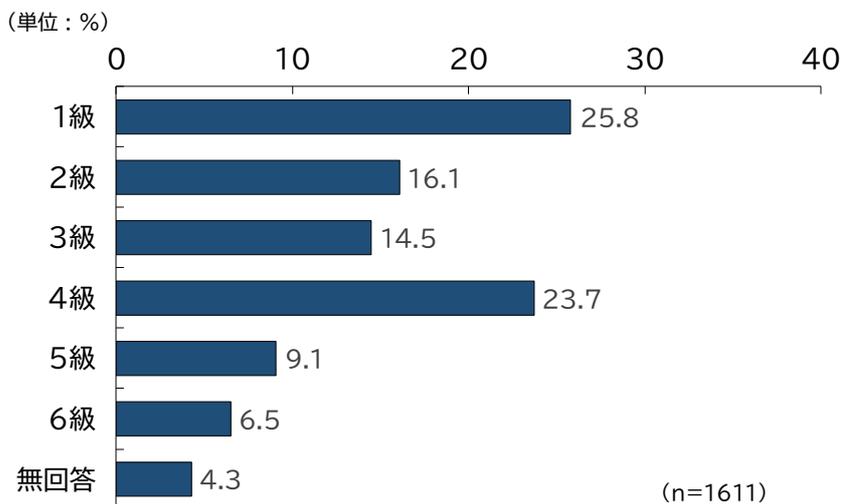


Q 06-1. 身体障害者手帳の等級(単一回答)

質問文 総合の等級をお答えください。(1つに○)

図表 1-14 身体障害者手帳の等級 単純集計

身体障害者手帳1級の方が最も多く 25.8%、次いで 4 級の方が 23.7%となっています。



図表 1-15 身体障害者手帳の等級(身体障害の種別) クロス集計

身体障害者手帳1級の割合が高いのは、内部機能障害、視覚障害、音声・言語・そしゃく機能障害の順となっています。

身体障害の種別	① 視覚障害 (n=103)			② 聴覚・平衡機能障害 (n=198)			③ 音声・言語・そしゃく機能障害 (n=66)		
	1級	2級	3級	1級	2級	3級	1級	2級	3級
1級	33.0	10.6	25.8	10.6	18.7	28.8	10.6	18.7	28.8
2級	30.1	18.7	28.8	18.7	14.6	18.2	18.7	14.6	18.2
3級	6.8	14.6	18.2	14.6	7.8	12.1	14.6	7.8	12.1
4級	7.8	15.7	12.1	7.8	15.7	12.1	15.7	8.1	1.5
5級	15.5	8.1	1.5	15.5	1.9	0.0	8.1	1.9	0.0
6級	1.9	29.3	0.0	1.9	29.3	0.0	1.9	29.3	0.0
無回答	4.9	3.0	13.6	4.9	3.0	13.6	4.9	3.0	13.6

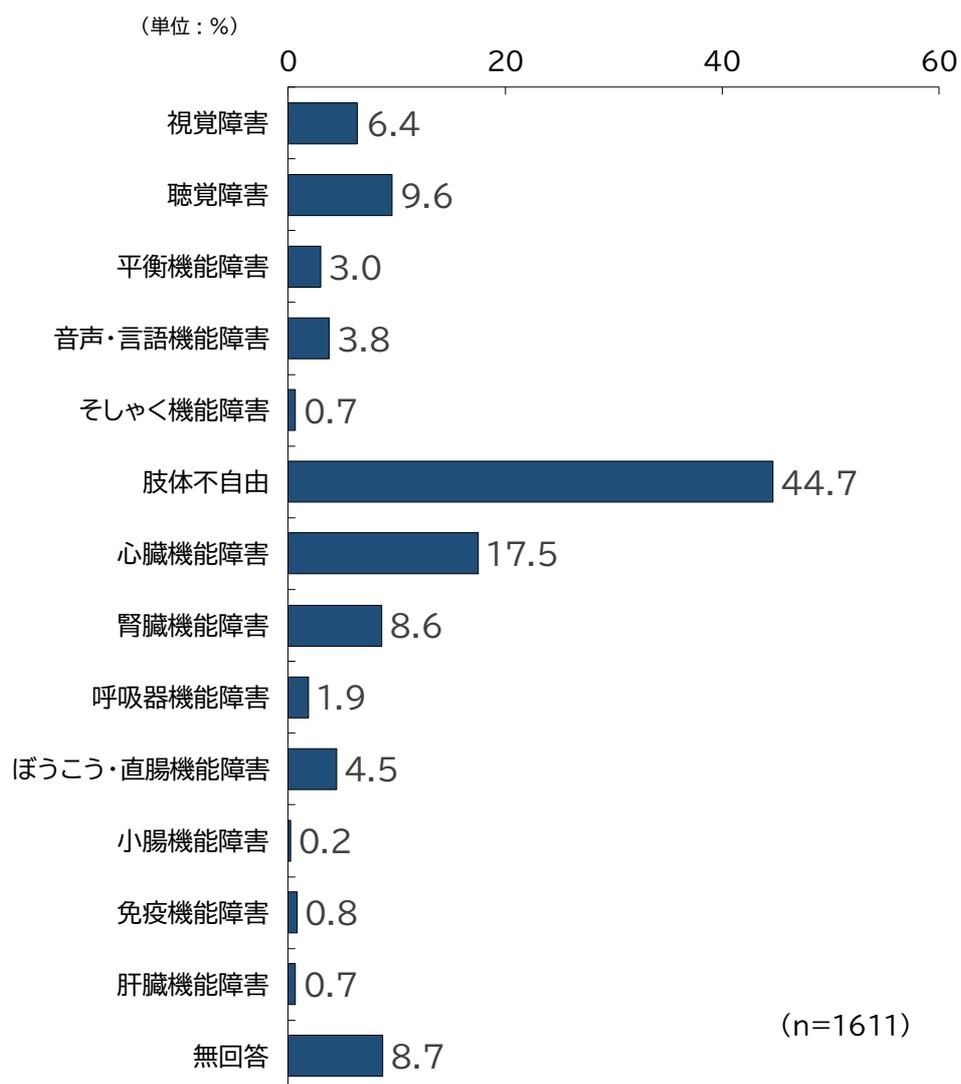
身体障害の種別	④ 肢体不自由 (n=720)			⑤ 内部機能障害 (n=525)			⑥ 不明 (n=140)		
	1級	2級	3級	1級	2級	3級	1級	2級	3級
1級	15.3	51.4	10.0	15.3	51.4	10.0	15.3	51.4	10.0
2級	19.7	5.9	27.1	19.7	5.9	27.1	19.7	5.9	27.1
3級	13.2	15.6	17.9	13.2	15.6	17.9	13.2	15.6	17.9
4級	27.8	22.5	20.0	27.8	22.5	20.0	27.8	22.5	20.0
5級	15.0	0.6	8.6	15.0	0.6	8.6	15.0	0.6	8.6
6級	5.6	1.0	2.1	5.6	1.0	2.1	5.6	1.0	2.1
無回答	3.5	3.0	14.3	3.5	3.0	14.3	3.5	3.0	14.3

Q 06-2. 身体障害者手帳の障害種別(複数回答)

質問文 障害の種類をお答えください。(あてはまるもの全てに○)

図表 1-16 身体障害者手帳の障害種別 単純集計

障害種別では肢体不自由が最も多く44.7%、次いで心臓機能障害17.5%、聴覚障害9.6%、腎臓機能障害8.6%の順となっています。

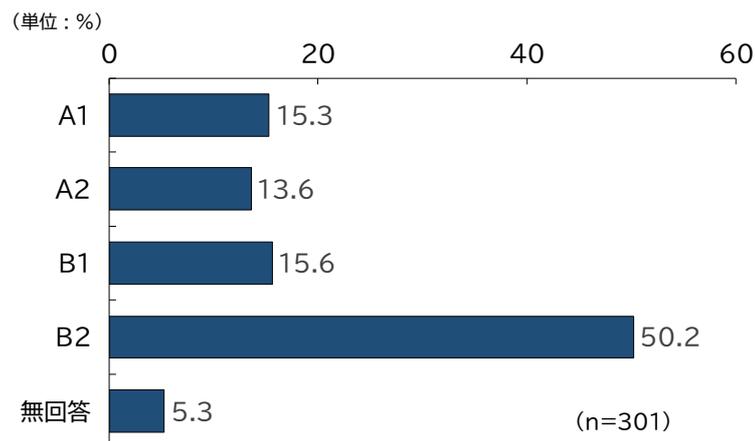


Q 07. 療育手帳の区分 (単一回答)

質問文 療育手帳をお持ちの方におたずねします。障害の程度を教えてください。(1つに○)

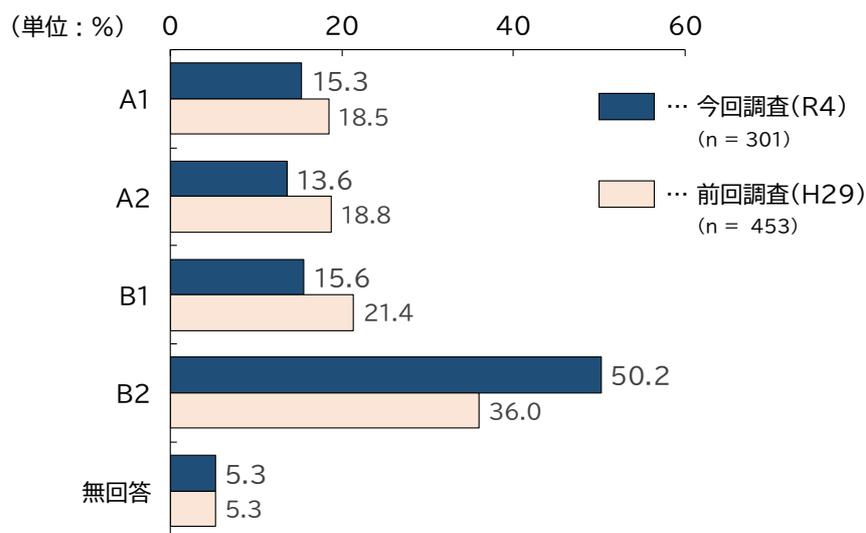
図表 1-17 療育手帳の区分 単純集計

療育手帳では B2 の方が 50.2%と約半数、次いで B1の方が 15.6%、A1 の方が 15.3%、A2 の方が 13.6%となっています。



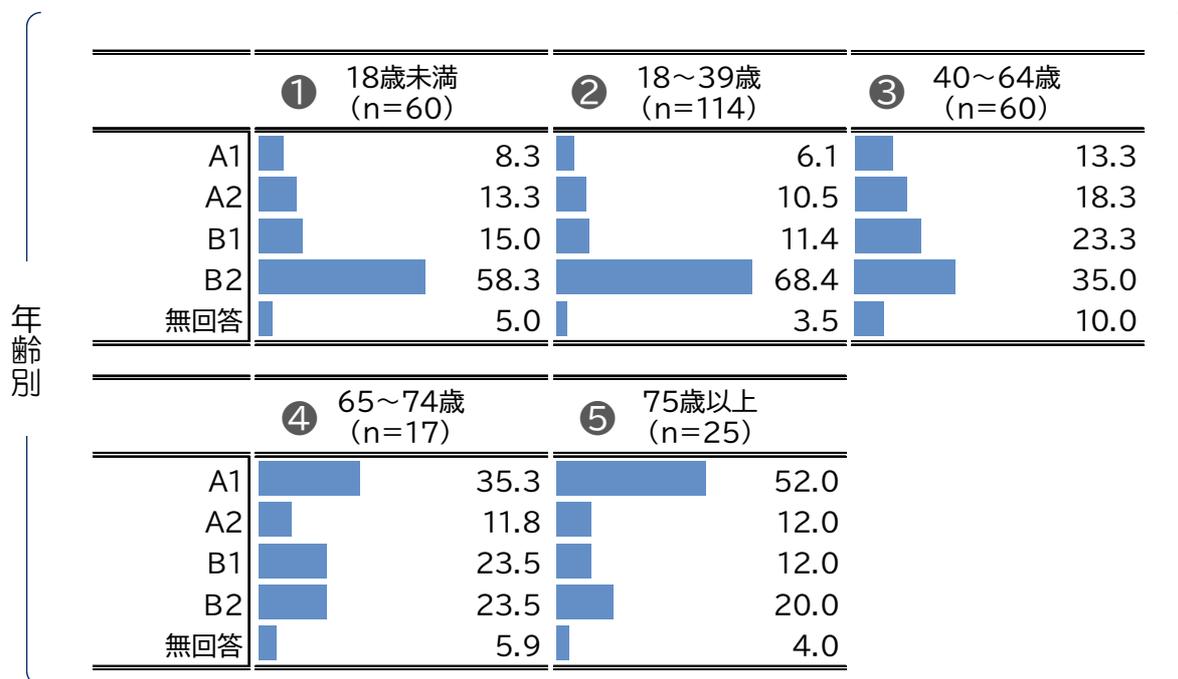
図表 1-18 療育手帳の区分 前回比較

B2 の方が 14.2 ポイント増加し、A1、A2、B1 の方が減少しています。



図表 1-19 療育手帳の区分(年齢別) クロス集計

若年者層で B2の方の割合が高く、高齢者層で A1の方の割合が高くなっています。



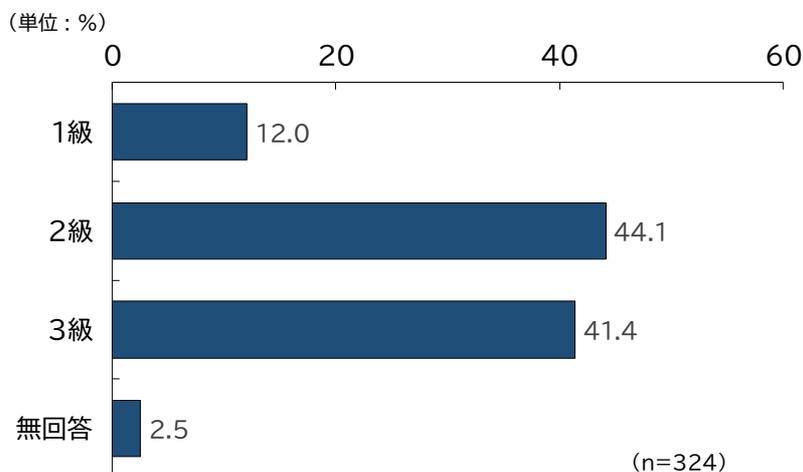
Q 08. 精神障害者保健福祉手帳の等級 (単一回答)

質問文 精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方におたずねします。等級は次のうちどれですか。

(1つに○)

図表 1-20 精神障害者保健福祉手帳の等級 単純集計

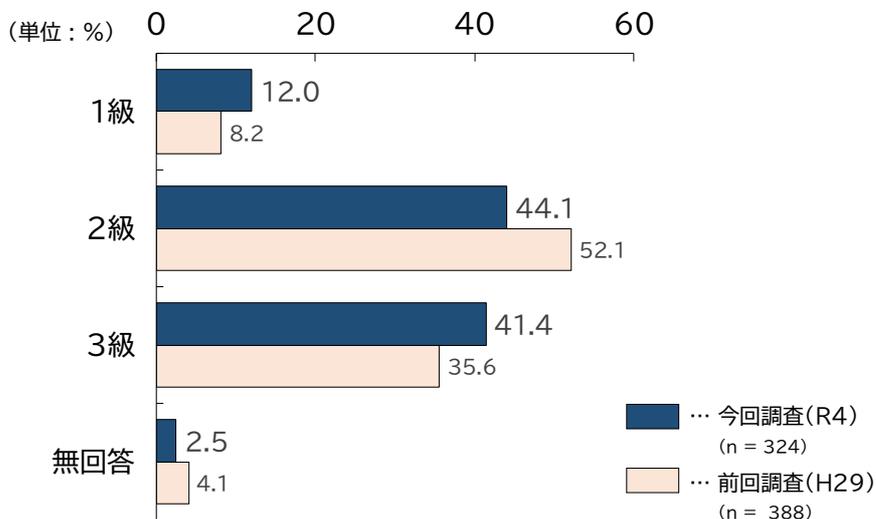
精神障害者保健福祉手帳では2級の方が44.1%と最も多く、次いで3級の方が41.4%、1級の方が12.0%の順となっています。



調査結果 (1. 回答者の状況)

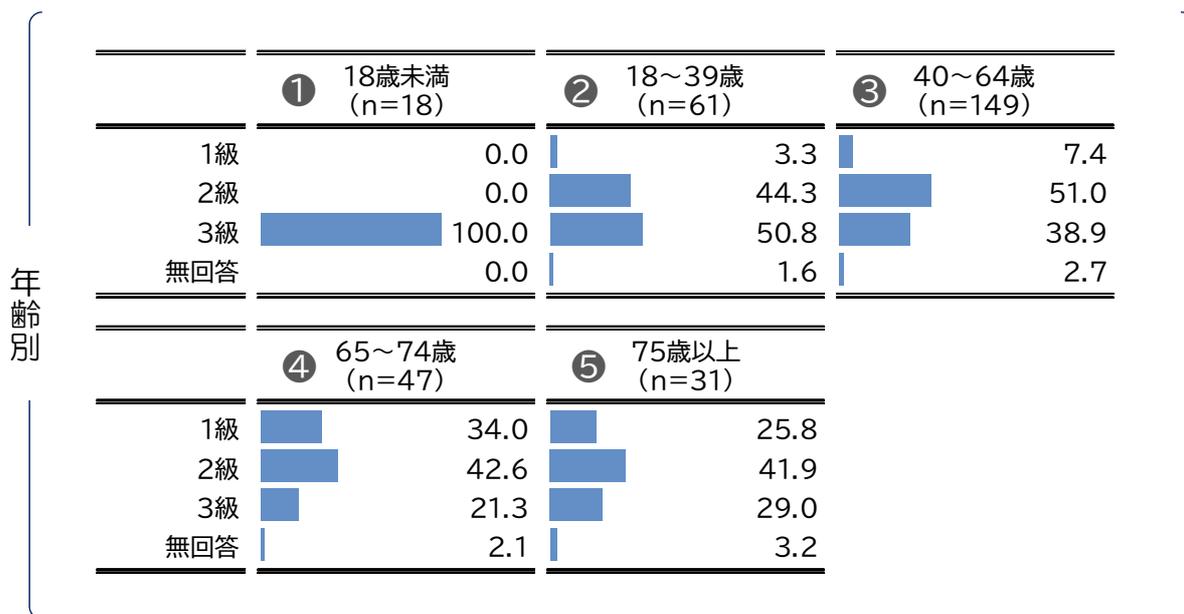
図表 1-21 精神障害者保健福祉手帳の等級 前回比較

2級の方が8ポイント減少し、1級、3級の方は増加しています。



図表 1-22 精神障害者保健福祉手帳の等級(年齢別) クロス集計

精神障害者保健福祉手帳3級の方は18歳未満で割合が特に高く、1級の方は高齢者層ほど割合が高くなっています。



2. 住居の状況

本節のポイント

- ・一戸建ての家(自宅)にお住まいの方が 74.2%と最も多くなりました。
- ・今の住まいに満足している方が 82.9%、満足していない方が 12.6%となりました。

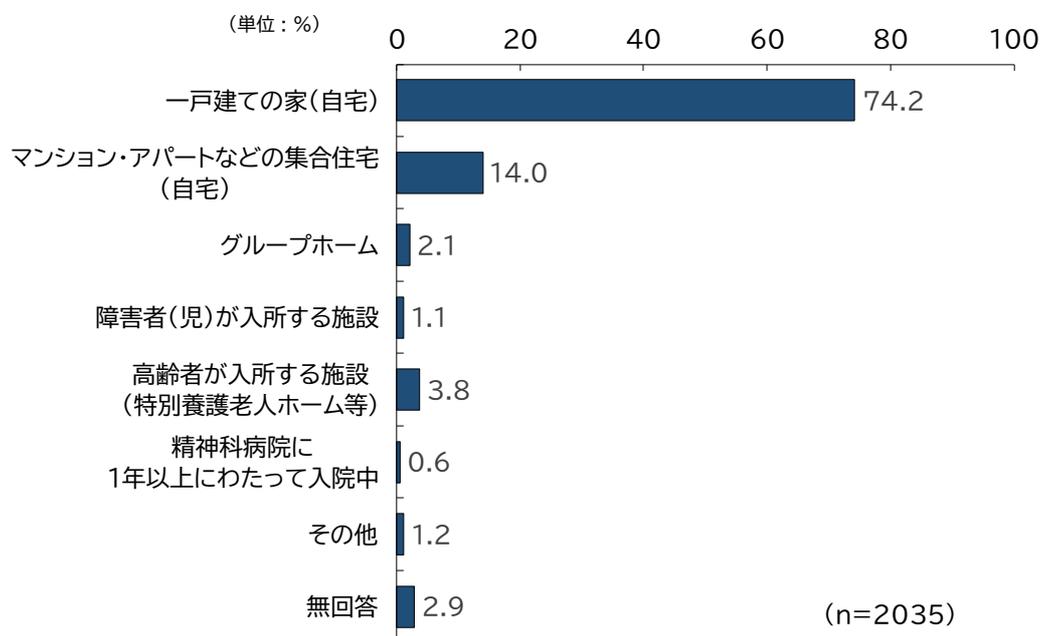
- 身体障害者手帳を持っている方は配偶者との同居が多く、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方は親との同居が多くなっている。(p.21)
- 今、住んでいる場所で将来も暮らしたい方は8割弱、別の場所で暮らしたい方は2割弱となっている。(p.23)

Q 09. 住居種別（単一回答）

質問文 あなたのお住まいは、次のうちどれですか。（1つに○）

図表 2-1 住居種別 単純集計

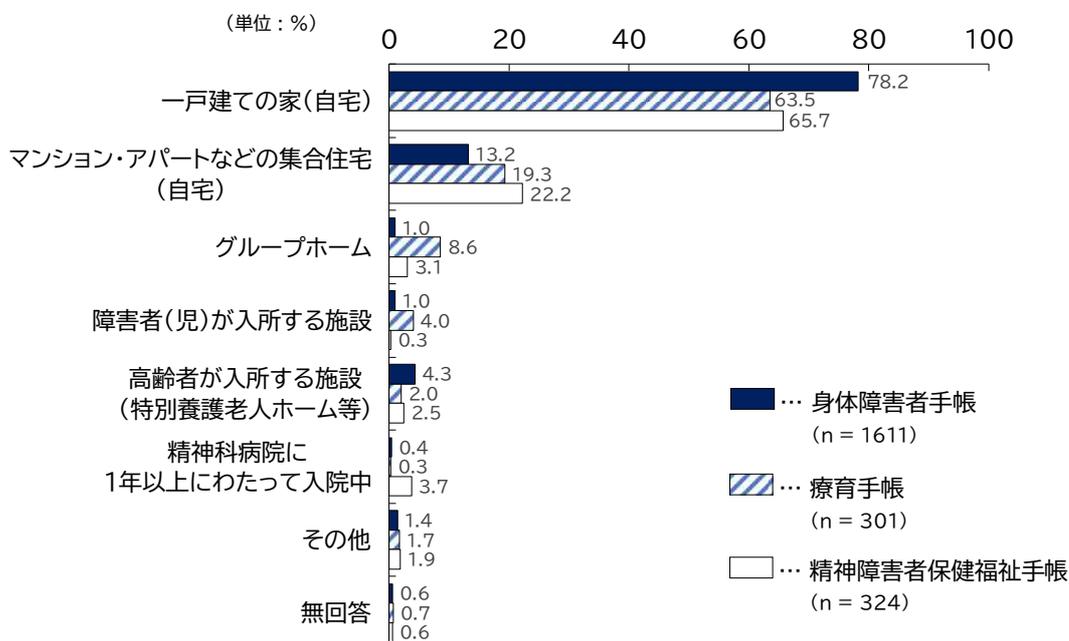
一戸建ての家(自宅)にお住まいの方が 74.2%と最も多く、次いで集合住宅(自宅)の方が 14.0%となっています。



調査結果 (2. 住居の状況)

図表 2-2 住居種別(保有手帳の種別) クロス集計

身体障害者手帳を持っている方は、やや一戸建ての割合が高く、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方はややマンションなどの集合住宅の割合が高くなっています。

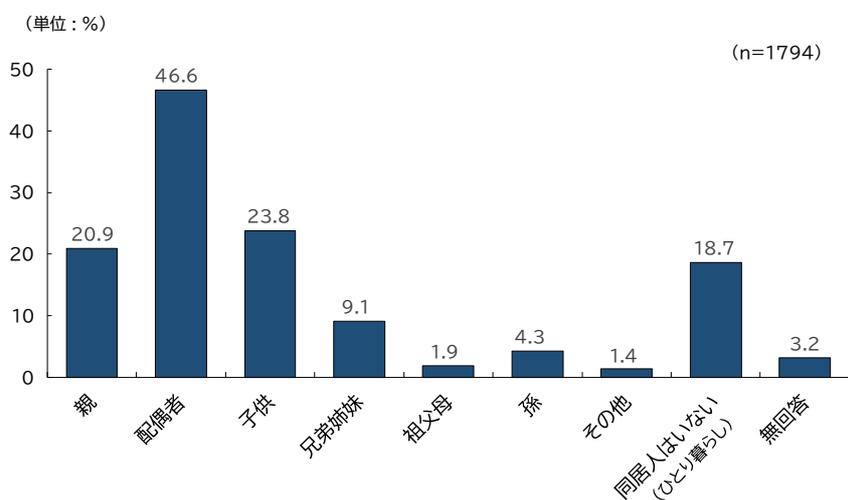


Q 10. 同居家族 (複数回答)

質問文 Q9で「1. 一戸建ての家(自宅)」または「2. マンション、アパートなどの集合住宅(自宅)」と回答された方におたずねします。同居しているご家族についてお答えください。(あてはまるもの全てに○)

図表 2-3 同居家族 単純集計

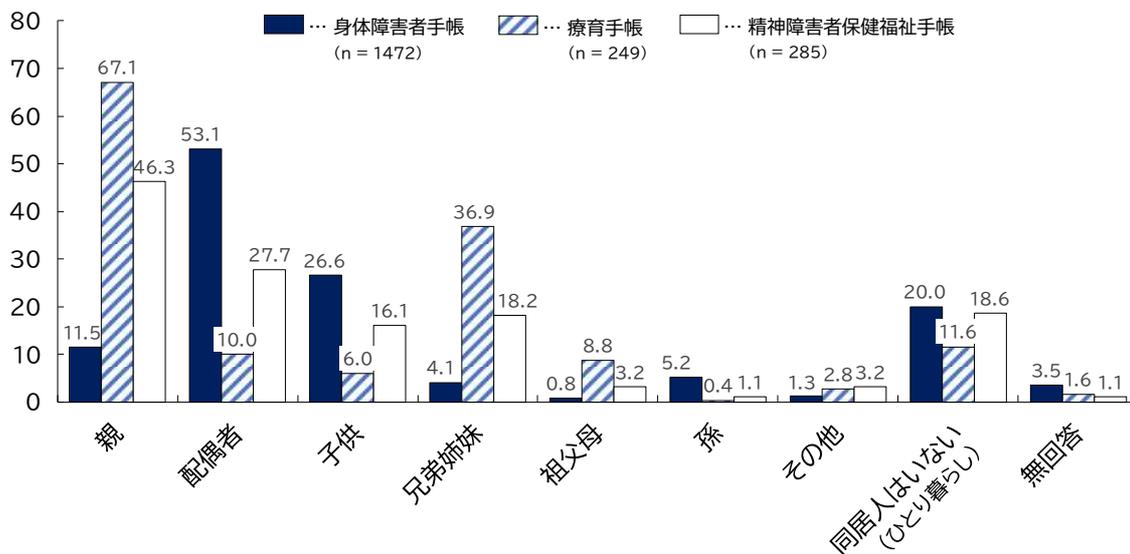
自宅において、配偶者とお住まいの方は46.6%、子供とは23.8%、親とは20.9%となっています。また、ひとり暮らしの方が18.7%となっています。



図表 2-4 同居家族(保有手帳の種別) クロス集計

身体障害者手帳を持っている方は配偶者との同居が多く、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方は親との同居が多くなっています。

(単位：%)



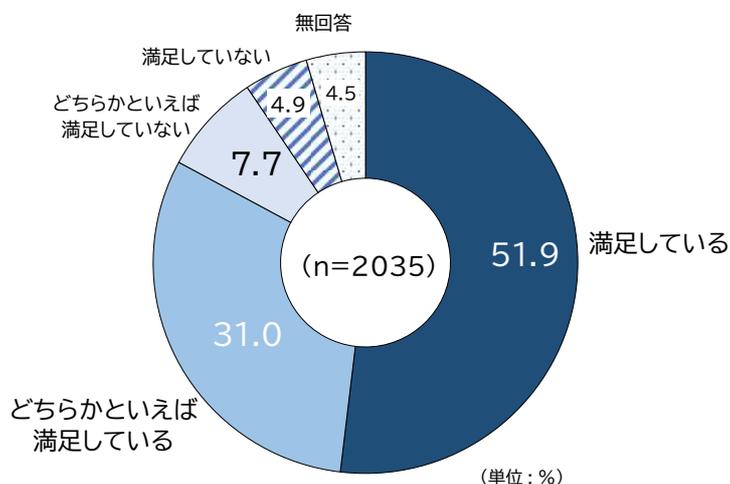
Q 11. 住まいへの満足度 (単一回答)

質問文 あなたは今、住んでいるところに満足していますか。(1つに○)

なお、「3. どちらかといえば満足していない」「4. 満足していない」に当てはまる場合、その理由も教えてください。

図表 2-5 住まいへの満足度 単純集計

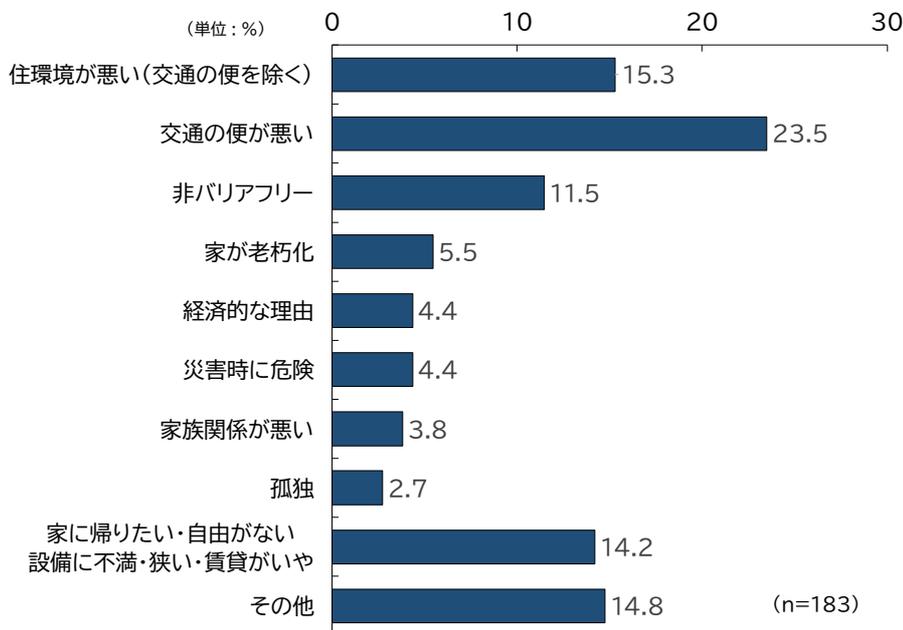
82.9%の方が「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答しており、12.6%の方が「満足していない」「どちらかといえば満足していない」と回答しています。



調査結果 (2. 住居の状況)

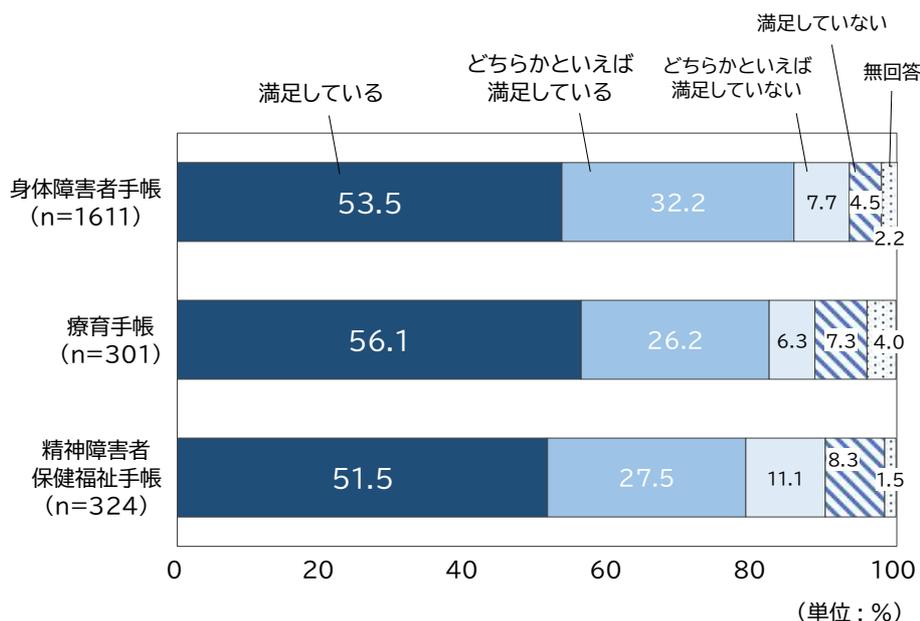
(参考図表) 今の住まいに満足していない理由 単純集計

不満の理由としては、交通の便の悪さが 23.5%と最も多く、次いで住環境の悪さ(交通の便を除く)となっています。



図表 2-6 住まいへの満足度(保有手帳の種別) クロス集計

「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は、身体障害者手帳を持っている方が最も高くなっています。
 「満足していない」「どちらかといえば満足していない」を合わせた割合は、精神障害者保健福祉手帳の方が最も高くなっています。

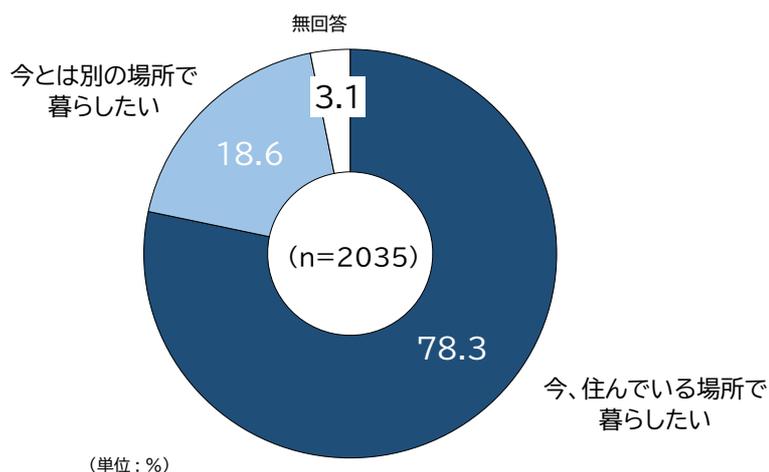


Q 12. 将来どのように暮らしたいか (単一回答)

質問文 あなたは将来、どのように暮らしたいと思いますか。(1つに○)

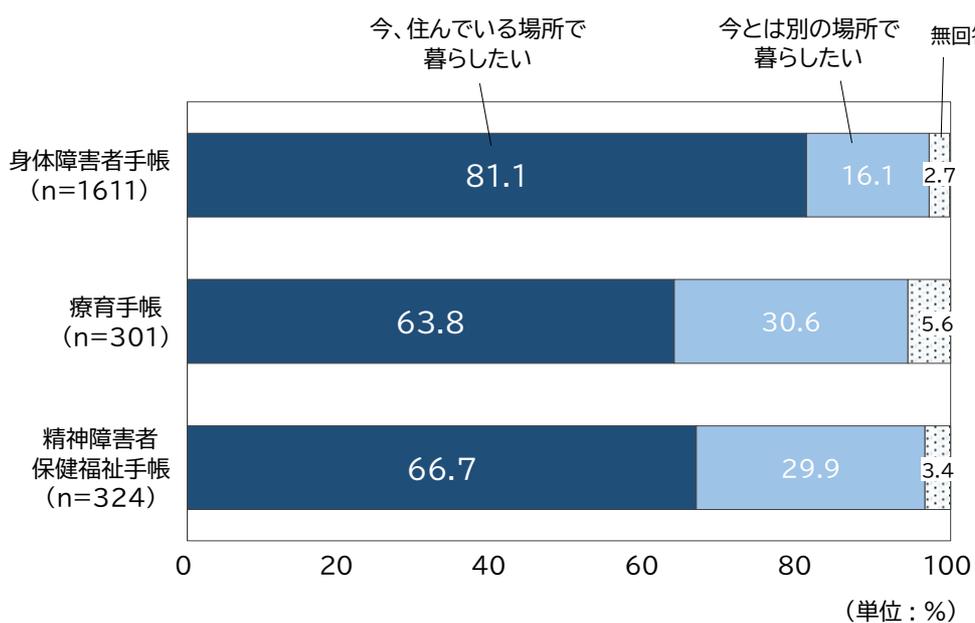
図表 2-7 将来どのように暮らしたいか 単純集計

今、住んでいる場所で将来も暮らしたい方が 78.3%、別の場所で暮らしたい方が 18.6%となっています。



図表 2-8 将来どのように暮らしたいか クロス集計

身体障害者手帳を持っている方は、「今、住んでいる場所で暮らしたい」が 81.1%となっており、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方よりも割合が高くなっています。

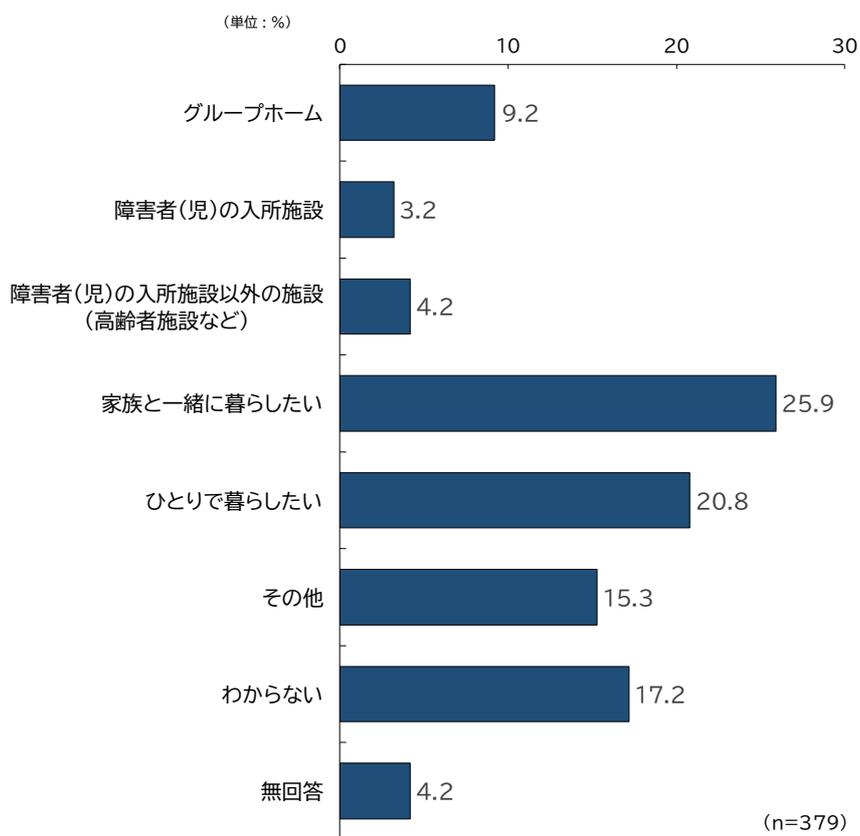


Q 13. 将来暮らしたい場所 (単一回答)

質問文 一つ前のQ12で「2. 今とは別の場所で暮らしたい」と回答された方におたずねします。具体的にどのような場所で暮らしたいと思いますか。(1つに〇)

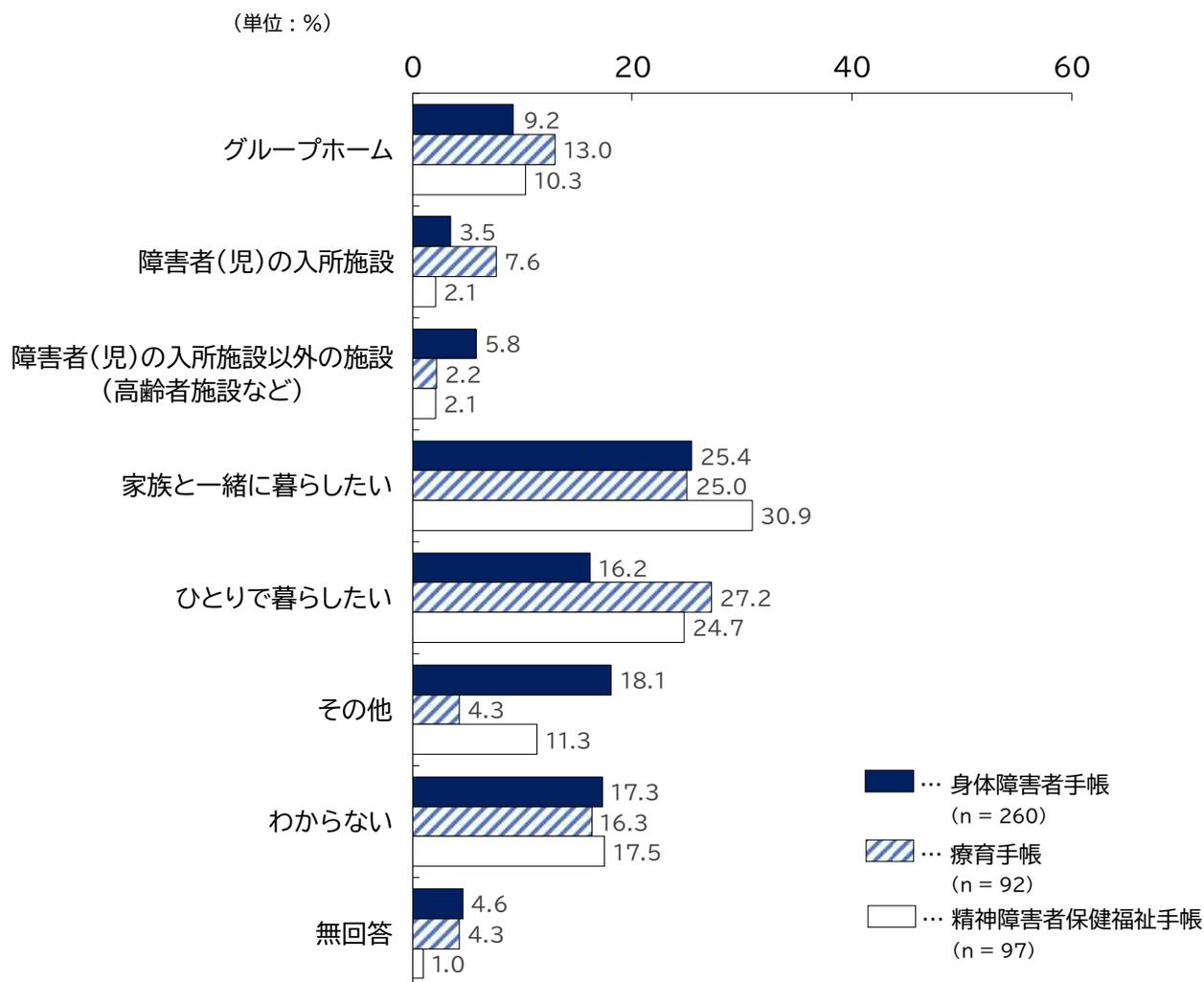
図表 2-9 将来暮らしたい場所 単純集計

25.9%の方が将来、「家族と一緒に暮らしたい」と回答し、20.8%の方が将来、「ひとりで暮らしたい」と回答しています。



図表 2-10 将来暮らしたい場所(保有手帳の種別) クロス集計

ひとりで暮らしたいと考える方は、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方で割合が高く、身体障害者手帳の方で割合が低くなっています。



3. 日常生活の状況

本節のポイント

・日中は自宅で過ごしている方が最も多く 44.2%で、前回調査よりも 12.8 ポイント増加しました。次いで企業や団体、自営業などで働いている方が 15.9%となっています。

・普段の生活の中で不便なことは、身体障害者手帳を持っている方は「緊急時の避難」が、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方は、「意思の伝達、コミュニケーション」が多くなっています。

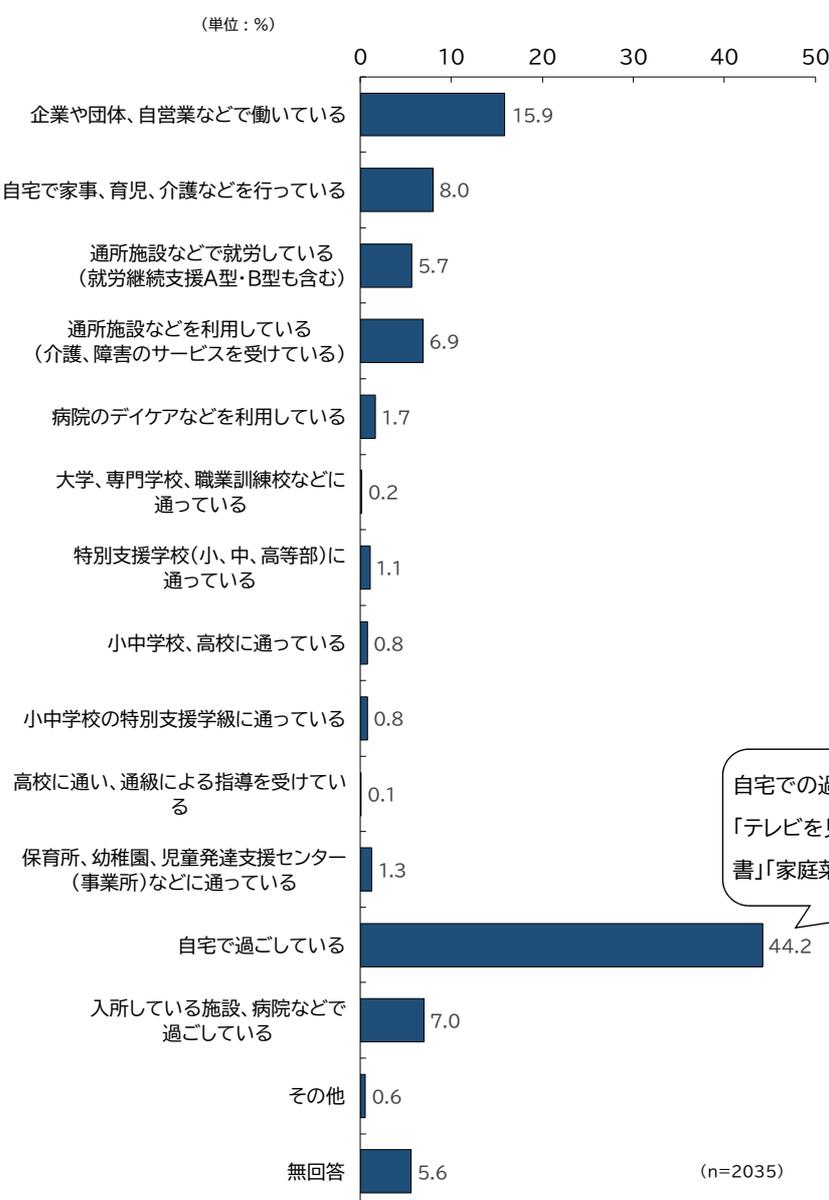
- 自宅で過ごしている方の割合は、身体障害者手帳、次いで精神障害者保健福祉手帳を持っている方で特に高くなっている。(p.29)
- 生活を主に介助・支援しているのは「配偶者」が 30.6%で最も多く、次いで「子供」が 20.9%となっている。(p.31)
- 日中の過ごし方について「どちらかといえば満足している」が 47.5%で最も多く、次いで「満足している」が 33.8%となっている。(p.32)

Q 14. 日中の過ごし方 (単一回答)

質問文 日中(昼間)の過ごし方についておたずねします。あなたは平日の日中、主にどのようにお過ごしですか。(1つに○)
 なお、「12. 自宅で過ごしている」に当てはまる場合、何をして過ごすことが多いか、教えてください。

図表 3-1 日中の過ごし方 単純集計

自宅で過ごしている方が44.2%で最も多くなっています。
 次いで、企業や団体、自営業などで働いている方が15.9%、自宅で家事、育児、介護などを行っている方が8.0%となっています。

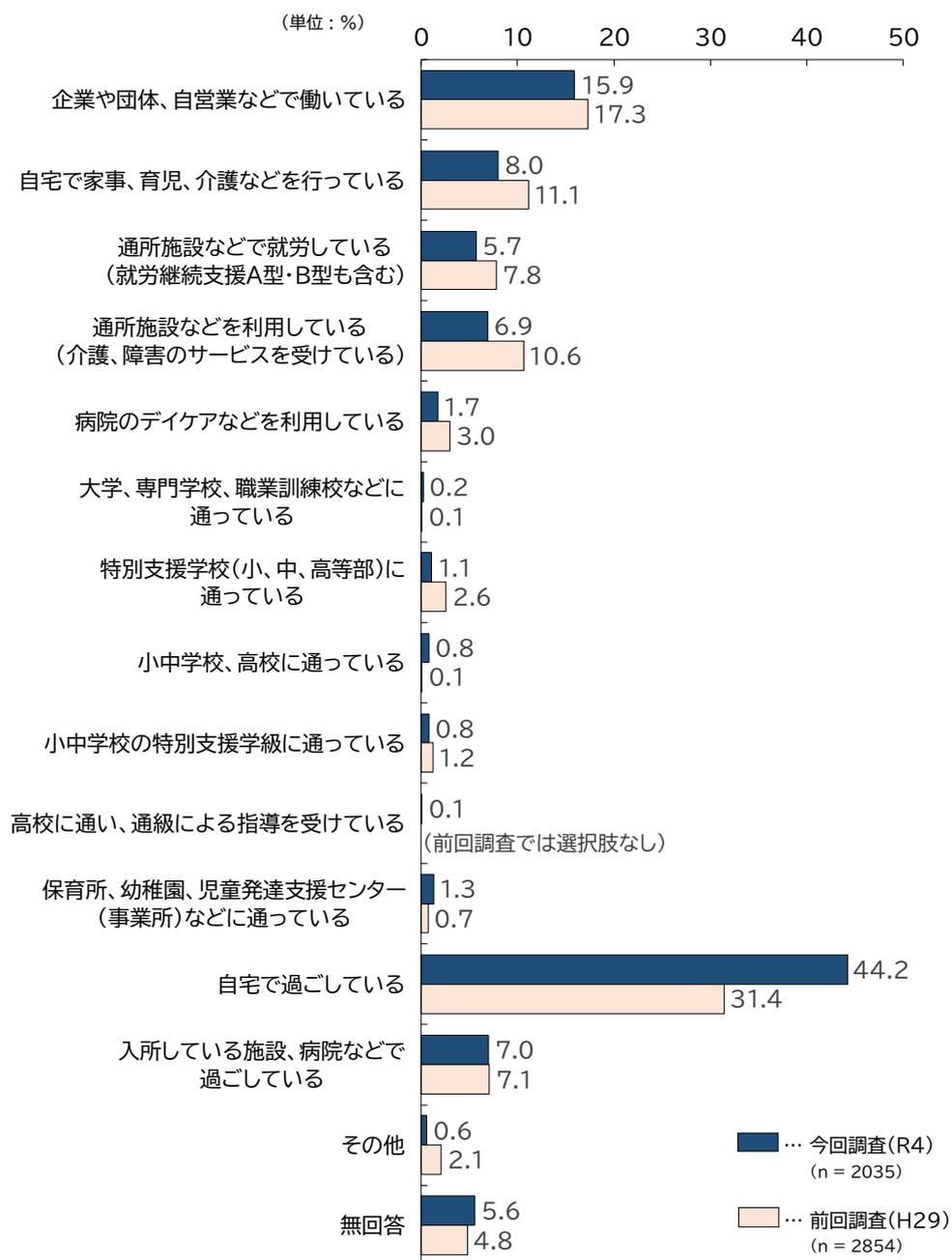


自宅での過ごし方に関する主な記載内容としては「テレビを見る」「家事をする」「自宅周辺の散歩」「読書」「家庭菜園」等が多く見られました。

調査結果 (3. 日常生活の状況)

図表 3-2 日中の過ごし方 前回比較

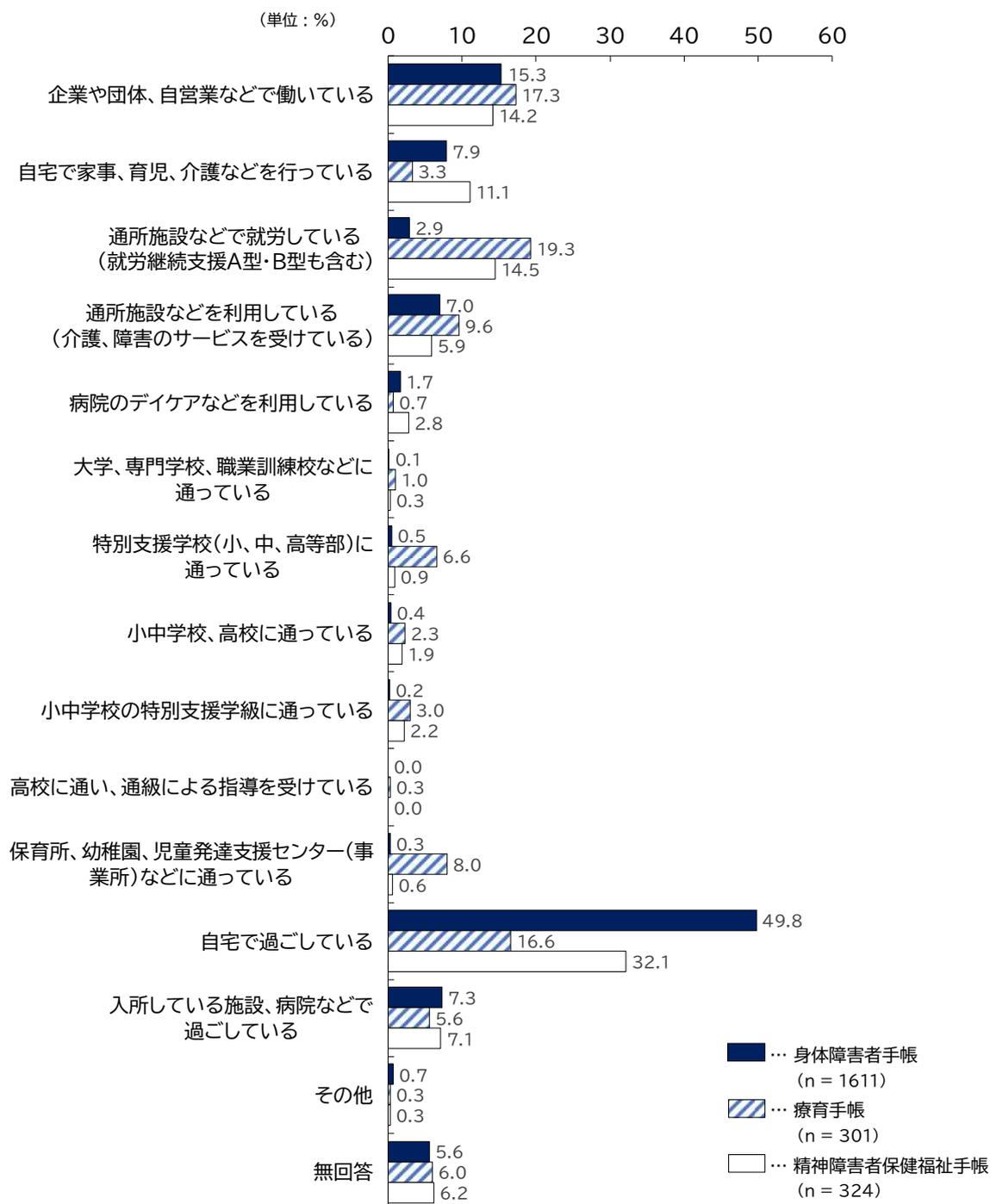
自宅で過ごしている方が 12.8 ポイント、小中学校・高校に通っている方が 0.7 ポイント、保育所、幼稚園、児童発達支援センターなどに通っている方が 0.6 ポイント増加しました。他はほぼすべての項目で減少しています。



(注)前回調査[H29]における「企業や団体、自営業などで働いている」は、「企業などで正職員として働いている」「企業や団体などでパート・アルバイト、契約社員などとして働いている」「自営業、家業の手伝いなどで働いている」との回答を合算して、回答割合を算出しました。

図表 3-3 日中の過ごし方(保有手帳の種別) クロス集計

自宅で過ごしている方の割合は、身体障害者手帳、次いで精神障害者保健福祉手帳を持っている方で特に高くなっています。通所施設などで就労している割合は、療育手帳、次いで精神障害者保健福祉手帳を持っている方で高くなっています。

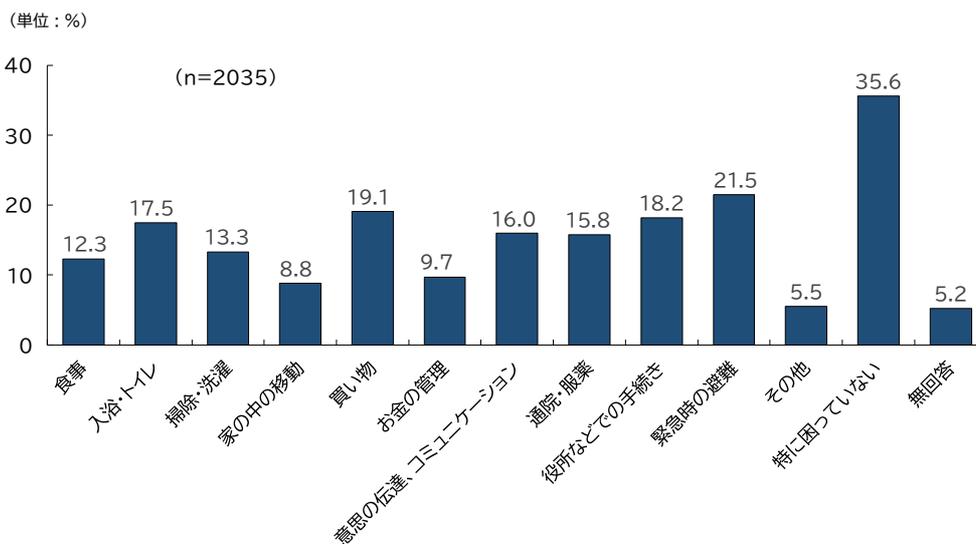


Q 15. 普段の生活で不便なこと (複数回答)

質問文 あなたは普段の生活の中で、困っていることや不安に思っていることはありますか。
(あてはまるもの全てに○)

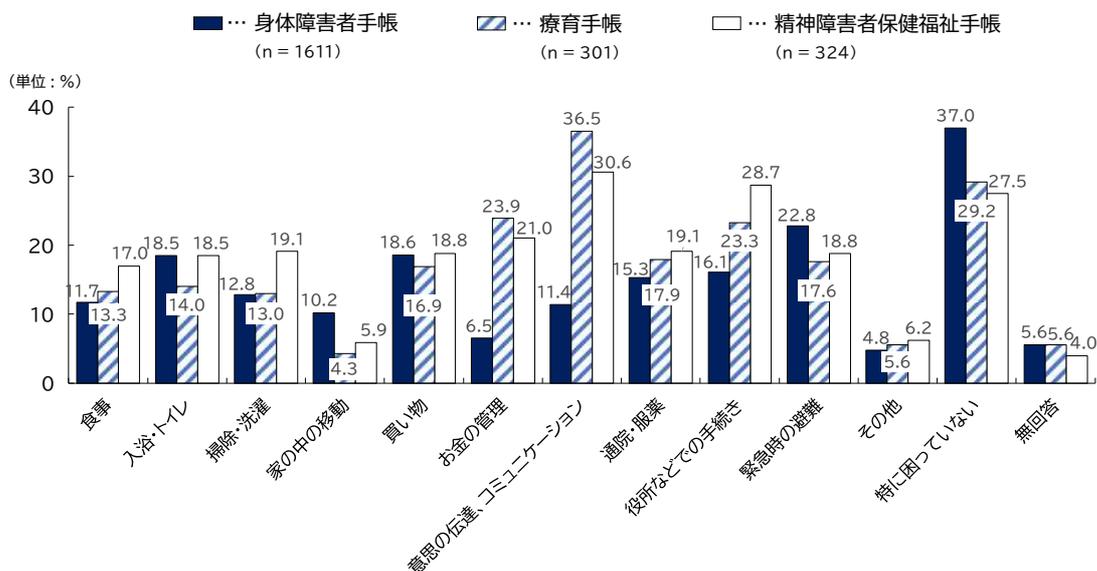
図表 3-4 普段の生活の中で不便なこと 単純集計

「特に困っていない」が 35.6%、次いで「緊急時の避難」が 21.5%、「買い物」が 19.1%、「役所などでの手続き」が 18.2%、「入浴・トイレ」が 17.5%の順となっています。



図表 3-5 普段の生活の中で不便なこと クロス集計

「特に困っていない」を除けば、身体障害者手帳を持っている方は「緊急時の避難」が、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方では「意思の伝達、コミュニケーション」が、最も多くなっています。

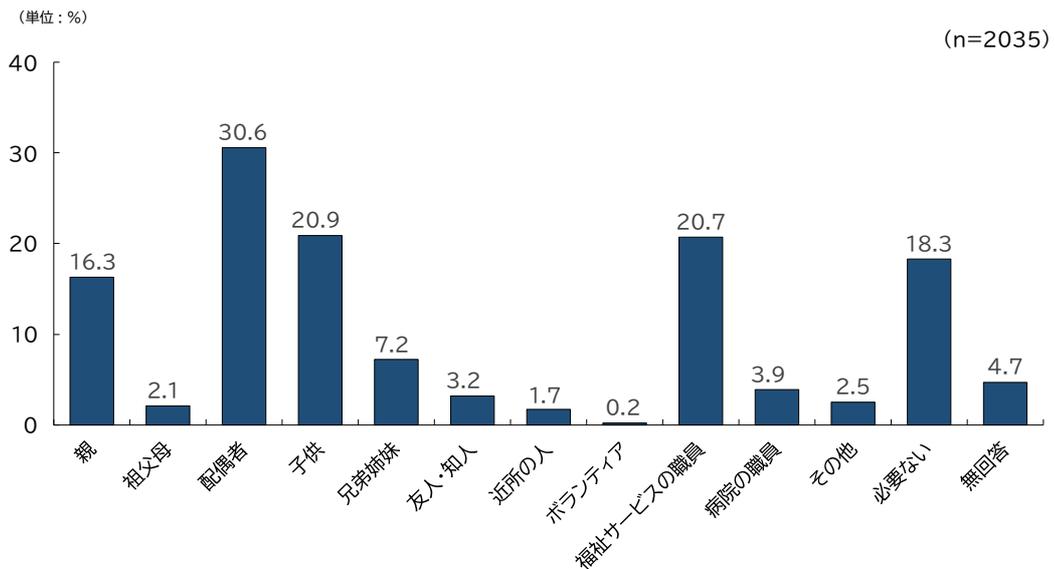


Q 16. 生活を主に介助・支援しているのは誰か (最大3つまで回答)

質問文 あなたの生活を主に介助・支援しているのは誰ですか。(最大3つまで○)

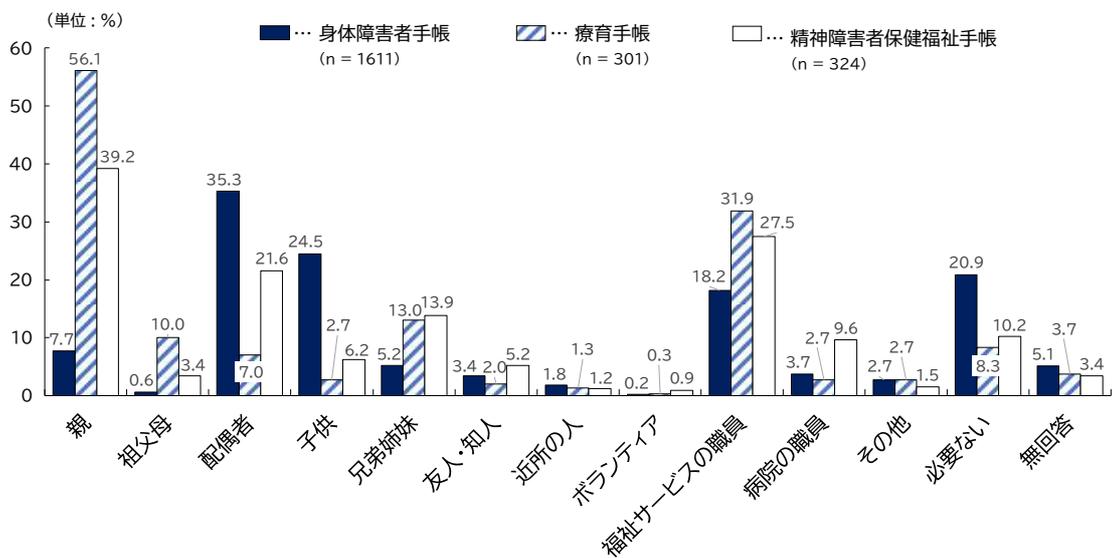
図表 3-6 生活を主に介助・支援しているのは誰か 単純集計

主に介助・支援しているのは「配偶者」が 30.6%で最も多く、次いで「子供」が 20.9%、「福祉サービスの職員」が 20.7%、「必要ない」が 18.3%、「親」が 16.3%の順となっています。



図表 3-7 生活を主に介助・支援しているのは誰か(保有手帳の種別) クロス集計

身体障害者手帳を持っている方では「配偶者」が、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方では「親」が最も多くなっています。

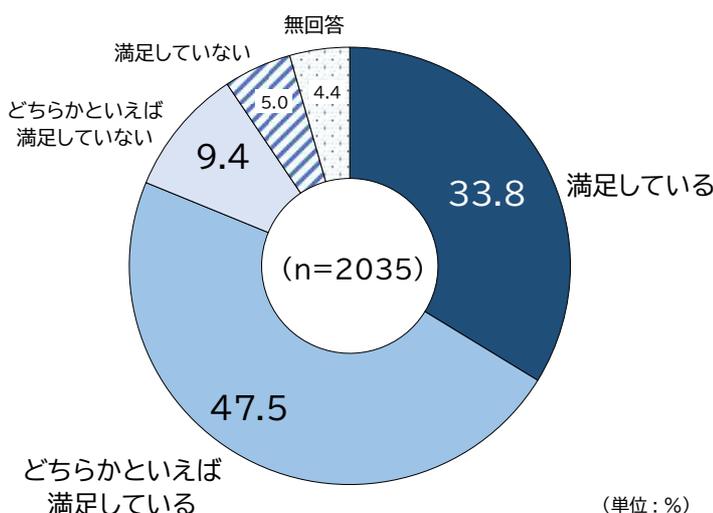


Q 17. 日中の過ごし方に満足しているか (単一回答)

質問文 あなたは日中の過ごし方について、満足していますか。(1つに○)
 なお、「3. どちらかといえば満足していない」「4. 満足していない」に当てはまる場合、その理由も教えてください。

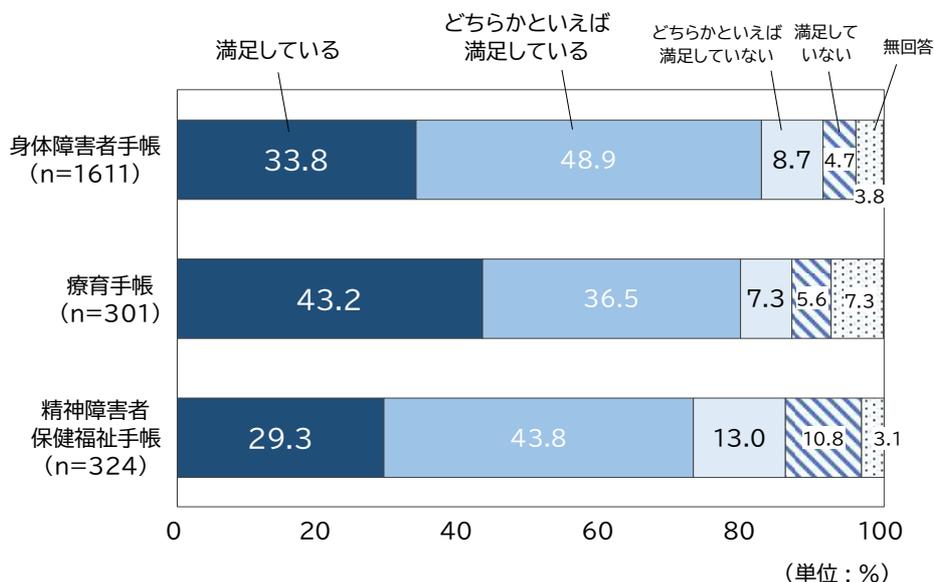
図表 3-8 日中の過ごし方に満足しているか 単純集計

81.3%の方が「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答しており、14.4%の方が「どちらかといえば満足していない」「満足していない」と回答しています。



図表 3-9 日中の過ごし方に満足しているか(保有手帳別) クロス集計

「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が最も高かったのは身体障害者手帳を持っている方で、「満足していない」「どちらかといえば満足していない」を合わせた割合が最も高かったのは精神障害者保健福祉手帳を持っている方となっています。



4. 障害福祉サービス

本節のポイント

- ・約3割の方が障害福祉サービスを利用しており、約6割の方が利用していないと回答しています。
- ・訪問系サービスを利用している方が最も多く、困っていることではサービス利用時間・利用量の少なさを挙げる方が最も多くなっています。

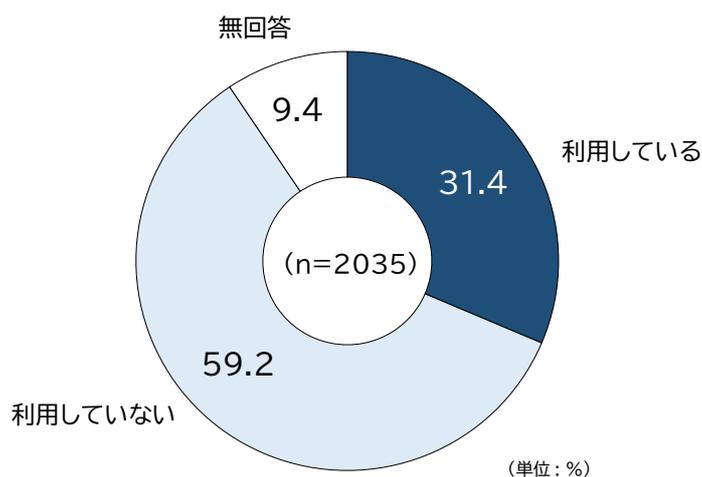
- 身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方では訪問系サービスを利用する方が多く、療育手帳を持っている方では、就労継続支援 B 型を利用する方が多い。(p.36)
- 「特に困っていない」を除けば、身体障害者手帳を持っている方では「サービス利用料の負担が大きい」が、療育手帳を持っている方では「利用できる事業所が少ない」が、精神障害者保健福祉手帳を持っている方では「利用時間・利用量が足りない」が最も多くなっている。(p.38)

Q 18. 障害福祉サービス利用の有無（単一回答）

質問文 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。（1つに○）

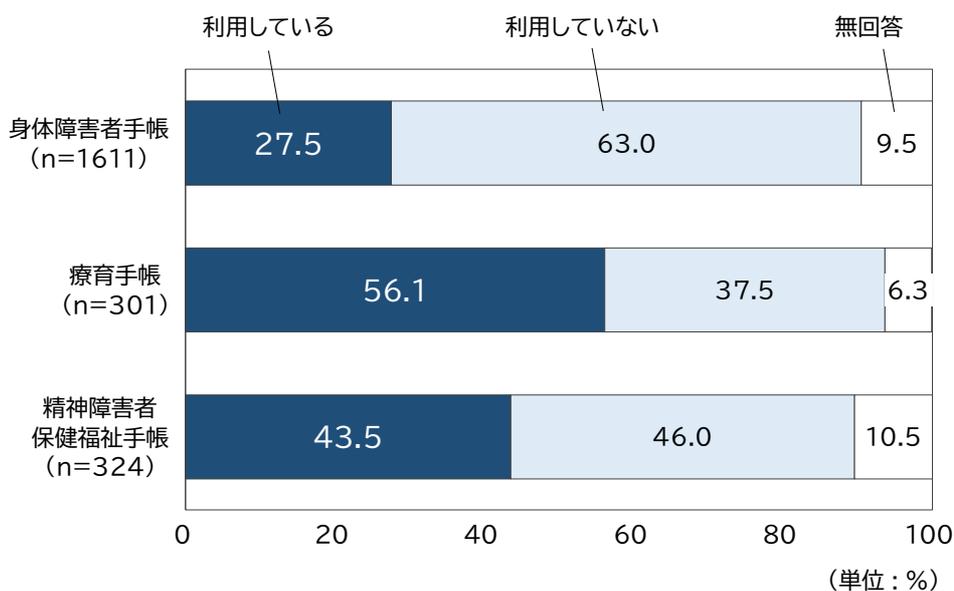
図表 4-1 障害福祉サービス利用の有無 単純集計

約3割の方が障害福祉サービスを利用しており、約6割の方が利用していないと回答しています。



図表 4-2 障害福祉サービス利用の有無(保有手帳別) クロス集計

障害福祉サービスを利用している割合は、療育手帳を持っている方が最も高く 56.1%、次いで、精神障害者保健福祉手帳、身体障害者手帳を持っている方の順となっています。

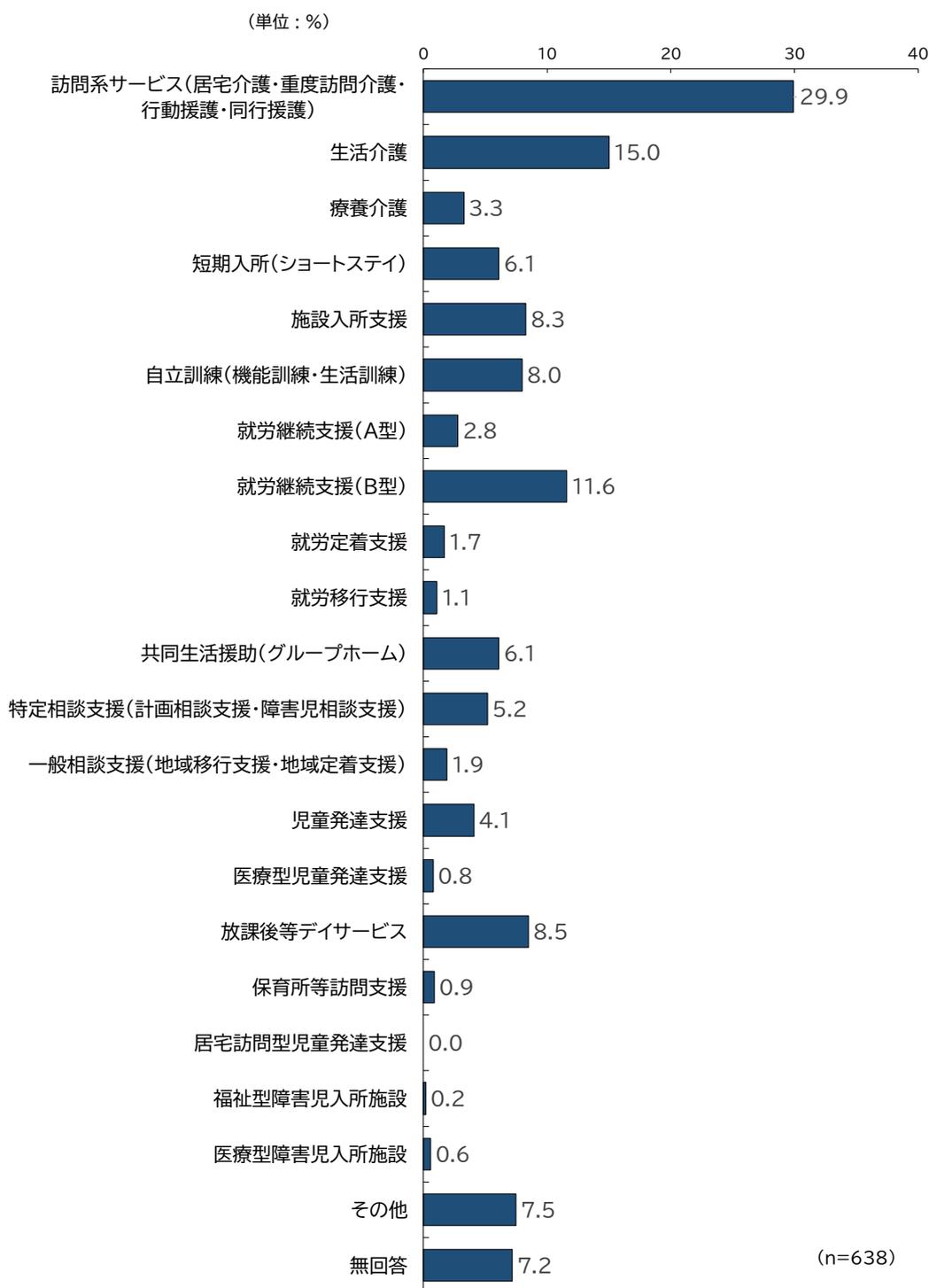


Q 19-1. 利用している障害福祉サービスは何か (複数回答)

質問文 一つ前のQ18で「1. 利用している」とお答えいただいた方におたずねします。
 (1) 現在、利用している障害福祉サービスは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

図表 4-3 利用している障害福祉サービスは何か 単純集計

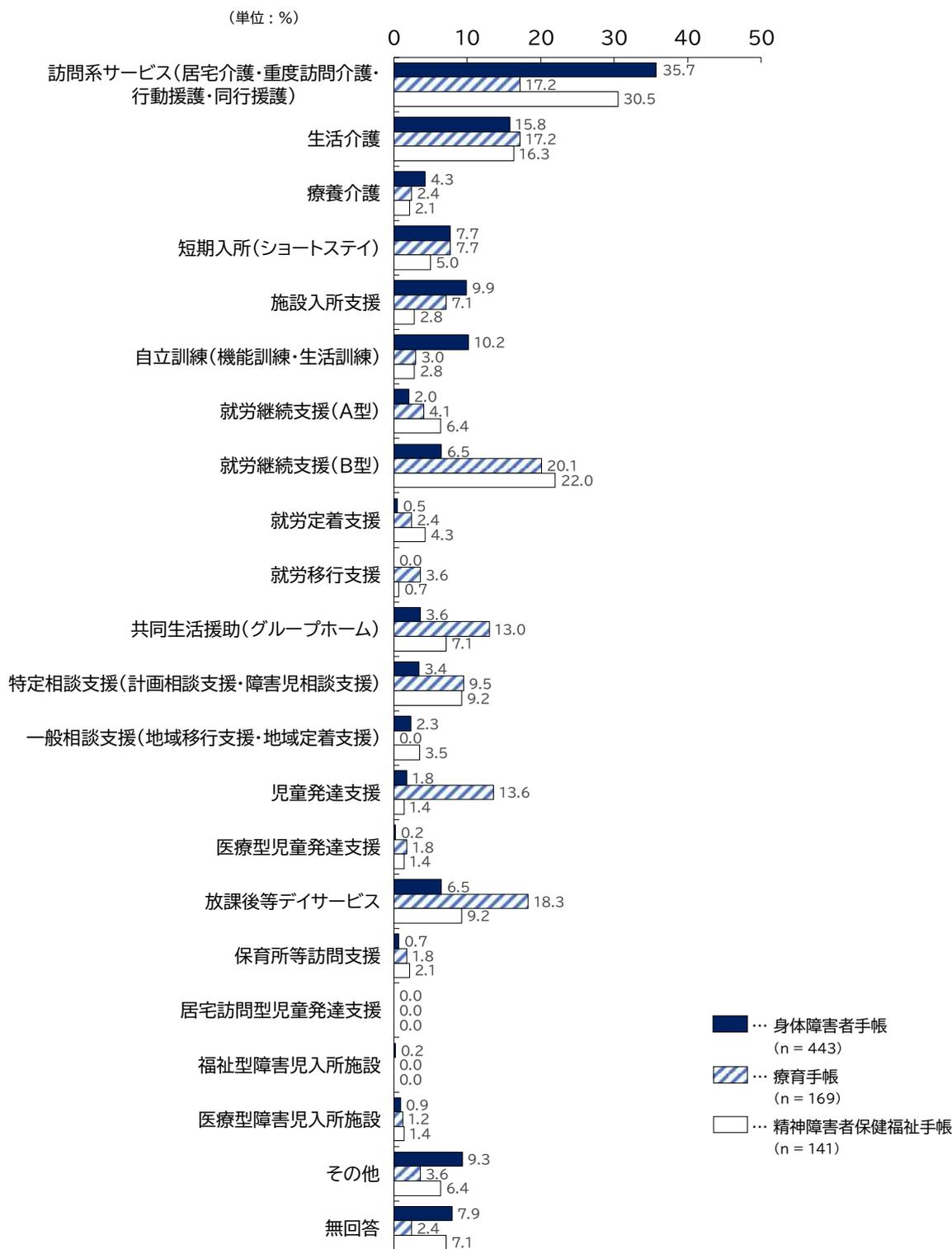
訪問系サービスが 29.9%で最も多く、次いで生活介護が 15.0%、就労継続支援 B 型が 11.6%、放課後等デイサービスが 8.5%となっています。



調査結果 (4. 障害福祉サービス)

図表 4-4 利用している障害福祉サービスは何か(保有手帳の種類) クロス集計

身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方では訪問系サービスが最も多くなっています。療育手帳の方では、就労継続支援 B 型が最も多くなっています。

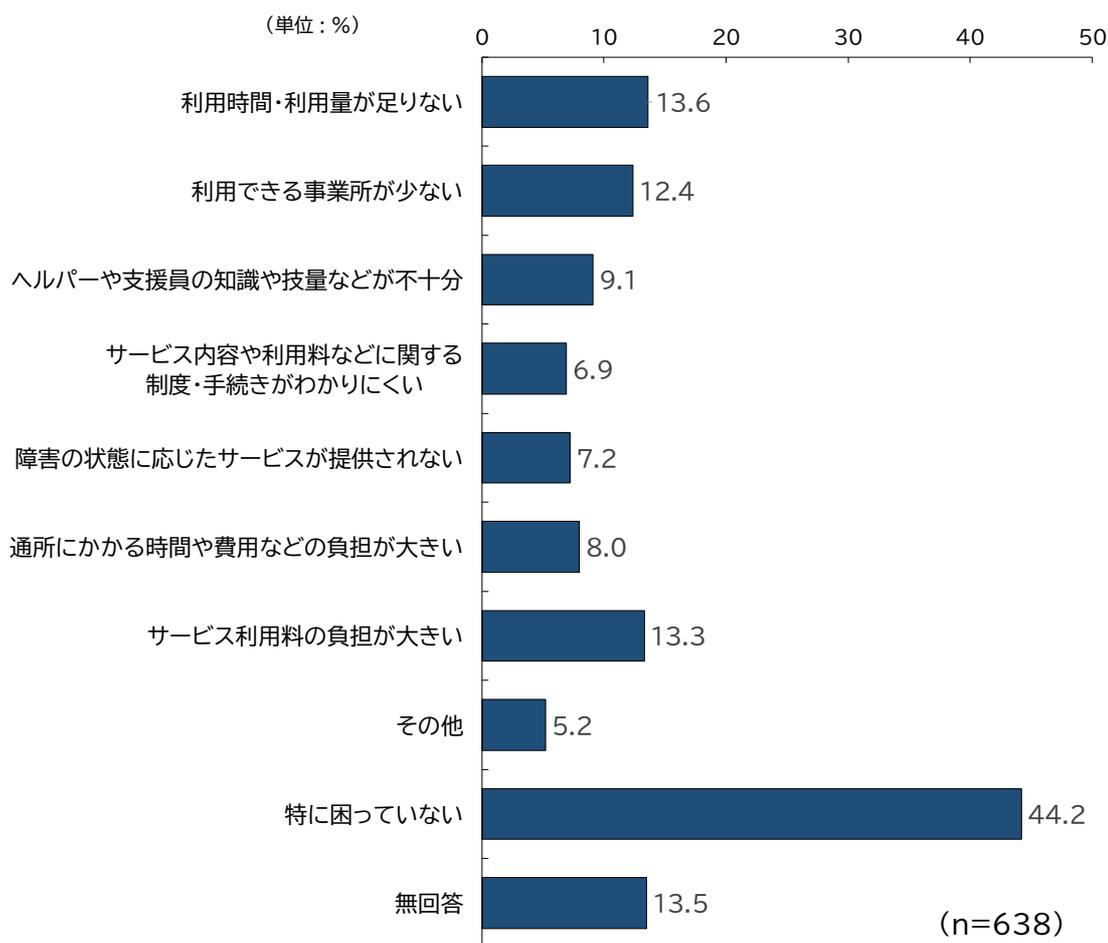


Q 19-2. 障害福祉サービスの利用で困っていること（複数回答）

質問文 一つ前のQ18で「1. 利用している」とお答えいただいた方におたずねします。
 (2) 現在、障害福祉サービスを利用するにあたり、困っていることはありますか。
 (あてはまるもの全てに○)

図表 4-5 障害福祉サービスの利用で困っていること 単純集計

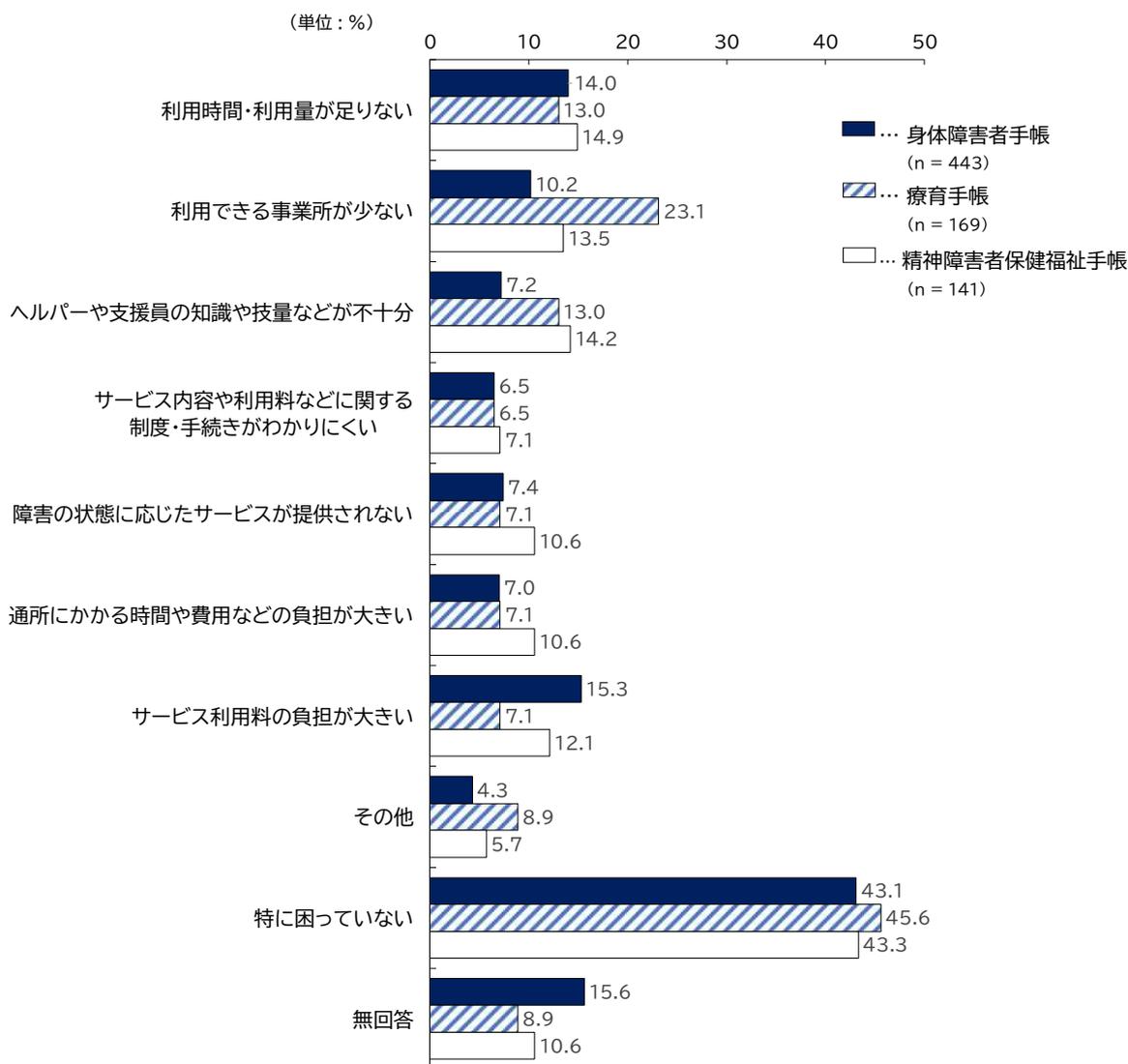
「特に困っていない」が44.2%、「利用時間・利用量が足りない」が13.6%、「サービス利用料の負担が大きい」が13.3%、「利用できる事業所が少ない」が12.4%の順となっています。



調査結果（4. 障害福祉サービス）

図表 4-6 障害福祉サービスの利用で困っていること(保有手帳の種別) クロス集計

「特に困っていない」を除けば、身体障害者手帳を持っている方では「サービス利用料の負担が大きい」が、療育手帳の方では「利用できる事業所が少ない」が、精神障害者保健福祉手帳の方では「利用時間・利用量が足りない」が最も多くなっています。



5. 就労の状況

本節のポイント

- ・仕事をしていない方が 65.9%で最も多く、次いで企業や団体などで臨時職員・パート・アルバイトとして働いている方が 7.3%となっています。
- ・仕事をしていない理由は、18～64 歳では「障害や病気で、働くことができない」が最も多く、65 歳以上では、「高齢であるため」が最も多くなっています。
- ・就労を進めるにあたり必要なことは「障害者に配慮した職場、設備が整っていること」が最も多くなっています。

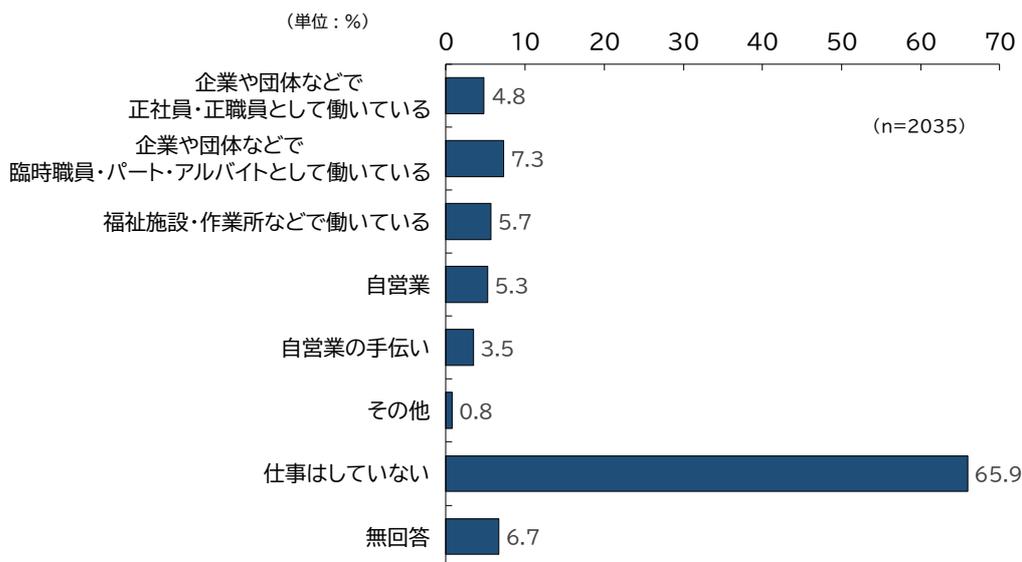
- 1か月あたりの収入(給料や工賃など)は10万円以上 20 万円未満が最も多く 21.2%、次いで5万円以上10万円未満が 20.0%となっている。(p.42)
- 仕事で困っていることは、「人づきあいが難しい」が 21.1%、「障害のことを分かってもらえない」が 14.2%、「職場へ通うのに不便がある」が 9.3%の順となっている。(p.44)
- 将来も「今と同じように働きたい」が 45.9%と約半数となっている。次いで「自営業で働きたい」が 8.6%となっている。(p.46)

Q 20-1. 就労の有無 (単一回答)

質問文 (1) あなたは今、仕事に就いていますか。(1つに○)

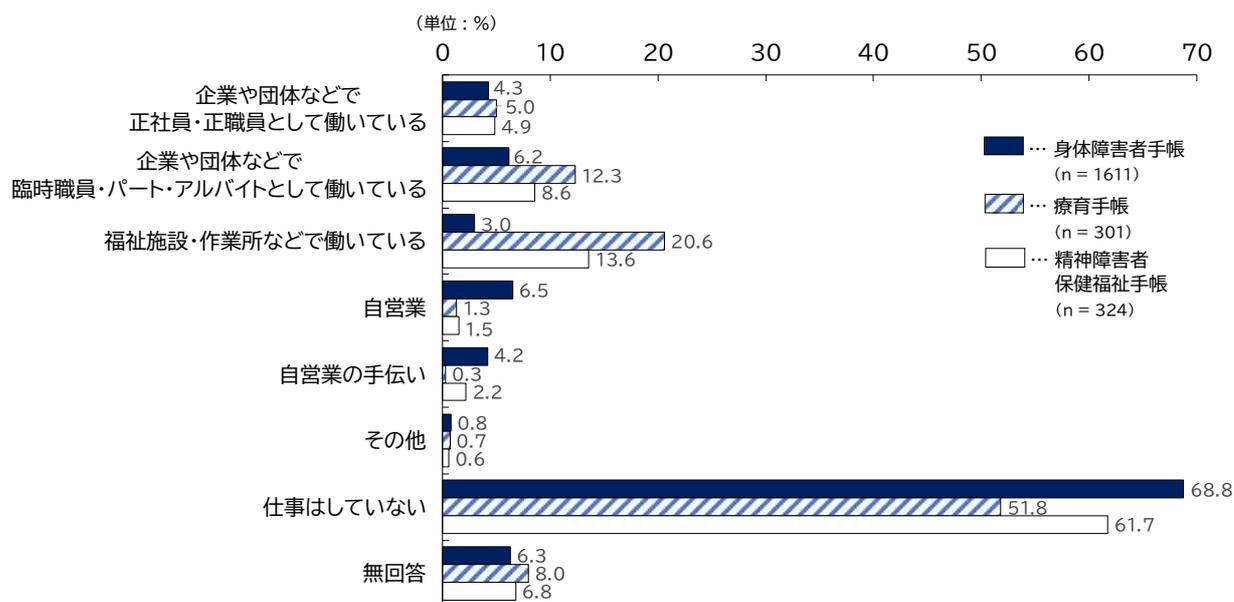
図表 5-1 就労の有無 単純集計

仕事をしていない方が65.9%で最も多く、次いで企業や団体などで臨時職員・パート・アルバイトとして働いている方が7.3%、福祉施設・作業所などで働いている方が5.7%の順となっています。



図表 5-2 就労の有無(保有手帳の種別) クロス集計

療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方は、福祉施設・作業所などでの就労が最も多く、身体障害者手帳の方では自営業と臨時職員・パート・アルバイトでの就労が多くなっています。



図表 5-3 就労の有無(年齢別) クロス集計

18～39歳において、「企業や団体などで臨時職員・パート・アルバイトとして働いている」「福祉施設・作業所などで働いている」とする割合が、「企業や団体などで正社員・正職員として働いている」とする割合よりも高くなっています。

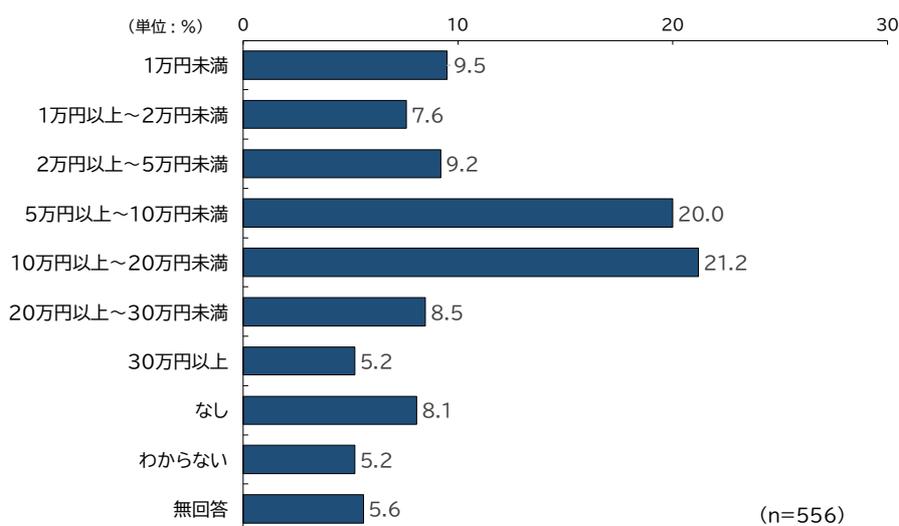
年齢別	18～39歳			65～74歳		75歳以上	
	① 18歳未満 (n=83)	② 18～39歳 (n=193)	③ 40～64歳 (n=411)	④ 65～74歳 (n=392)	⑤ 75歳以上 (n=821)		
企業や団体などで 正社員・正職員として働いている	0.0	14.0	12.7	3.3	0.4		
企業や団体などで 臨時職員・パート・アルバイトとして働いている	1.2	22.8	14.4	8.7	0.9		
福祉施設・作業所などで働いている	0.0	24.4	12.7	2.0	0.1		
自営業	0.0	1.0	5.4	8.2	5.2		
自営業の手伝い	0.0	0.5	2.2	4.8	4.6		
その他	0.0	0.5	0.7	0.5	1.2		
仕事はしていない	86.7	31.1	47.2	68.1	79.3		
無回答	12.0	5.7	4.9	4.3	8.3		

Q 20-2. 1か月あたりの給料・工賃等 (単一回答)

質問文 Q20-1の質問で、「企業や団体などで正社員・正職員として働いている」、「企業や団体などで臨時職員・パート・アルバイトとして働いている」、「福祉施設・作業所などで働いている」、「自営業」、「自営業の手伝い」、「その他」とお答えいただいた方におたずねします。働いて得る1か月の収入(給料や工賃など)はどれくらいですか。(1つに○)

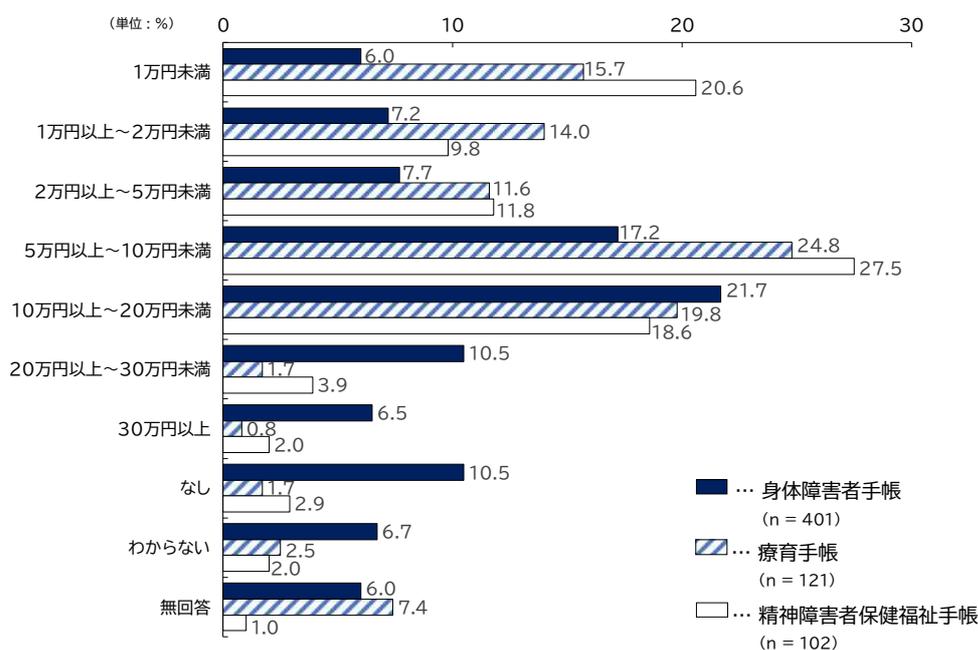
図表 5-4 1か月あたりの給料・工賃等 単純集計

10万円以上 20万円未満が最も多く 21.2%、次いで5万円以上10万円未満が 20.0%となっています。



図表 5-5 1か月あたりの給料・工賃等(保有手帳の種別) クロス集計

身体障害者手帳を持っている方では10万円以上20万円未満が、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方では5万円以上10万円未満が最も多くなっています。



図表 5-6 1か月あたりの給料・工賃等(年齢別) クロス集計

5万円以上10万円未満、10万円以上20万円未満と回答する割合は18～39歳で最も高く、20万円以上30万円未満と回答する割合は40～64歳で最も高くなっています。

	① 18歳未満 (n=1)	② 18～39歳 (n=122)	③ 40～64歳 (n=197)
	1万円未満	100.0	10.7
1万円以上～2万円未満	0.0	10.7	6.1
2万円以上～5万円未満	0.0	6.6	10.7
5万円以上～10万円未満	0.0	26.2	23.9
10万円以上～20万円未満	0.0	30.3	19.8
20万円以上～30万円未満	0.0	5.7	13.7
30万円以上	0.0	0.0	8.1
なし	0.0	2.5	2.5
わからない	0.0	0.8	3.0
無回答	0.0	6.6	1.0

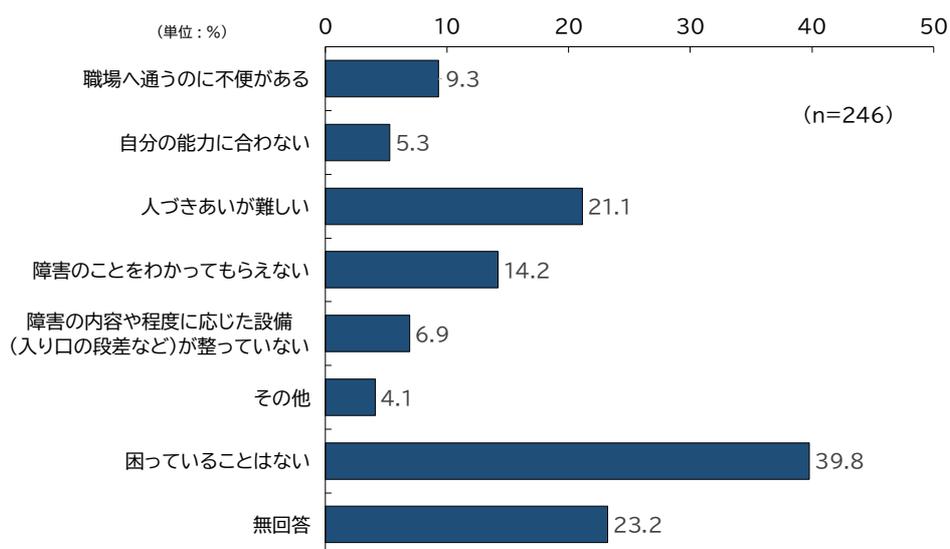
年齢別	④ 65～74歳 (n=108)	⑤ 75歳以上 (n=102)
	1万円未満	6.5
1万円以上～2万円未満	9.3	5.9
2万円以上～5万円未満	8.3	9.8
5万円以上～10万円未満	19.4	7.8
10万円以上～20万円未満	22.2	13.7
20万円以上～30万円未満	5.6	3.9
30万円以上	9.3	2.9
なし	8.3	26.5
わからない	10.2	7.8
無回答	0.9	14.7

Q 20-3. 仕事をしていて困ったことはあるか (複数回答)

質問文 二つ前のQ20-1で、「1. 企業や団体などで正社員・正職員として働いている」「2. 企業や団体などで臨時職員・パート・アルバイトとして働いている」とお答えいただいた方におたずねします。仕事をしていて、困っていることはありますか。(あてはまるもの全てに○)

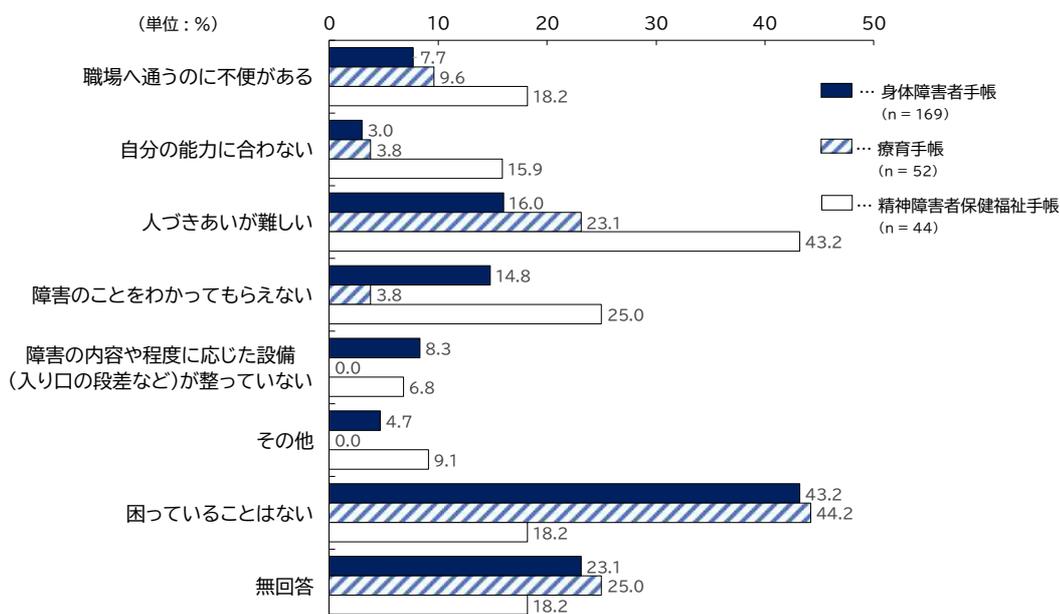
図表 5-7 仕事をしていて困ったことはあるか 単純集計

「困っていることはない」が39.8%、「人づきあいが難しい」が21.1%、「障害のことを分かってもらえない」が14.2%、「職場へ通うのに不便がある」が9.3%の順となっています。



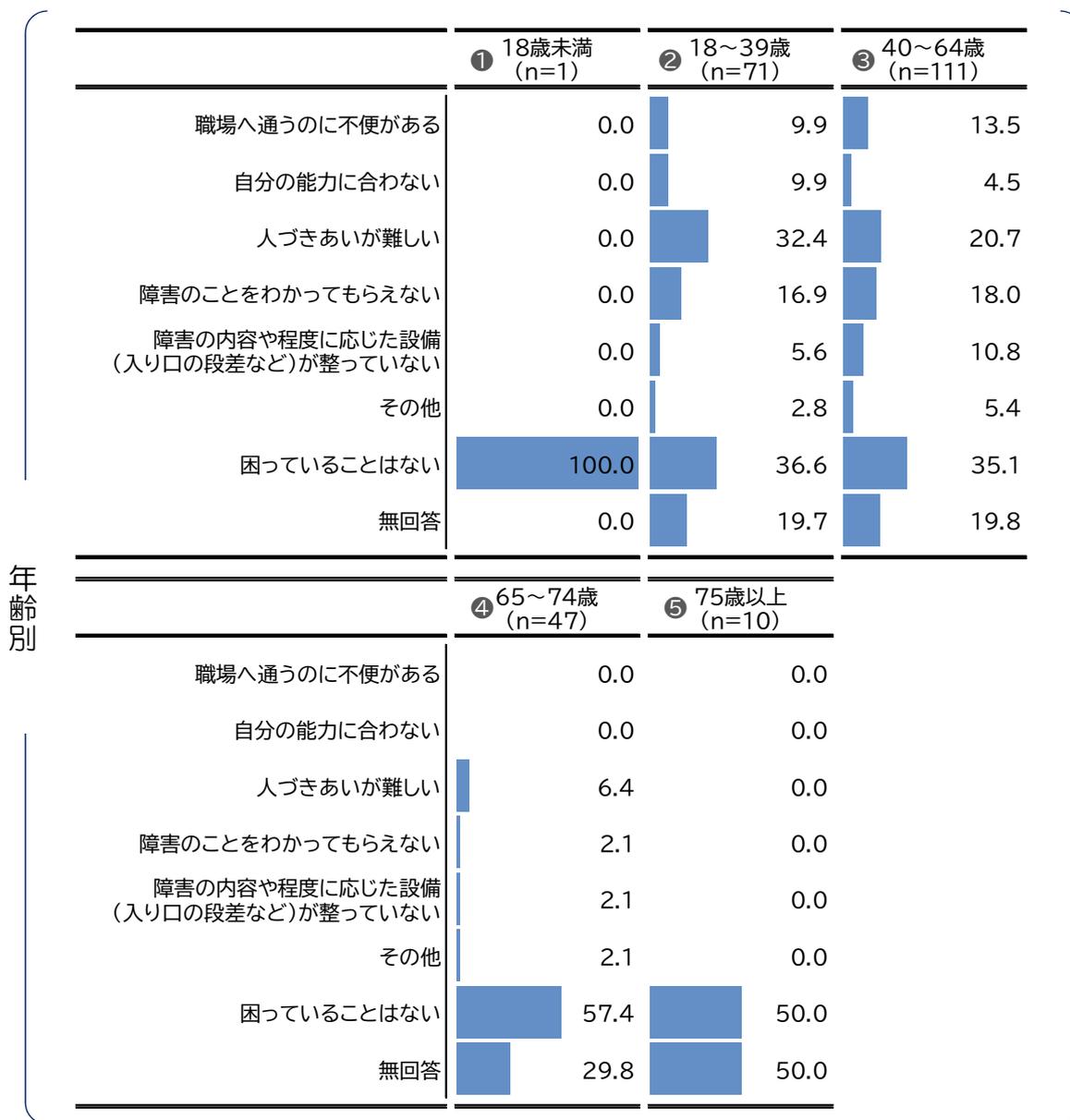
図表 5-8 仕事をしていて困ったことはあるか(保有手帳の種別) クロス集計

精神障害者保健福祉手帳を持っている方が、ほとんどの項目で最も困難を感じており、特に「人づきあいが難しい」と答えた方が43.2%と多くなっています。



図表 5-9 仕事をしていて困ったことはあるか(年齢別) クロス集計

「人づきあいが難しい」と答えた割合は18～39歳で最も高く、
「障害のことをわかってもらえない」と答えた割合は40～64歳で最も高くなっています。

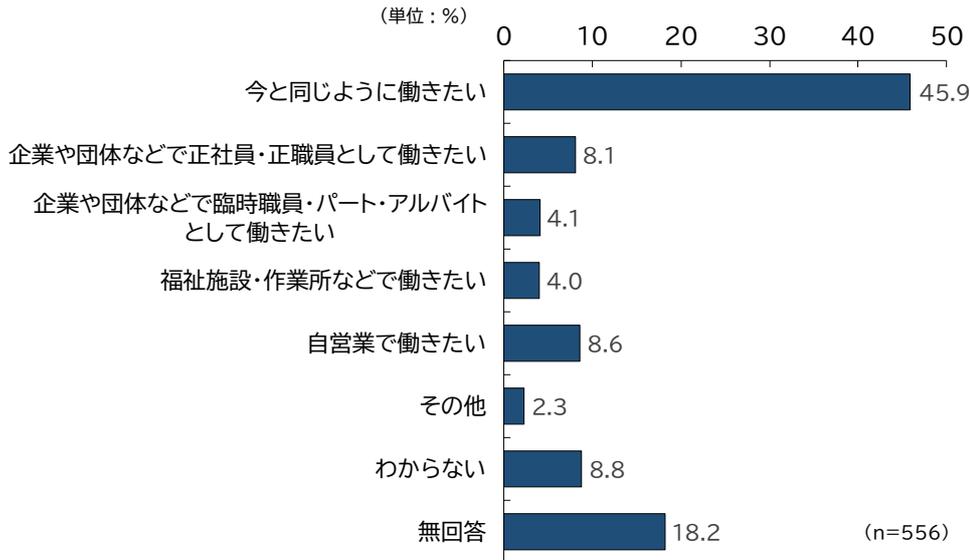


Q 20-4. 将来、どのように働きたいか (単一回答)

質問文 三つ前のQ20-1で、「1. 企業や団体などで正社員・正職員として働いている」～「6. その他」とお答えいただいた方におたずねします。あなたは今後、どのように働きたいですか。(1つに○)

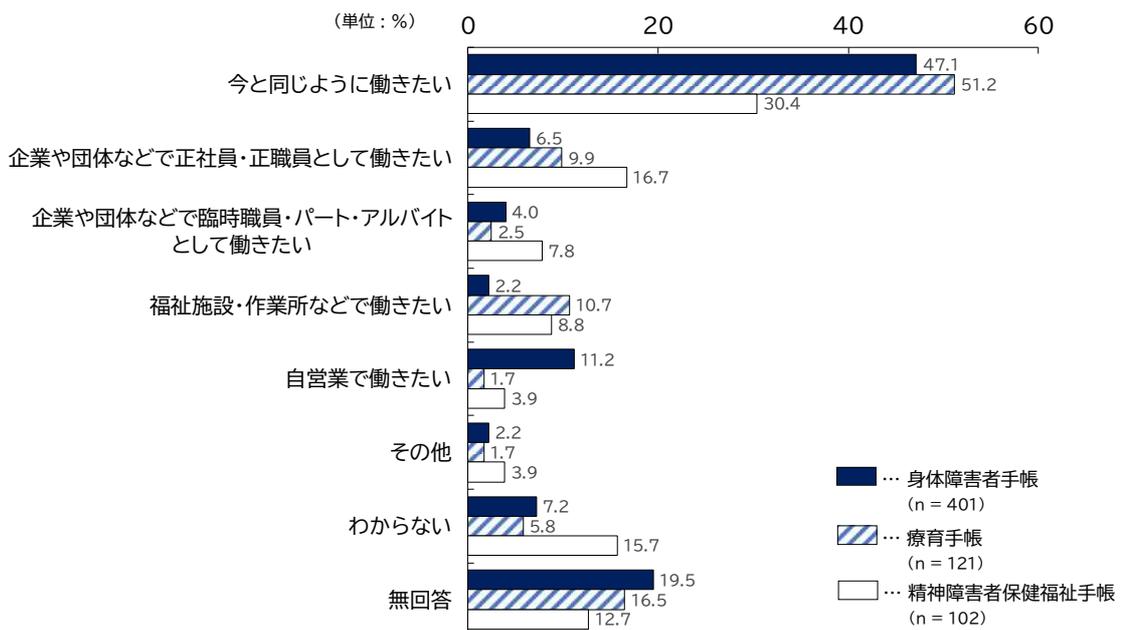
図表 5-10 将来、どのように働きたいか 単純集計

「今と同じように働きたい」が45.9%となっています。次いで「自営業で働きたい」が8.6%となっています。



図表 5-11 将来、どのように働きたいか(保有手帳の種別) クロス集計

精神障害者保健福祉手帳を持っている方は、他の手帳の方よりも「今と同じように働きたい」と答えた割合が低く、企業や団体などで働きたいと答えた割合が高くなっています。



図表 5-12 将来、どのように働きたいか(年齢別) クロス集計

今と同じように働きたい方は40～64歳で最も割合が高く、
正社員・正職員として働きたい方は18～39歳で最も割合が高くなっています。

	① 18歳未満 (n=1)	② 18～39歳 (n=122)	③ 40～64歳 (n=197)
	今と同じように働きたい	0.0	45.1
企業や団体などで正社員・正職員として働きたい	0.0	18.0	11.2
企業や団体などで臨時職員・パート・アルバイトとして働きたい	0.0	0.8	8.1
福祉施設・作業所などで働きたい	0.0	6.6	6.1
自営業で働きたい	0.0	0.8	4.1
その他	0.0	2.5	2.5
わからない	0.0	9.8	8.1
無回答	100.0	16.4	11.2

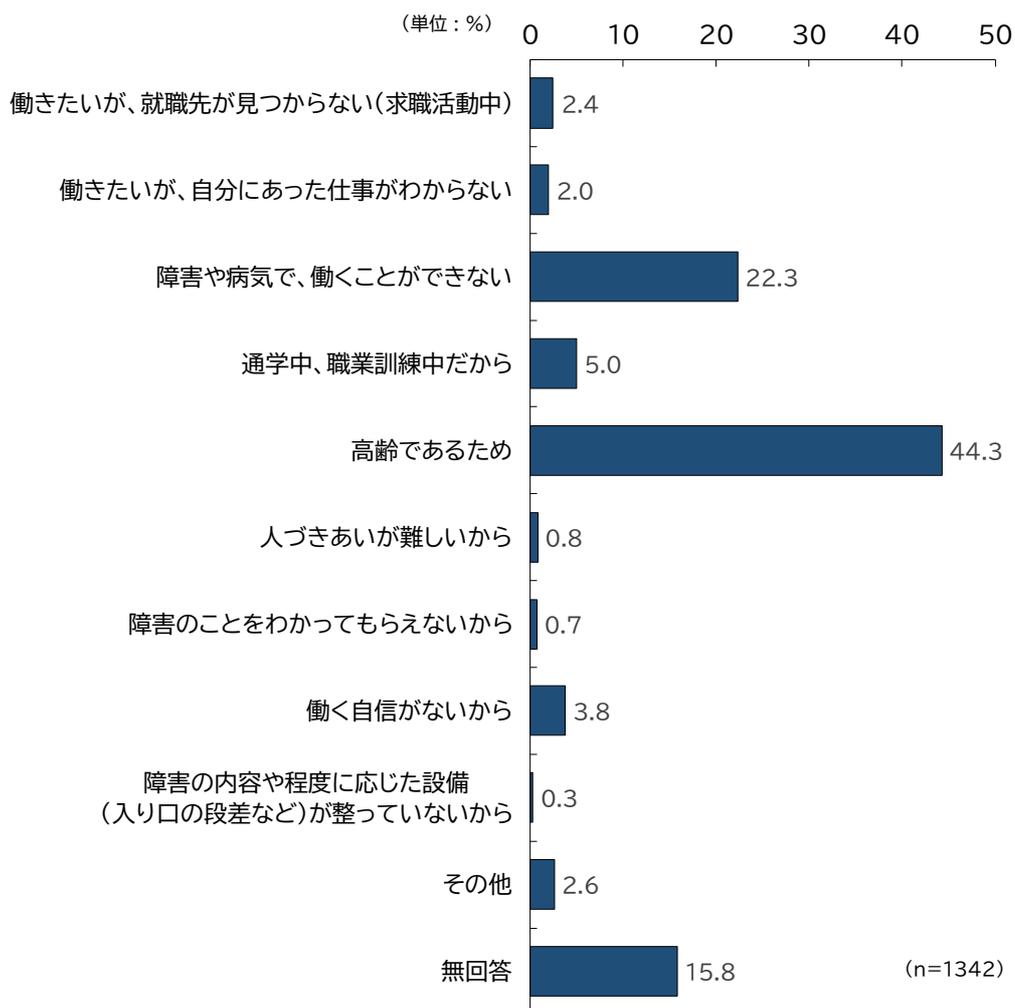
年齢別	④ 65～74歳 (n=108)	⑤ 75歳以上 (n=102)
	今と同じように働きたい	45.4
企業や団体などで正社員・正職員として働きたい	0.0	0.0
企業や団体などで臨時職員・パート・アルバイトとして働きたい	4.6	1.0
福祉施設・作業所などで働きたい	0.9	0.0
自営業で働きたい	14.8	20.6
その他	2.8	1.0
わからない	6.5	8.8
無回答	25.0	23.5

Q 20-5. 仕事をしていない理由 (単一回答)

質問文 四つ前のQ20-1で、「7. 仕事をしていない」とお答えいただいた方におたずねします。今、あなたがお仕事に就かれていない理由は何ですか。(1つに○)

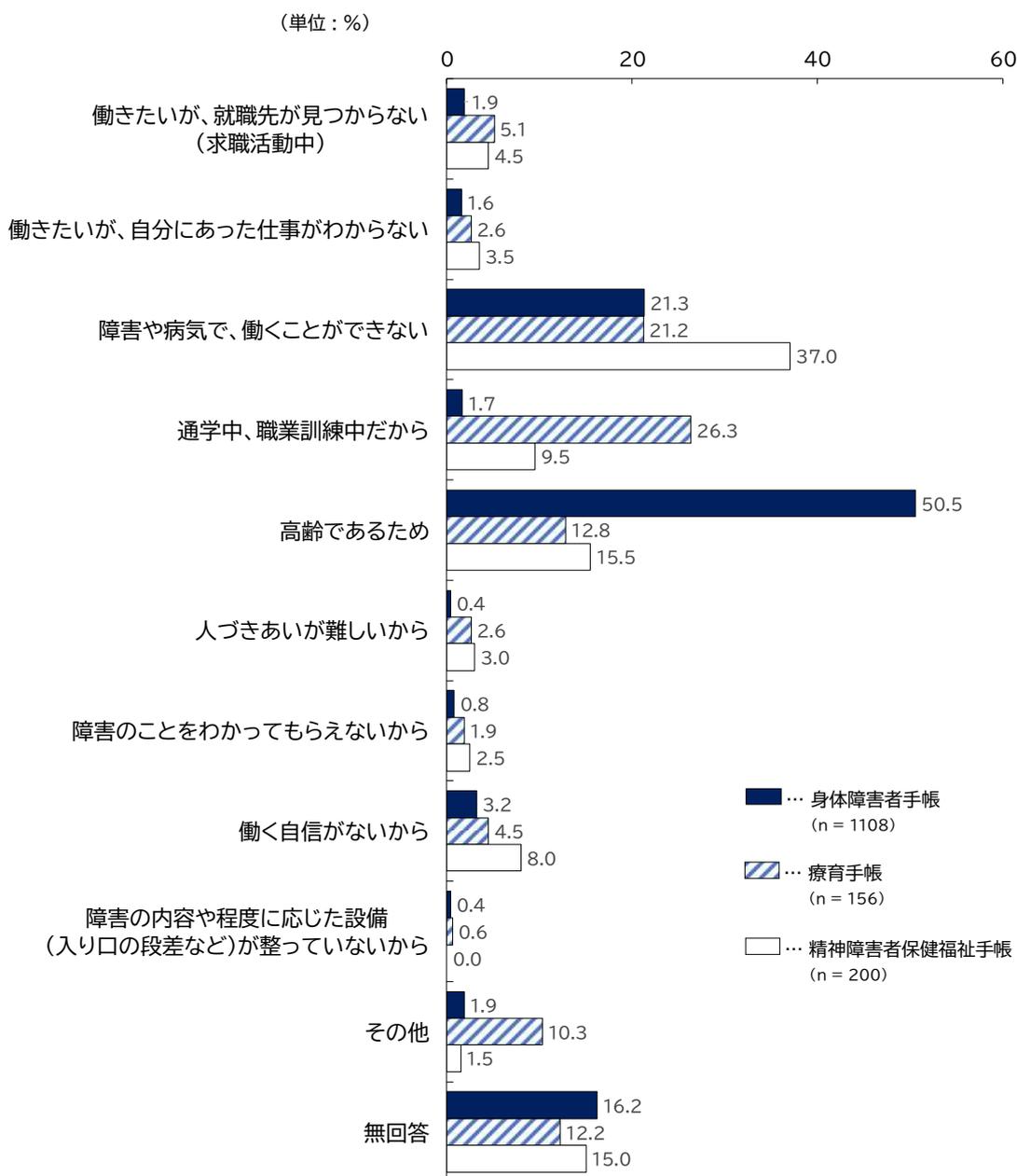
図表 5-13 仕事をしていない理由 単純集計

高齢のため仕事をしていない方が44.3%になっています。
次いで、障害や病気で働けない方が22.3%となっています。



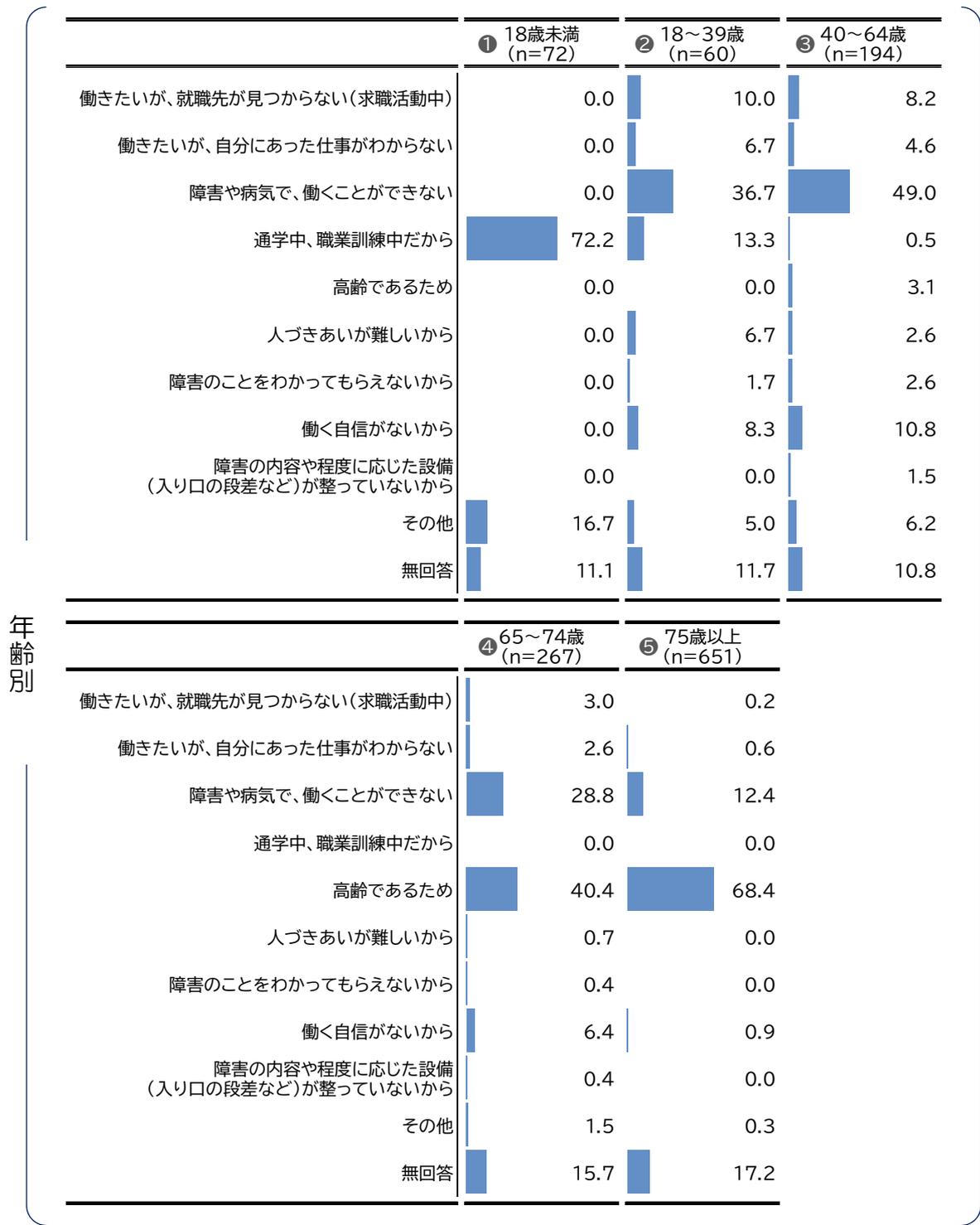
図表 5-14 仕事をしていない理由(保有手帳の種別) クロス集計

身体障害者手帳を持っている方は「高齢であるため」が最も多く、療育手帳の方は「通学中、職業訓練中だから」が、精神障害者保健福祉手帳の方は「障害や病気で、働くことができない」が最も多くなっています。



図表 5-15 仕事をしていない理由(年齢別) クロス集計

「障害や病気で、働くことができない」との回答割合は、40～64歳で最も高く(49.0%)、次いで、18～39歳で36.7%となっている。

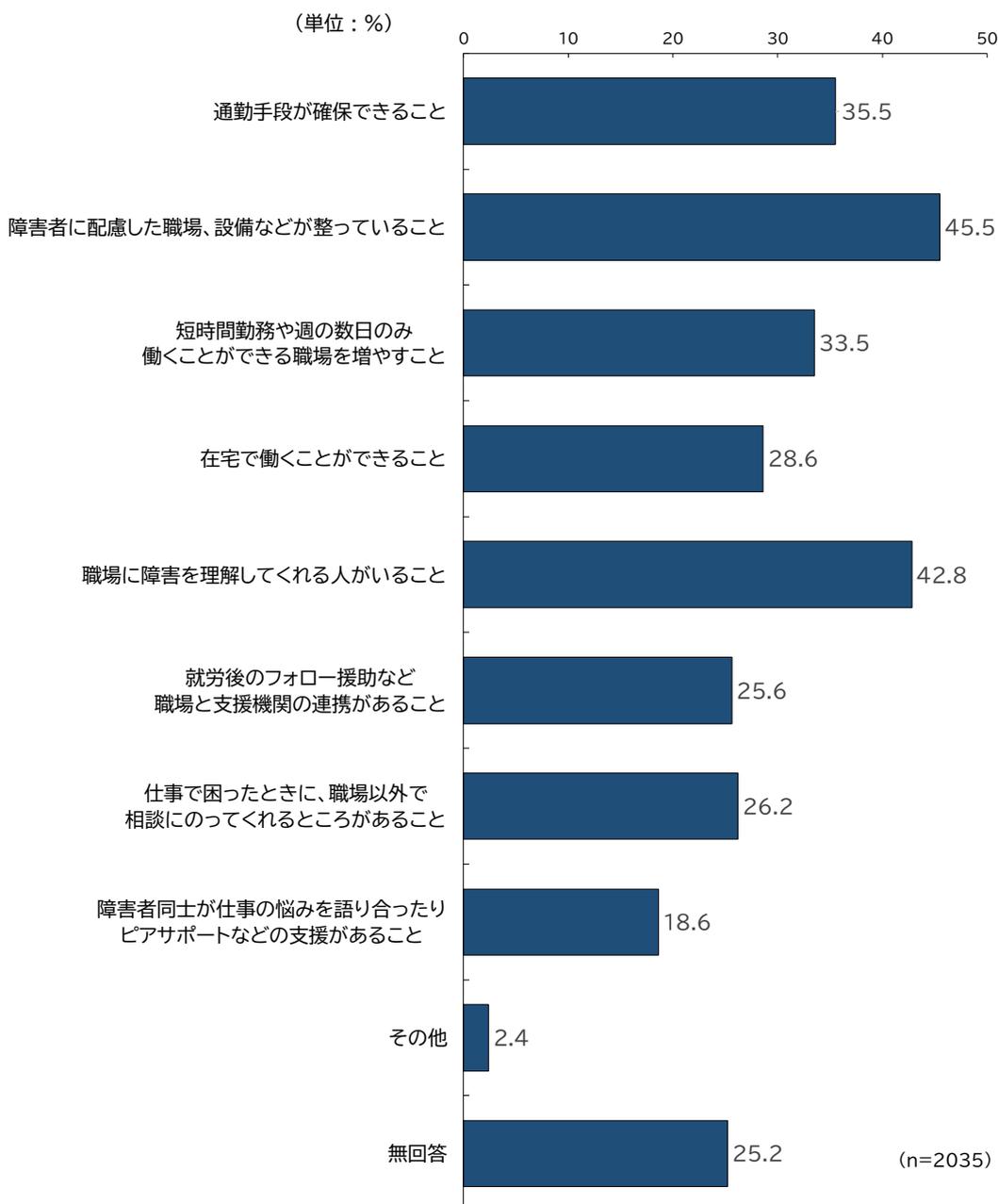


Q 21. 就労を進めるにあたり必要なことは（複数回答）

質問文 全ての方におたずねします。障害者の就労を進めるために、どんなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

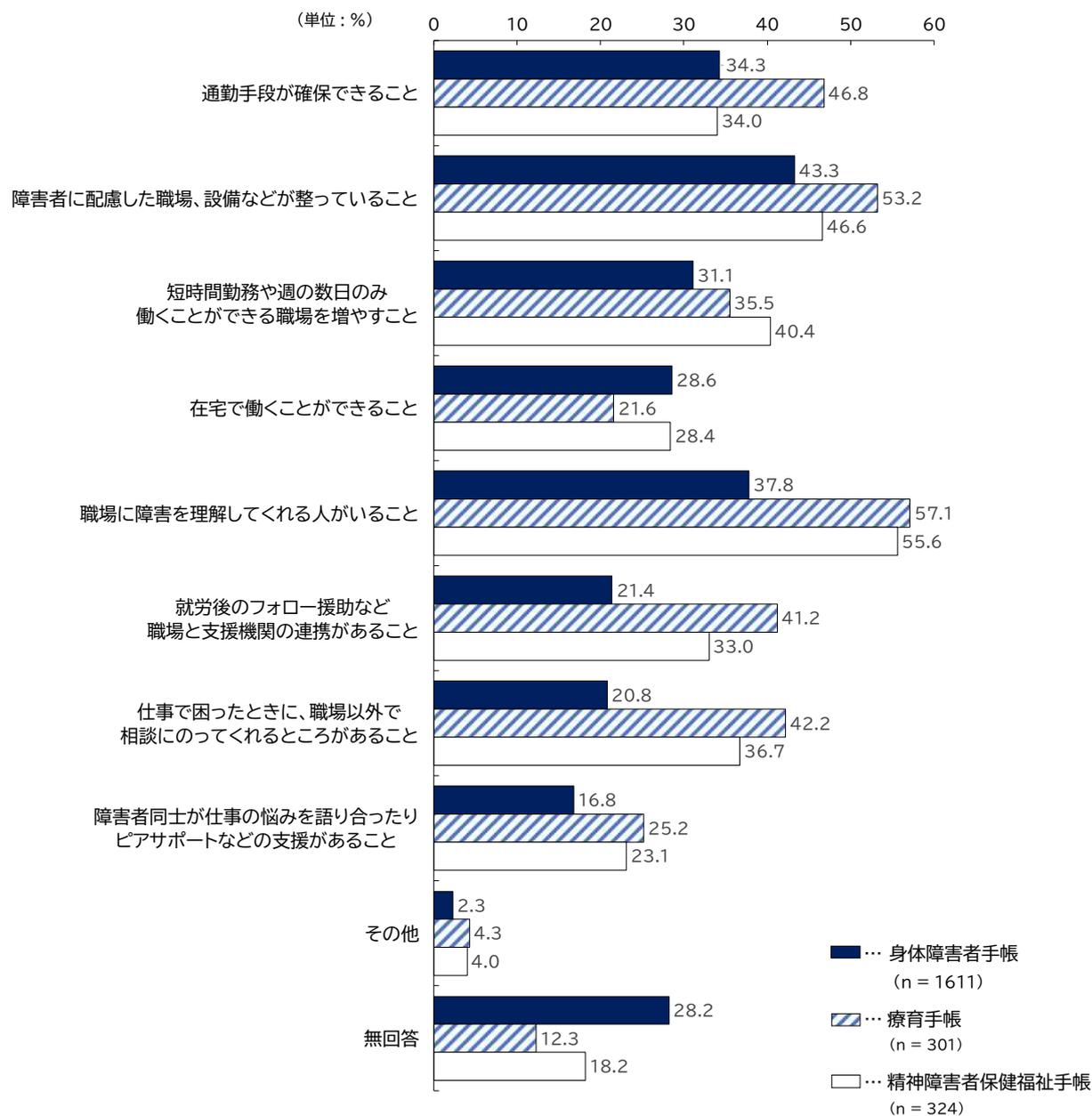
図表 5-16 就労を進めるにあたり必要なことは 単純集計

「障害者に配慮した職場、設備が整っていること」が45.5%と最も多く、次いで「職場に障害を理解してくれる人がいること」が42.8%となっています。



図表 5-17 就労を進めるにあたり必要なことは(保有手帳の種別) クロス集計

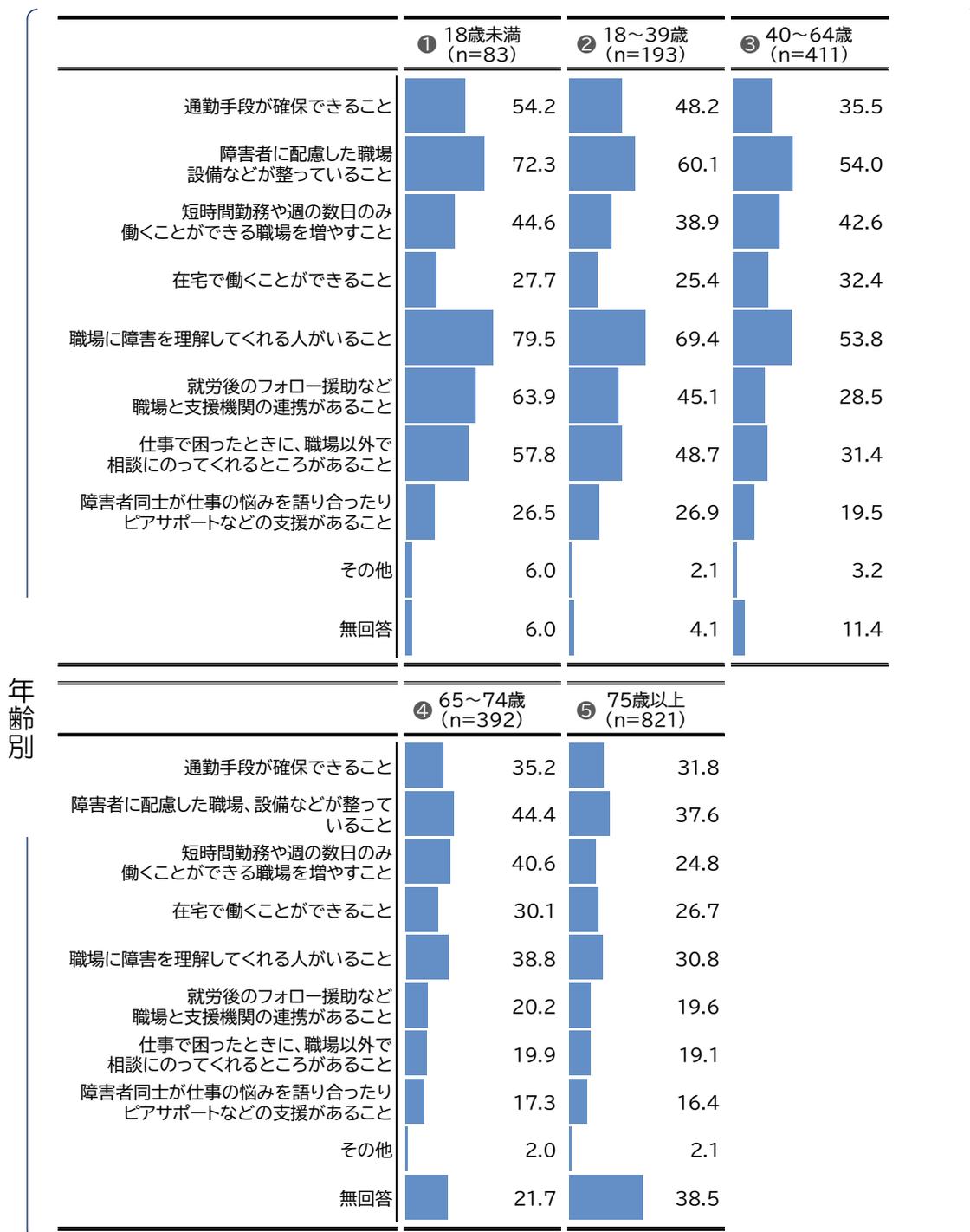
身体障害者手帳を持っている方では「障害者に配慮した職場、設備などが整っていること」が最も多く、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方では「職場に障害を理解してくれる人がいること」が最も多くなっています。



図表 5-18 就労を進めるにあたり必要なことは(年齢別) クロス集計

いずれの年齢層においても、「職場に障害を理解してくれる人がいること」または「障害者に配慮した職場、設備などが整っていること」が最も多くなっています。

18歳未満、18～39歳では「就労後のフォロー援助など職場と支援機関の連携があること」「仕事で困ったときに、職場以外で相談にのってくれるところがあること」の回答割合が他の年齢層に比べて高くなっています。



6. 悩み・相談

本節のポイント

・困ったことや悩みは「家族や親せき」に相談する方が 68.3%と最も多くなっています。困ったことや悩みの内容は「健康、医療のこと」が 36.8%で最も多く、次いで「自分の障害のこと」が 34.3%となっています。

- 18 歳以上では、男性の方が相談する割合がやや低くなっています。18 歳未満では男女とも学校や保育所などの先生に相談する割合が高くなっている。(p.57)
- 相談窓口で困ることは「どこに相談にいったらよいかわかりにくい」が 23.5%で最も多くなっている。(p.60)

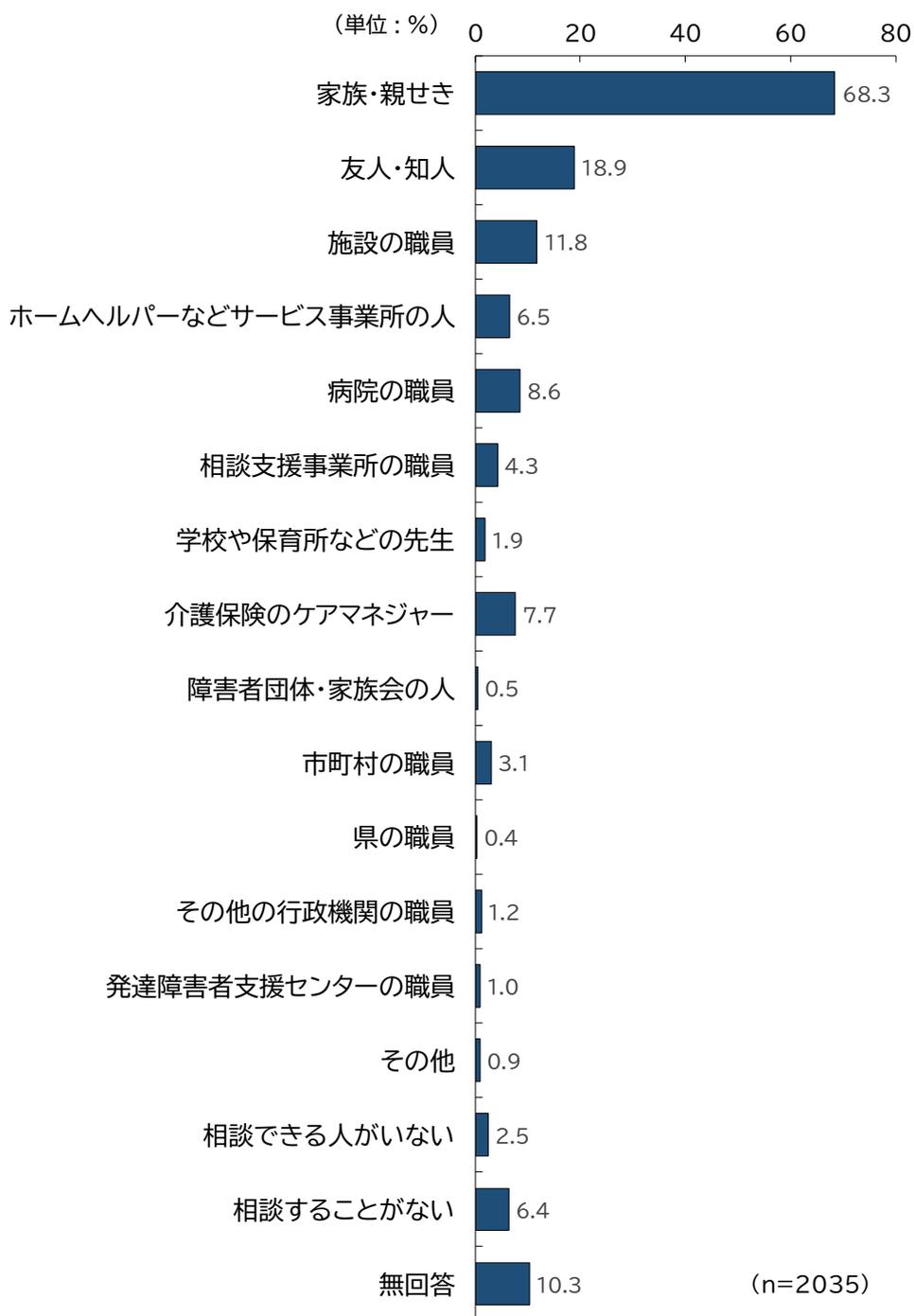
Q 22. 困ったことや悩むことがあるとき、誰に相談するか（最大3つまで回答）

質問文 あなたが日常生活で困ったことや悩むことがあるとき、誰に相談していますか。

（最大3つまで○）

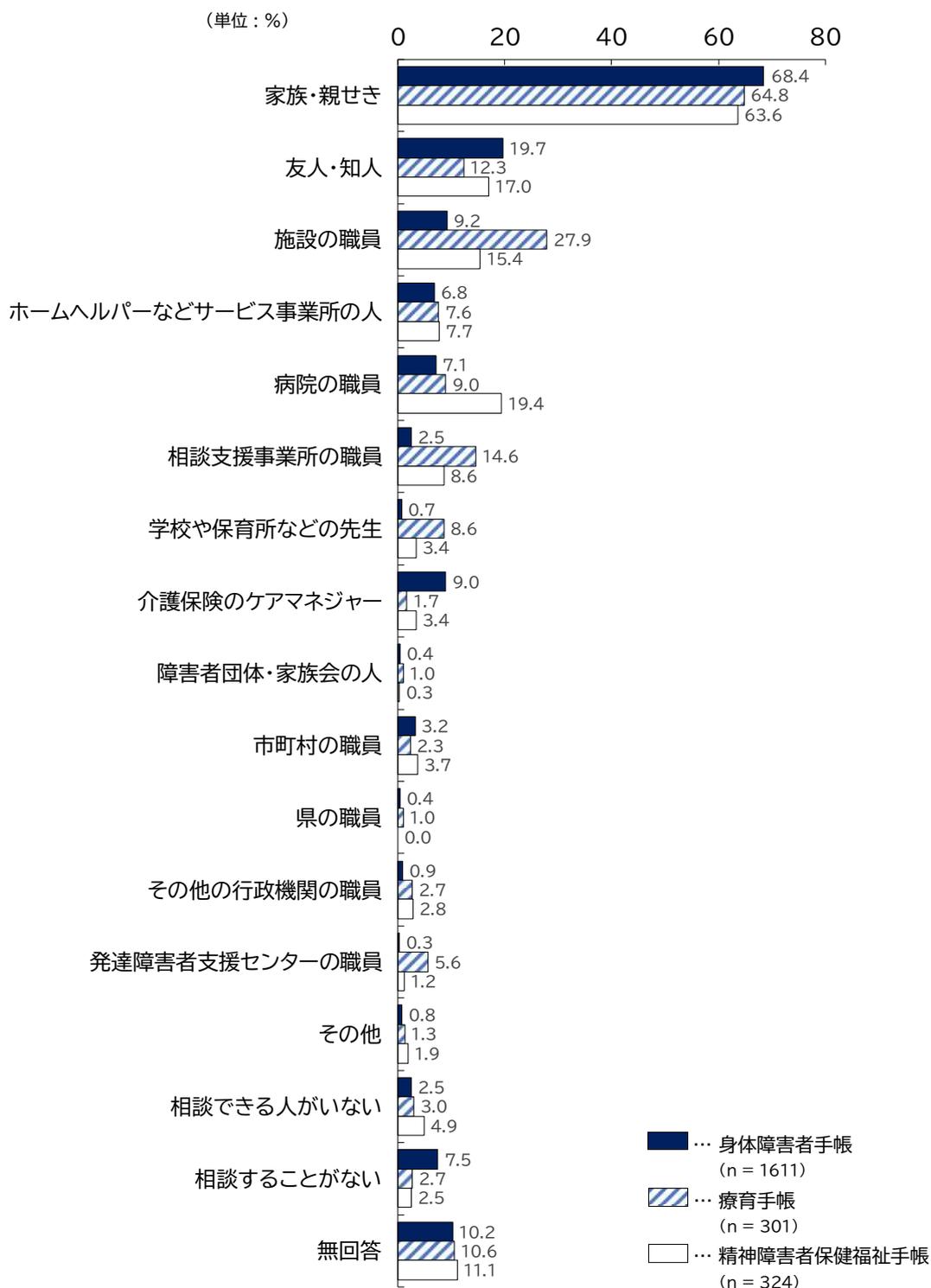
図表 6-1 困ったことや悩むことがあるとき、誰に相談するか 単純集計

「家族や親せき」に相談する方が68.3%と最も多く、次いで「友人・知人」が18.9%、「施設の職員」が11.8%となっています。



図表 6-2 困ったことや悩むことがあるとき、誰に相談するか(保有手帳の種別) クロス集計

いずれの手帳を持っている方も、「家族・親せき」が最も多くなっています。
 2番目に多い相談相手として、身体障害者手帳の方は、「友人・知人」、療育手帳の方は、「施設の職員」、精神障害者保健福祉手帳の方は、「病院の職員」となっています。



図表 6-3 困ったことや悩むことがあるとき、誰に相談するか(性別・年齢) クロス集計

18歳以上では、男性の方が相談する割合がやや低くなっています。18歳未満では男女とも学校や保育所などの先生に相談する割合が高くなっています。

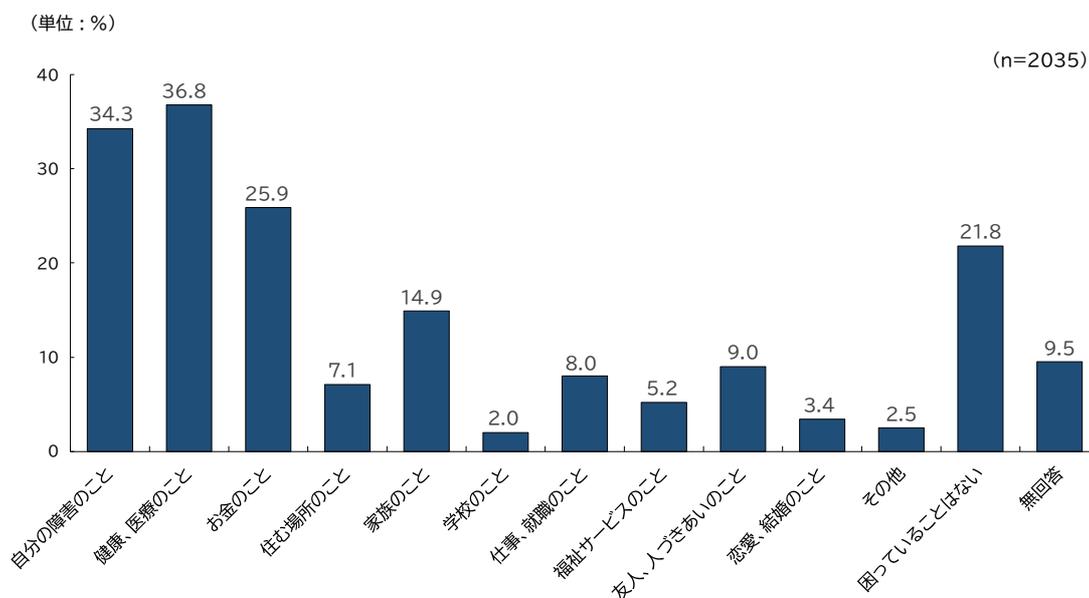
	男性全体 (n=958)	① 18歳未満 (n=58)	② 18~39歳 (n=97)	③ 40~64歳 (n=219)	④ 65~74歳 (n=202)	⑤ 75歳以上 (n=346)		
男性 ・ 年齢別	家族・親せき	65.8	79.3	74.2	56.6	68.3	65.3	
	友人・知人	14.6	8.6	12.4	16.9	20.3	11.8	
	施設の職員	11.4	15.5	27.8	14.6	5.0	7.5	
	ホームヘルパーなどサービス事業所の人	6.6	5.2	7.2	6.8	3.5	7.2	
	病院の職員	10.0	17.2	14.4	13.2	9.4	6.4	
	相談支援事業所の職員	4.3	1.7	12.4	7.3	3.5	1.2	
	学校や保育所などの先生	2.2	32.8	0.0	0.0	0.0	0.3	
	介護保険のケアマネジャー	7.4	0.0	0.0	1.4	9.4	12.7	
	障害者団体・家族会の人	0.5	0.0	1.0	0.5	1.5	0.0	
	市町村の職員	4.2	1.7	1.0	4.1	7.4	3.5	
	県の職員	0.8	1.7	0.0	1.8	0.0	0.6	
	その他の行政機関の職員	1.5	1.7	1.0	1.4	2.0	1.2	
	発達障害者支援センターの職員	1.7	15.5	4.1	0.9	0.0	0.0	
	その他	1.0	3.4	1.0	2.3	0.0	0.6	
	相談できる人がいない	3.2	0.0	2.1	6.4	5.0	1.4	
	相談することがない	8.7	3.4	3.1	6.8	12.4	10.4	
	無回答	9.8	6.9	6.2	11.4	5.4	12.7	
	女性 ・ 年齢別	女性全体 (n=1031)	① 18歳未満 (n=25)	② 18~39歳 (n=95)	③ 40~64歳 (n=190)	④ 65~74歳 (n=189)	⑤ 75歳以上 (n=472)	
		家族・親せき	71.2	64.0	80.0	70.5	69.3	73.3
友人・知人		22.8	4.0	28.4	27.4	25.9	20.3	
施設の職員		12.7	12.0	17.9	12.1	7.9	13.8	
ホームヘルパーなどサービス事業所の人		6.6	8.0	8.4	7.9	3.2	7.2	
病院の職員		7.4	8.0	14.7	14.7	7.4	3.2	
相談支援事業所の職員		4.3	4.0	16.8	6.8	2.6	1.3	
学校や保育所などの先生		1.6	32.0	5.3	0.5	0.0	0.0	
介護保険のケアマネジャー		8.1	0.0	1.1	0.5	5.8	13.1	
障害者団体・家族会の人		0.5	0.0	2.1	0.5	0.0	0.4	
市町村の職員		2.1	4.0	4.2	3.2	1.1	1.9	
県の職員		0.1	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	
その他の行政機関の職員		0.9	4.0	2.1	1.1	0.5	0.6	
発達障害者支援センターの職員		0.4	4.0	2.1	0.0	0.0	0.0	
その他		0.7	0.0	1.1	1.1	1.1	0.2	
相談できる人がいない		1.8	4.0	3.2	3.2	1.6	1.1	
相談することがない		4.3	4.0	0.0	2.6	4.2	4.7	
無回答		10.2	20.0	5.3	10.0	10.1	10.6	

Q 23. 今、困っていること、悩んでいることは (複数回答)

質問文 今、どんなことに困ったり悩んだりしていますか。(あてはまるもの全てに○)

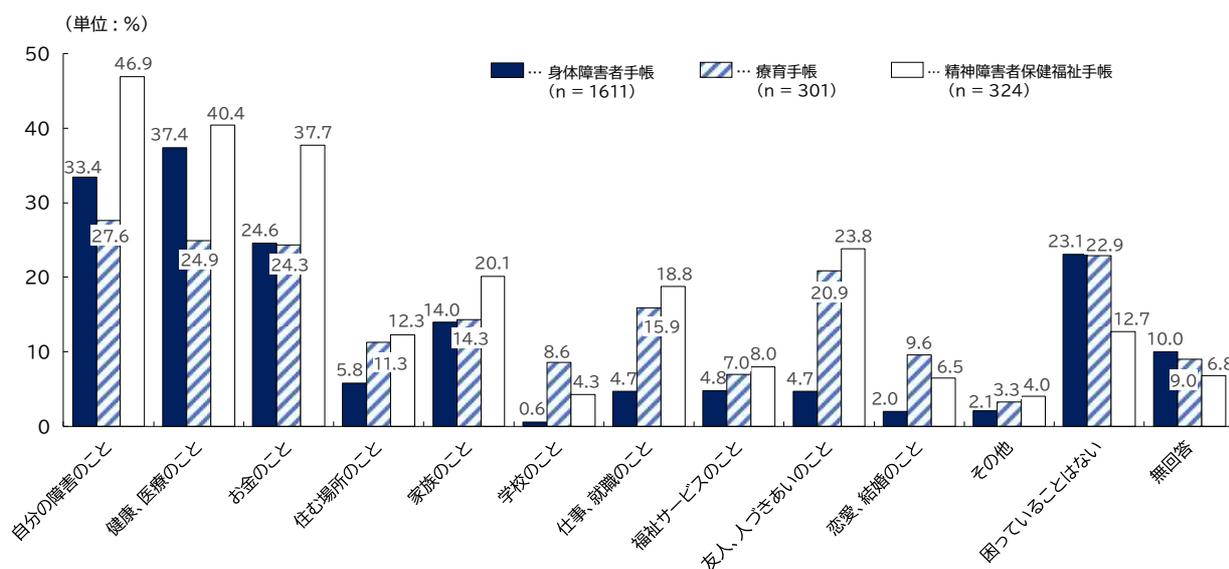
図表 6-4 今、困っていること、悩んでいることは 単純集計

「健康、医療のこと」が36.8%で最も多く、次いで「自分の障害のこと」が34.3%、「お金のこと」が25.9%の順となっています。



図表 6-5 今、困っていること、悩んでいることは(保有手帳の種類) クロス集計

身体障害者手帳を持っている方では「健康、医療のこと」が、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方では「自分の障害のこと」が最も多くなっています。



図表 6-6 今、困っていること、悩んでいることは(性別・年齢) クロス集計

18歳未満では「学校のこと」「友人、人づきあいのこと」の割合が高くなっています。
 18～39歳では「仕事、就職のこと」の割合が他の年代と比べて高くなっています。
 40～64歳の女性では「家族のこと」の割合が他の年代と比べて高くなっています。

		男性全体 (n=958)	① 18歳未満 (n=58)	② 18～39歳 (n=97)	③ 40～64歳 (n=219)	④ 65～74歳 (n=202)	⑤ 75歳以上 (n=346)
男性 ・ 年齢別	自分の障害のこと	35.9	31.0	36.1	41.6	38.6	30.3
	健康、医療のこと	37.5	15.5	26.8	35.2	44.1	43.1
	お金のこと	27.9	17.2	30.9	42.5	30.2	18.5
	住む場所のこと	7.0	10.3	8.2	11.4	5.9	4.3
	家族のこと	13.7	6.9	14.4	15.1	14.9	11.8
	学校のこと	2.8	39.7	2.1	0.5	0.0	0.0
	仕事、就職のこと	9.0	10.3	26.8	19.6	4.0	0.3
	福祉サービスのこと	5.3	13.8	3.1	5.9	6.4	3.2
	友人、人づきあいのこと	8.9	34.5	19.6	12.3	6.4	1.4
	恋愛、結婚のこと	4.1	1.7	17.5	7.3	1.5	0.0
	その他	2.5	5.2	2.1	2.3	2.5	2.3
	困っていることはない	22.1	15.5	29.9	19.2	20.8	24.9
	無回答	7.6	6.9	2.1	4.6	5.9	11.3
		女性全体 (n=1031)	① 18歳未満 (n=25)	② 18～39歳 (n=95)	③ 40～64歳 (n=190)	④ 65～74歳 (n=189)	⑤ 75歳以上 (n=472)
女性 ・ 年齢別	自分の障害のこと	32.7	12.0	36.8	43.7	28.6	31.4
	健康、医療のこと	36.2	12.0	32.6	42.6	36.5	36.2
	お金のこと	23.8	4.0	27.4	41.1	24.9	16.7
	住む場所のこと	7.2	8.0	13.7	11.1	4.8	5.1
	家族のこと	15.9	16.0	18.9	30.0	11.1	12.1
	学校のこと	1.4	36.0	2.1	0.0	0.0	0.0
	仕事、就職のこと	7.1	20.0	29.5	16.3	2.6	0.4
	福祉サービスのこと	5.3	4.0	6.3	7.4	2.1	5.7
	友人、人づきあいのこと	9.3	28.0	33.7	16.8	4.2	2.5
	恋愛、結婚のこと	2.9	4.0	20.0	3.7	0.5	0.2
	その他	2.4	4.0	4.2	4.2	0.5	1.9
	困っていることはない	21.5	16.0	17.9	11.6	23.8	25.6
	無回答	11.1	20.0	3.2	6.8	11.6	12.7

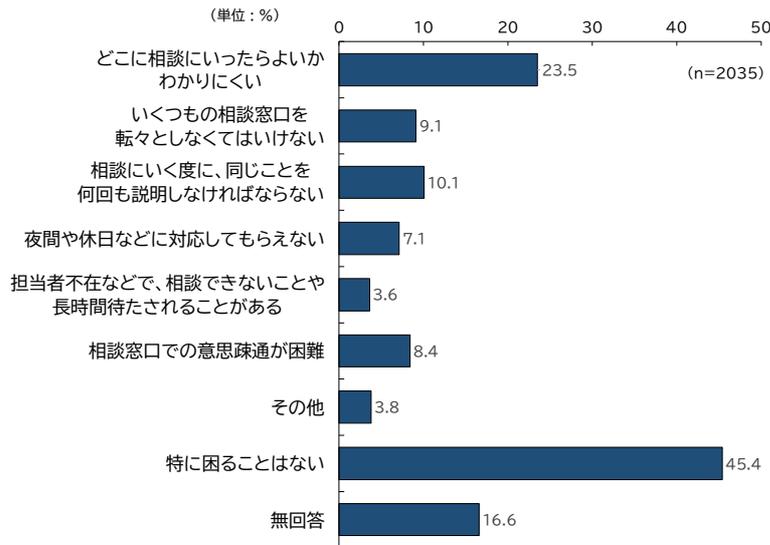
Q 24. 相談窓口を利用するときには困ることは (複数回答)

質問文 あなたが役場などの相談窓口を利用するとき、困ることはありますか。

(あてはまるもの全てに○)

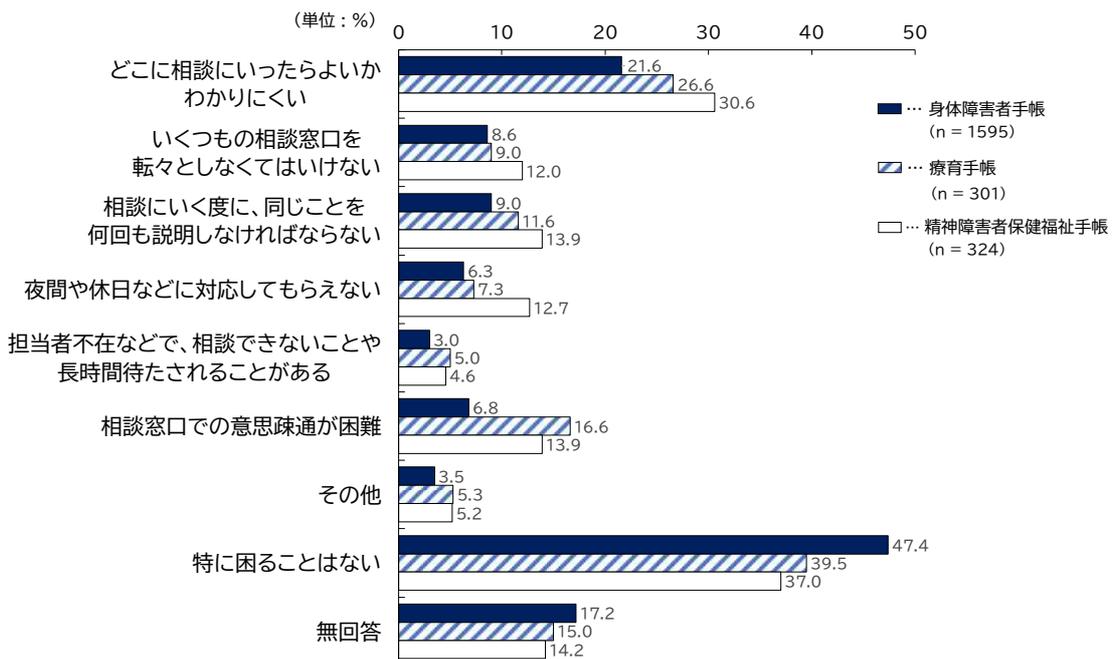
図表 6-7 相談窓口を利用するときには困ることは 単純集計

「特に困ることはない」が 45.4%、「どこに相談にいったらよいかわかりにくい」が 23.5%、「相談に行く度に同じことを何回も説明しなければならない」が 10.1%の順となっています。



図表 6-8 相談窓口を利用するときには困ることは(保有手帳の種別) クロス集計

療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方は、身体障害者手帳を持っている方より困っている割合が高く、特に「相談窓口での意思疎通が困難」で割合の差が大きくなっています。



図表 6-9 相談窓口を利用するときには(性別・年齢) クロス集計

「どこに相談にいったらよいかわかりにくい」は18～39歳で多く、特に女性で多くなっています。
「相談窓口での意思疎通が困難」も18～39歳で多くなっています。

男性・年齢別

	男性全体 (n=958)	①18歳未満 (n=58)	②18～39歳 (n=97)	③40～64歳 (n=219)	④65～74歳 (n=202)	⑤75歳以上 (n=346)
どこに相談にいったらよいか わかりにくい	22.5	22.4	37.1	25.6	18.8	19.4
いくつもの相談窓口を 転々としなくてはいけない	9.4	12.1	8.2	11.9	8.4	8.1
相談にいく度に、同じことを 何回も説明しなければならない	10.6	15.5	12.4	17.4	7.4	6.6
夜間や休日などに対応してもらえない	7.4	13.8	9.3	13.2	4.0	4.3
担当者不在などで、相談できないことや 長時間待たされることがある	3.0	3.4	5.2	3.2	2.5	2.3
相談窓口での意思疎通が困難	7.9	8.6	15.5	10.0	6.4	4.9
その他	3.8	5.2	4.1	4.1	2.5	3.5
特に困ることはない	47.4	39.7	46.4	43.4	53.0	49.4
無回答	14.7	10.3	8.2	9.6	13.9	20.5

女性・年齢別

	女性全体 (n=1034)	①18歳未満 (n=25)	②18～39歳 (n=95)	③40～64歳 (n=193)	④65～74歳 (n=189)	⑤75歳以上 (n=472)
どこに相談にいったらよいか わかりにくい	24.3	32.0	46.3	28.4	18.5	19.5
いくつもの相談窓口を 転々としなくてはいけない	9.0	12.0	17.9	11.6	4.2	8.3
相談にいく度に、同じことを 何回も説明しなければならない	9.8	12.0	21.1	13.2	7.9	7.2
夜間や休日などに対応してもらえない	6.8	0.0	11.6	11.6	3.2	6.1
担当者不在などで、相談できないことや 長時間待たされることがある	4.1	12.0	7.4	5.3	1.6	3.4
相談窓口での意思疎通が困難	8.9	8.0	21.1	7.9	4.2	8.5
その他	4.0	0.0	9.5	4.7	1.6	4.0
特に困ることはない	43.8	36.0	24.2	44.7	55.6	44.7
無回答	18.0	20.0	11.6	9.5	16.9	22.0

7. 外出・余暇活動

本節のポイント

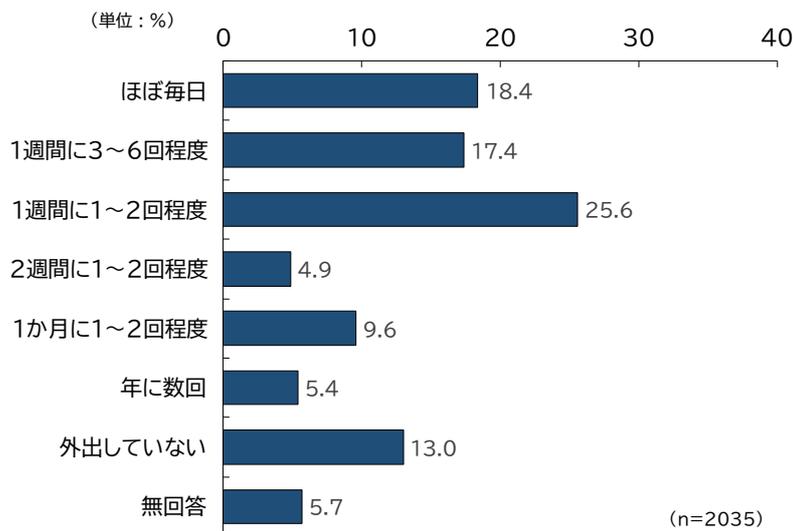
- ・1週間に1～2回程度の外出をする方が最も多くなっています。何らかの形で外出に支援が必要な方は約半数となっています。
 - ・余暇活動をしなかった方は約半数となっています。
 - ・余暇活動で多かったのは「旅行、キャンプ、釣りなどの活動」「コンサートや映画の鑑賞」です。余暇活動をするために「活動に関する情報」や「一緒に活動する仲間」を必要と考える方が多くいました。
- 「ほぼ毎日」外出している割合は療育手帳を持っている方が最も高く、「外出していない」割合は身体障害者手帳を持っている方が最も高い。(p.63)
 - 外出の支援は「家族の付き添い」が74.6%で最も多く、次いで福祉サービスが13.6%となった。(p.65)
 - 療育手帳を持っている方は外出に「介護者、付き添う人」を必要とする割合が高い。(p.72)

Q 25. どのくらい外出しているか(単一回答)

質問文 あなたはどのくらい外出していますか(通勤、通学、通院、通所を除く)。(1つに○)

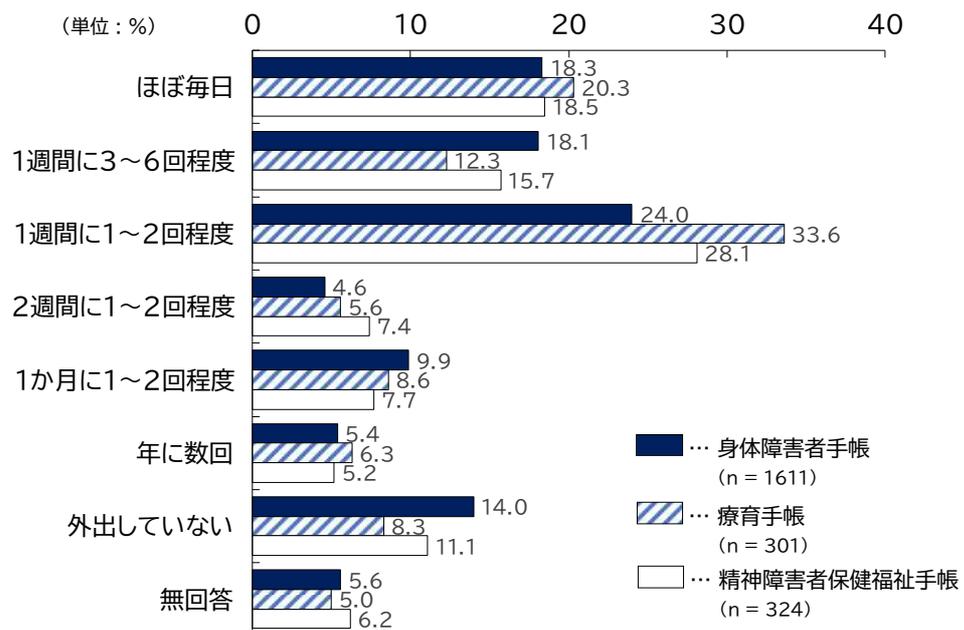
図表 7-1 どのくらい外出しているか 単純集計

「1週間に1~2回程度」が25.6%と最も多く、
次いで「ほぼ毎日」が18.4%、「1週間に3~6回程度」が17.4%となっています。



図表 7-2 どのくらい外出しているか(保有手帳の種別) クロス集計

「ほぼ毎日」外出している割合は療育手帳を持っている方が最も高く、
「外出していない」割合は身体障害者手帳の方が最も高くなっています。

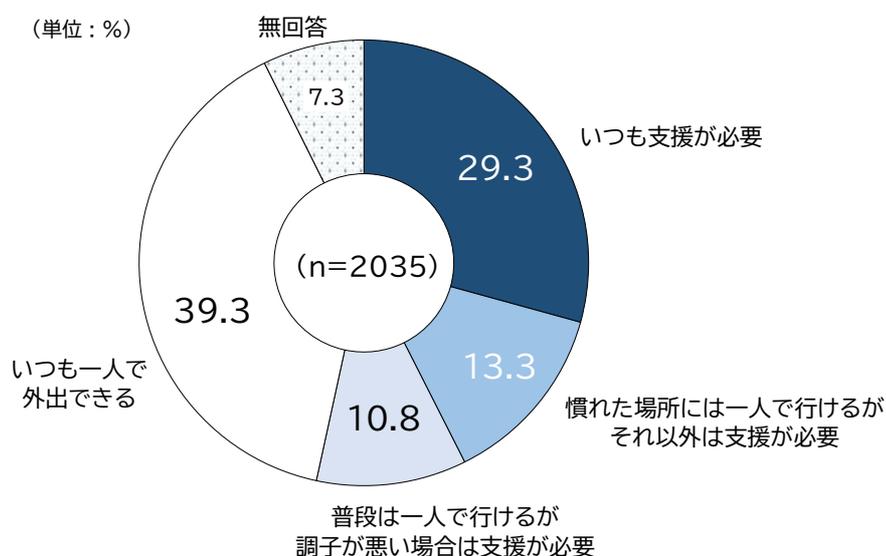


Q 26-1. 外出するときに支援は必要か(単一回答)

質問文 (1) あなたが外出するときに支援は必要ですか。(1つに○)

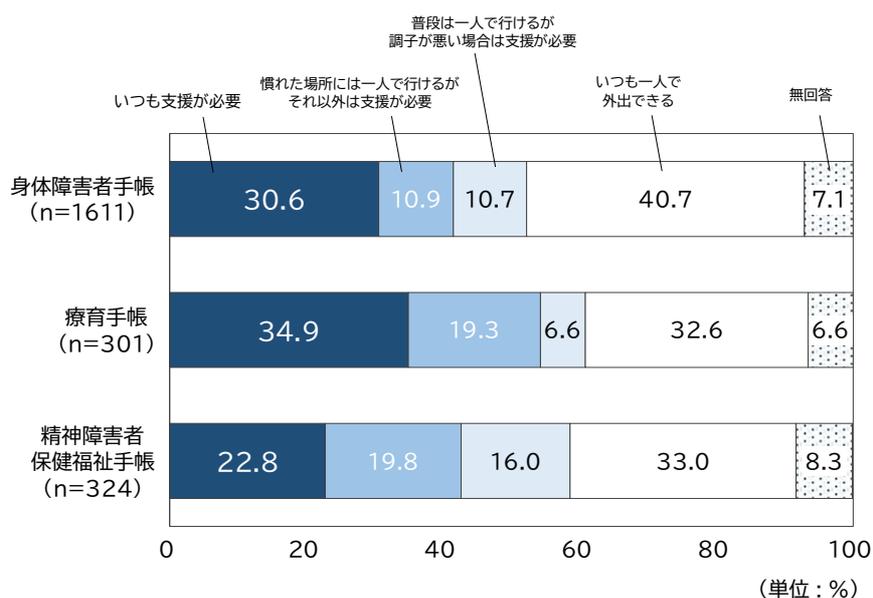
図表 7-3 外出するときに支援は必要か 単純集計

いつも支援が必要な方が 29.3%で、
何らかの形で支援が必要な方を加えると 53.4%となっています。



図表 7-4 外出するときに支援は必要か(保有手帳の種別) クロス集計

いつも支援が必要なのは、療育手帳を持っている方が最も高い割合となっています。
精神障害者保健福祉手帳の方は、調子が悪い場合は支援が必要となる割合が高くなっています。

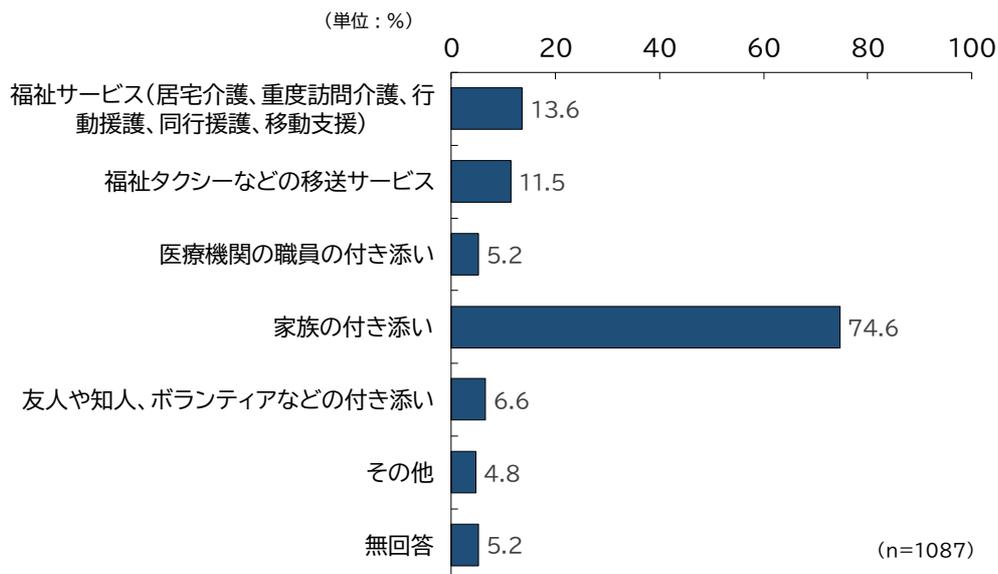


Q 26-2. どのような支援で外出しているか(複数回答)

質問文 一つ前のQ26-1で「1. いつも支援が必要」～「3. 普段は一人で行けるが、調子が悪い場合は支援が必要」と回答した方におたずねします。どのような支援で外出していますか。
(あてはまるもの全てに○)

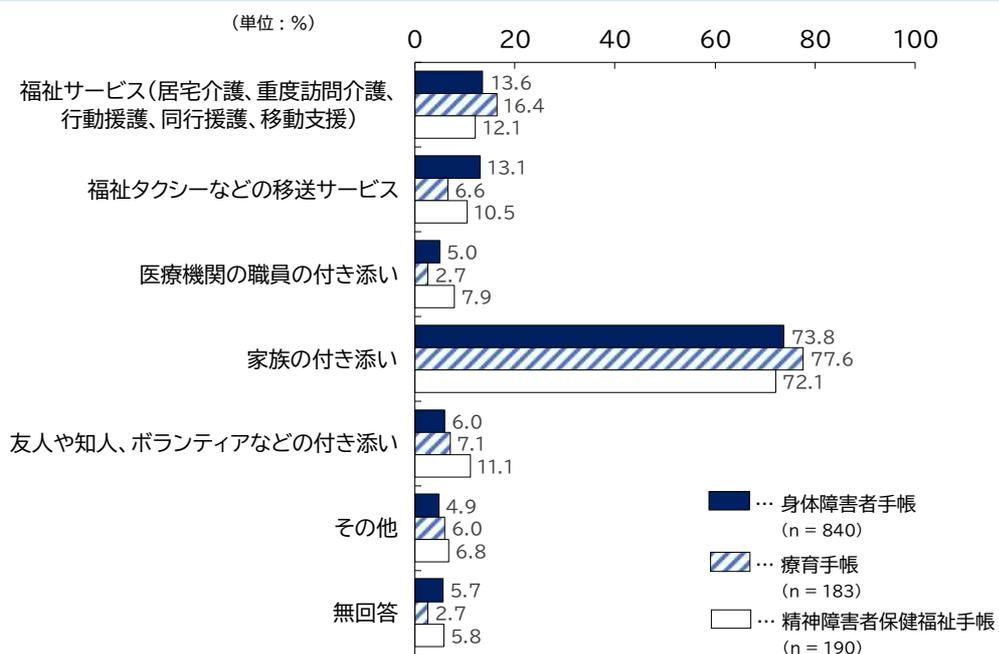
図表 7-5 どのような支援で外出しているか 単純集計

「家族の付き添い」が74.6%で最も多く、次いで「福祉サービス」が13.6%、「福祉タクシーなどの移送サービス」が11.5%の順となっています。



図表 7-6 どのような支援で外出しているか(保有手帳の種別) クロス集計

いずれの手帳を持っている方も「家族の付き添い」が7割強を占めており、「福祉サービス」は1割強、「福祉タクシーなどの移送サービス」は1割前後となっています。

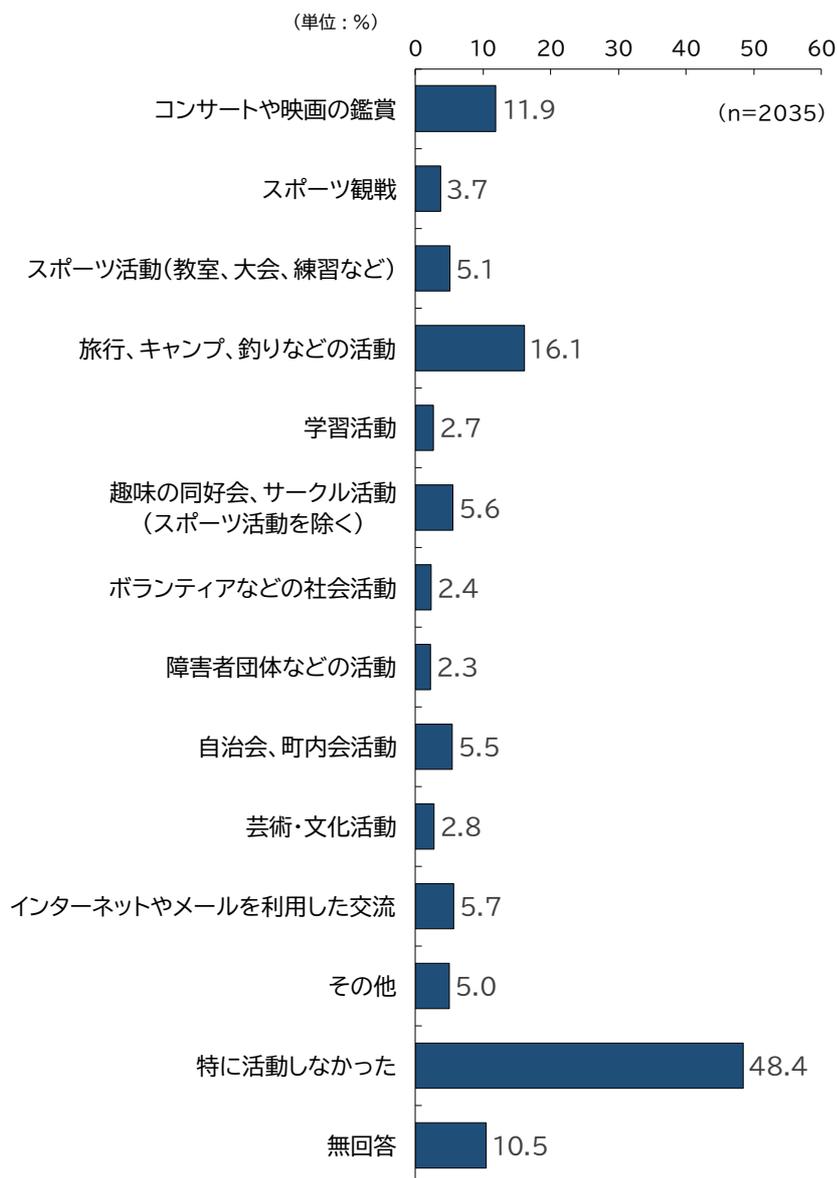


Q 27. 余暇活動の内容(複数回答)

質問文 この1年間、どのような余暇活動をしましたか。(あてはまるもの全てに○)

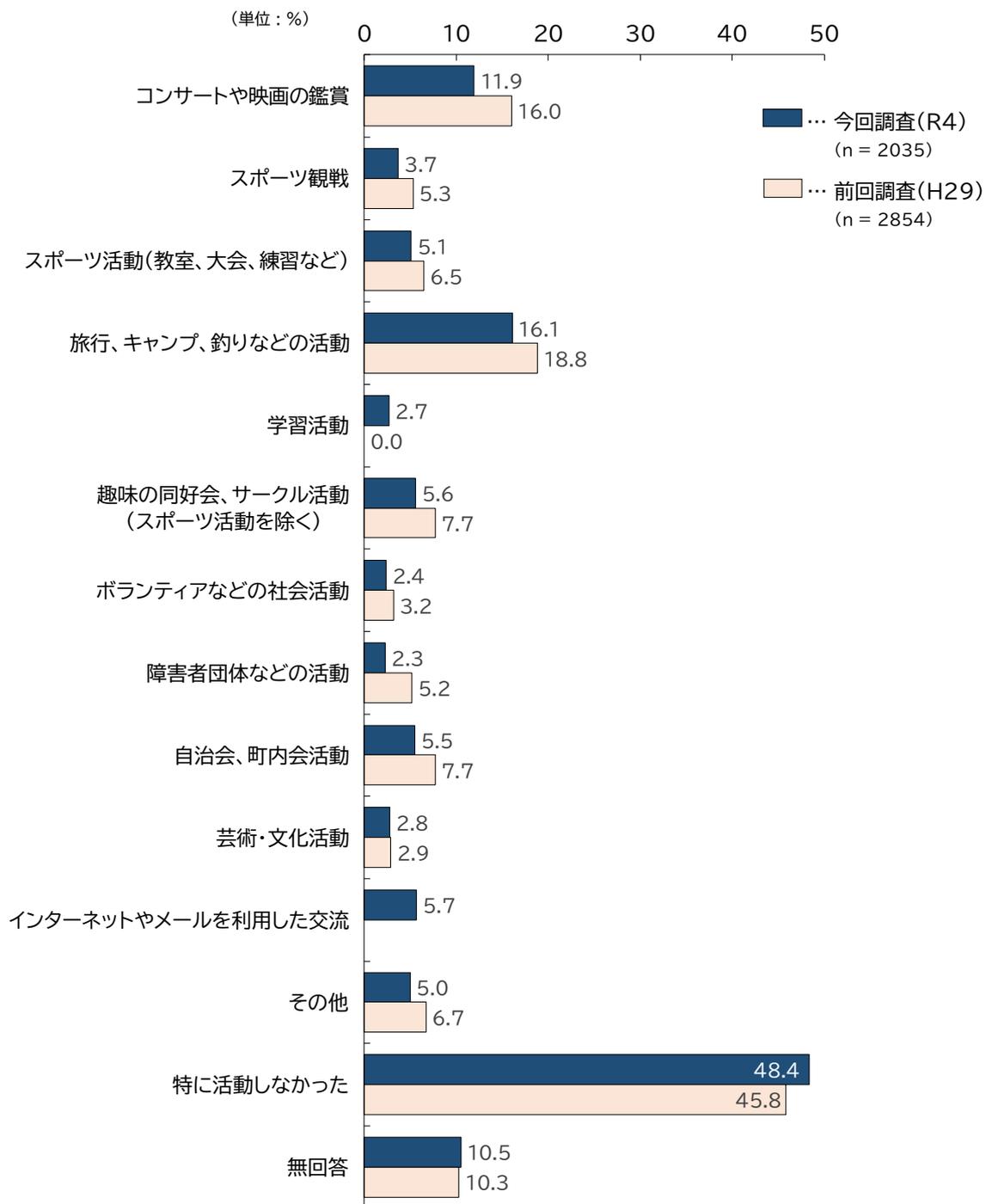
図表 7-7 この1年間、どのような余暇活動をしたか 単純集計

「特に活動しなかった」が48.4%で最も多くなっています。
次に「旅行、キャンプ、釣りなどの活動」「コンサートや映画の鑑賞」が多くなっています。



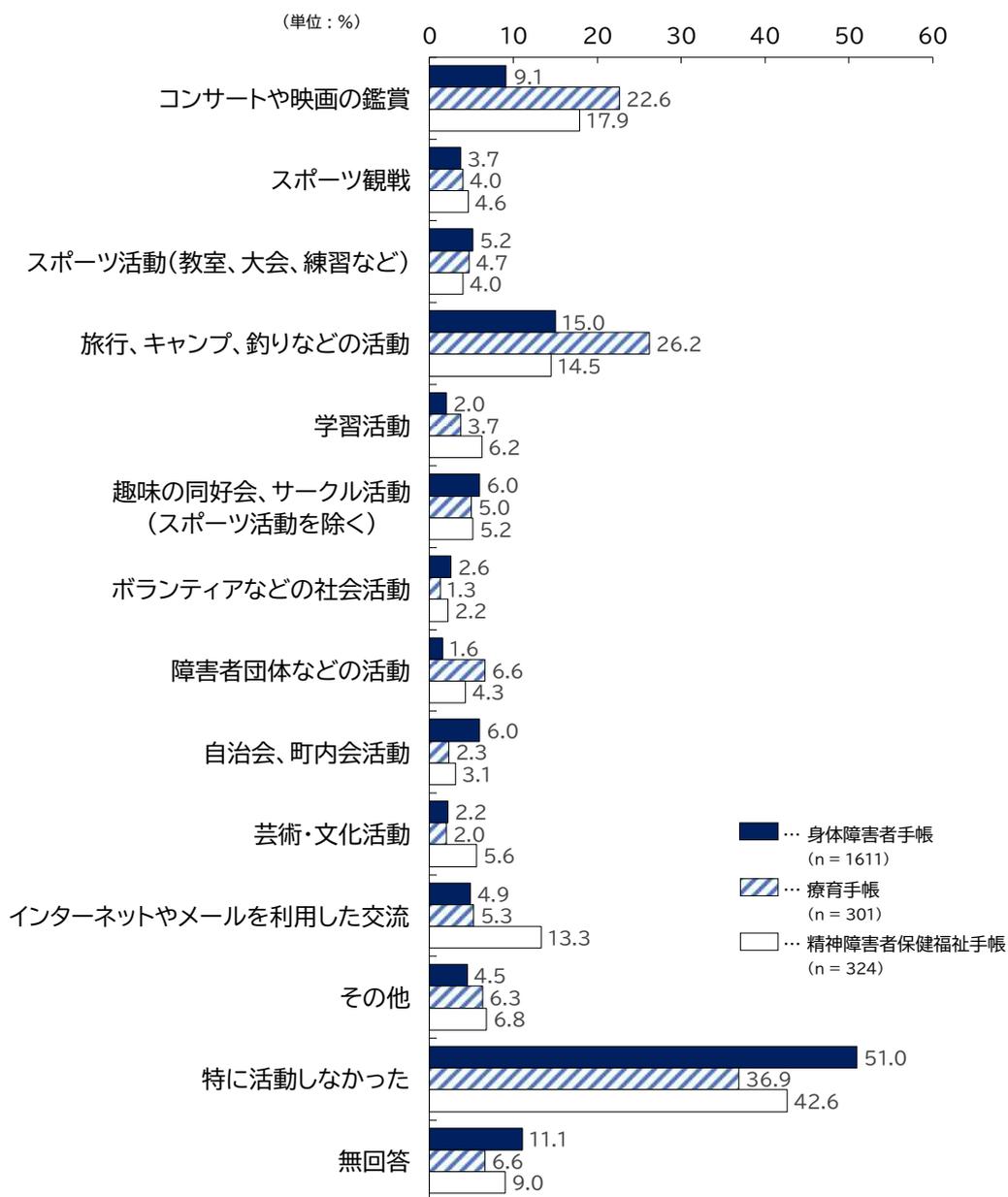
図表 7-8 この1年間、どのような余暇活動をしたか 前回比較

前回調査に比べ、「コンサートや映画の鑑賞」が4.1ポイント減少し、「旅行、キャンプ、釣りなどの活動」が2.7ポイント減少しました。その一方で、「特に活動しなかった」が2.6ポイント増加しています。



図表 7-9 この1年間、どのような余暇活動をしたか(保有手帳の種別) クロス集計

「特に活動しなかった」割合が高かったのは身体障害者手帳を持っている方となっています。療育手帳の方は「旅行、キャンプ、釣りなどの活動」の割合が高くなっています。「コンサートや映画の鑑賞」は、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方で高くなっています。また、精神障害者保健福祉手帳の方は、「インターネットやメールを利用した交流」の割合が比較的高くなっています。

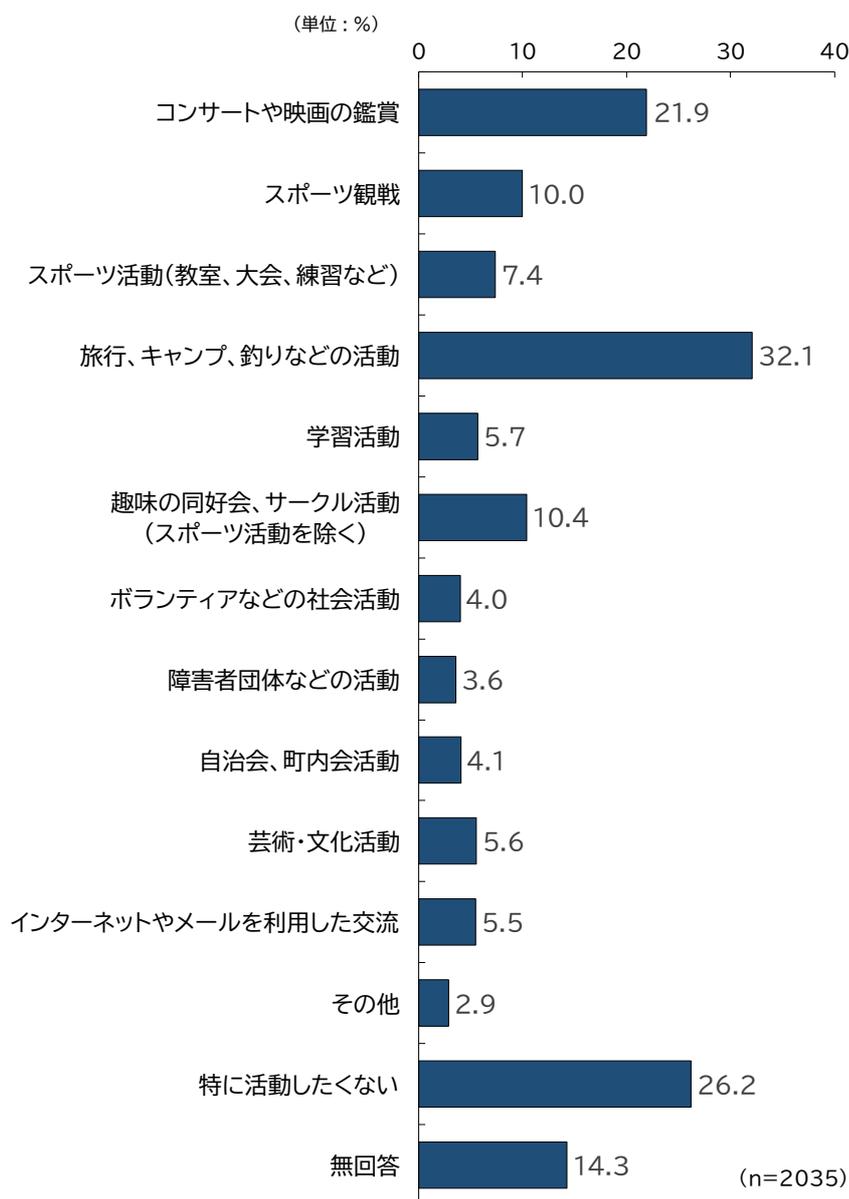


Q 28. 今後、どのような活動をしたいか(複数回答)

質問文 今後、どのような活動をしたいですか。(あてはまるもの全てに○)

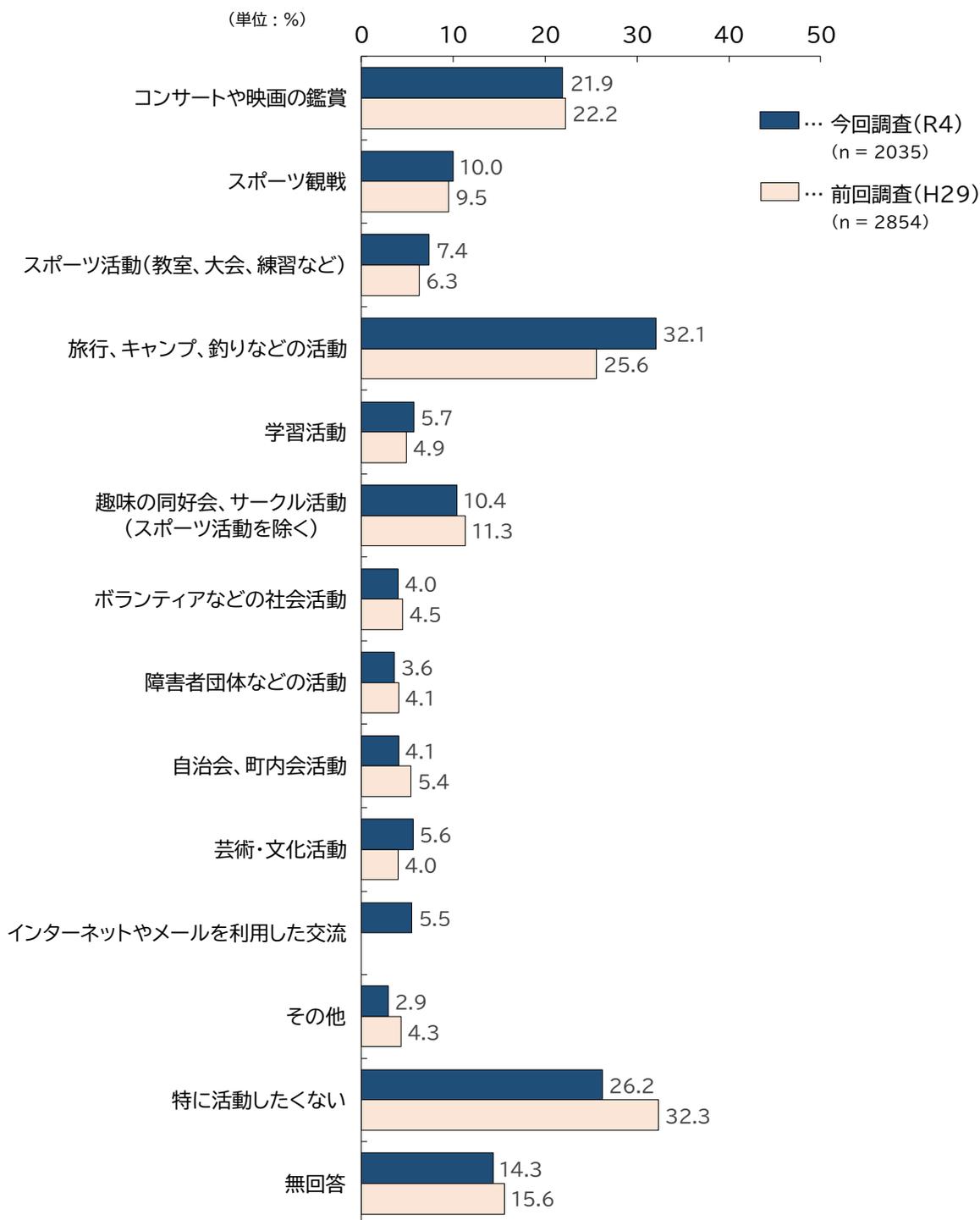
図表 7-10 今後、どのような活動をしたいか 単純集計

「旅行、キャンプ、釣りなどの活動」が32.1%で最も多く、次いで「特に活動したくない」が26.2%、「コンサートや映画の鑑賞」が21.9%の順となっています。



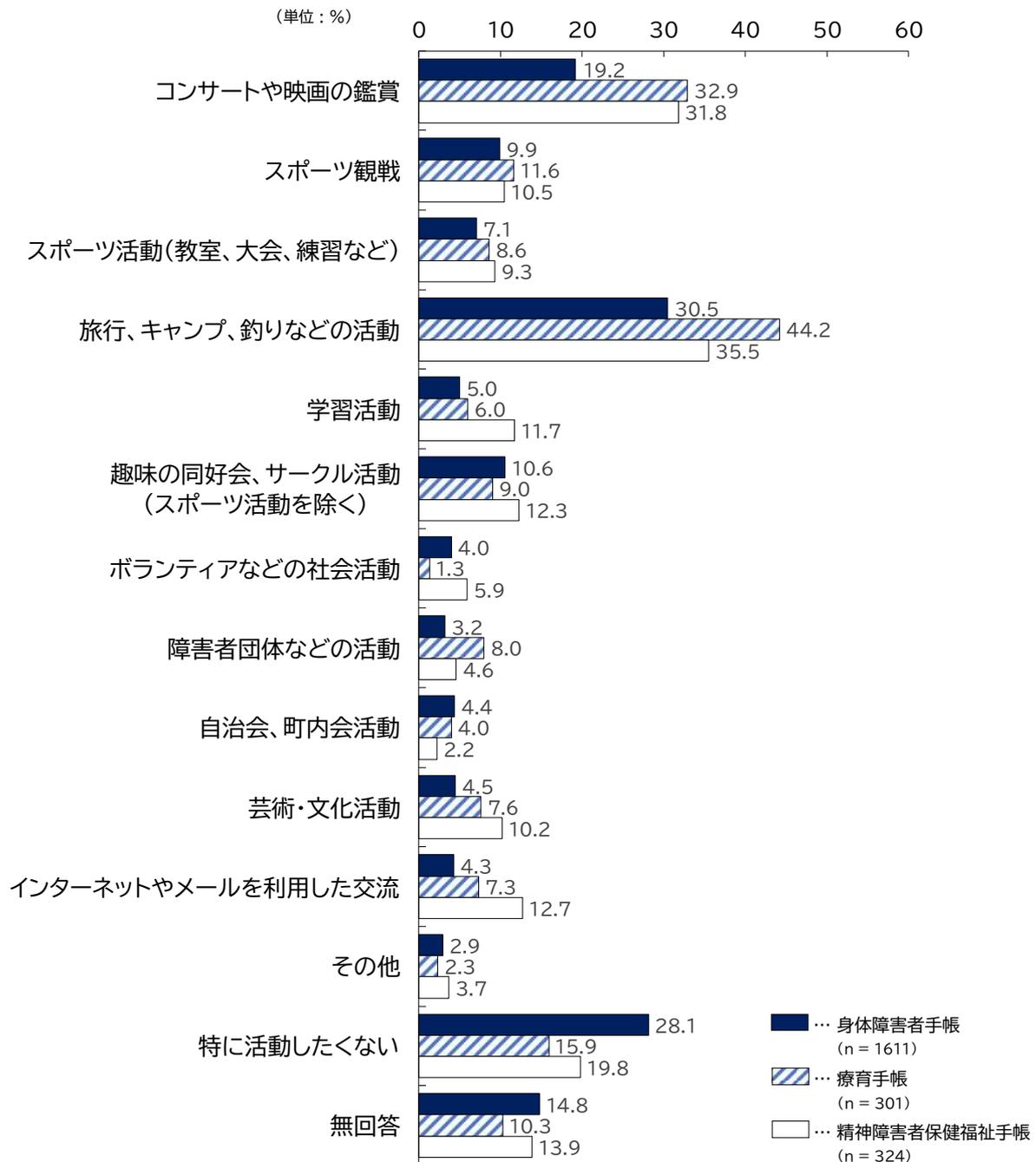
図表 7-11 今後、どのような活動をしたいか 前回比較

前回調査に比べ、「特に活動したくない」が 6.1 ポイント減少し、「旅行、キャンプ、釣りなどの活動」が 6.5 ポイント増加しています。



図表 7-12 今後、どのような活動をしたいか(保有手帳の種別) クロス集計

療育手帳を持っている方は「旅行、キャンプ、釣りなどの活動」の割合が高く、精神障害者保健福祉手帳の方は「学習活動」や「インターネットやメールを利用した交流」などが他の手帳の方よりも高くなっています。

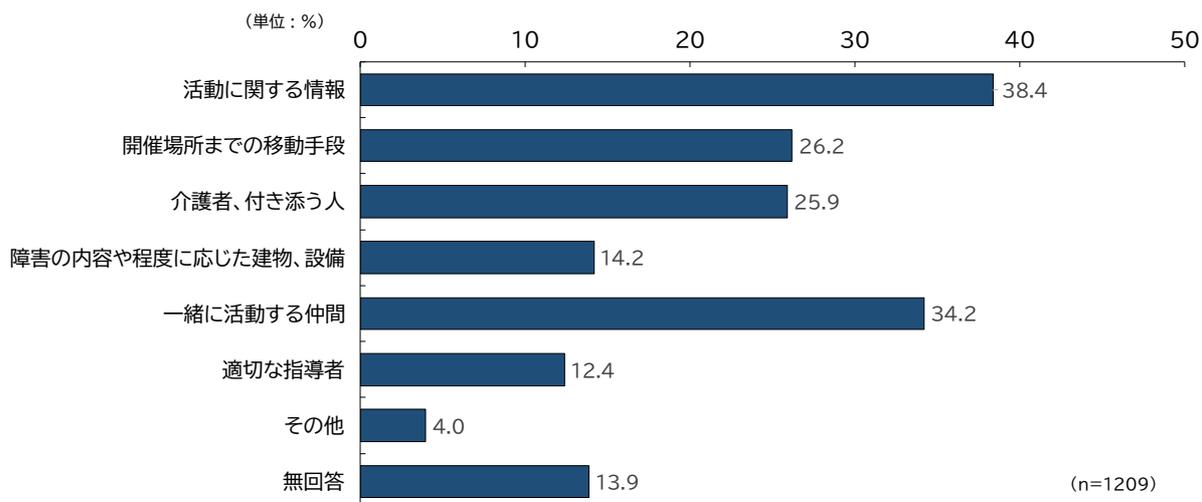


Q 29. 今後、余暇活動をするために、どのようなことが必要か(複数回答)

質問文 一つ前のQ28で「1. コンサートや映画の鑑賞」～「12. その他」とお答えいただいた方におたずねします。選ばれた活動をするために、どのようなことが必要ですか。
(あてはまるもの全てに○)

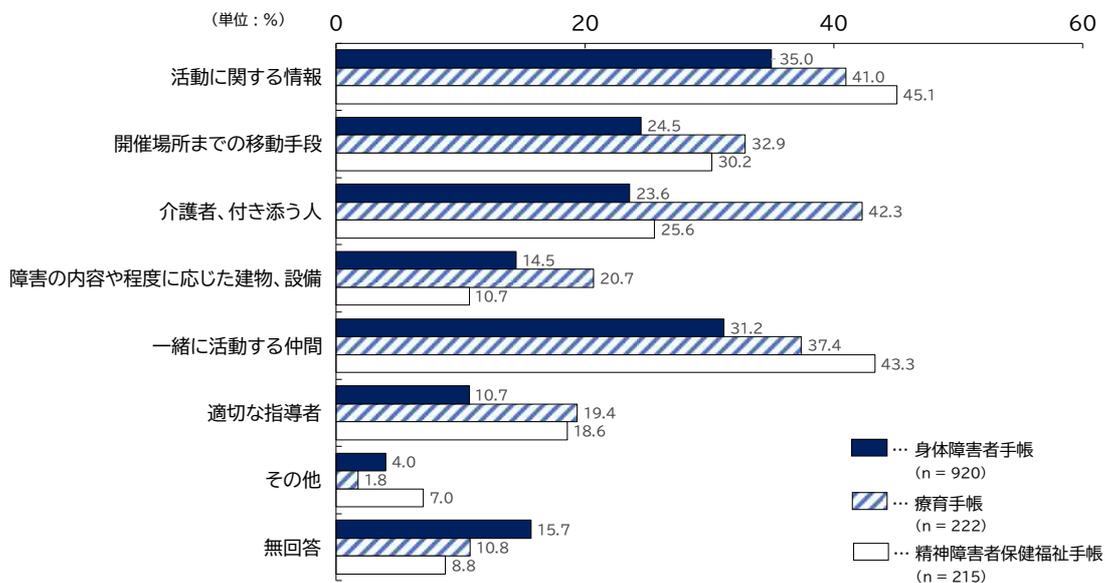
図表 7-13 今後、余暇活動をするために、どのようなことが必要か 単純集計

「活動に関する情報」が38.4%と最も多く、
次いで「一緒に活動する仲間」が34.2%となっています。



図表 7-14 今後、余暇活動をするために、どのようなことが必要か(保有手帳の種別) クロス集計

いずれの手帳を持っている方も「活動に関する情報」の割合が4割前後と高くなっています。
また、療育手帳の方は「介護者、付き添う人」、精神障害者保健福祉手帳の方は「一緒に活動する仲間」の割合も4割を超えています。



8. 情報収集手段

本節のポイント

・情報収集は「テレビ」からが最も多く、次いで「家族」「新聞」「インターネット」からの順となっています。

・39歳以下の年代では、インターネットの割合が最も高くなっています。

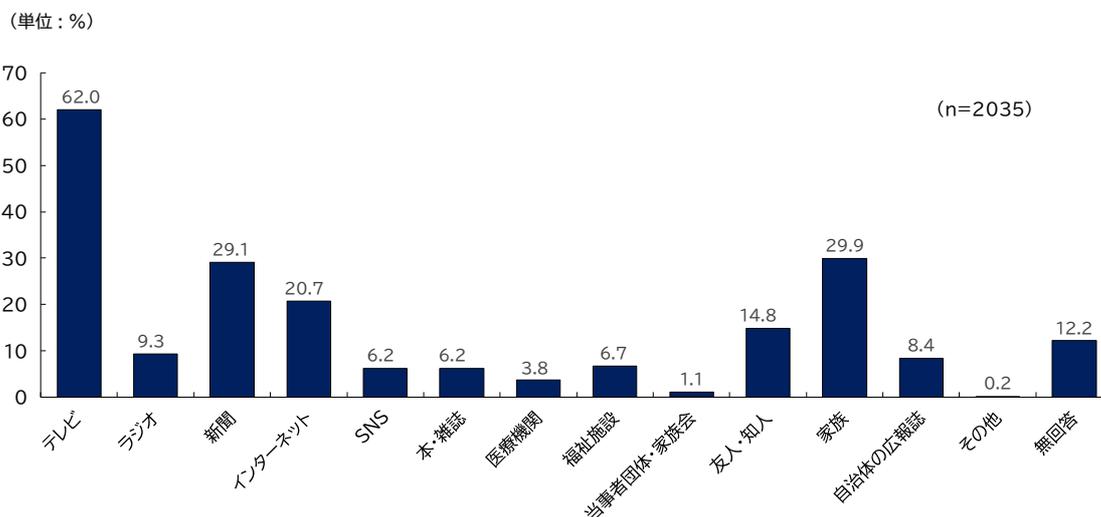
- 情報収集は「インターネット」からが前回調査と比較して 2.3 ポイント増加している。(p. 74)
- 身体障害者手帳を持っている方は、他の手帳を持っている方と比べて「テレビ」「新聞」と回答した割合が高く、「インターネット」「SNS」が低い。視覚障害のある方は、他の障害のある方と比べて「ラジオ」「家族」と回答した割合が高い。(p. 75)

Q 30. 日常生活に必要な情報をどのように集めているか(最大3つまで回答)

質問文 あなたは日常生活に必要な情報を何から集めていますか。(最大3つまで○)

図表 8-1 日常生活に必要な情報をどのように集めているか 単純集計

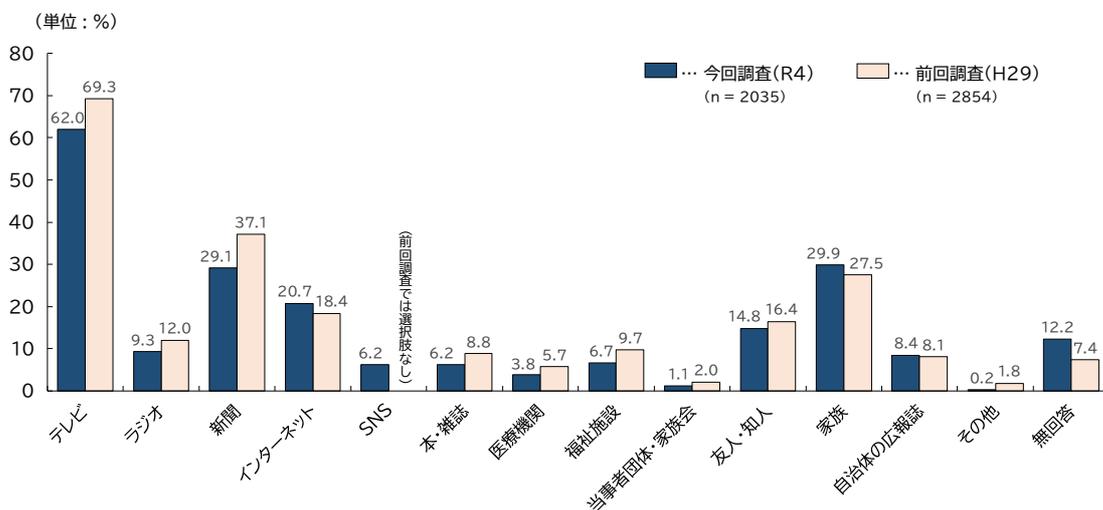
情報は「テレビ」からが最も多く 62.0%、次いで「家族」からが 29.9%、「新聞」からが 29.1%、「インターネット」からが 20.7%の順となっています。



調査結果 (8. 情報収集手段)

図表 8-2 日常生活に必要な情報をどのように集めているか 前回比較

前回調査と比較して「テレビ」「ラジオ」「新聞」等から情報を集めている割合の減少が目立ちます。その一方で、「インターネット」「家族」から情報を集めている割合が増加しています。



図表 8-3 日常生活に必要な情報をどのように集めているか(保有手帳の種別・身体障害の種別) クロス集計

身体障害者手帳を持っている方は、他の手帳を持っている方と比べて「テレビ」「新聞」と回答した割合が高く「インターネット」「SNS」が低くなっています。視覚障害のある方は、他の障害のある方と比べて「ラジオ」「家族」と回答した割合が高くなっています。

保有手帳の種別

	1 身体障害者手帳 (n=1611)	2 療育手帳 (n=301)	3 精神障害者保健福祉手帳 (n=324)
テレビ	63.8	55.1	54
ラジオ	9.7	4.0	10.2
新聞	33.1	8.6	16.4
インターネット	17.1	32.6	29.3
SNS	4.3	13.0	12.3
本・雑誌	5.6	7.0	9.6
医療機関	3.6	3.0	6.2
福祉施設	5.9	12.6	8.3
当事者団体・家族会	1.0	2.0	1.2
友人・知人	15.8	8.3	11.7
家族	29.9	27.2	29.0
自治体の広報誌	9.0	4.7	6.2
その他	0.1	0.3	0.6
無回答	11.9	16.6	13.6

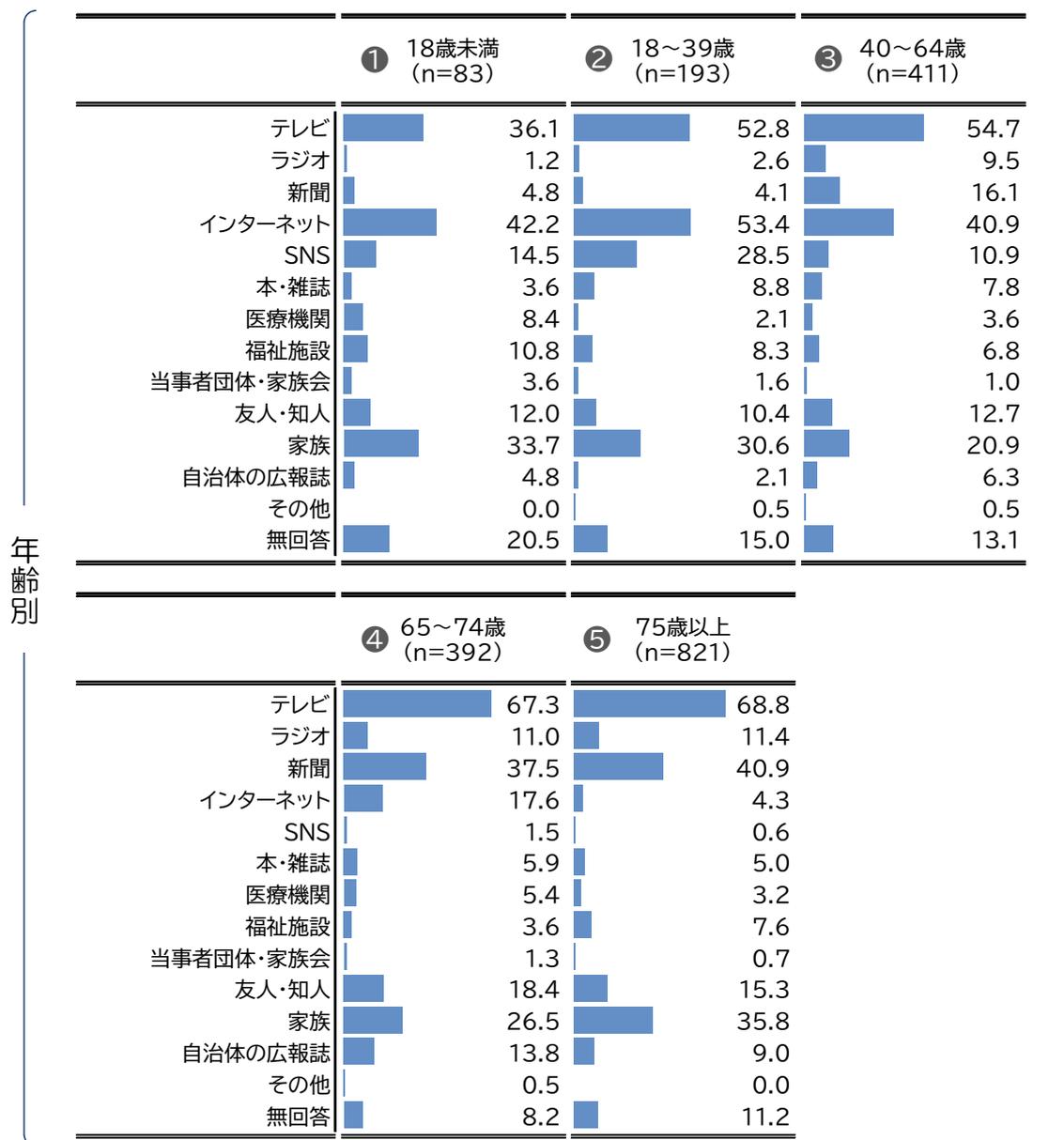
身体障害の種別

	1 視覚障害 (n=103)	2 聴覚平衡機能障害 (n=198)	3 音声・言語そしゃく機能障害 (n=66)
テレビ	48.5	65.2	51.5
ラジオ	27.2	3.5	7.6
新聞	14.6	34.8	13.6
インターネット	8.7	17.7	19.7
SNS	4.9	6.1	9.1
本・雑誌	2.9	7.1	9.1
医療機関	4.9	1.5	4.5
福祉施設	6.8	5.6	18.2
当事者団体・家族会	1.9	0.5	3.0
友人・知人	12.6	14.1	10.6
家族	38.8	32.3	33.3
自治体の広報誌	4.9	9.1	4.5
その他	1.9	1.0	3.0
無回答	13.6	14.6	13.6

	4 肢体不自由 (n=720)	5 内部機能障害 (n=525)	6 不明 (n=140)
テレビ	60.8	69.3	62.9
ラジオ	8.8	10.1	9.3
新聞	32.1	39.6	20.7
インターネット	18.9	17.1	11.4
SNS	4.2	3.8	2.9
本・雑誌	5.0	5.3	8.6
医療機関	2.5	5.9	3.6
福祉施設	6.9	4.2	5.0
当事者団体・家族会	1.0	1.0	0.7
友人・知人	17.6	14.9	11.4
家族	29.3	30.7	27.1
自治体の広報誌	9.3	9.3	7.1
その他	0.1	0.0	0.0
無回答	12.1	9.9	17.1

図表 8-4 日常生活に必要な情報をどのように集めているか(年齢別) クロス集計

18歳未満では他の年齢層と比較し「医療機関」「福祉施設」の割合が高く、
 18～39歳では「インターネット」の割合が高くなっています。
 「テレビ」や「ラジオ」は年齢層が高いほど割合も高くなっています。



9. 人権・権利擁護

本節のポイント

- ・およそ4人に1人が障害があることで嫌な思いをしたと回答しています。そのうち 56.2%の方が誰かに相談しています。相談先は「家族・親せき」が最も多く、次いで「友人・知人」となっています。
- ・相談しなかった理由では「相談しても、解決できないと思ったから」が最も多くなっています。
- ・障害を理由とする差別をなくすために必要なことは「学校での教育」と回答した方が最も多く、次いで「行政、企業などでの職員研修」となっています。

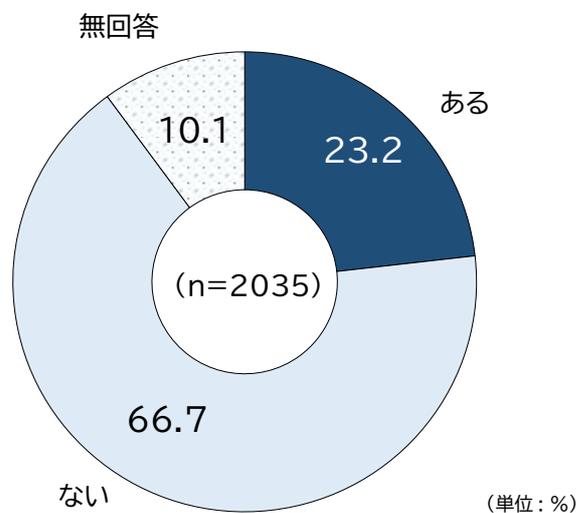
- 18歳未満の男性で嫌な思いを経験した割合が51.7%となっている。女性では18～39歳で40.0%と最も高くなっている。(p.79)
- 嫌な思いをした場所は「病院」が最も多く20.3%、次いで「お店」が16.5%となっている。(p.80)
- どの年齢層でも女性の方が相談する割合が高くなっている。(p.87)
- 「解決した」「だいたい納得した」を合わせると47.3%となっている。「解決しなかった」「納得できなかった」を合わせると22.5%となっている(p.92)

Q 31. 障害があることで嫌な思いをしたことはあるか(単一回答)

質問文 あなたは過去5年間に、障害があることで嫌な思いをしたり、配慮してもらえなかったことがありますか。(1つに○)

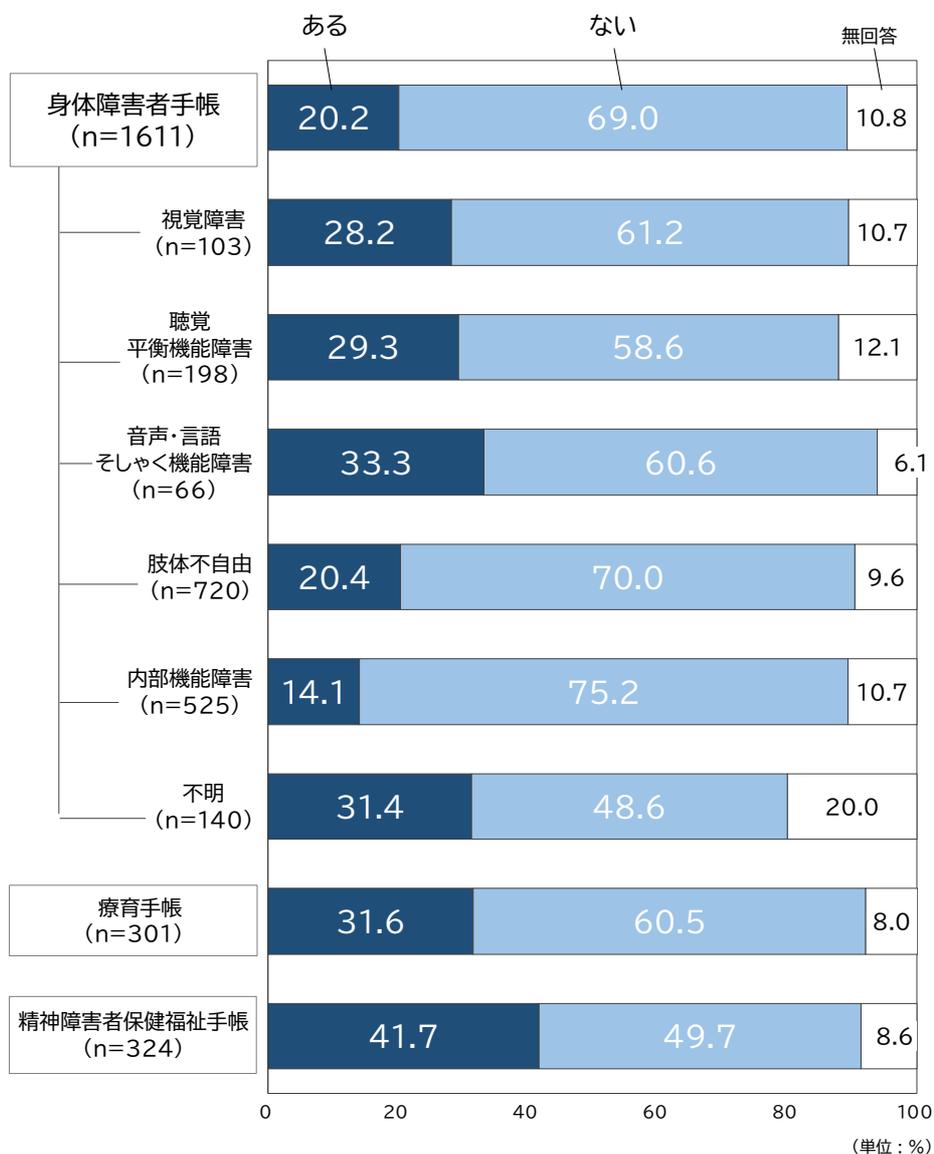
図表 9-1 障害があることで嫌な思いをしたことはあるか 単純集計

「ある」と回答した方が23.2%で、およそ4人に1人が障害があることで嫌な思いをしたと回答しています。



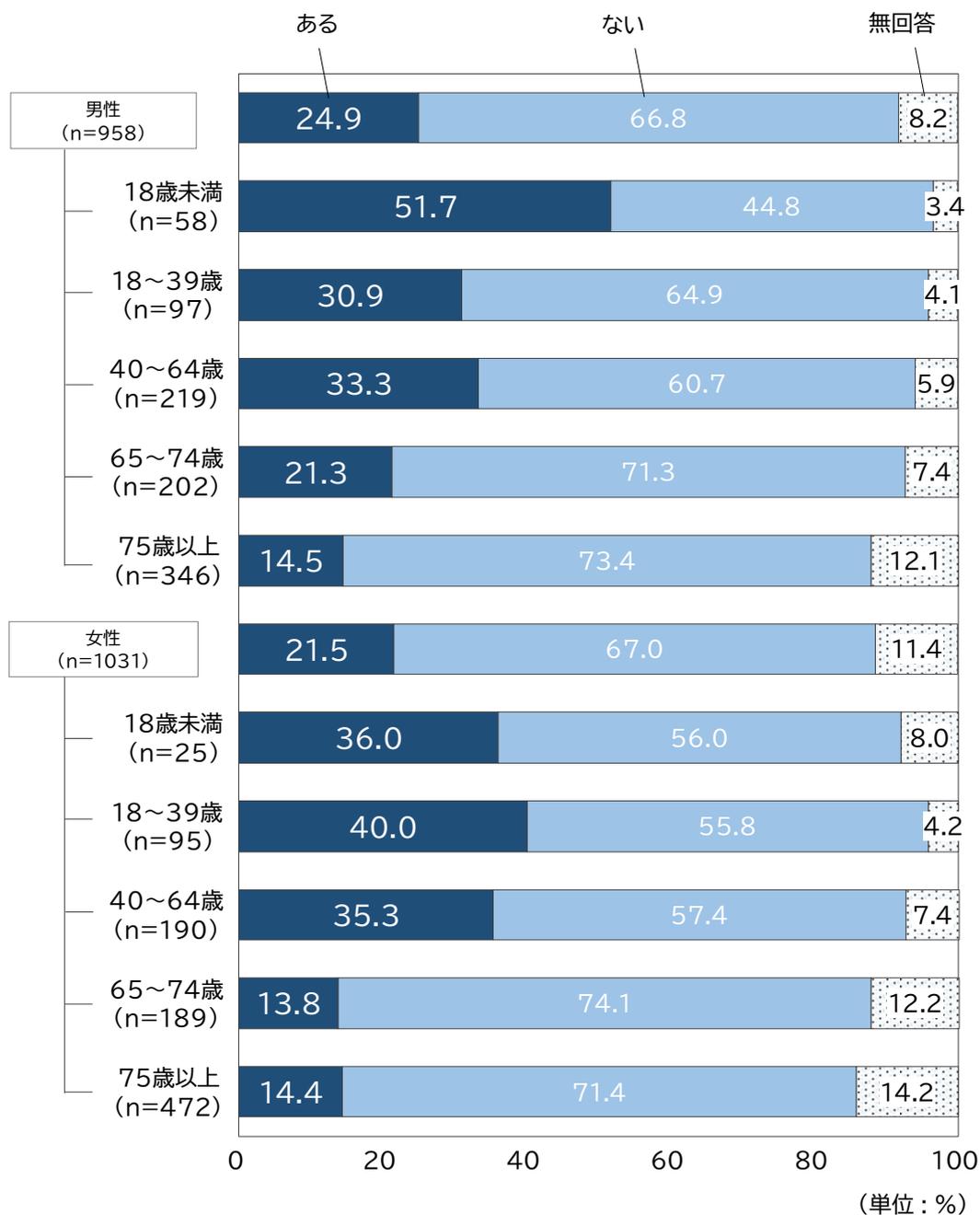
図表 9-2 障害があることで嫌な思いをしたことはあるか(保有手帳の種別・身体障害の種別) クロス集計

療育手帳を持っている方では3割超、精神障害者保健福祉手帳の方では4割超が嫌な思いを経験したと回答しています。身体障害種別では、視覚障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害のある方で、嫌な思いを経験した割合が高くなっています。



図表 9-3 障害があることで嫌な思いをしたことはあるか(性別・年齢別) クロス集計

18歳未満の男性で嫌な思いを経験した割合が51.7%となっています。
女性では18～39歳で40.0%と最も高くなっています。



Q 32-1. 障害があることで嫌な思いをした場所はどこか(複数回答)

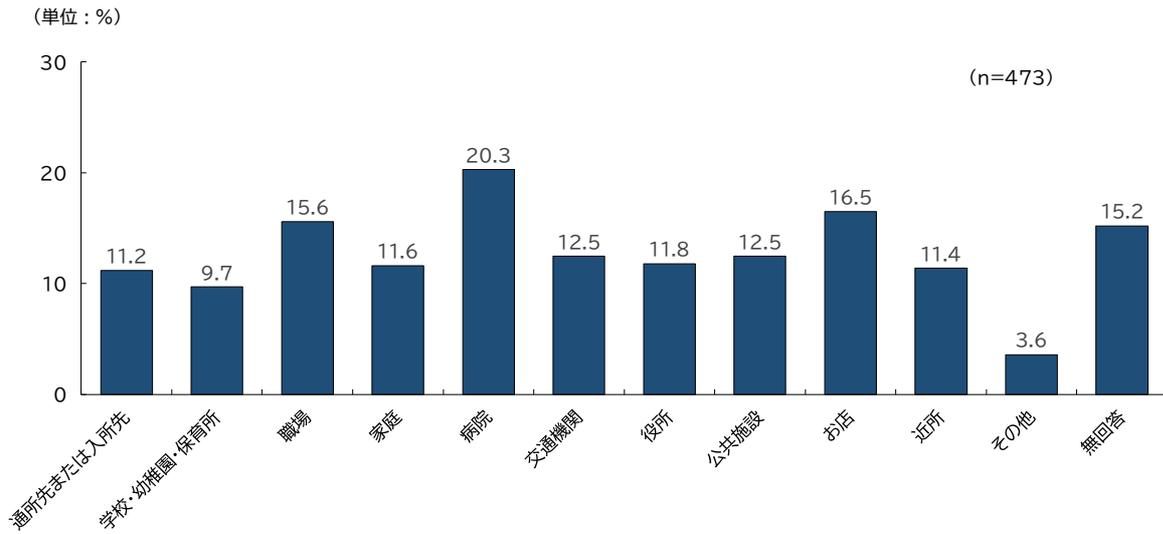
質問文 一つ前のQ31で「1. ある」と回答された方におたずねします。

(1) 嫌な思いをしたり、配慮してもらえなかったのは、どのような場所でしたか。

(あてはまるもの全てに○)

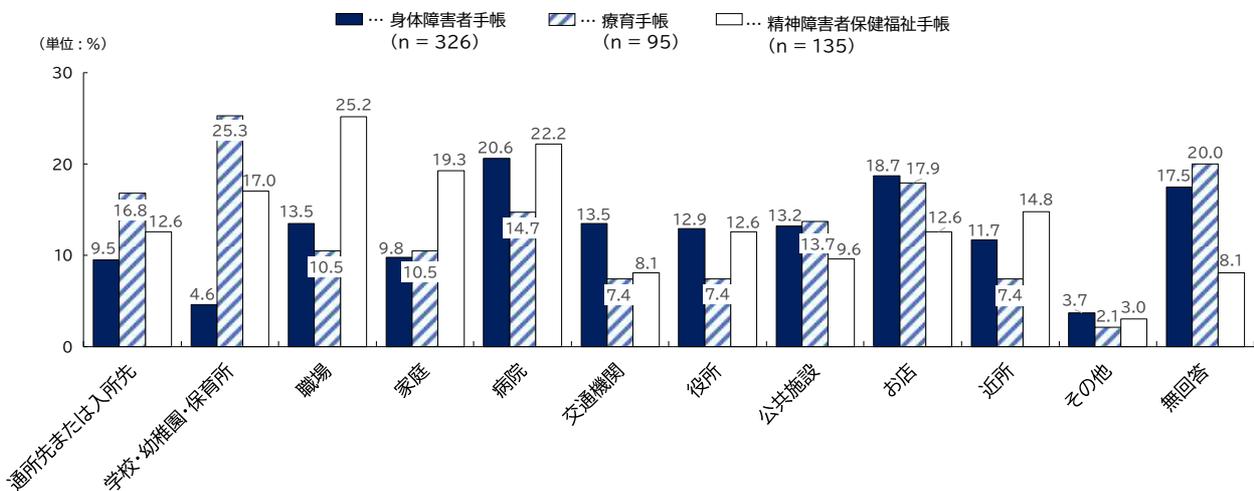
図表 9-4 障害があることで嫌な思いをした場所はどこか 単純集計

「病院」が最も多く 20.3%、次いで「お店」が 16.5%、「職場」が 15.6%の順となっています。



図表 9-5 障害があることで嫌な思いをした場所はどこか(保有手帳の種別) クロス集計

嫌な思いを経験する場所は、身体障害者手帳を持っている方は「病院」や「お店」などで、療育手帳の方は「学校・幼稚園・保育所」や「お店」などで、精神障害者保健福祉手帳の方は「職場」などで多くなっています。



図表 9-6 障害があることで嫌な思いをした場所はどこか(身体障害の種別) クロス集計

身体障害種別では、視覚障害のある方は「お店」、聴覚・平衡機能障害のある方は「病院」、音声・言語・そしゃく機能障害のある方は「役所」が多くなっています。

身体障害の種別

	① 視覚障害 (n=29)	② 聴覚 平衡機能障害 (n=58)	③ 音声・言語 そしゃく機能障害 (n=22)
通所先または入所先	13.8	17.2	13.6
学校・幼稚園・保育所	3.4	0.0	9.1
職場	3.4	8.6	9.1
家庭	6.9	20.7	9.1
病院	17.2	37.9	18.2
交通機関	13.8	17.2	4.5
役所	13.8	19.0	27.3
公共施設	13.8	17.2	22.7
お店	27.6	25.9	22.7
近所	3.4	12.1	9.1
その他	3.4	3.4	13.6
無回答	17.2	12.1	13.6

	④ 肢体不自由 (n=147)	⑤ 内部機能障害 (n=74)	⑥ 不明 (n=44)
通所先または入所先	11.6	6.8	4.5
学校・幼稚園・保育所	2.7	1.4	15.9
職場	17.7	12.2	11.4
家庭	6.8	10.8	11.4
病院	15.0	21.6	22.7
交通機関	12.2	14.9	13.6
役所	12.9	5.4	11.4
公共施設	10.9	13.5	9.1
お店	19.7	14.9	9.1
近所	13.6	8.1	11.4
その他	4.1	2.7	2.3
無回答	15.6	24.3	13.6

図表 9-7 障害があることで嫌な思いをした場所はどこか(性別・年齢別) クロス集計

特に「公共施設」で男性の方が割合が高く、「交通機関」では女性の方が割合が高くなっています。いずれも18歳未満で高くなっています。
 「通所先または入所先」では18～39歳で、「病院」では75歳以上で、「役所」では65歳以上で男性の方が女性より嫌な思いをする割合が高くなっています。

男性
・
年齢別

	男性全体 (n=239)	① 18歳未満 (n=30)	② 18～39歳 (n=30)	③ 40～64歳 (n=73)	④ 65～74歳 (n=43)	⑤ 75歳以上 (n=50)
通所先または入所先	13.4	10.0	26.7	9.6	7.0	18.0
学校・幼稚園・保育所	10.0	53.3	16.7	2.7	0.0	0.0
職場	15.9	3.3	30.0	32.9	7.0	0.0
家庭	12.1	13.3	13.3	16.4	14.0	6.0
病院	22.2	26.7	10.0	24.7	18.6	28.0
交通機関	9.6	13.3	3.3	9.6	2.3	10.0
役所	13.4	6.7	6.7	9.6	23.3	18.0
公共施設	16.3	30.0	10.0	12.3	14.0	16.0
お店	17.6	30.0	16.7	15.1	25.6	12.0
近所	12.1	20.0	6.7	8.2	16.3	16.0
その他	3.8	3.3	6.7	1.4	4.7	4.0
無回答	13.0	10.0	3.3	4.1	16.3	28.0

女性
・
年齢別

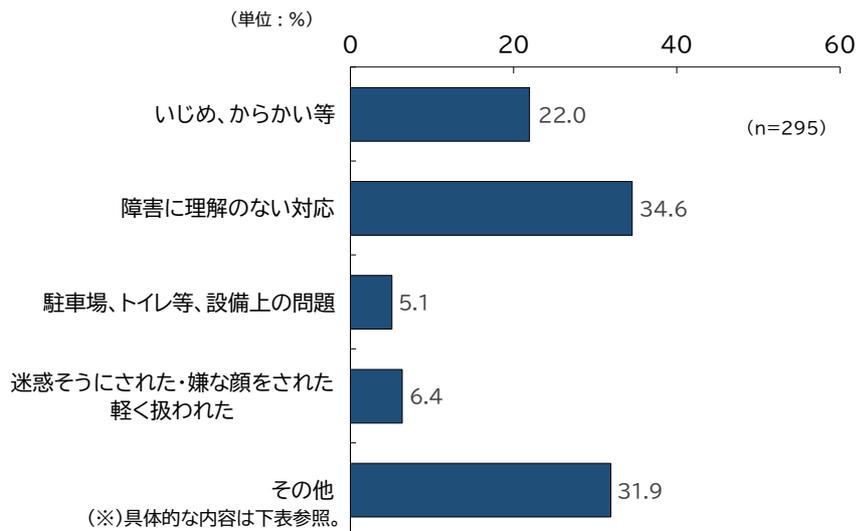
	女性全体 (n=222)	① 18歳未満 (n=9)	② 18～39歳 (n=38)	③ 40～64歳 (n=67)	④ 65～74歳 (n=26)	⑤ 75歳以上 (n=68)
通所先または入所先	9.5	11.1	10.5	9.0	3.8	11.8
学校・幼稚園・保育所	9.9	55.6	26.3	4.5	0.0	0.0
職場	15.3	0.0	31.6	28.4	11.5	0.0
家庭	11.3	0.0	10.5	19.4	3.8	10.3
病院	18.5	22.2	18.4	19.4	19.2	17.6
交通機関	15.8	22.2	18.4	14.9	15.4	13.2
役所	9.9	0.0	18.4	10.4	15.4	5.9
公共施設	8.6	33.3	7.9	6.0	15.4	4.4
お店	16.2	22.2	15.8	16.4	19.2	13.2
近所	11.3	0.0	13.2	13.4	11.5	10.3
その他	3.6	0.0	2.6	1.5	11.5	1.5
無回答	16.7	0.0	7.9	7.5	23.1	30.9

Q 32-2. 「嫌な思い」とはどのような内容か

質問文 一つ前のQ31で「1. ある」と回答された方におたずねします。
 (2) それは、どのような内容でしたか。

図表 9-8 「嫌な思い」とはどのような内容か 単純集計

「障害に理解のない対応」について、嫌な思いをした方が最も多く 34.6%、次いで「いじめ、からかい等」が 22.0%となっています。

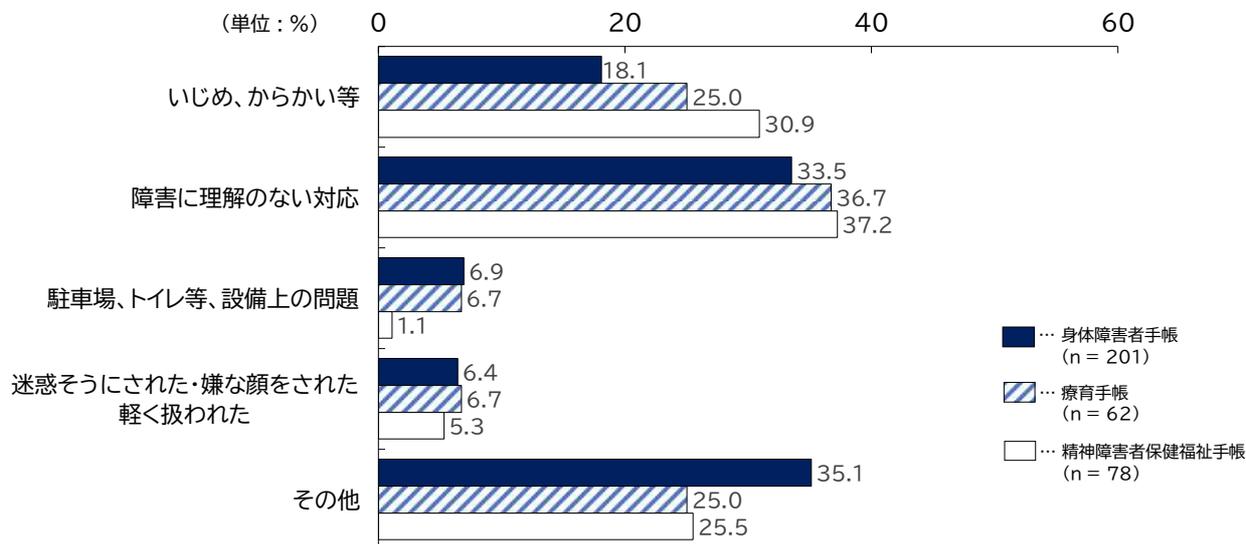


● 「その他」の主な記載内容

「その他」の記載内容	障害種別
・入院した時、目が悪いことが伝わってなかった。	視覚
・視覚障害のため、みんなとなかなか話できない。	//
・嫌な思い。他人からではなく、自分自身で視覚障害の歯痒さ。	//
・文字が小さく見えにくい。	//
・相手の会話が聞き取れないため、つい高圧的な態度をとってしまい、意思疎通がうまく取れない。	聴覚・平衡機能
・聴覚の障害なので、聞き返すことが多く、うるさがられる。	//
・相手の声の高低により聞き取れない時がある(音感性難聴)。また、マスクしている人が多いので、聞き取れない時が多い。	//
・意思の伝達がうまくできない。	音声・言語
・言葉が通じないことが時々ある。	//
・仕事で重い物をなるべく持たないようにしているが、いつも他の人を頼ることが悪いように思い、無理をして、その後、痛みや疲れが激しかったことが何度もある。	肢体不自由
・トイレがどうしても時間がかかってしまうので、数のあるトイレの場所でないと、何度もドアをノックされ、あせってしまう。	内部機能

図表 9-9 「嫌な思い」とはどのような内容か(保有手帳の種別) クロス集計

「いじめ、からかい等」で嫌な思いをした方は、精神障害者保健福祉手帳を持っている方で比較的多くなっています。



図表 9-10 「嫌な思い」とはどのような内容か(身体障害の種別) クロス集計

「いじめ、からかい等」で嫌な思いをした方は、音声・言語・そしゃく機能障害のある方が他の障害の方と比べて多くなっています。「障害に理解のない対応」は、肢体不自由、内部機能障害のある方で多くなっています。

嫌な思いの内容	身体障害の種別		
	① 視覚障害 (n=18)	② 聴覚 平衡機能障害 (n=33)	③ 音声・言語 そしゃく機能障害 (n=12)
いじめ、からかい等	0.0	18.2	33.3
障害に理解のない対応	27.8	21.2	8.3
駐車場、トイレ等、設備上の問題	5.6	3.0	0.0
迷惑そうにされた・嫌な顔をされた・軽く扱われた	11.1	6.1	8.3
その他	55.6	51.5	50.0

嫌な思いの内容	身体障害の種別		
	④ 肢体不自由 (n=90)	⑤ 内部機能障害 (n=37)	⑥ 不明 (n=24)
いじめ、からかい等	18.9	16.2	25.0
障害に理解のない対応	35.6	35.1	29.2
駐車場、トイレ等、設備上の問題	11.1	10.8	0.0
迷惑そうにされた・嫌な顔をされた・軽く扱われた	5.6	5.4	0.0
その他	28.9	32.4	45.8

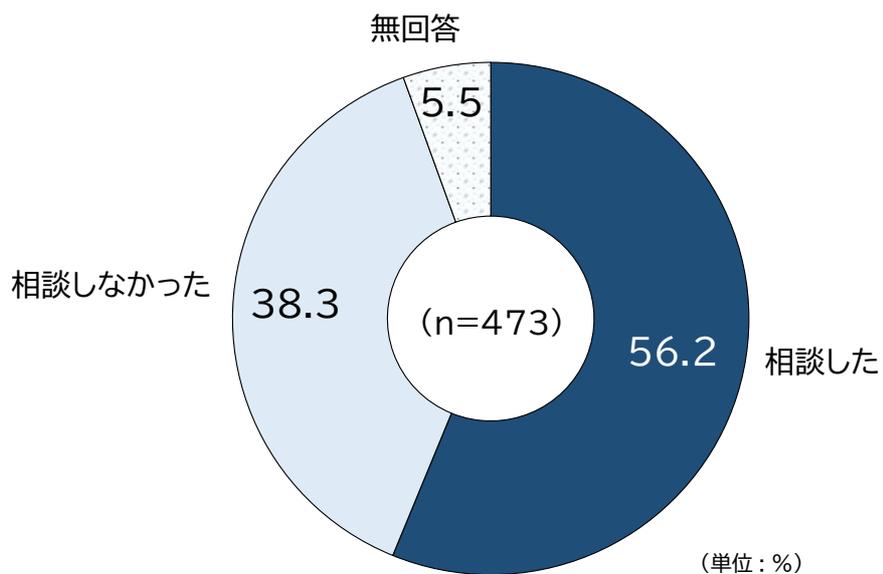
Q 32-3. 「嫌な思い」について誰かに相談したか(単一回答)

質問文 一つ前のQ31で「1. ある」と回答された方におたずねします。

(3) 嫌な思いをしたり、配慮してもらえなかったとき、誰かに相談しましたか。(1つに○)

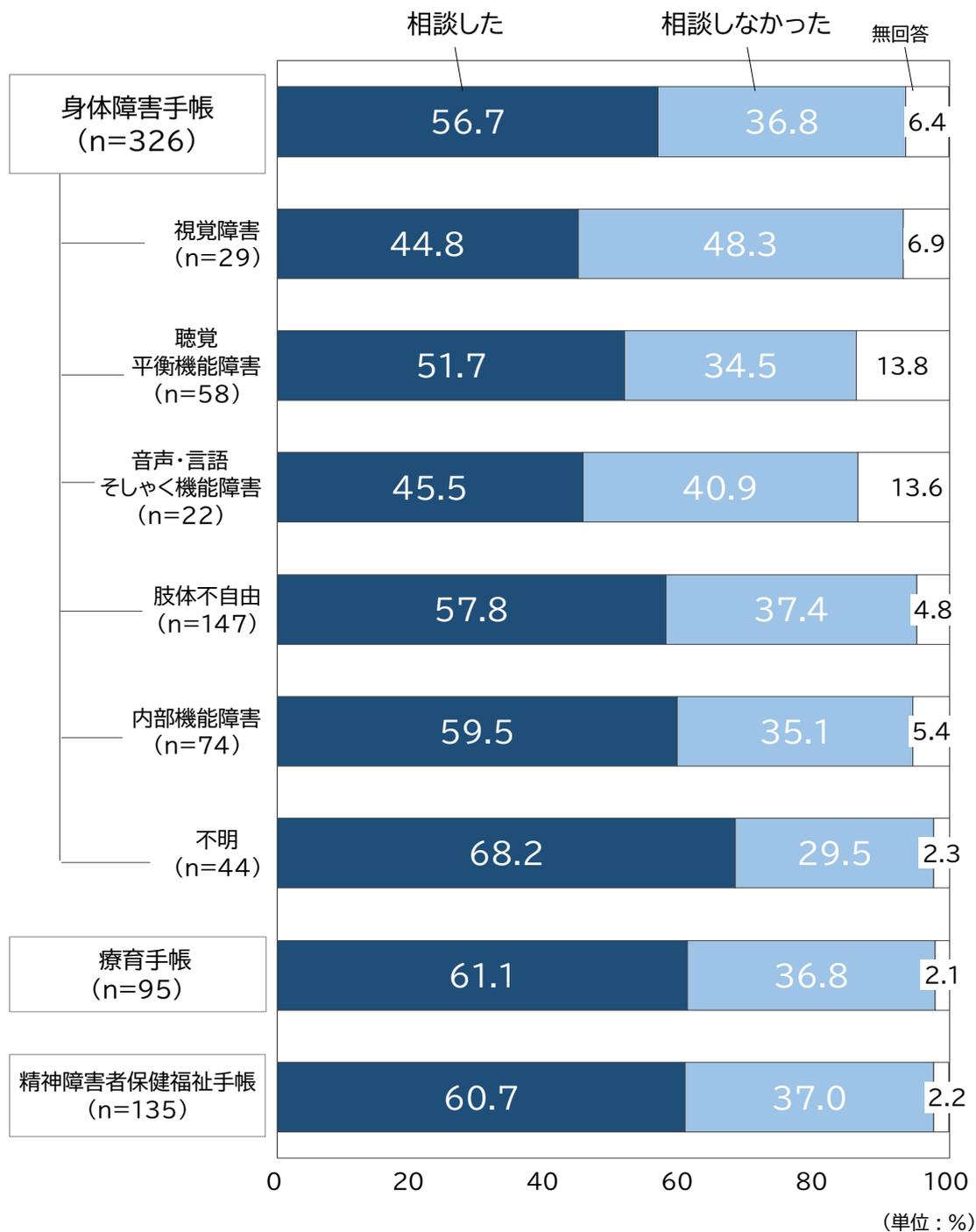
図表 9-11 「嫌な思い」について誰かに相談したか 単純集計

相談した方は 56.2%、相談しなかった方は 38.3%となっています。



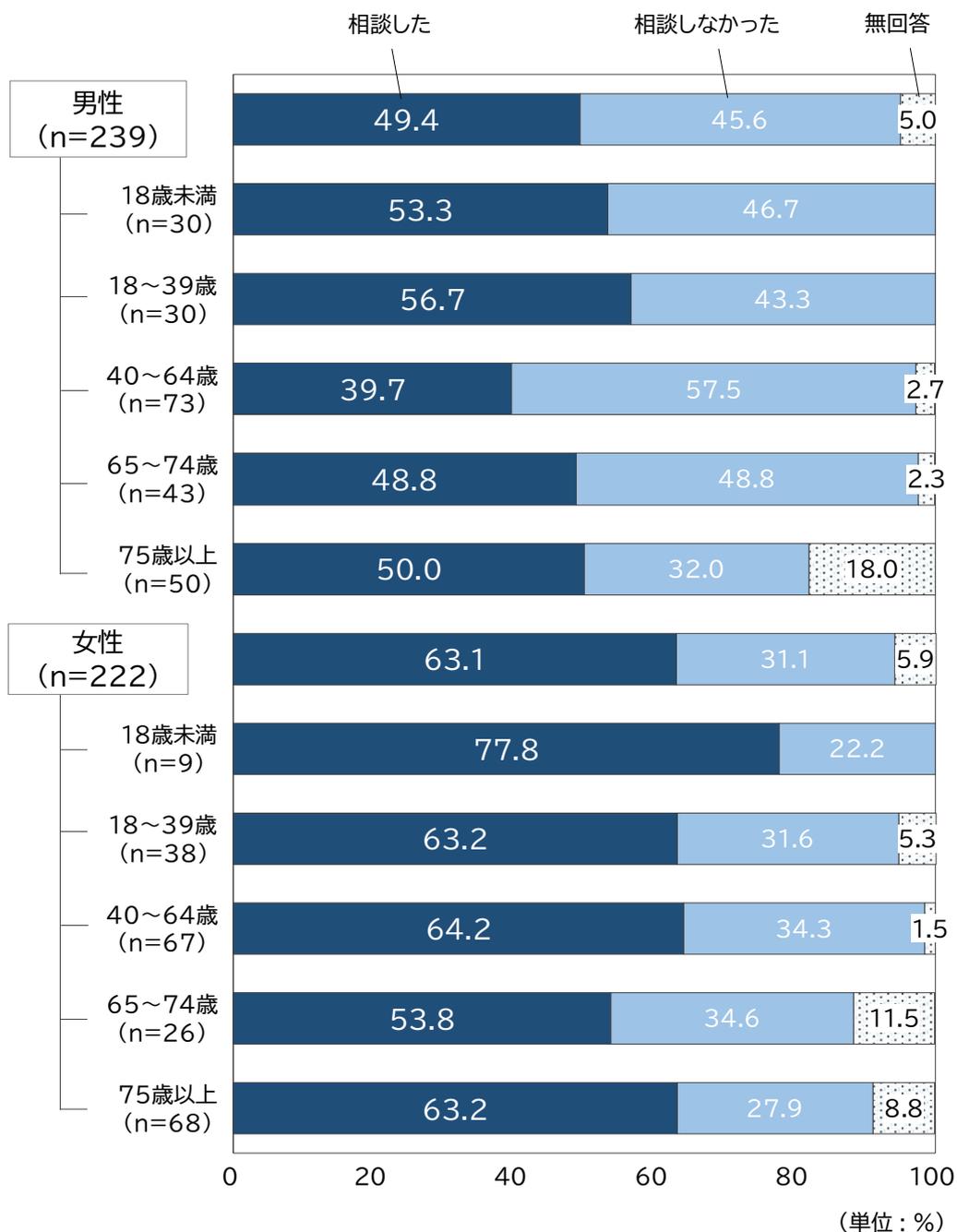
図表 9-12 「嫌な思い」について誰かに相談したか(保有手帳の種別・身体障害の種別) クロス集計

視覚障害のある方、次いで音声・言語・そしゃく機能障害のある方は相談した割合が低くなっています。



図表 9-13 「嫌な思い」について誰かに相談したか(性別・年齢別) クロス集計

女性の方が相談する割合が高く、どの年齢層でも高くなっています。
特に18歳未満の女性は 77.8%が誰かに相談をしています。

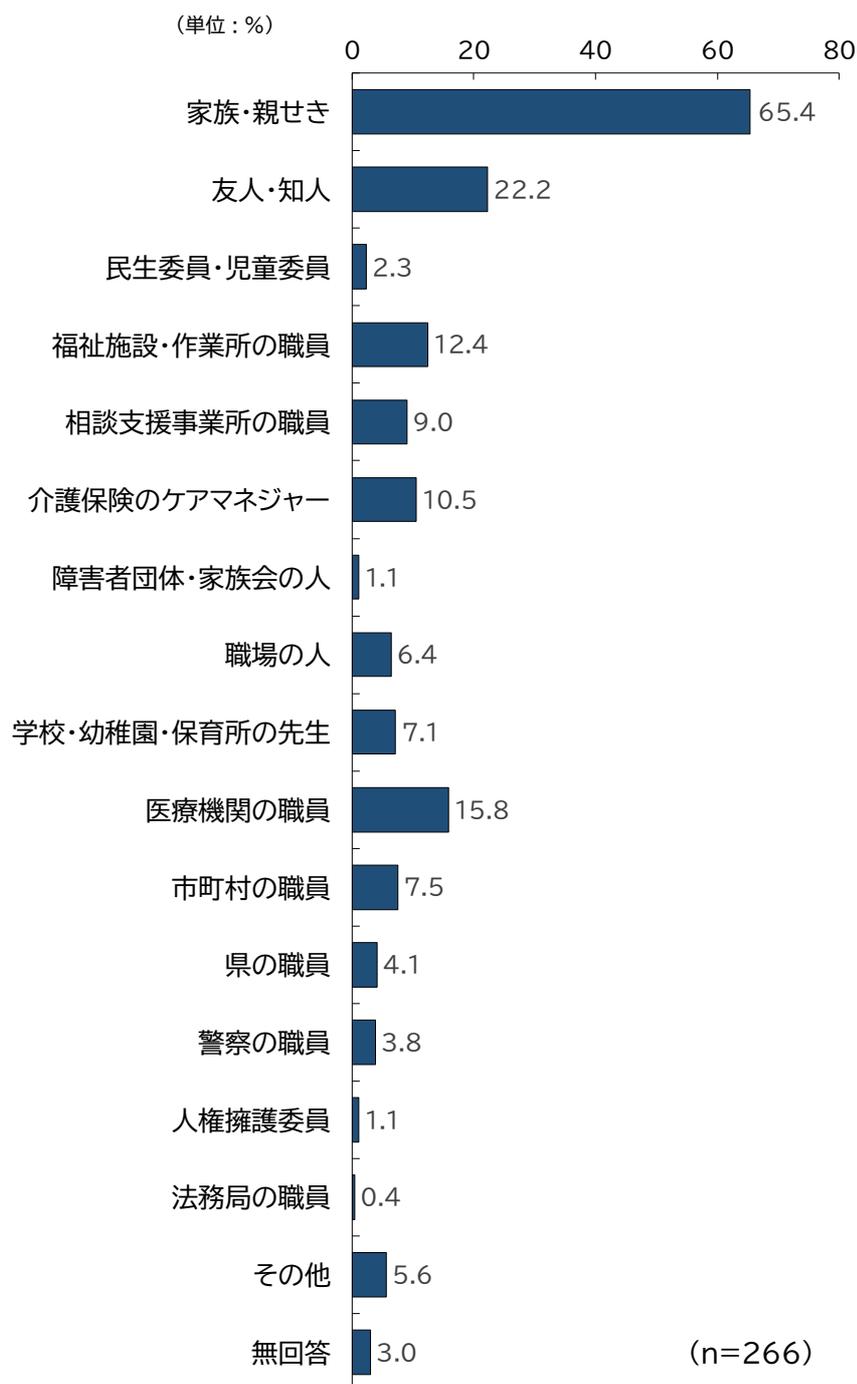


Q 32-4. 「嫌な思い」について誰に相談したか(複数回答)

質問文 一つ前のQ32-3で「1. 相談した」とお答えされた方におたずねします。
誰に相談しましたか。(あてはまるもの全てに○)

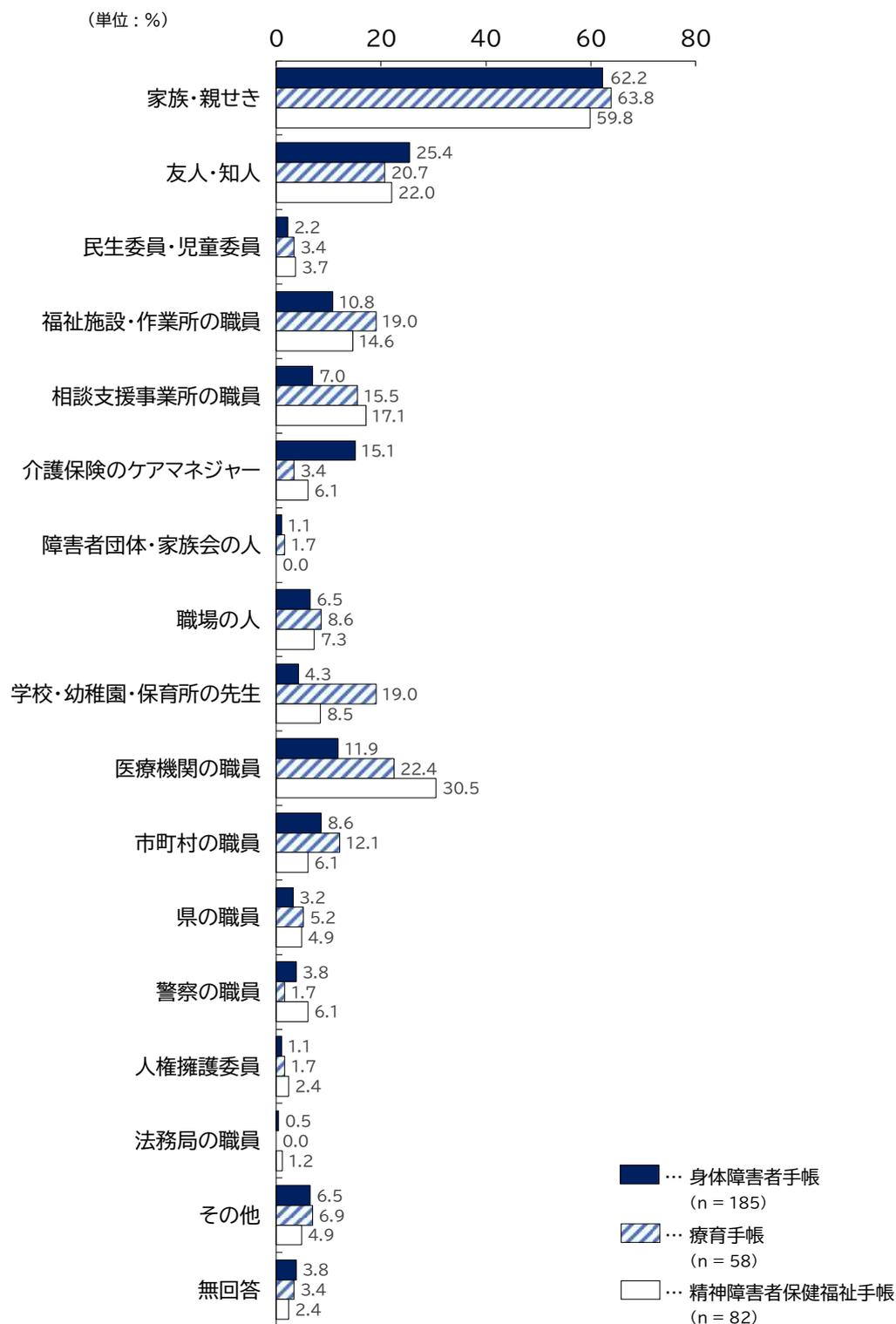
図表 9-14 「嫌な思い」について誰に相談したか 単純集計

相談先は「家族・親せき」が65.4%と最も多く、次いで「友人・知人」が22.2%、「医療機関の職員」が15.8%、「福祉施設・作業所の職員」が12.4%の順となっています。



図表 9-15 「嫌な思い」について誰に相談したか(保有手帳の種別) クロス集計

いずれの手帳を持っている方も、「家族・親せき」が最も多くなっています。
2番目に多い相談相手として、身体障害者手帳を持っている方は「友人・知人」、
療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方は「医療機関の職員」となっています。



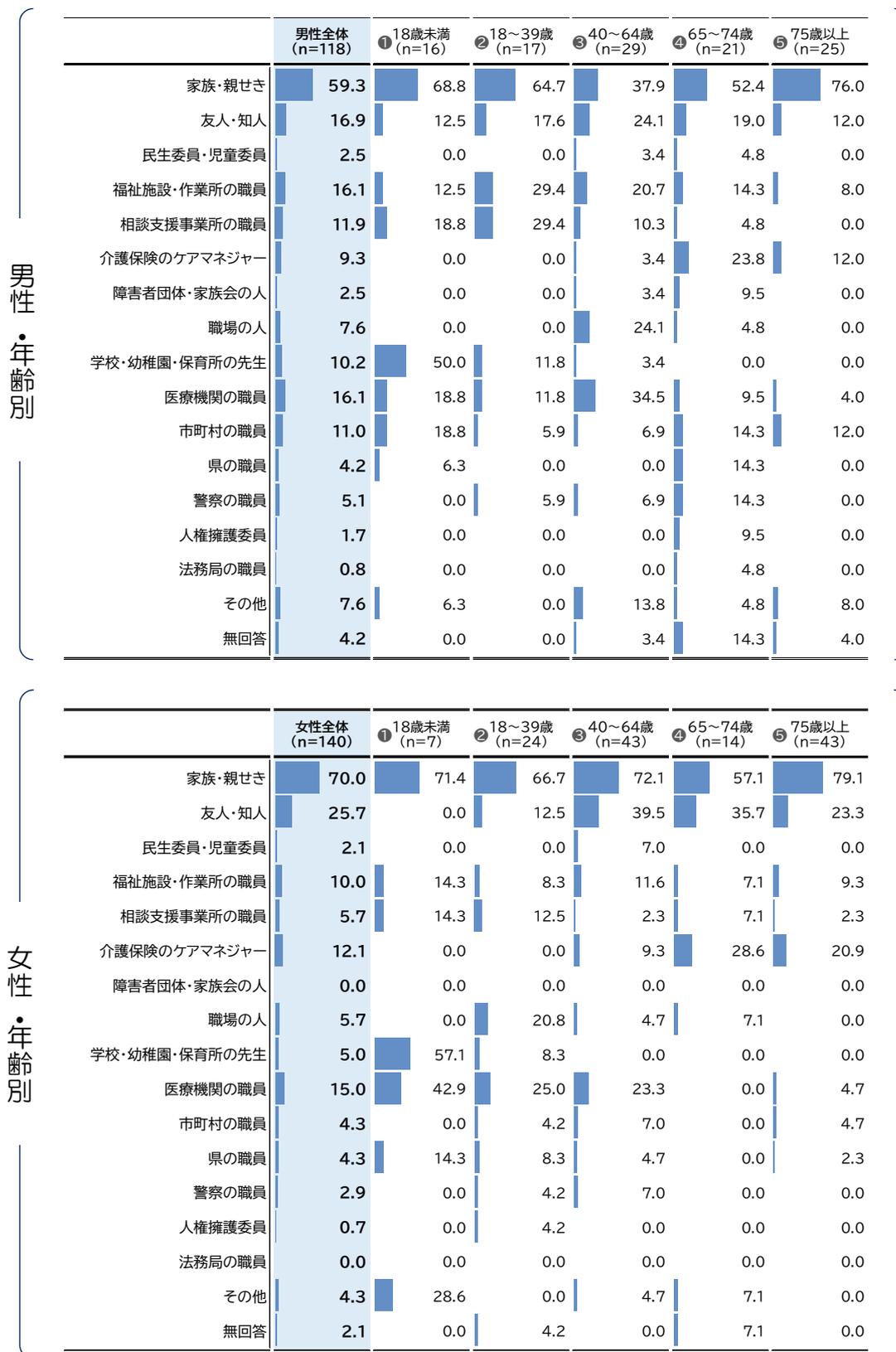
図表 9-16 「嫌な思い」について誰に相談したか(身体障害の種別) クロス集計

「福祉施設・作業所の職員」に相談する割合は視覚障害のある方が最も高く、「友人・知人」に相談する割合は聴覚・平衡機能障害のある方が最も高くなっています。

身体 の 障 害 種 別	① 視覚障害 (n=13)			② 聴覚 平衡機能障害 (n=30)			③ 音声・言語 そしゃく機能障害 (n=10)		
	相談先	割合 (%)	相談先	割合 (%)	相談先	割合 (%)			
家族・親せき	家族・親せき	69.2	家族・親せき	66.7	家族・親せき	60.0			
友人・知人	友人・知人	23.1	友人・知人	40.0	友人・知人	0.0			
民生委員・児童委員	民生委員・児童委員	7.7	民生委員・児童委員	6.7	民生委員・児童委員	0.0			
福祉施設・作業所の職員	福祉施設・作業所の職員	30.8	福祉施設・作業所の職員	10.0	福祉施設・作業所の職員	10.0			
相談支援事業所の職員	相談支援事業所の職員	15.4	相談支援事業所の職員	3.3	相談支援事業所の職員	30.0			
介護保険のケアマネジャー	介護保険のケアマネジャー	7.7	介護保険のケアマネジャー	6.7	介護保険のケアマネジャー	10.0			
障害者団体・家族会の人	障害者団体・家族会の人	0.0	障害者団体・家族会の人	0.0	障害者団体・家族会の人	0.0			
職場の人	職場の人	7.7	職場の人	10.0	職場の人	0.0			
学校・幼稚園・保育所の先生	学校・幼稚園・保育所の先生	15.4	学校・幼稚園・保育所の先生	0.0	学校・幼稚園・保育所の先生	30.0			
医療機関の職員	医療機関の職員	7.7	医療機関の職員	10.0	医療機関の職員	20.0			
市町村の職員	市町村の職員	7.7	市町村の職員	10.0	市町村の職員	20.0			
県の職員	県の職員	0.0	県の職員	6.7	県の職員	10.0			
警察の職員	警察の職員	7.7	警察の職員	3.3	警察の職員	0.0			
人権擁護委員	人権擁護委員	0.0	人権擁護委員	0.0	人権擁護委員	0.0			
法務局の職員	法務局の職員	0.0	法務局の職員	0.0	法務局の職員	0.0			
その他	その他	0.0	その他	6.7	その他	0.0			
無回答	無回答	7.7	無回答	3.3	無回答	10.0			
	④ 肢体不自由 (n=85)			⑤ 内部機能障害 (n=44)			⑥ 不明 (n=30)		
家族・親せき	家族・親せき	67.1	家族・親せき	59.1	家族・親せき	43.3			
友人・知人	友人・知人	25.9	友人・知人	27.3	友人・知人	23.3			
民生委員・児童委員	民生委員・児童委員	1.2	民生委員・児童委員	4.5	民生委員・児童委員	0.0			
福祉施設・作業所の職員	福祉施設・作業所の職員	8.2	福祉施設・作業所の職員	11.4	福祉施設・作業所の職員	13.3			
相談支援事業所の職員	相談支援事業所の職員	3.5	相談支援事業所の職員	2.3	相談支援事業所の職員	10.0			
介護保険のケアマネジャー	介護保険のケアマネジャー	22.4	介護保険のケアマネジャー	13.6	介護保険のケアマネジャー	6.7			
障害者団体・家族会の人	障害者団体・家族会の人	2.4	障害者団体・家族会の人	0.0	障害者団体・家族会の人	0.0			
職場の人	職場の人	5.9	職場の人	9.1	職場の人	3.3			
学校・幼稚園・保育所の先生	学校・幼稚園・保育所の先生	3.5	学校・幼稚園・保育所の先生	0.0	学校・幼稚園・保育所の先生	6.7			
医療機関の職員	医療機関の職員	10.6	医療機関の職員	13.6	医療機関の職員	13.3			
市町村の職員	市町村の職員	7.1	市町村の職員	13.6	市町村の職員	6.7			
県の職員	県の職員	2.4	県の職員	6.8	県の職員	0.0			
警察の職員	警察の職員	2.4	警察の職員	9.1	警察の職員	3.3			
人権擁護委員	人権擁護委員	0.0	人権擁護委員	4.5	人権擁護委員	0.0			
法務局の職員	法務局の職員	0.0	法務局の職員	2.3	法務局の職員	0.0			
その他	その他	8.2	その他	4.5	その他	10.0			
無回答	無回答	1.2	無回答	11.4	無回答	0.0			

図表 9-17 「嫌な思い」について誰に相談したか(性別・年齢別) クロス集計

「家族・親せき」「友人・知人」に相談する割合は、女性の方が高くなっています。

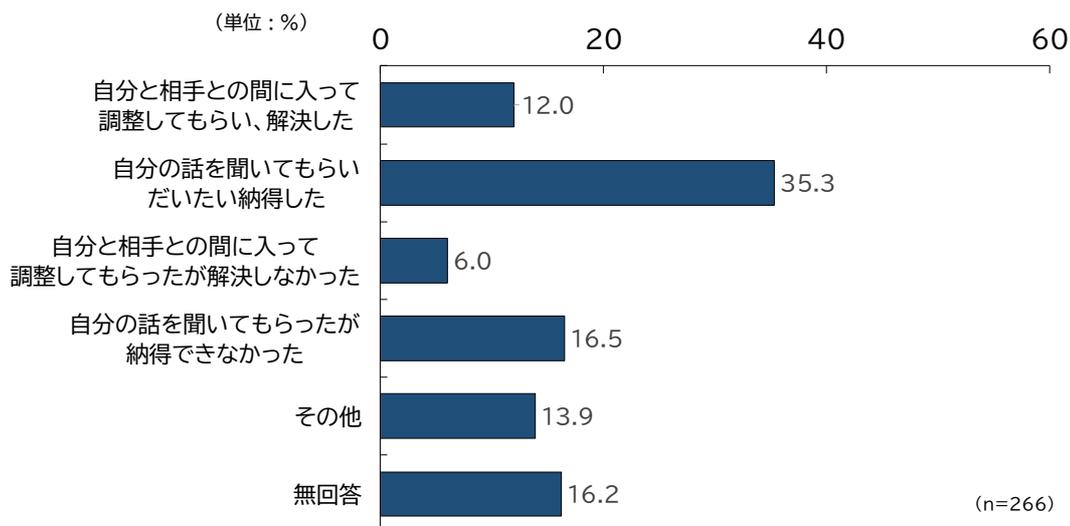


Q 32-5. 「嫌な思い」について相談した結果は(単一回答)

質問文 二つ前のQ32-3で「1. 相談した」とお答えされた方におたずねします。
相談した結果、どうなりましたか。(1つに○)

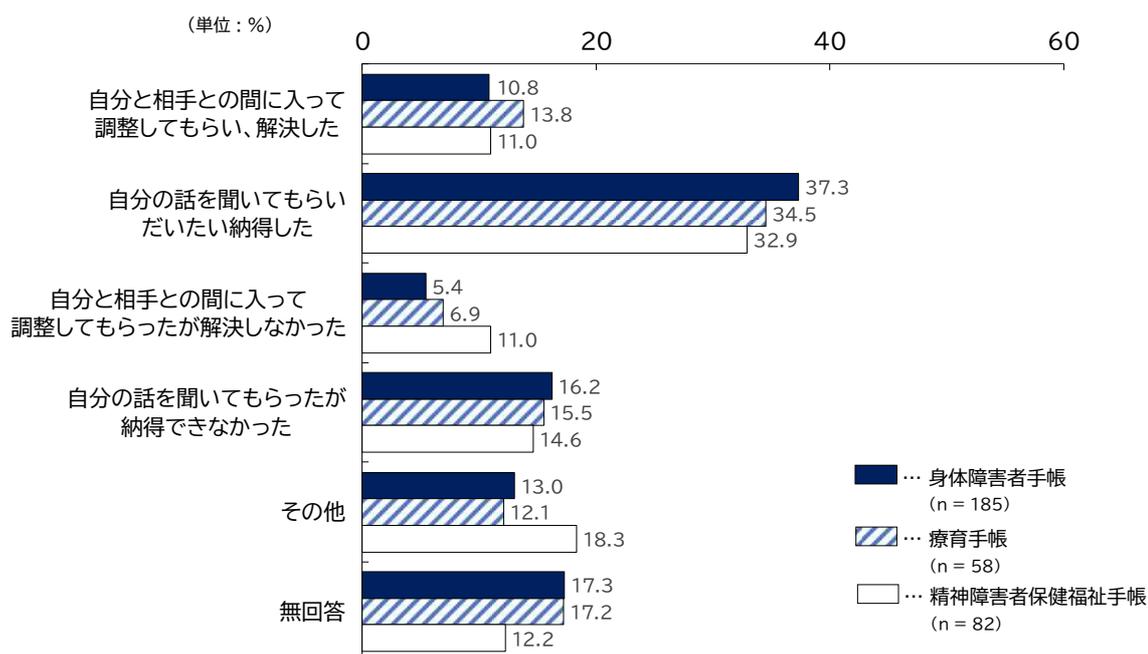
図表 9-18 「嫌な思い」について相談した結果は **単純集計**

「解決した」「だいたい納得した」を合わせると47.3%となっています。
「解決しなかった」「納得できなかった」を合わせると22.5%となっています。



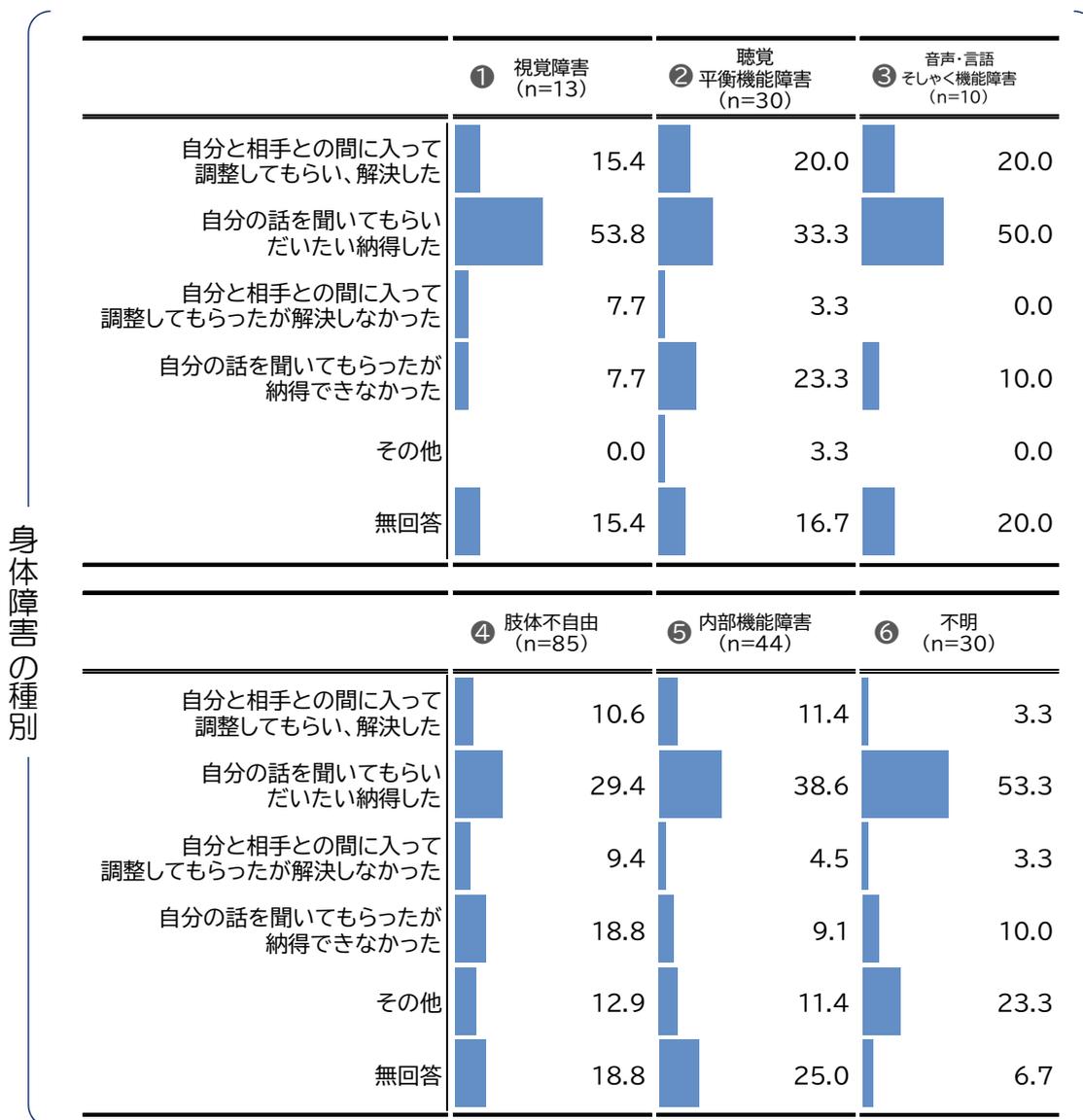
図表 9-19 「嫌な思い」について相談した結果は(保有手帳の種別) **クロス集計**

「自分と相手との間に入って調整してもらったが解決しなかった」と回答した割合は、精神障害者保健福祉手帳を持っている方が最も高くなっています。



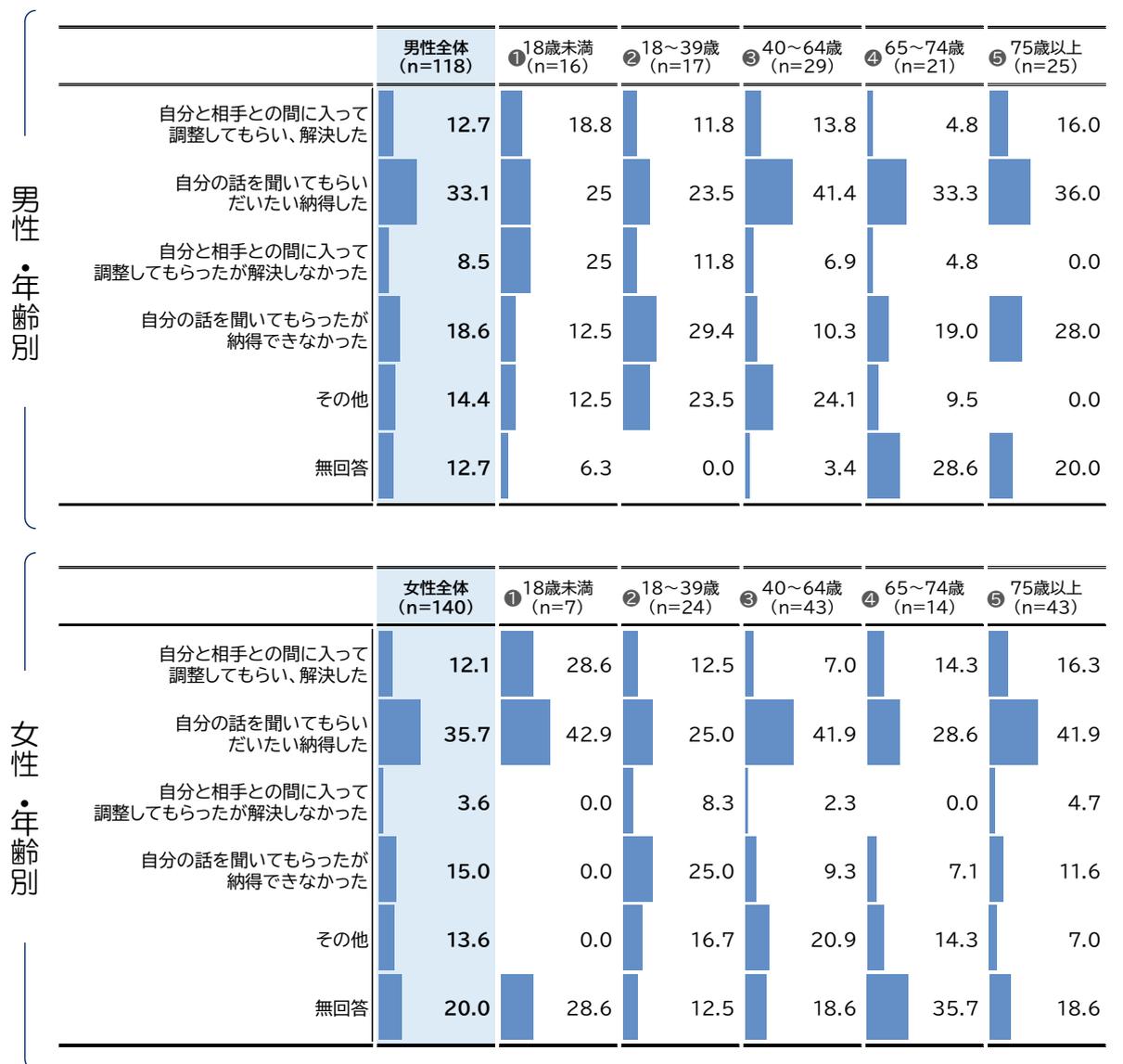
図表 9-20 「嫌な思い」について相談した結果は(身体障害の種別) クロス集計

「解決した」「だいたい納得した」を合わせた割合は、視覚障害、音声・言語・そしゃく機能障害のある方が高く、「解決しなかった」「納得できなかった」を合わせた割合は肢体不自由、聴覚・平衡機能障害のある方が高くなっています。



図表 9-21 「嫌な思い」について相談した結果は(性別・年齢別) クロス集計

「解決しなかった」「納得できなかった」と回答した割合は、ほとんどの年齢層で男性の方が高くなっています。

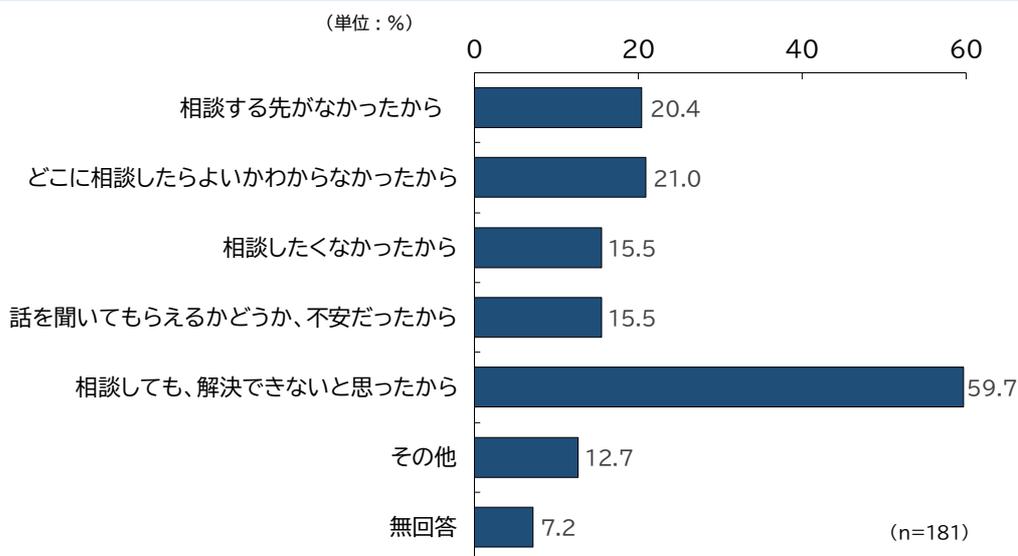


Q 32-6. 「嫌な思い」について相談しなかった理由(複数回答)

質問文 三つ前のQ32-3で「2. 相談しなかった」とお答えされた方におたずねします。
相談しなかったのはなぜですか。(あてはまるもの全てに○)

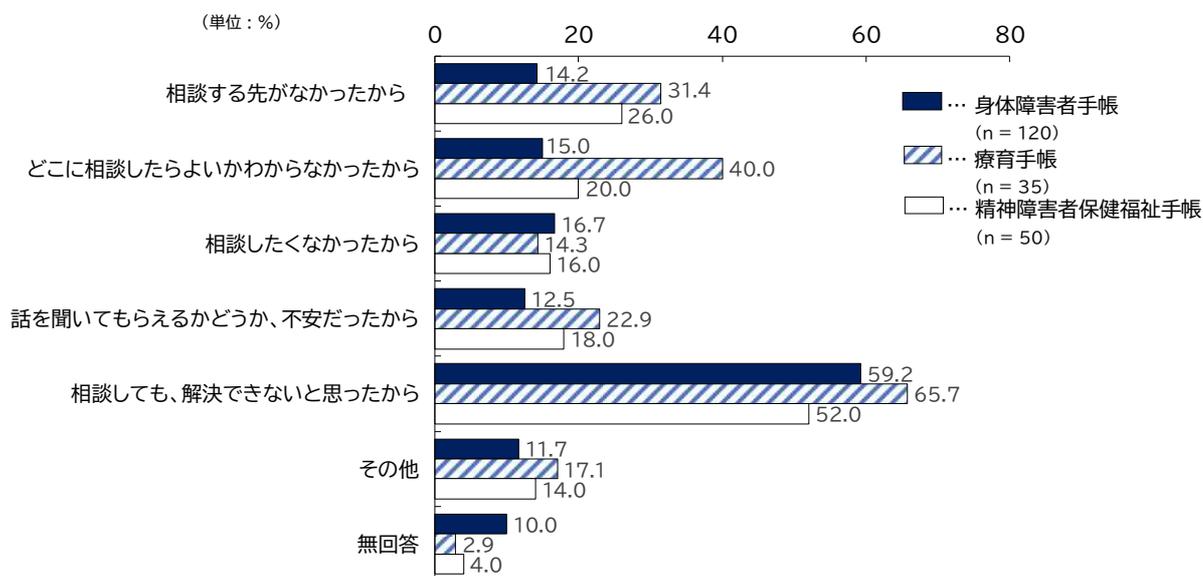
図表 9-22 「嫌な思い」について相談しなかった理由 単純集計

「相談しても、解決できないと思ったから」が59.7%と最も多く、次いで「どこに相談したらよいかわからなかったから」が21.0%となっています。



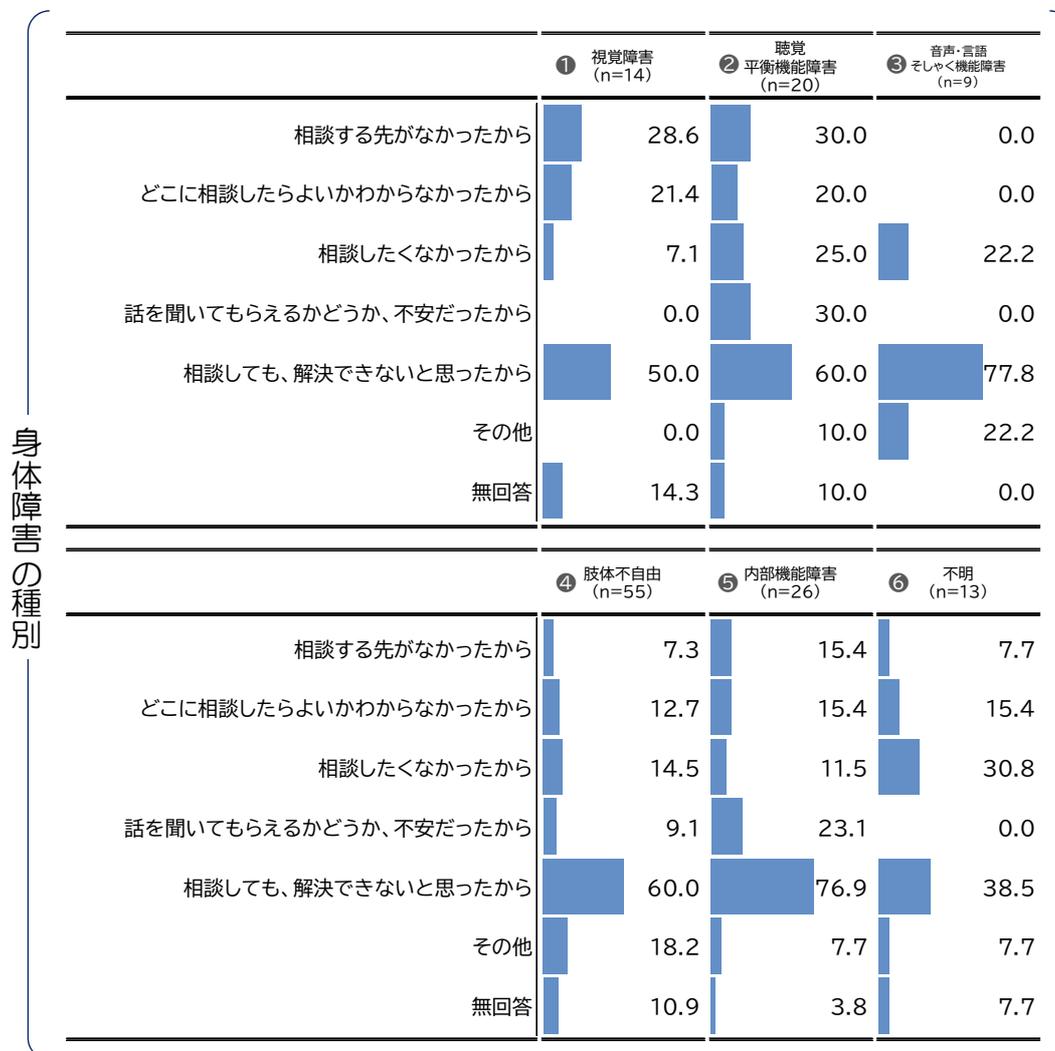
図表 9-23 「嫌な思い」について相談しなかった理由(保有手帳の種別) クロス集計

「相談しても、解決できないと思ったから」以外では、療育手帳を持っている方は「どこに相談したらよいかわからなかった」が多く、精神障害者保健福祉手帳の方は「相談する先がなかったから」多くなっています。



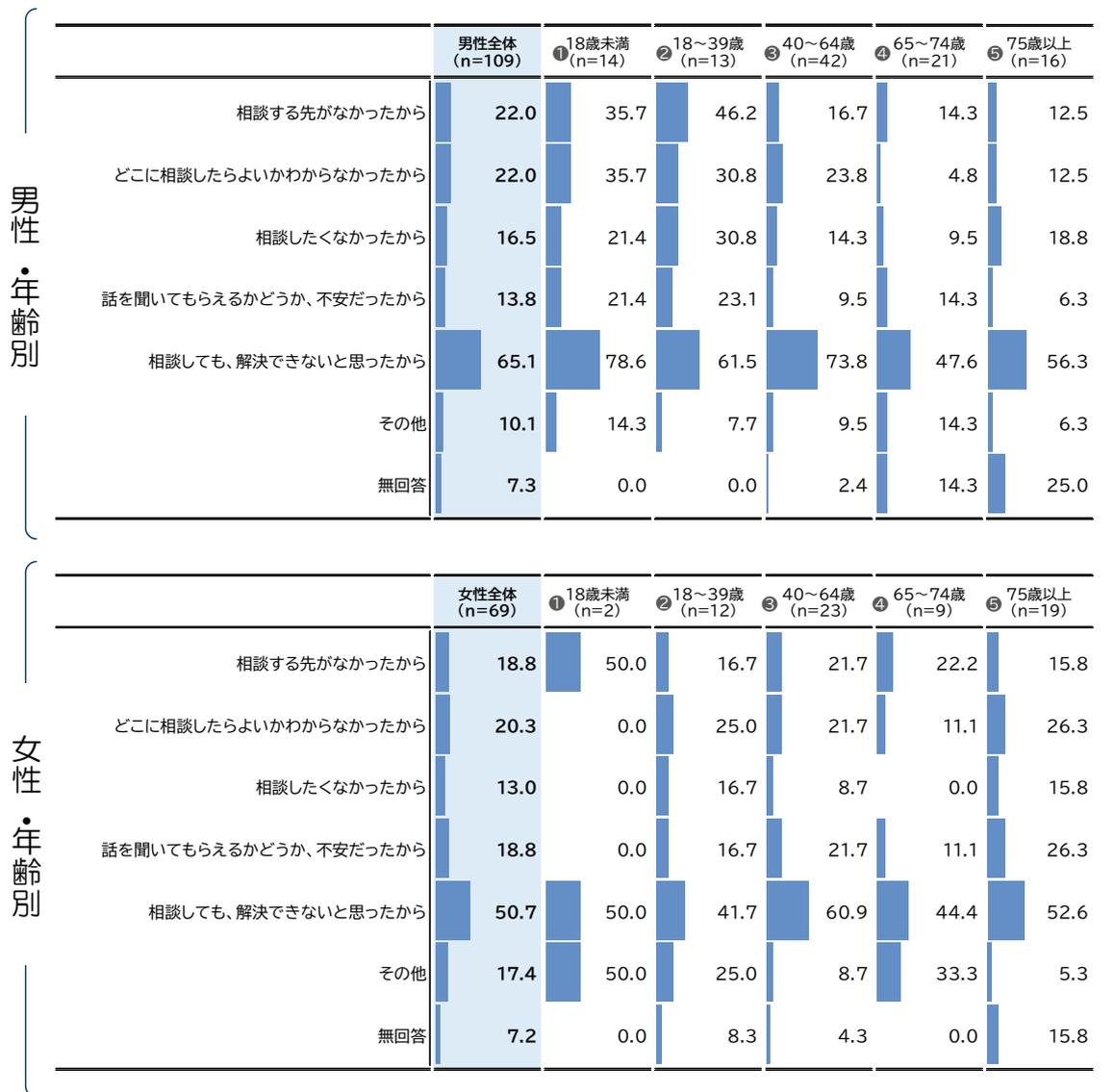
図表 9-24 「嫌な思い」について相談しなかった理由(身体障害の種別) クロス集計

「相談しても、解決できないと思ったから」は、どの障害種別(不明除く)でも5割以上あり、特に音声・言語・そしゃく機能障害の方は 77.8%と多くなっています。



図表 9-25 「嫌な思い」について相談しなかった理由(性別・年齢別) クロス集計

「相談しても、解決できないと思ったから」の割合はどの年齢層でも男性の方が高くなっています。

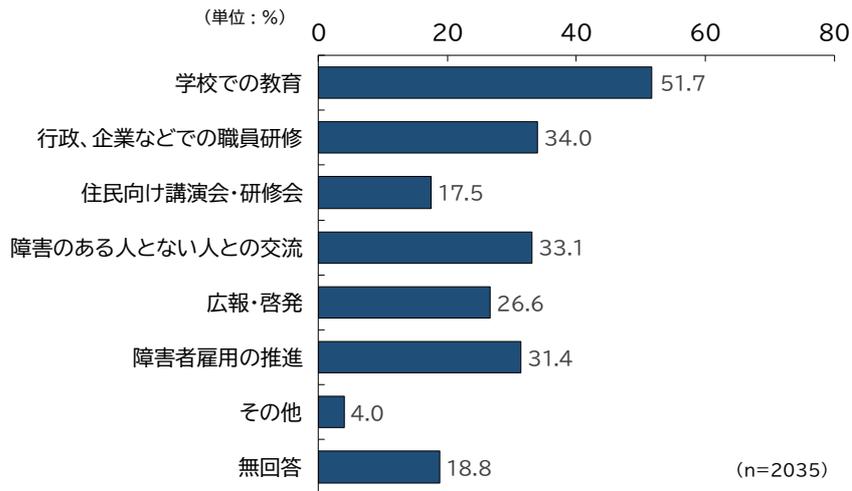


Q 33. 障害を理由とする差別をなくすために必要なこと(複数回答)

質問文 全ての方におたずねします。障害を理由とする差別をなくすためには、どのようなことが必要と思いますか。(あてはまるもの全てに○)

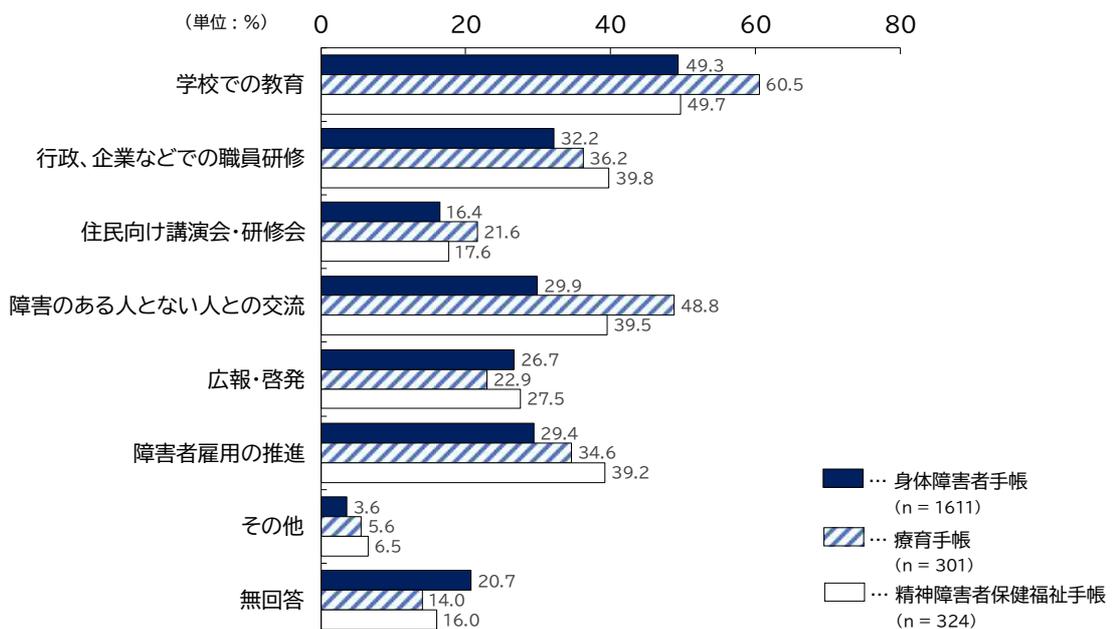
図表 9-26 障害を理由とする差別をなくすために必要なこと 単純集計

「学校での教育」が 51.7%で最も多く、次いで「行政、企業などでの職員研修」が 34.0%、「障害のある人とない人の交流」が 33.1%、「障害者雇用の推進」が 31.4%となっています。



図表 9-27 障害を理由とする差別をなくすために必要なこと(保有手帳の種別) クロス集計

療育手帳を持っている方は「学校での教育」「障害のある人とない人との交流」で他の手帳の方よりも高い割合となっています。精神障害者保健福祉手帳の方は「行政、企業などでの職員研修」「障害者雇用の推進」で他の手帳の方よりも高い割合となっています。



図表 9-28 障害を理由とする差別をなくすために必要なこと(身体障害の種別) クロス集計

音声・言語・そしゃく機能障害のある方は、「学校での教育」「行政、企業などでの職員研修」「障害のある人となない人との交流」で、他の障害の方よりも特に割合が高くなっています。

身体障害の種別	① 視覚障害 (n=103)			② 聴覚 平衡機能障害 (n=198)			③ 音声・言語 そしゃく機能障害 (n=66)		
学校での教育		43.7		49.0		62.1			
行政、企業などでの職員研修		31.1		34.8		43.9			
住民向け講演会・研修会		20.4		19.7		18.2			
障害のある人となない人との交流		35.9		32.3		48.5			
広報・啓発		31.1		30.8		33.3			
障害者雇用の推進		26.2		27.8		36.4			
その他		7.8		5.1		3.0			
無回答		28.2		24.2		12.1			
	④ 肢体不自由 (n=720)			⑤ 内部機能障害 (n=525)			⑥ 不明 (n=140)		
学校での教育		50.3		51.0		37.1			
行政、企業などでの職員研修		35.8		29.9		17.1			
住民向け講演会・研修会		16.1		18.1		9.3			
障害のある人となない人との交流		31.8		25.5		25.7			
広報・啓発		25.3		30.3		12.1			
障害者雇用の推進		29.4		31.6		23.6			
その他		4.2		2.7		2.9			
無回答		18.8		19.0		32.1			

図表 9-29 障害を理由とする差別をなくすために必要なこと(性別・年齢別) クロス集計

「学校での教育」「障害のある人とない人との交流」は、
 ほぼどの年齢層でも女性の方が割合が高くなっています。
 「障害のある人とない人との交流」については18～39歳の男性の方が高くなっています。

		男性全体 (n=958)	① 18歳未満 (n=58)	② 18～39歳 (n=97)	③ 40～64歳 (n=219)	④ 65～74歳 (n=202)	⑤ 75歳以上 (n=346)
男性 ・ 年齢別	学校での教育	50.4	81.0	55.7	52.5	52.0	42.5
	行政、企業などでの職員研修	33.6	48.3	39.2	39.3	35.1	25.1
	住民向け講演会・研修会	17.3	20.7	17.5	15.1	21.8	13.9
	障害のある人とない人との交流	31.9	50.0	54.6	32.9	25.7	26.0
	広報・啓発	27.8	31.0	17.5	25.6	34.2	28.0
	障害者雇用の推進	32.9	43.1	43.3	40.2	38.1	21.1
	その他	3.9	6.9	7.2	4.6	2.5	3.2
	無回答	17.7	5.2	8.2	10.0	14.4	28.3
		女性全体 (n=1031)	① 18歳未満 (n=25)	② 18～39歳 (n=95)	③ 40～64歳 (n=190)	④ 65～74歳 (n=189)	⑤ 75歳以上 (n=472)
女性 ・ 年齢別	学校での教育	53.2	84.0	64.2	58.9	55.6	47.9
	行政、企業などでの職員研修	34.4	28.0	43.2	44.2	37.0	30.3
	住民向け講演会・研修会	17.7	12.0	24.2	16.8	12.7	19.9
	障害のある人とない人との交流	34.5	56.0	45.3	46.8	33.9	27.3
	広報・啓発	25.2	20.0	31.6	28.4	28.6	23.7
	障害者雇用の推進	30.6	40.0	45.3	40.5	32.8	23.5
	その他	4.2	8.0	9.5	4.7	4.2	2.3
	無回答	19.7	8.0	3.2	8.9	20.1	27.1

10. 災害等緊急時の状況

本節のポイント

- ・「一人で避難できる」方が 30.2%、「支援を受けながら避難できる環境にある」方が 34.3%、「避難できない」方が 12.8%となっています。
- ・視覚障害のある方で、「避難できない」と答えた割合は 20.4%となっており、他の障害の方よりも高くなっています。
- ・災害発生時には「避難所など安全な場所への誘導や介助などの支援」が必要であると最も多くの方が回答しています。

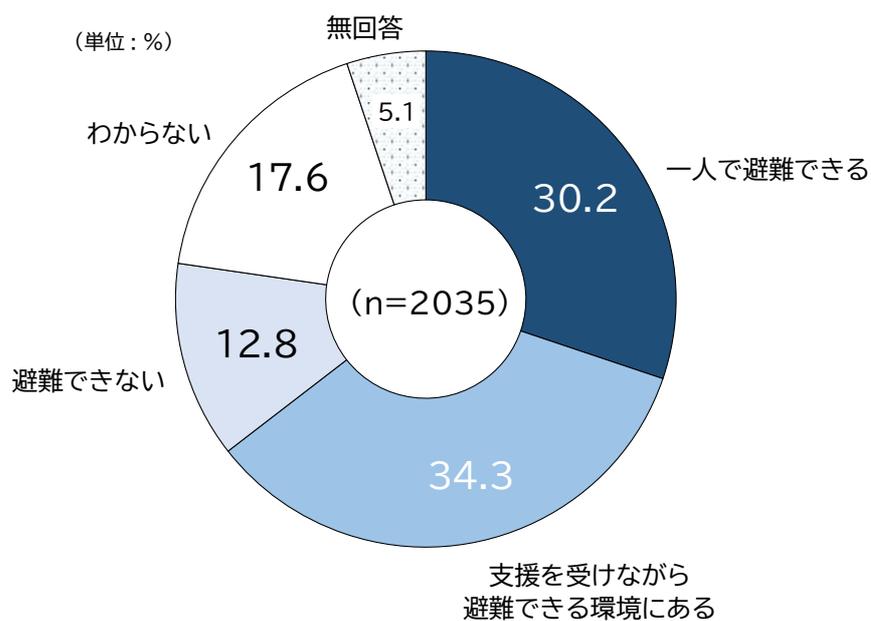
- 避難できない理由は「移動が難しいため」が最も多く 71.3%、次いで「介助者が周りにいないため」が 27.6%、「避難場所が遠いため」が 25.7%となっている。(p.104)
- 身体障害者手帳を持っている方の避難できない理由は、「移動が難しいため」の割合が特に高く、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方は、比較的「避難場所がわからないため」「緊急時という判断がつかないため」の割合が高い。(p.105)

Q 34. 一人で避難所に避難できるか(単一回答)

質問文 あなたは、災害等の緊急時に、一人でまたは支援を受けながら、安全に避難できる環境にありますか。（1つに○）

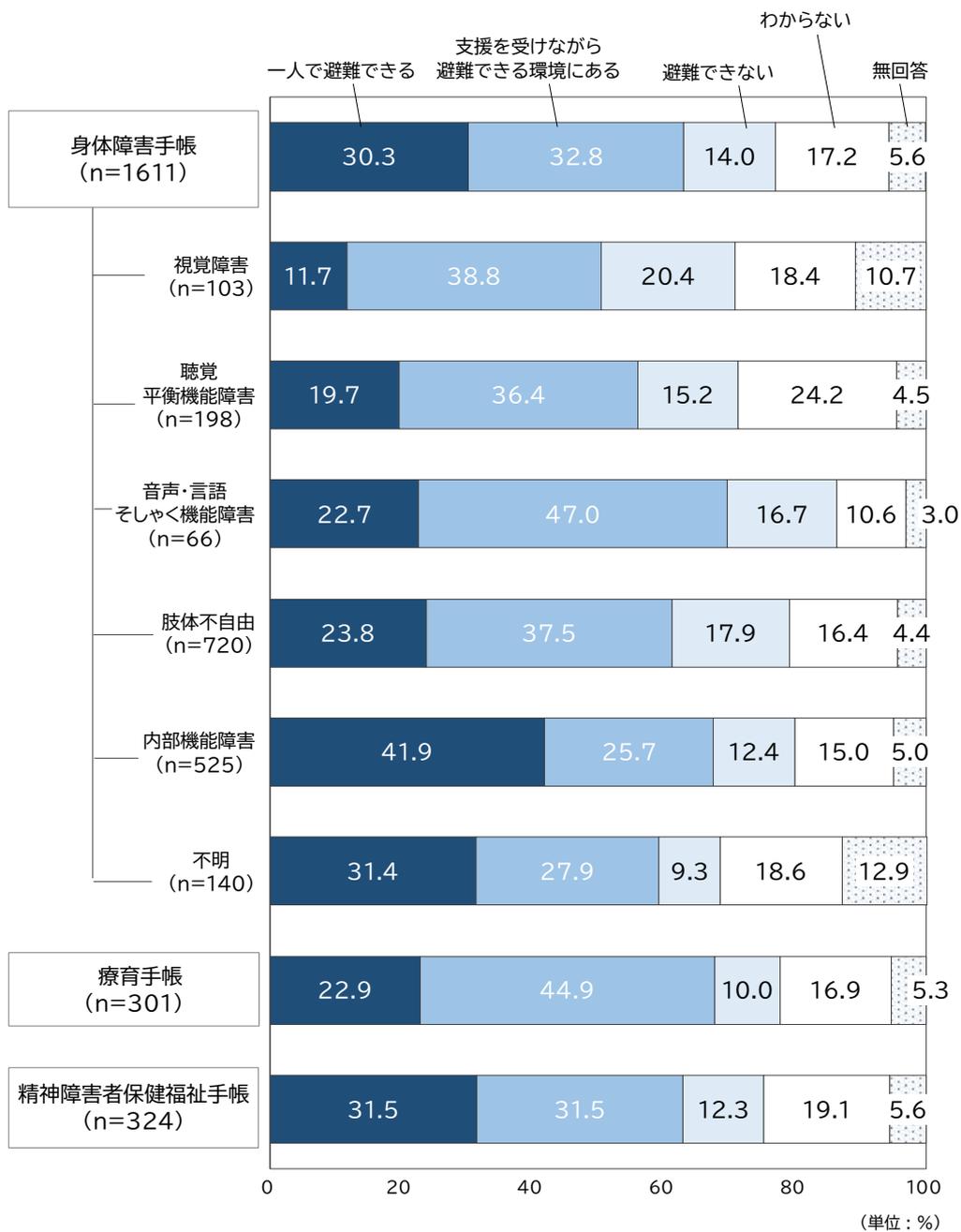
図表 10-1 一人で避難所に避難できるか 単純集計

「一人で避難できる」が 30.2%、「支援を受けながら避難できる環境にある」が 34.3%、「避難できない」が12.8%となっています。



図表 10-2 一人で避難所に避難できるか（保有手帳の種別・身体障害の種別） クロス集計

視覚障害のある方で、「避難できない」と答えた割合は 20.4%となっており、他の障害の方よりも高くなっています。

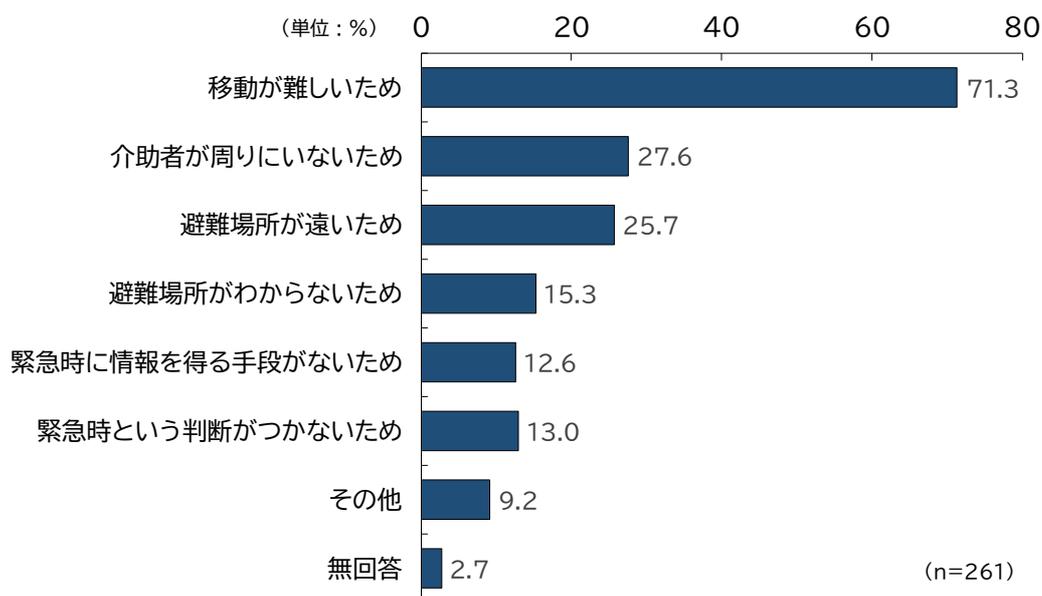


Q 35. 避難できない理由(複数回答)

質問文 一つ前のQ34で「3. 避難できない」とお答えいただいた方におたずねします。
避難できない理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

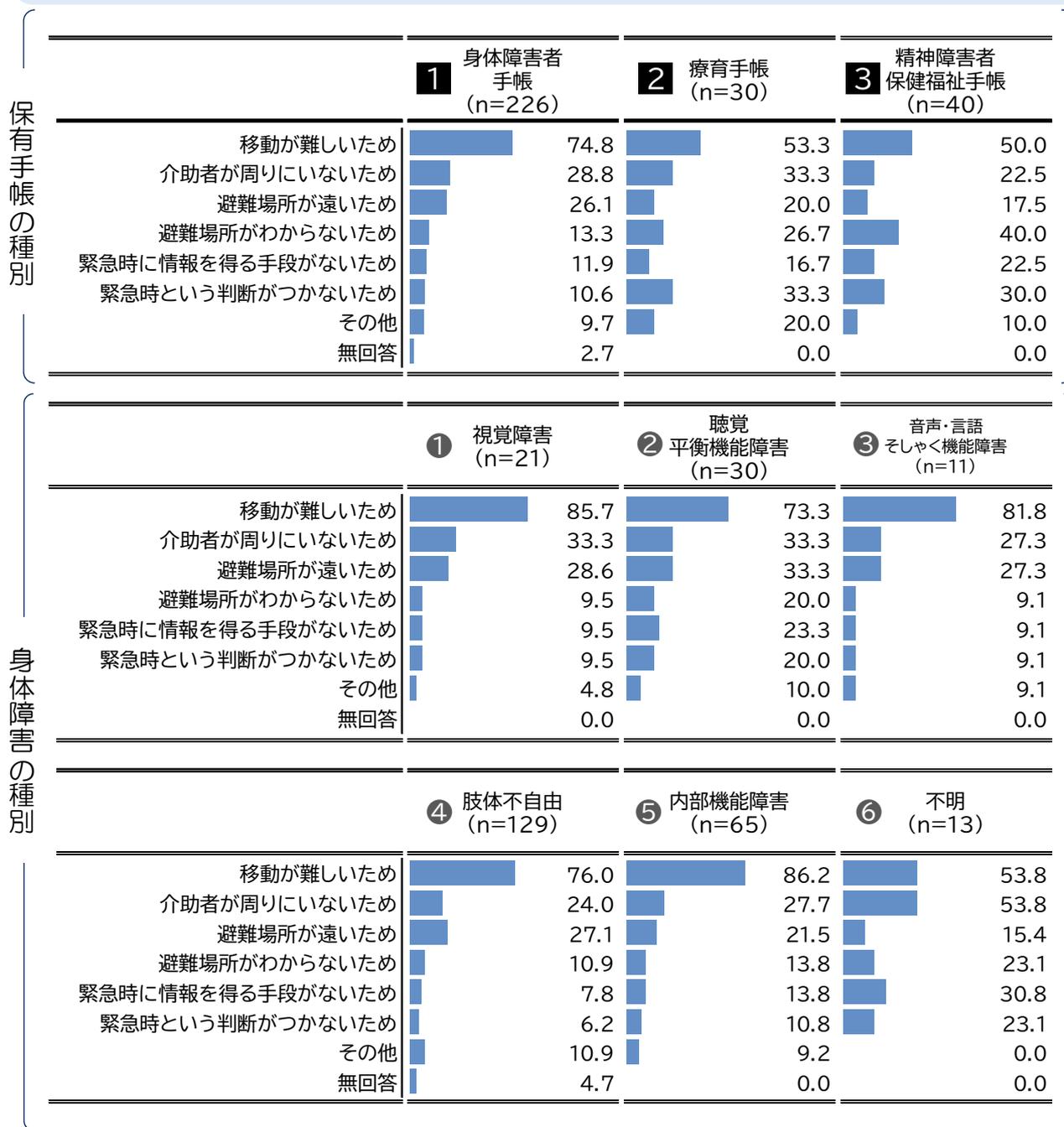
図表 10-3 避難できない理由 単純集計

「移動が難しいため」が最も多く71.3%、次いで「介助者が周りにいないため」が27.6%、「避難場所が遠いため」が25.7%となっています。



図表 10-4 避難できない理由(保有手帳の種別・身体障害の種別) クロス集計

身体障害者手帳を持っている方の避難できない理由は、「移動が難しいため」の割合が特に高く、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方は、比較的「避難場所がわからないため」「緊急時という判断がつかないため」の割合が高くなっています。身体障害種別では、視覚障害、音声・言語・そしゃく機能障害、内部機能障害のある方で、「移動が難しいため」と回答した割合が高くなっています。

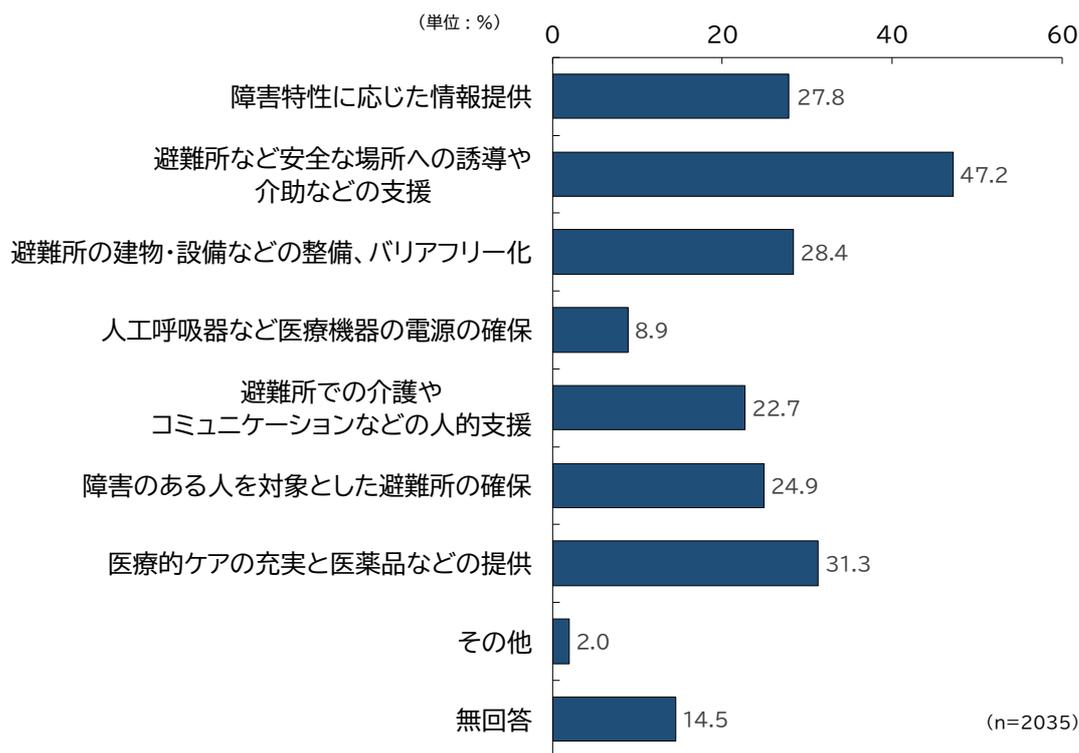


Q 36. 災害発生時や避難所での生活に必要なもの(最大3つまで回答)

質問文 あなたは、地震や台風などの災害時に何が必要だと思いますか。（最大3つまで〇）

図表 10-5 災害発生時や避難所での生活に必要なもの 単純集計

「避難所など安全な場所への誘導や介助などの支援」が47.2%で最も多く、次いで「医療的ケアの充実と医薬品などの提供」が31.3%、「避難所の建物・設備などの整備、バリアフリー化」が28.4%となっています。



図表 10-6 災害発生時や避難所での生活に必要なもの（保有手帳の種別・身体障害の種別）クロス集計

身体障害種別では、「障害特性に応じた情報提供」は視覚障害、聴覚・平衡機能障害のある方で割合が高くなっています。
 「避難所の建物、設備などの整備、バリアフリー化」は肢体不自由のある方で高くなっています。
 「医療的ケアの充実と医薬品などの提供」「人工呼吸器など医療機器の電源の確保」は内部機能障害のある方で割合が高くなっています。
 「避難所での介護やコミュニケーションなどの人的支援」は聴覚・平衡機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害のある方で割合が高くなっています。
 「障害のある人を対象とした避難所の確保」では音声・言語・そしゃく機能障害のある方で割合が高くなっています。

保有手帳の種別

	1 身体障害者手帳 (n=1611)	2 療育手帳 (n=301)	3 精神障害者保健福祉手帳 (n=324)
障害特性に応じた情報提供	26.0	33.9	30.9
避難所など安全な場所への誘導や介助などの支援	47.7	44.5	38.9
避難所の建物・設備などの整備、バリアフリー化	29.7	24.6	18.8
人工呼吸器など医療機器の電源の確保	9.6	8.3	4.3
避難所での介護やコミュニケーションなどの人的支援	22.2	24.6	24.1
障害のある人を対象とした避難所の確保	24.8	26.2	26.9
医療的ケアの充実と医薬品などの提供	31.7	21.3	35.8
その他	1.9	2.3	3.4
無回答	14.6	17.3	15.4

身体障害の種別

	1 視覚障害 (n=103)	2 聴覚・平衡機能障害 (n=198)	3 音声・言語・そしゃく機能障害 (n=66)
障害特性に応じた情報提供	30.1	39.9	24.2
避難所など安全な場所への誘導や介助などの支援	55.3	49.0	48.5
避難所の建物・設備などの整備、バリアフリー化	24.3	24.2	25.8
人工呼吸器など医療機器の電源の確保	6.8	4.0	10.6
避難所での介護やコミュニケーションなどの人的支援	21.4	30.8	34.8
障害のある人を対象とした避難所の確保	21.4	22.7	37.9
医療的ケアの充実と医薬品などの提供	25.2	21.7	28.8
その他	0.0	2.0	0.0
無回答	24.3	16.7	12.1

	4 肢体不自由 (n=720)	5 内部機能障害 (n=525)	6 不明 (n=140)
障害特性に応じた情報提供	21.1	27.2	23.6
避難所など安全な場所への誘導や介助などの支援	53.8	40.6	35.7
避難所の建物・設備などの整備、バリアフリー化	37.4	26.3	23.6
人工呼吸器など医療機器の電源の確保	7.4	16.2	2.9
避難所での介護やコミュニケーションなどの人的支援	23.2	17.5	17.1
障害のある人を対象とした避難所の確保	28.3	21.3	25.7
医療的ケアの充実と医薬品などの提供	28.5	42.3	22.1
その他	1.5	2.1	5.0
無回答	12.9	13.7	22.9

11. 新型コロナウイルス感染症

本節のポイント

・新型コロナウイルス感染症流行下において、障害福祉サービスの利用が減少した方が 8.6%、特に影響を受けていない方が 49.5%となっています。

・困っていることは「外出や余暇活動、友人と会う機会などが減少した」と答えた方が 35.0%となっています。

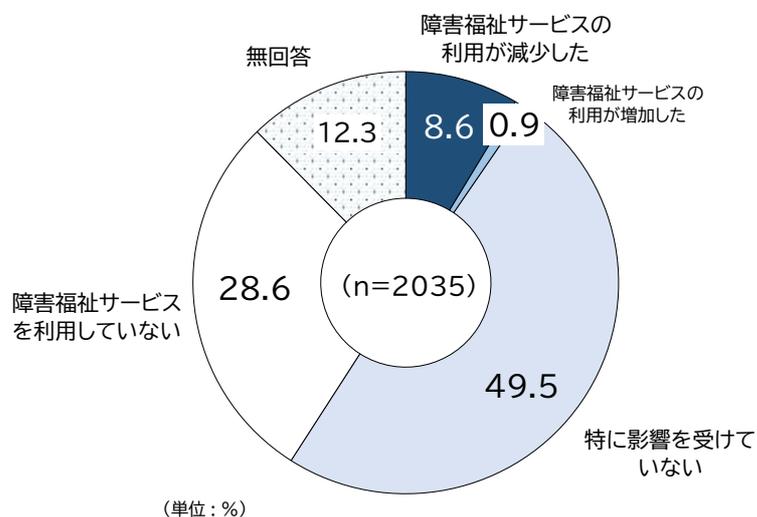
- 療育手帳を持っている方で、障害福祉サービスの利用が減少した割合が高い (p.109)
- 困っていることは、療育手帳を持っている方で障害福祉サービスの利用が減少したこと、精神障害者保健福祉手帳の方で心身の健康状態が悪化したことの割合が高くなっています。(p.111)

Q 37. コロナ禍が与えた障害福祉サービスの利用に対する影響(単一回答)

質問文 新型コロナウイルス感染症の拡大によって障害福祉サービスの利用に、どのような影響を受けましたか。(1つに○)

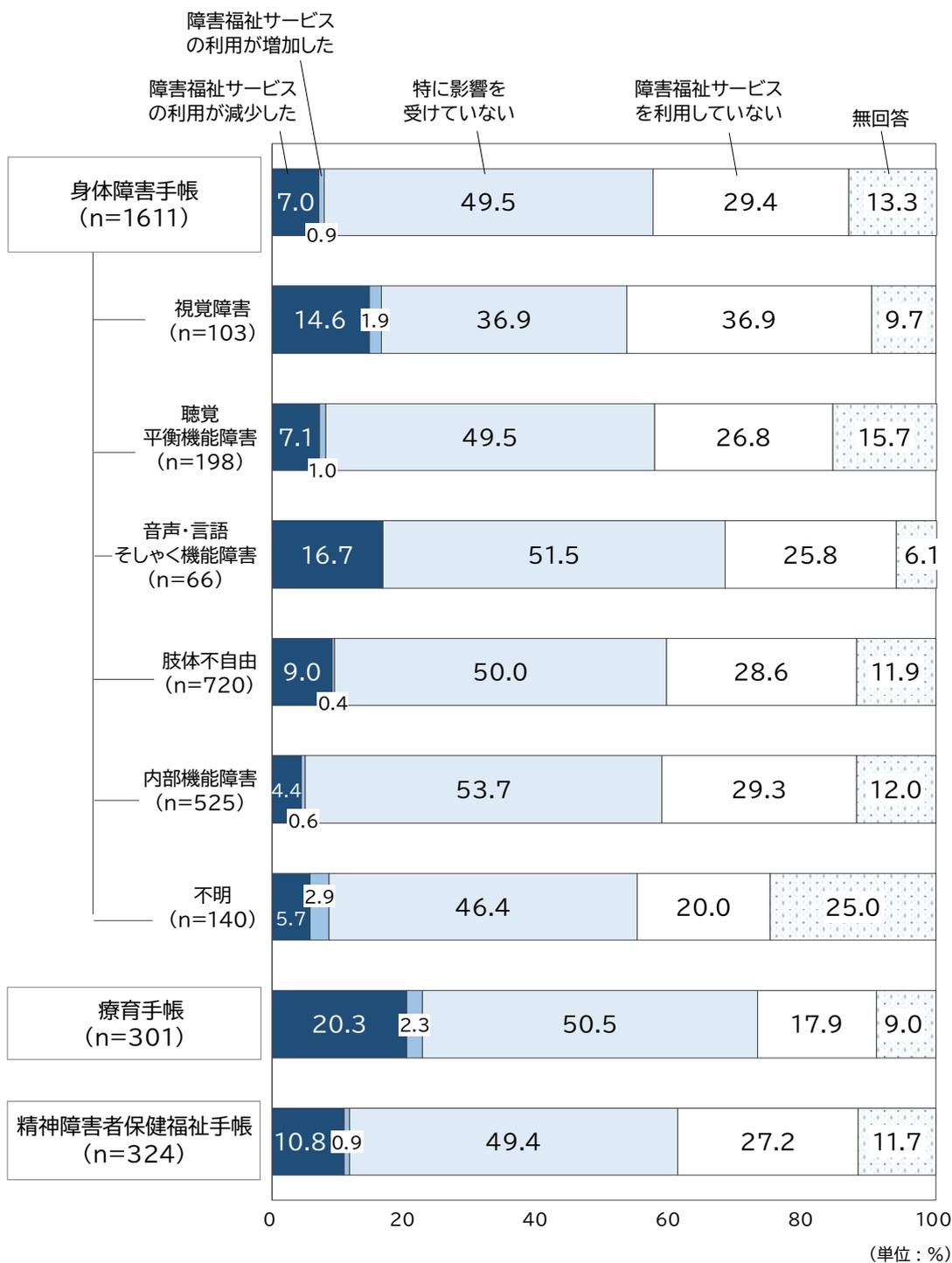
図表 11-1 コロナ禍が与えた障害福祉サービスの利用に対する影響 単純集計

障害福祉サービスの利用が減少した方が 8.6%、増加した方が 0.9%、特に影響を受けていない方が 49.5%となっています。



図表 11-2 コロナ禍が与えた障害福祉サービスの利用に対する影響(保有手帳の種別・身体障害の種別) クロス集計

療育手帳を持っている方で、障害福祉サービスの利用が減少した割合が高くなっています。身体障害種別では視覚障害、音声・言語・そしゃく機能障害のある方で障害福祉サービスの利用が減少した割合が高くなっています。

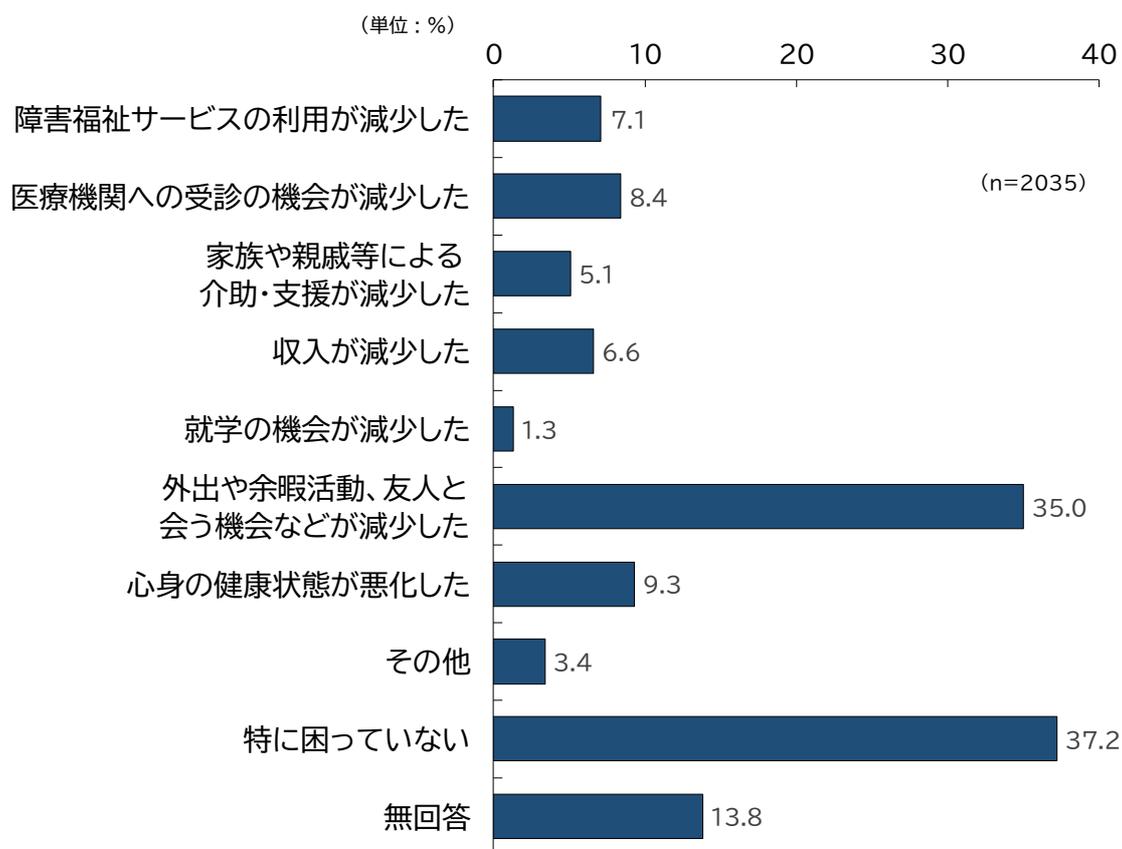


Q 38. コロナ禍で困っていることは何か(複数回答)

質問文 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、困っていること（困ったこと）は何ですか。
（あてはまるもの全てに○）

図表 11-3 コロナ禍で困っていることは何か 単純集計

「特に困っていない」が 37.2%、「外出や余暇活動、友人と会う機会などが減少した」が 35.0%、「心身の健康状態が悪化した」が 9.3%、「医療機関への受診の機会が減少した」が 8.4%の順となっています。



図表 11-4 コロナ禍で困っていることは何か(保有手帳の種別・身体障害の種別) クロス集計

療育手帳を持っている方で障害福祉サービスの利用が減少した割合が高く、精神障害者保健福祉手帳の方で心身の健康状態が悪化した割合が高くなっています。

身体障害種別では、音声・言語・そしゃく機能障害のある方で「外出や余暇活動、友人と会う機会などが減少した」との割合が最も高くなっています。

保有手帳の種別	身体障害者手帳 (n=1611)			療育手帳 (n=301)			精神障害者保健福祉手帳 (n=324)		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
障害福祉サービスの利用が減少した	5.9	17.9	9.0	9.7	4.5	13.6	6.5	4.0	9.3
医療機関への受診の機会が減少した	8.6	7.0	9.0	7.8	11.1	13.6	9.0	7.6	6.4
家族や親戚等による介助・支援が減少した	5.5	4.0	3.1	7.8	7.1	4.5	5.7	5.1	2.9
収入が減少した	6.3	8.0	8.3	4.9	8.1	6.1	6.0	7.0	6.4
就学の機会が減少した	0.7	4.7	2.8	1.0	1.0	1.5	0.7	0.2	1.4
外出や余暇活動、友人と会う機会などが減少した	32.7	42.9	36.1	37.9	39.4	40.9	33.9	32.6	17.9
心身の健康状態が悪化した	8.5	7.0	14.8	10.7	10.6	7.6	8.9	9.1	5.7
その他	3.1	2.7	4.9	5.8	7.1	6.1	3.2	2.9	2.9
特に困っていない	38.5	33.9	34.6	31.1	35.4	39.4	37.9	39.4	40.7
無回答	15.1	9.0	10.8	16.5	11.1	4.5	13.6	14.9	26.4

身体障害の種別	視覚障害 (n=103)			聴覚・平衡機能障害 (n=198)			音声・言語・そしゃく機能障害 (n=66)		
	1	2	3	1	2	3	4	5	6
障害福祉サービスの利用が減少した	9.7	4.5	13.6	6.5	4.0	9.3	6.5	4.0	9.3
医療機関への受診の機会が減少した	7.8	11.1	13.6	7.8	11.1	13.6	9.0	7.6	6.4
家族や親戚等による介助・支援が減少した	7.8	7.1	4.5	7.8	7.1	4.5	5.7	5.1	2.9
収入が減少した	4.9	8.1	6.1	4.9	8.1	6.1	6.0	7.0	6.4
就学の機会が減少した	1.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.5	0.7	0.2	1.4
外出や余暇活動、友人と会う機会などが減少した	37.9	39.4	40.9	37.9	39.4	40.9	33.9	32.6	17.9
心身の健康状態が悪化した	10.7	10.6	7.6	10.7	10.6	7.6	8.9	9.1	5.7
その他	5.8	7.1	6.1	5.8	7.1	6.1	3.2	2.9	2.9
特に困っていない	31.1	35.4	39.4	31.1	35.4	39.4	37.9	39.4	40.7
無回答	16.5	11.1	4.5	16.5	11.1	4.5	13.6	14.9	26.4

身体障害の種別	肢体不自由 (n=720)			内部機能障害 (n=525)			不明 (n=140)		
	4	5	6	4	5	6	4	5	6
障害福祉サービスの利用が減少した	6.5	4.0	9.3	6.5	4.0	9.3	6.5	4.0	9.3
医療機関への受診の機会が減少した	9.0	7.6	6.4	9.0	7.6	6.4	9.0	7.6	6.4
家族や親戚等による介助・支援が減少した	5.7	5.1	2.9	5.7	5.1	2.9	5.7	5.1	2.9
収入が減少した	6.0	7.0	6.4	6.0	7.0	6.4	6.0	7.0	6.4
就学の機会が減少した	0.7	0.2	1.4	0.7	0.2	1.4	0.7	0.2	1.4
外出や余暇活動、友人と会う機会などが減少した	33.9	32.6	17.9	33.9	32.6	17.9	33.9	32.6	17.9
心身の健康状態が悪化した	8.9	9.1	5.7	8.9	9.1	5.7	8.9	9.1	5.7
その他	3.2	2.9	2.9	3.2	2.9	2.9	3.2	2.9	2.9
特に困っていない	37.9	39.4	40.7	37.9	39.4	40.7	37.9	39.4	40.7
無回答	13.6	14.9	26.4	13.6	14.9	26.4	13.6	14.9	26.4

12. 障害のある方への取組

本節のポイント

・今後充実させて欲しいことは「医療費・介護費の負担軽減」が 24.8%と最も多く、前回調査と比較しても増えています。次いで「住まいで受けられる訪問サービス」と「災害時の支援」がともに 12.7%となっています。

- 身体障害者手帳を持っている方は「医療費・介護費の負担軽減」が特に多い。「医療費・介護費の負担軽減」の他には、療育手帳の方で「企業などの働く場」「住まいの場(グループホーム)」が、精神障害者保健福祉手帳の方では「企業などの働く場」「障害の正しい理解を広める取組」も多くなっている。(p.115)
- 自由記述欄では障害福祉サービスに対する要望が多く見られた。(p.120)

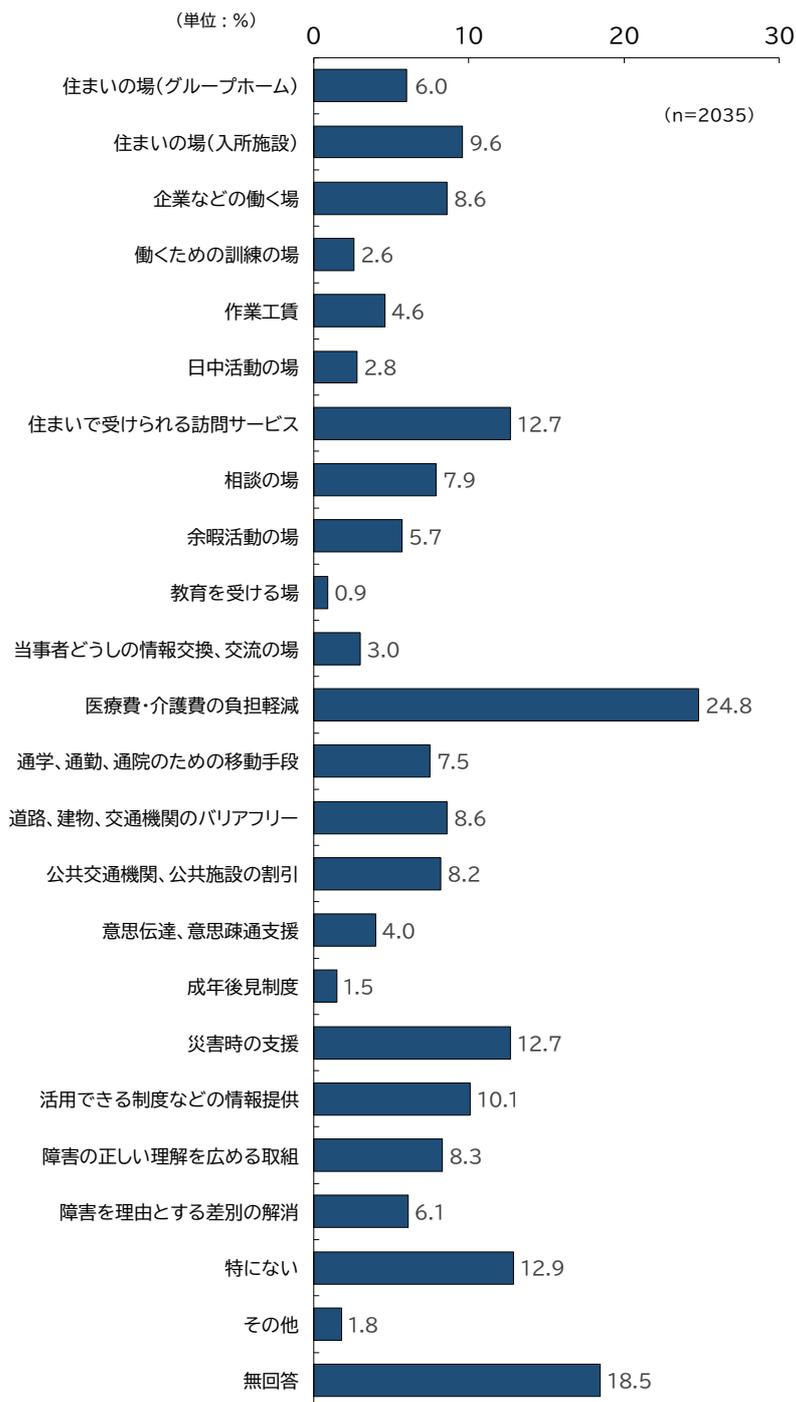
Q 39. 今後、生活するうえで、充実させてほしいこと(最大3つまで回答)

質問文 あなたが今後生活するうえで、充実させてほしいと思うことは何ですか。

(最大3つまで○)

図表 12-1 今後、生活するうえで、充実させてほしいこと 単純集計

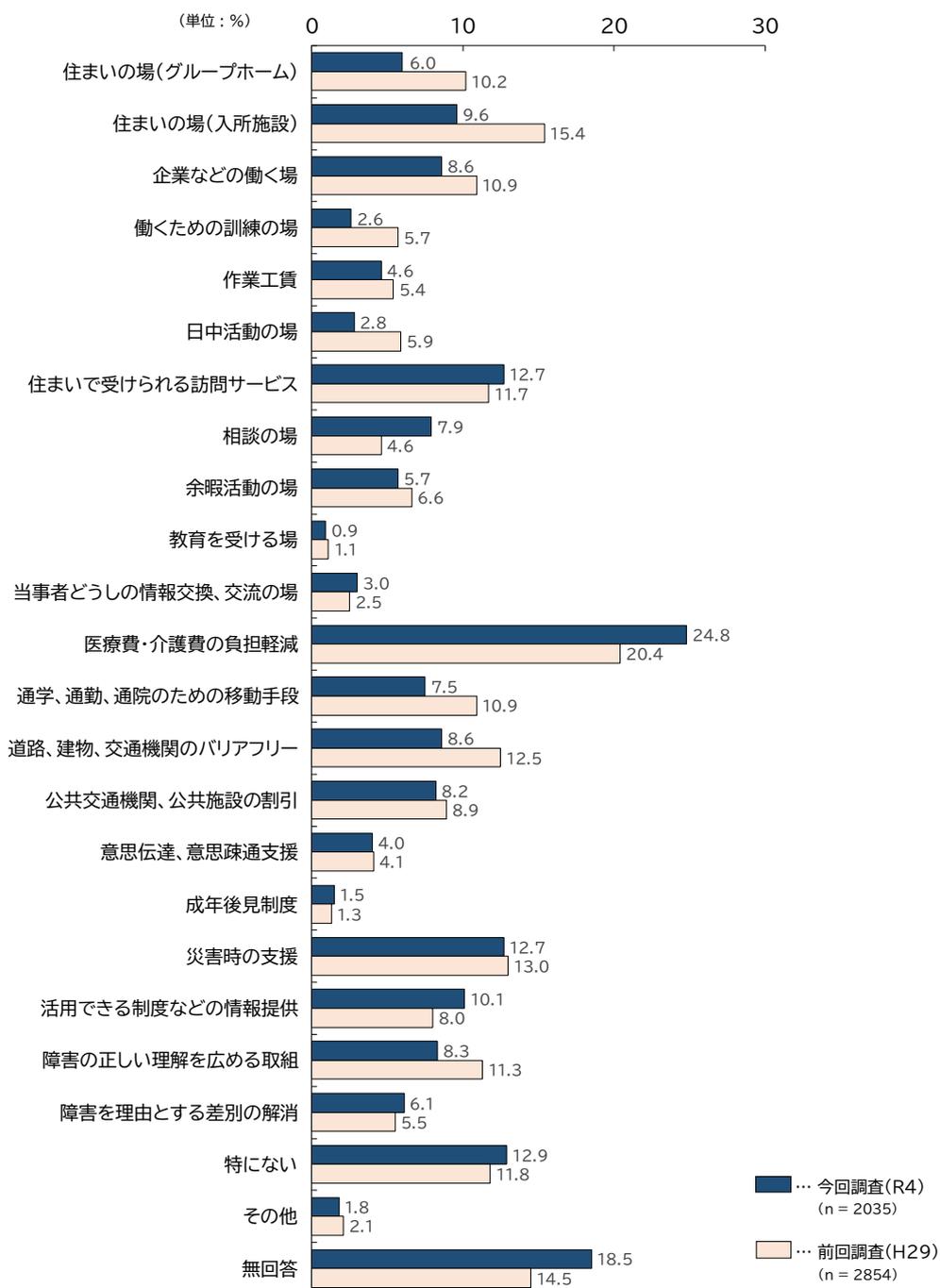
「医療費・介護費の負担軽減」が24.8%で最も多く、次いで「住まいで受けられる訪問サービス」と「災害時の支援」がともに12.7%となっています。



調査結果（12. 障害のある方への取組）

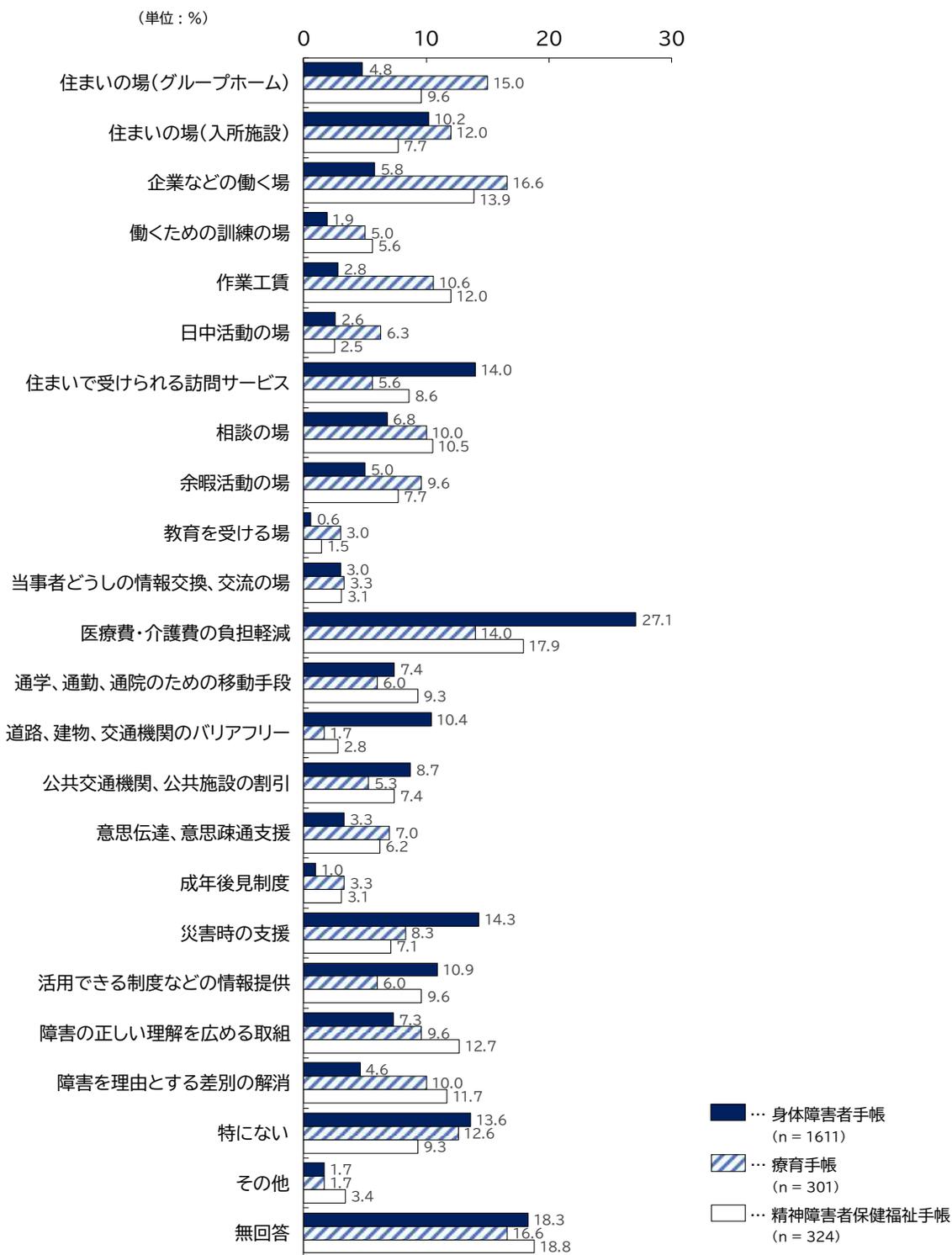
図表 12-2 今後、生活するうえで、充実させてほしいこと 前回比較

前回調査と比較すると「住まいの場(入所施設)」が 5.8 ポイント減少するなど多くの項目で減少する一方、「医療費・介護費の負担軽減」が 4.4 ポイント、「相談の場」が 3.3 ポイント、「活用できる制度などの情報提供」が 2.1 ポイント増加となっています。



図表 12-3 今後、生活するうえで、充実させてほしいこと(保有手帳の種別) クロス集計

身体障害者手帳を持っている方は「医療費・介護費の負担軽減」が特に多い。「医療費・介護費の負担軽減」の他には、療育手帳の方で「企業などの働く場」「住まいの場(グループホーム)」が、精神障害者保健福祉手帳の方では「企業などの働く場」「障害の正しい理解を広める取組」も多くなっています。

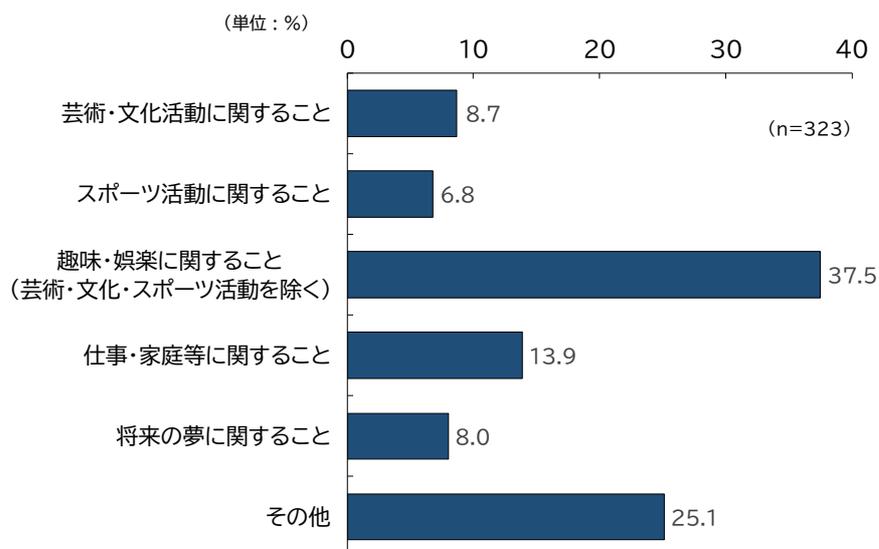


Q 40. 夢中になっていること、将来実現したいこと(自由意見)

質問文 あなたが今一番、夢中になっていることは何ですか。また、将来実現したいこと、やってみたいことがありましたら自由にご記入ください。

図表 12-4 夢中になっていること、将来実現したいこと 単純集計

趣味や娯楽を楽しんでいる・楽しみたいという意見が多く見られました。



(※) 図表注釈

	(具体的な内容)
芸術・文化活動に関すること	音楽、書道、手芸、陶芸、絵画、写真等
スポーツ活動に関すること	ウォーキング、ボウリング、ゴルフ、サイクリング マラソン等
趣味・娯楽に関すること (芸術・文化・スポーツ活動を除く)	テレビ・ラジオ、映画・コンサート、インターネット、 ナンプレ・脳トレ、囲碁将棋、パチンコ、旅行、外食等
仕事・家庭等に関すること	仕事・起業、家事、育児等
将来の夢に関すること	ケーキ屋、大工、消防士、自立、人・家族との交流、病 気治癒、ひとりで外出、社会貢献、大学進学等
その他	ボランティア、障害者団体などの活動、自らの障害に関 するリハビリ等

（参考図表）夢中になっていること、将来実現したいこと

主な自由意見

●芸術・文化活動に関する主な自由意見

自宅で手工芸を一人で勉強して、制作活動をしています。これからも制作活動を続けて作品展などに積極的に参加していきたいです。

小説を書いたりよんだりすること。小説を発表したい。

たいこが大好きで音楽に合わせてリズムを取り楽しくやっています。地域の祭りの獅子舞のたいこも覚え、町を周り、たたかせてもらっています。周囲が温かく見守って下さるので年に2回の祭りを楽しみにしています。

サークル活動（音楽）に取り組んでみたいです。

●スポーツ活動に関する主な自由意見

ロードバイクでのサイクリング。

日本各地で行っているマラソン大会に出場すること。そして自己記録をできるだけ低下させないこと。

週に一回プールへ通っています。家の前からバスに乗るので楽です。大変楽しみにしています。

20年程前から健常者の方々と一緒にグラウンドゴルフをし、多数の大会にも参加し上位入賞も数々してきた。でも今では週2回になっています。足が悪い為歩くのも疲れてきました。仲間と楽しくグラウンドゴルフが出来るよう頑張っていきます。

●趣味・娯楽(芸術・文化・スポーツ活動を除く)に関する主な自由意見

毎日の朝の犬との散歩です。犬友がたくさんで毎日楽しい日々を送っています。自由に旅行に行きたい（マスクなしで）。

家庭菜園で季節に応じた野菜を作り、食生活を充実する。

いろいろな車を見ること。

若い頃より詩吟や歌を唄っていました。健康のために今でも歌を唄っています（カラオケ）。

夢中になっていることは、毎日のおしゃれです。洋服のファッション選びや、家族と一緒にランチや食事に行くことです。将来実現したいことは、孫の顔が見たい。

●仕事、家庭等に関する主な自由意見

仕事に夢中の状況です。一生仕事をし、お金の苦労しない生活をしてみたいと考えてます。

今は仕事につき仕事がおもしろく接客など人に関わる事が楽しい。

調査結果（12. 障害のある方への取組）

●将来の夢に関する主な自由意見

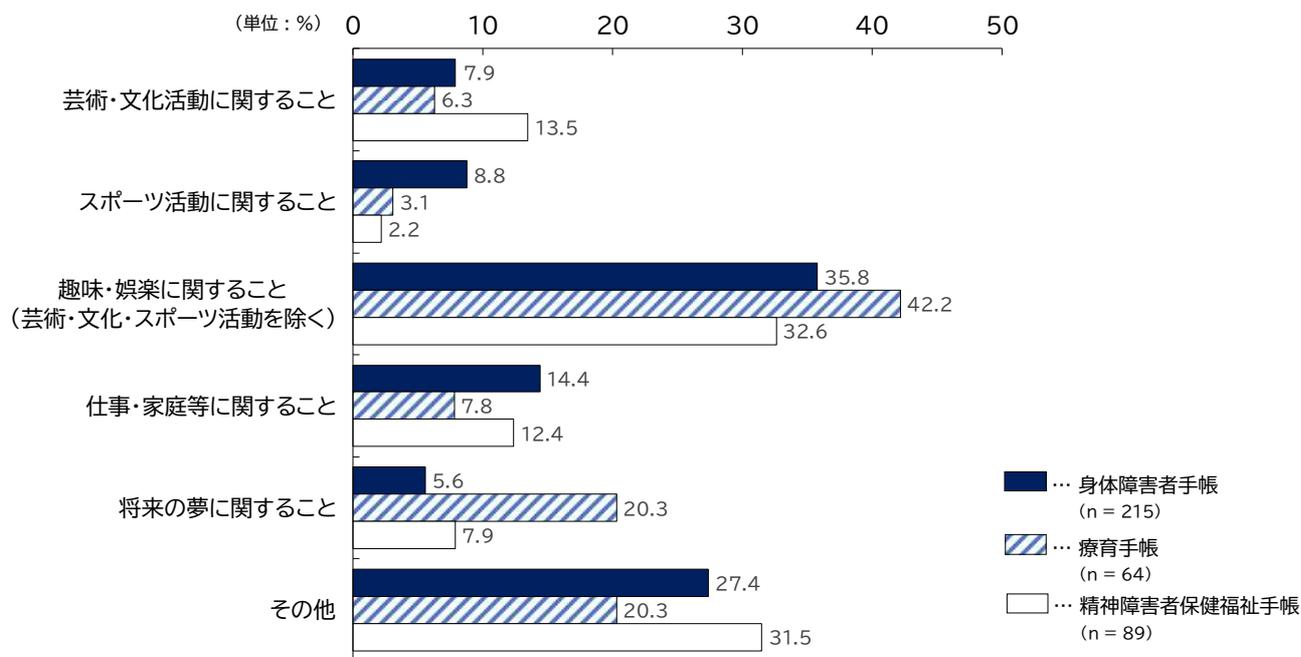
電車が大好きで将来は車掌さんになりたい。
テレビに出たい。モデル、音楽関係。

●その他の主な自由意見

仲間との老人会活動。地域公園の週1回の清掃活動等。
ファミリーホーム事業をしたい。
どうしたら麻痺が少しでも良くなり、1人で歩いてもこけないように歩けること。
自分が楽しいと思う事を探す事。現在自分に関わってくれる地域生活支援センター就労支援センターの職員さんに生活・仕事の相談をしながら前向きに生活していくこと。
病気を治す事に夢中になっており、治ったら車の免許もとって1人で生活できるようにしていきたいです。

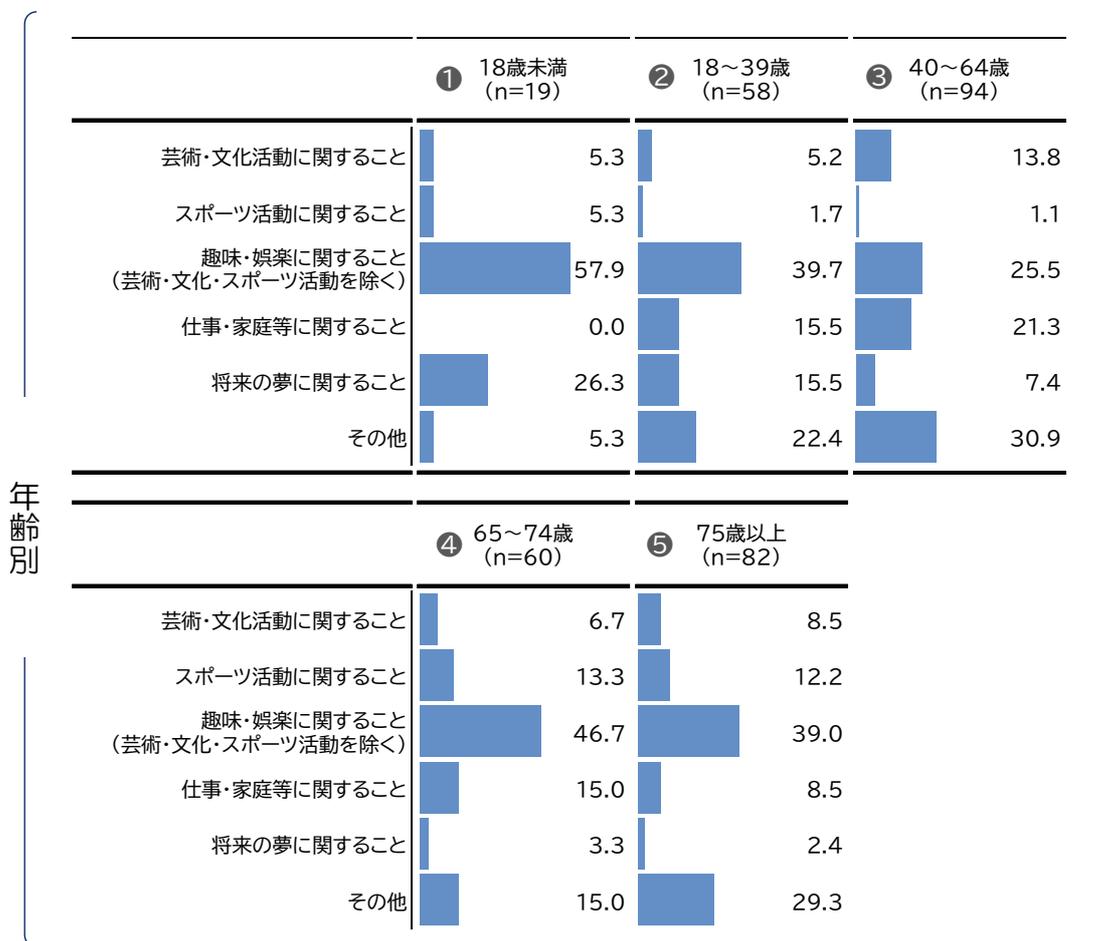
図表 12-5 夢中になっていること、将来実現したいこと(保有手帳の種別) クロス集計

いずれの手帳を持っている方も「趣味・娯楽に関すること」が最も多くなっています。また、身体障害者手帳の方は「仕事・家庭等に関すること」、療育手帳の方は「将来の夢に関すること」、精神障害者保健福祉手帳の方は「芸術・文化活動に関すること」も多くなっています。



図表 12-6 夢中になっていること、将来実現したいこと(年齢別) クロス集計

「趣味・娯楽に関すること」を記述した割合は、18歳未満、65～74歳で比較的高くなる一方で、40～64歳では低くなっています。

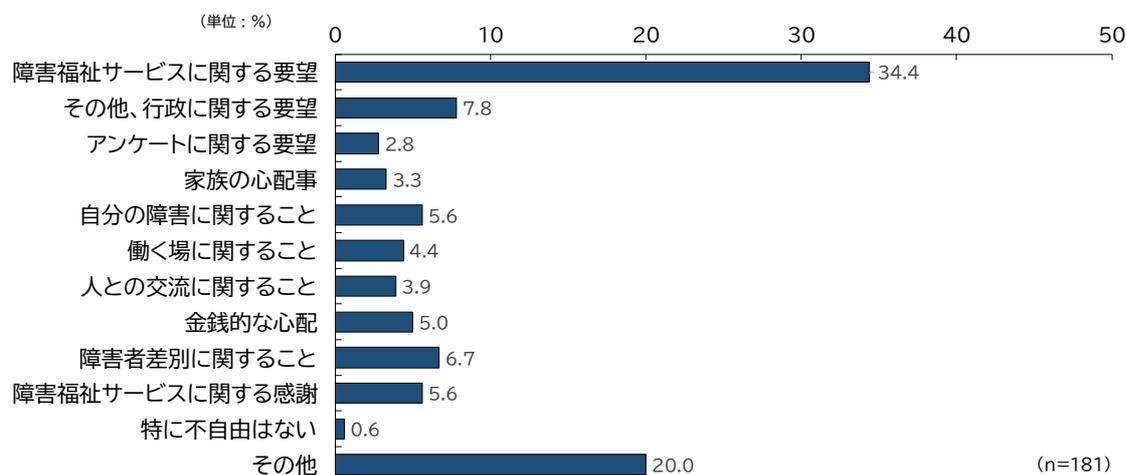


Q 41. その他意見(自由意見)

質問文 その他にご意見がありましたら自由にご記入ください。

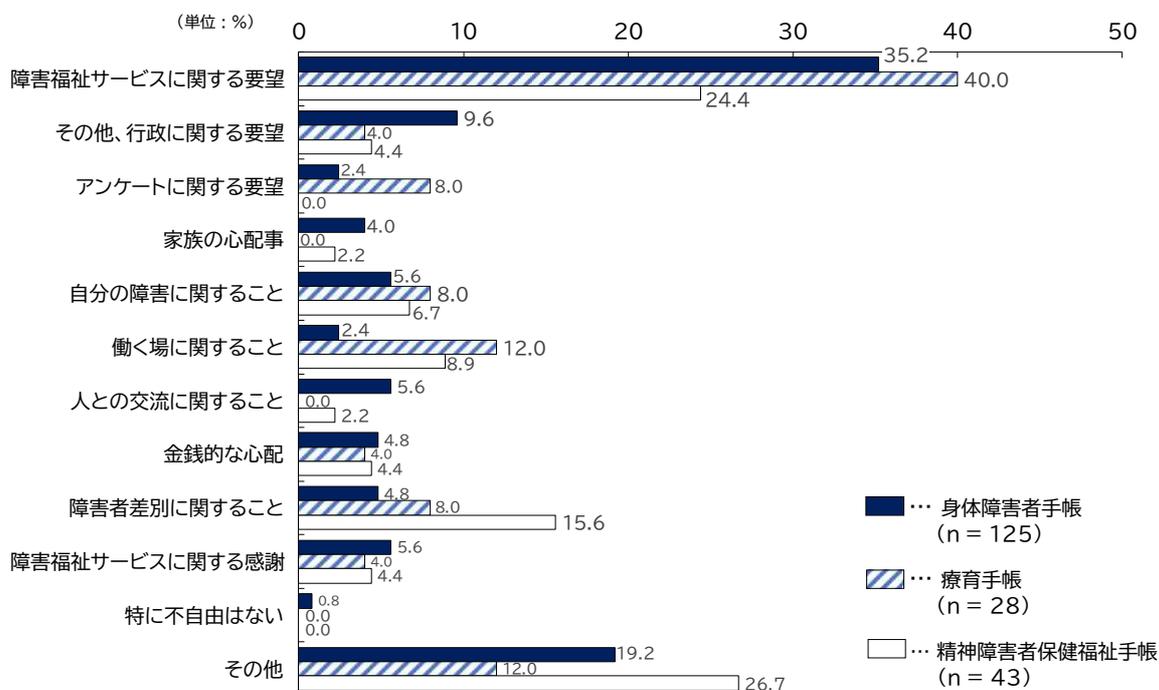
図表 12-7 その他意見 単純集計

障害福祉サービスに関する要望が多く見られました。



図表 12-8 その他意見(保有手帳の種類別) クロス集計

身体障害者手帳、療育手帳を持っている方で「障害福祉サービスに関する要望」の割合が高く、精神障害者保健福祉手帳を持っている方では「差別に関すること」の割合が他の手帳の方よりも高くなっています。



13. 介助者・支援者（本人の家族）の状況

本節のポイント

- 介助者・支援者は、「配偶者」が 25.9%と最も多く、次いで「親」が 13.8%、「子供」が 13.5% となっています。
- 今後充実させて欲しいことは、「医療費・介護費の負担軽減」が 17.5%と最も多く、次いで「家族に対する支援」が 9.7%となっています。
- 悩み・心配ごとは、「将来に関すること」が 26.6%と最も多くなっています。

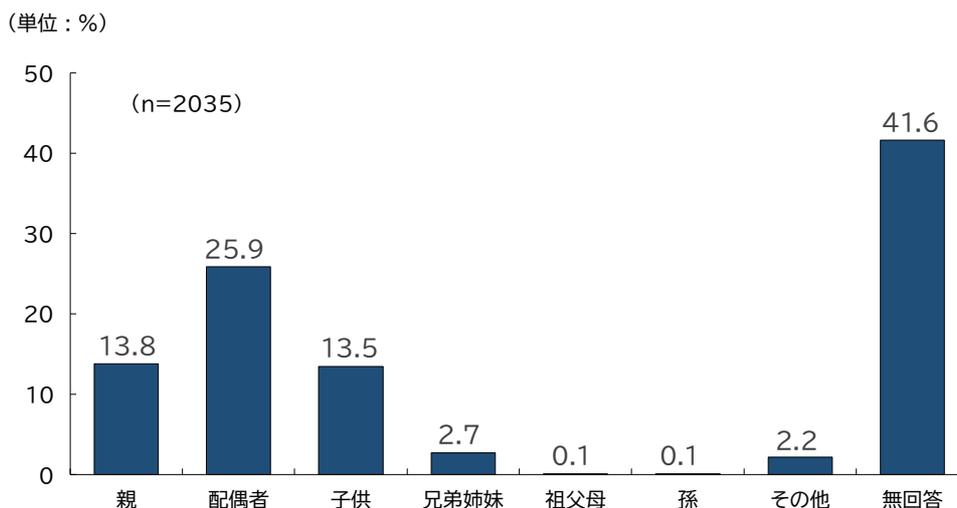
- 身体障害者手帳を持っている方の介助者・支援者は「配偶者」が、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の方は「親」が多い。(p.122)
- 介助者・支援者は 70 代が 12.6%と最も多い。(p.123)
- 身体障害者手帳を持っている方の介助者・支援者は「介護費・医療費の負担軽減」を希望する割合が特に高い。(p.126)
- 療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方の介助者・支援者の悩み・心配ごとは「将来に関すること」の割合が特に高い。(p.127)

Q 42. 介助者・支援者の続柄(単一回答)

質問文 以降は介助者・支援者に関する質問です。ご家族で、ご本人を主に介助又は支援している方がご回答ください。ご本人からみたあなたの続柄についておたずねします。（1つに○）

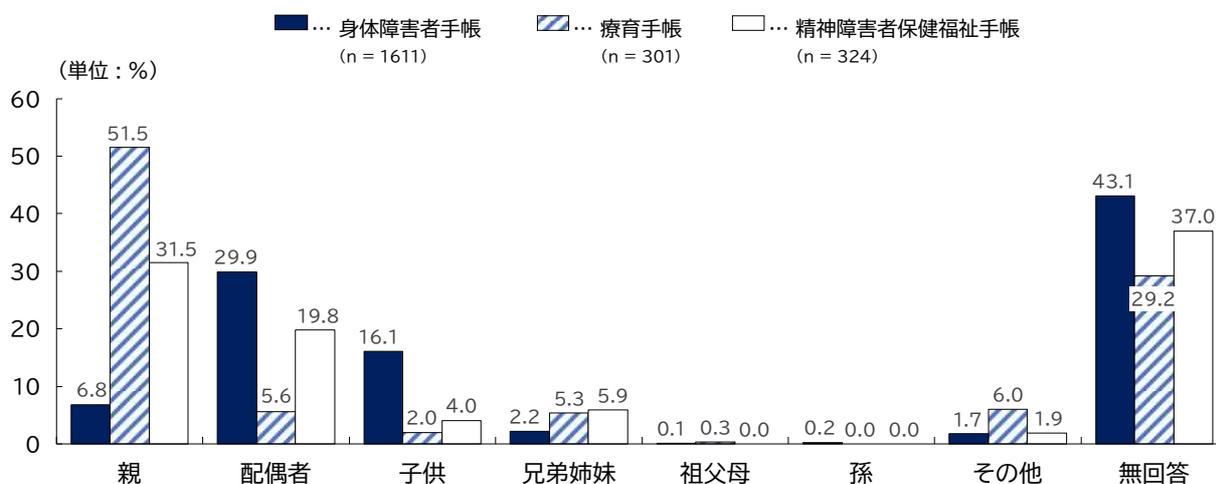
図表 13-1 介助者・支援者の続柄 単純集計

「配偶者」が 25.9%と最も多く、次いで「親」が 13.8%、「子供」が 13.5%となっています。



図表 13-2 介助者・支援者の続柄(保有手帳の種別) クロス集計

身体障害者手帳を持っている方の介護者・支援者は「配偶者」が、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方は「親」が多くなっています。

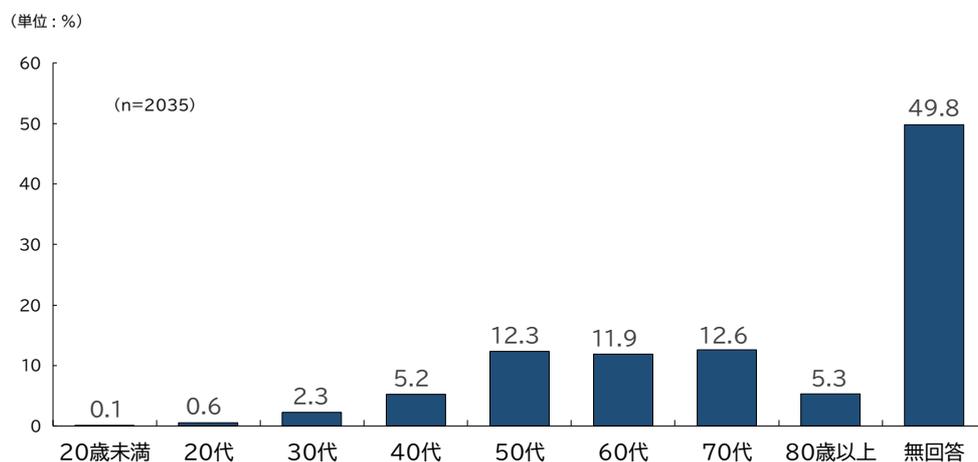


Q 43. 介助者・支援者の年齢(数値回答)

質問文 あなたの年齢（令和4年9月1日現在）をお答えください。（数字を記入）

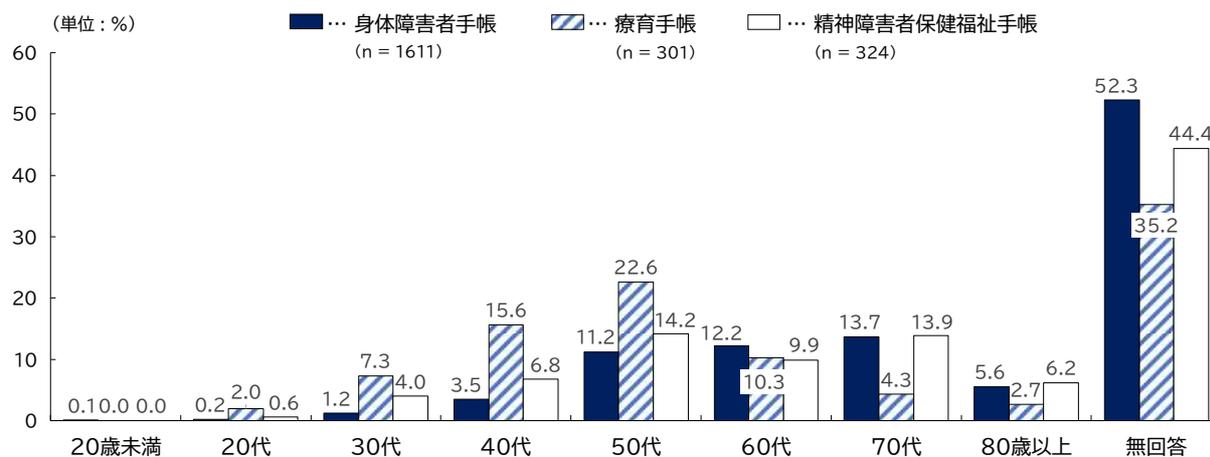
図表 13-3 介助者・支援者の年齢 単純集計

70代が最も多く12.6%、次いで50代が12.3%、60代が11.9%となっています。



図表 13-4 介助者・支援者の年齢(保有手帳の種別) クロス集計

身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方の介助者・支援者は50～70代が多く、療育手帳を持っている方は40～50代が多くなっています。

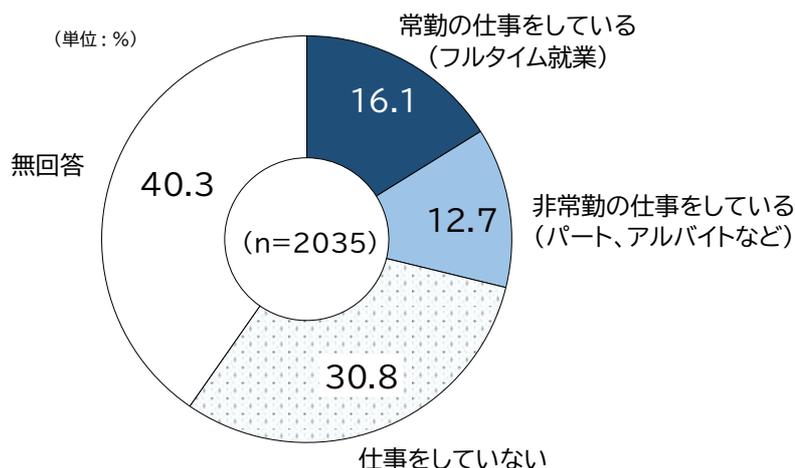


Q 44. 介助者・支援者の就業状況(単一回答)

質問文 あなたは収入を伴う仕事をされていますか。（1つに○）

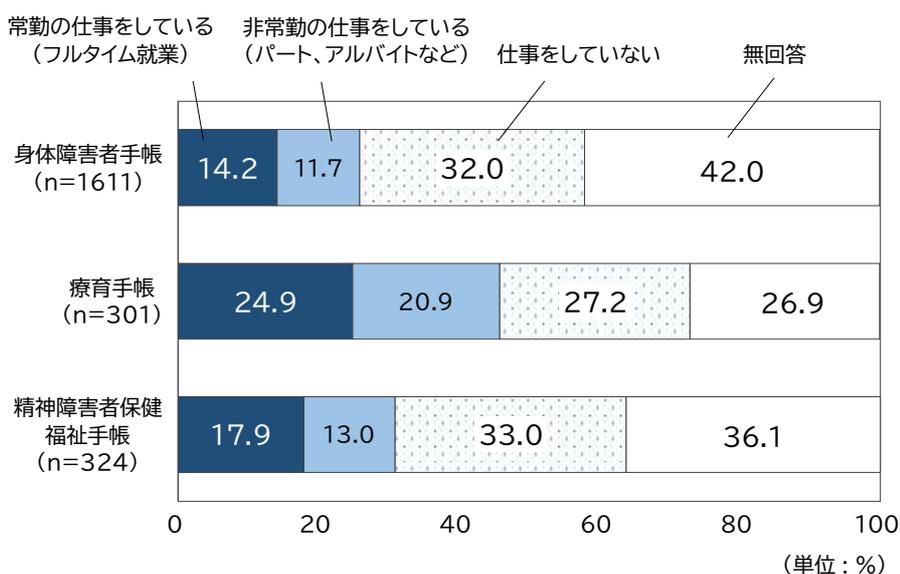
図表 13-5 介助者・支援者の就業状況 単純集計

「仕事をしていない」が 30.8%で最も多く、次いで「常勤の仕事をしている」が 16.1%、「非常勤の仕事をしている」が 12.7%の順となっています。



図表 13-6 介助者・支援者の就業状況(保有手帳の種類) クロス集計

療育手帳を持っている方の介助者・支援者は就労している方の割合が他の手帳の方より高くなっています。

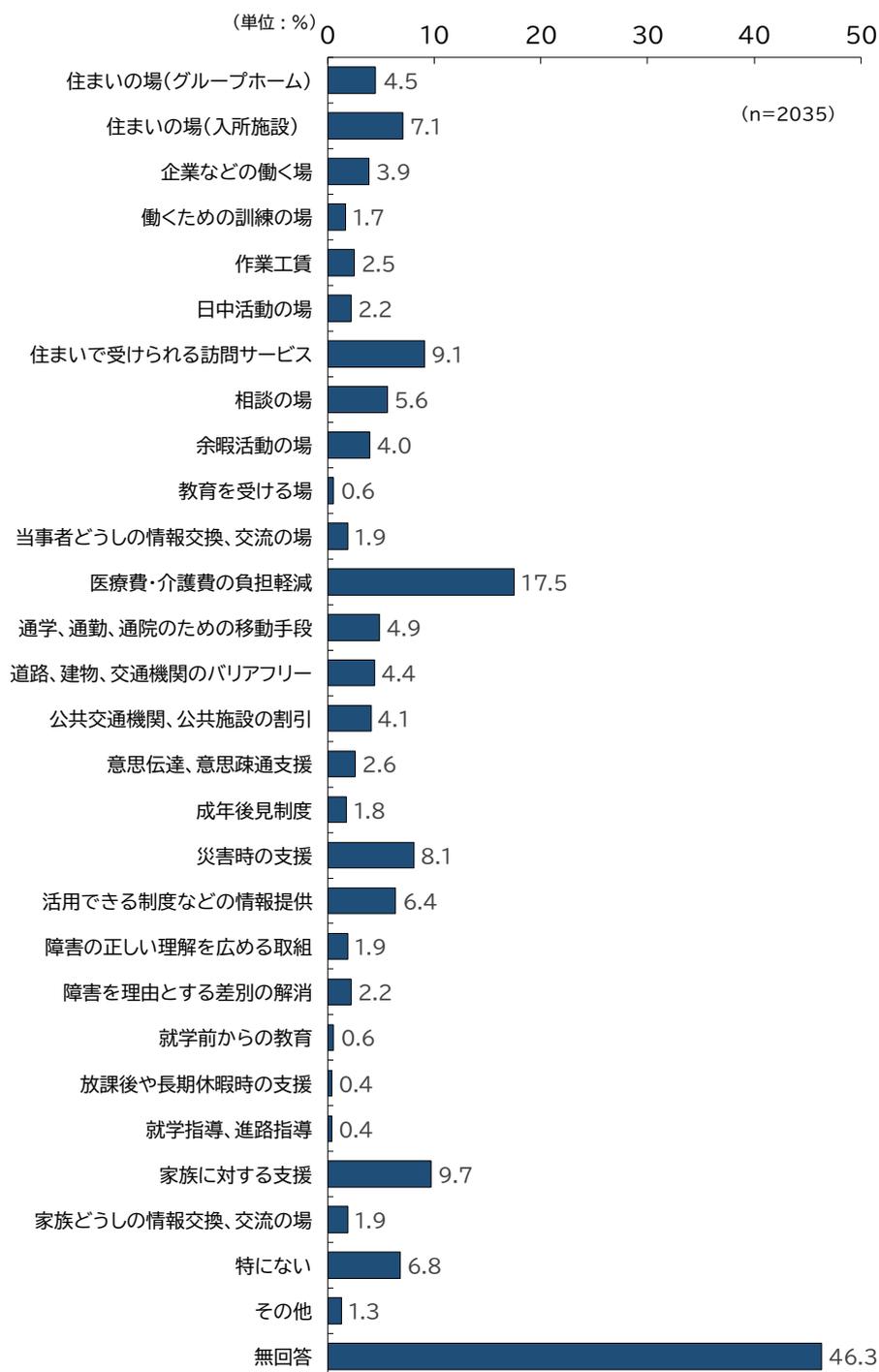


Q 45. 介助者・支援者が考える今後充実させてほしいこと(最大3つまで回答)

質問文 ご家族の方からみて、ご本人が今後生活するうえで、充実させてほしいと思うことは何ですか。（最大3つまで○）

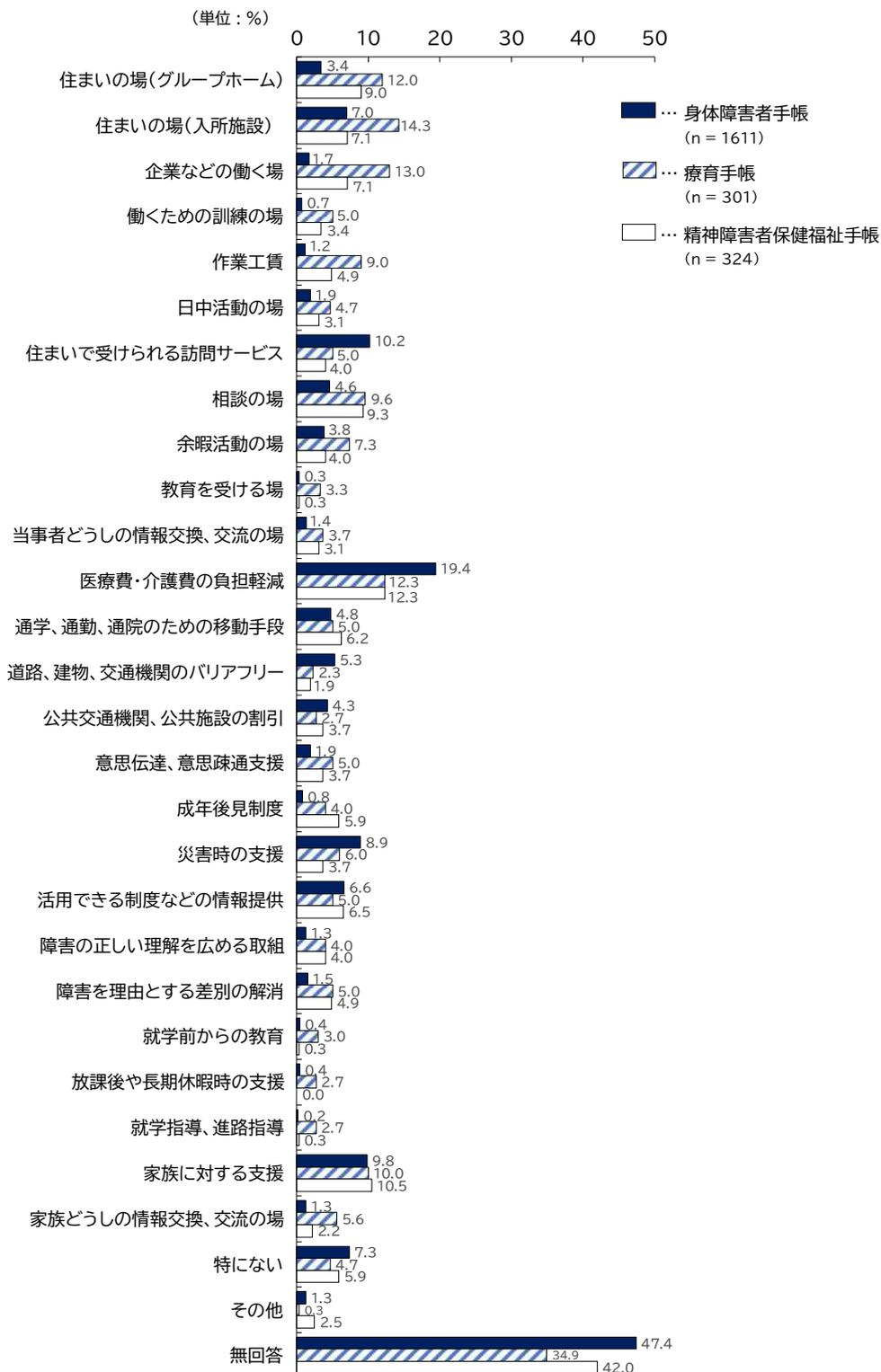
図表 13-7 介助者・支援者が考える今後充実させてほしいこと 単純集計

「医療費・介護費の負担軽減」が17.5%と最も多く、次いで「家族に対する支援」が9.7%、「住まいで受けられる訪問サービス」が9.1%、「災害時の支援」が8.1%の順となっています。



図表 13-8 介助者・支援者が考える今後充実させてほしいこと(保有手帳の種別) クロス集計

身体障害者手帳を持っている方の介助者・支援者は「介護費・医療費の負担軽減」が特に多くなっています。
療育手帳を持っている方の介護者・支援者は「住まいの場(入所施設)」「企業などの働く場」「住まいの場(グループホーム)」が多くなっています。

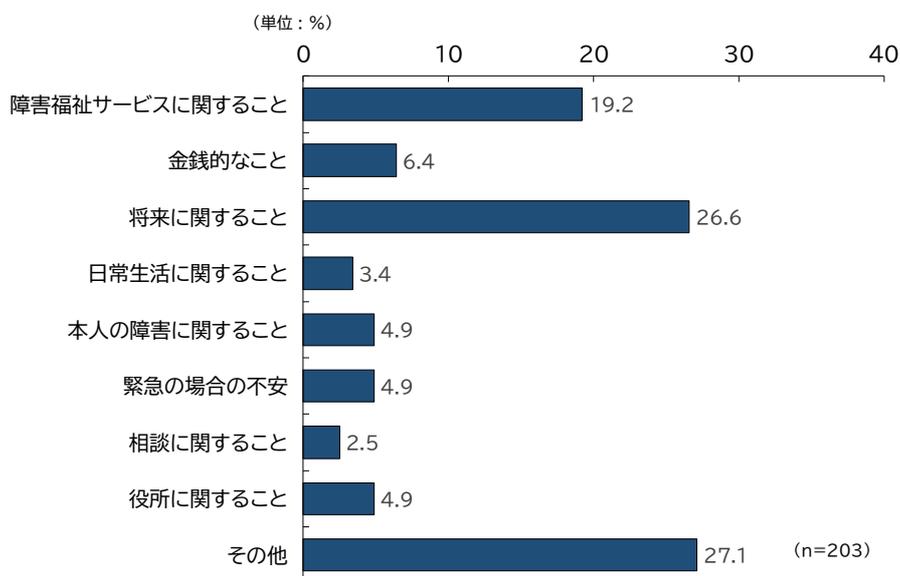


Q 46. 介助・支援をするうえでの悩み・心配事(自由意見)

質問文 介助又は支援をするうえで、悩みや心配事がありましたら自由にご記入ください。

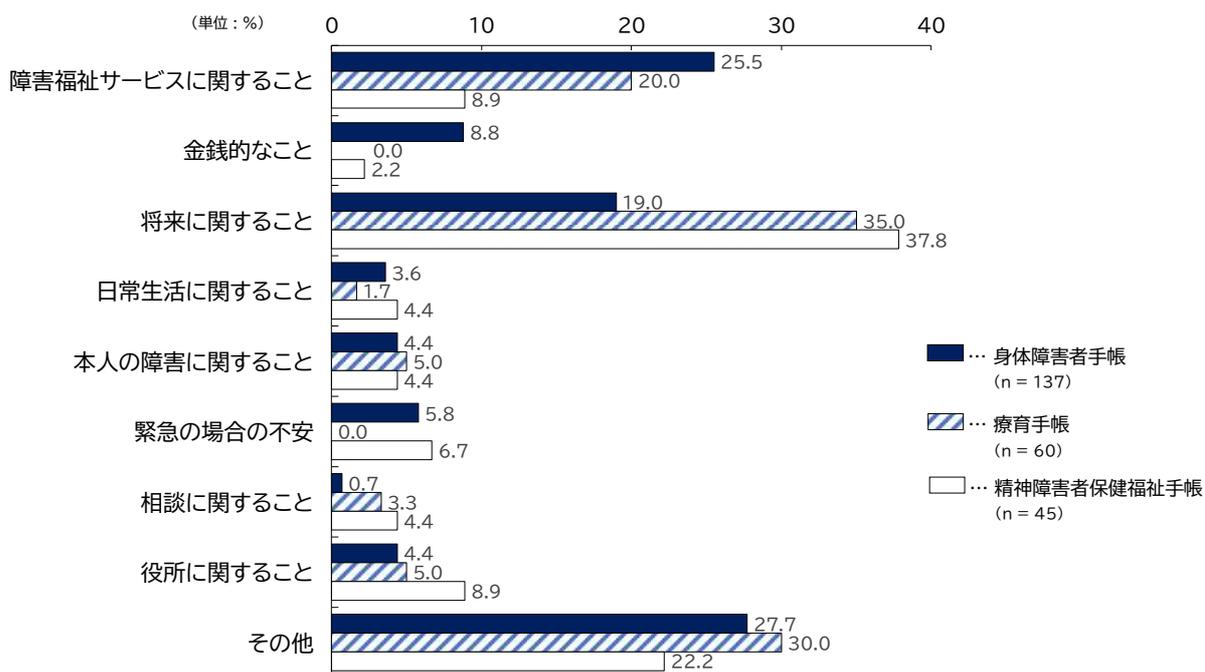
図表 13-9 介助・支援をするうえでの悩み・心配ごと 単純集計

「将来に関すること」が 26.6%と最も多くなっています。



図表 13-10 介助・支援をするうえでの悩み・心配ごと(保有手帳の種別) クロス集計

療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている方の介助者・支援者は特に「将来に関すること」の割合が高くなっています。



參考資料

調查票

アンケート用紙

この調査は、和歌山県が県内にお住まいの障害のある方を対象に、日常生活状況などをおうかがいし、今後の障害者福祉に関する取組を進めるための重要な資料とすることを目的としています。

ご記入にあたっての注意事項

- この調査は、障害者手帳をお持ちの方に、調査票をお送りしています。
- ご本人さまのお名前やご住所などはご記入いただく必要はありません。
- 障害の状況や年齢などの関係でご本人が回答できない場合は、ご家族の方や介助・支援されている方がご本人の思いなどを代理してご記入ねがいます。
- アンケートは、質問に対し、あてはまる数字などを○で囲んでください。
- 質問によっては、() 内に必要な内容をご記入ねがいます。
- ご回答いただいたアンケート用紙は11月30日(水)までにご返送ください。

01 あなた(ご本人)についておたずねします。

Q1 | このアンケートにお答えいただくのは、どなたですか。(1つに○)

- 本人(本人が意思表示した内容の代筆を含みます。)
- 本人の家族
- 福祉施設・事業所の職員
- 成年後見人
- その他()

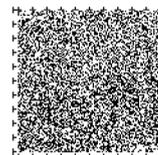
Q2 | あなたの性別、年齢(令和4年9月1日現在)をお答えください。

(1) あなたの性別をお答えください。(1つに○)

- 男
- 女
- その他()
- 回答しない

(2) あなたの年齢をお答えください。(数字を記入)

(さい 歳)



Q3 お住まいの地域はどこですか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 和歌山市 | 2. 海南市・海草郡 | 3. 岩出市・紀の川市 |
| 4. 橋本市・伊都郡 | 5. 有田市・有田郡 | 6. 御坊市・日高郡 |
| 7. 田辺市・西牟婁郡 | 8. 新宮市・東牟婁郡 | |

Q4 あなたがお持ちの障害者手帳や障害の診断などについておたずねします。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|---|-----------------|
| 1. 身体障害者手帳を持っている | 2. 療育手帳を持っている |
| 3. 精神障害者保健福祉手帳を持っている | 4. 発達障害と診断されている |
| 5. 高次脳機能障害と診断されている | |
| 6. 指定難病・小児慢性特定疾病の医療費助成の受給者証を持っている | |
| 7. 医療費助成の受給者証を持っていないが障害者総合支援法の対象の難病と診断されている | |

Q5 障害者手帳をはじめ取得したのはいつですか。(1つに○)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 0歳～9歳 | 2. 10歳～19歳 | 3. 20歳～29歳 |
| 4. 30歳～39歳 | 5. 40歳～49歳 | 6. 50歳～59歳 |
| 7. 60歳～69歳 | 8. 70歳以上 | |

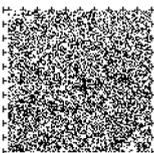
Q6 身体障害者手帳をお持ちの方におたずねします。

(1) 総合の等級は次のうちどれですか。(1つに○)

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1. 1級 | 2. 2級 | 3. 3級 | 4. 4級 | 5. 5級 | 6. 6級 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|

(2) 障害の種類をお答えください。(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------|
| 1. 視覚障害 | 2. 聴覚障害 | 3. 平衡機能障害 |
| 4. 音声・言語機能障害 | 5. そしゃく機能障害 | 6. 肢体不自由 |
| 7. 心臓機能障害 | 8. 腎臓機能障害 | 9. 呼吸器機能障害 |
| 10. ぼうこう・直腸機能障害 | 11. 小腸機能障害 | 12. 免疫機能障害 |
| 13. 肝臓機能障害 | | |



Q12 あなたは将来、どのように暮らしたいと思いますか。(1つに○)

1. 今、住んでいる場所で暮らしたい 2. 今とは別の場所で暮らしたい

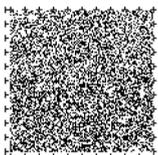
Q13 Q12で「2.」と回答された方におたずねします。具体的にどのような場所で暮らしたいと思いますか。(1つに○)

1. グループホーム 2. 障害者(児)の入所施設
3. 障害者(児)の入所施設以外の施設(高齢者施設など)
4. 家族と一緒に暮らしたい 5. ひとりで暮らしたい
6. その他()
7. わからない

03 あなたの日常生活についておたずねします。

Q14 日中(昼間)の過ごし方についておたずねします。あなたは平日の日中、主にどのような過ごし方ですか。(1つに○)

1. 企業や団体、自営業などで働いている
2. 自宅で家事、育児、介護などを行っている
3. 通所施設などで就労している(就労継続支援A型・B型も含む)
4. 通所施設などを利用して(介護、障害のサービスを受けている)
5. 病院のデイケアなどを利用して
6. 大学、専門学校、職業訓練校などに通っている
7. 特別支援学校(小、中、高等部)に通っている
8. 小中学校、高校に通っている
9. 小中学校の特別支援学級に通っている
10. 高校に通い、通級による指導を受けている
11. 保育所、幼稚園、児童発達支援センター(事業所)などに通っている
12. 自宅で過ごしている
→何をしてお過ごしが多いですか。()内に記入してください。
()
13. 入所している施設、病院などで過ごしている
14. その他()



Q15 あなたは普段の生活の中で、困っていることや不安に思っていることはありますか。
(あてはまるもの全てに○)

- 1. 食事
- 2. 入浴・トイレ
- 3. 掃除・洗濯
- 4. 家の中の移動
- 5. 買い物
- 6. お金の管理
- 7. 意思の伝達・コミュニケーション
- 8. 通院・服薬
- 9. 役所などでの手続き
- 10. 緊急時の避難
- 11. その他 ()
- 12. 特に困っていない

Q16 あなたの生活を主に介助・支援しているのは誰ですか。(最大3つまで○)

- 1. 親
- 2. 祖父母
- 3. 配偶者
- 4. 子供
- 5. 兄弟姉妹
- 6. 友人・知人
- 7. 近所の人
- 8. ボランティア
- 9. 福祉サービスの職員
- 10. 病院の職員
- 11. その他 ()
- 12. 必要ない

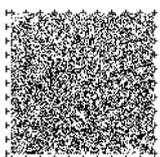
Q17 あなたは日中の過ごし方について、満足していますか。(1つに○)
なお、「3.」「4.」に当てはまる場合、その理由も教えてください。

- 1. 満足している
 - 2. どちらかといえば満足している
 - 3. どちらかといえば満足していない
 - 4. 満足していない
- ※ () 内に満足していない理由を記入してください。
(満足していない理由:)

04 障害福祉サービスの利用についておたずねします。

Q18 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(1つに○)

- 1. 利用している (⇒ 6 ページの Q19 へ)
- 2. 利用していない (⇒ 7 ページの Q20 へ)



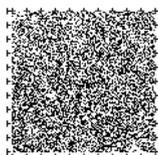
Q19 | Q18で「1.」とお答えいただいた方におたずねします。

(1) 現在、利用している障害福祉サービスは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

1. 訪問系サービス (居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護)
2. 生活介護
3. 療養介護
4. 短期入所 (ショートステイ)
5. 施設入所支援
6. 自立訓練 (機能訓練・生活訓練)
7. 就労継続支援 (A型)
8. 就労継続支援 (B型)
9. 就労定着支援
10. 就労移行支援
11. 共同生活援助 (グループホーム)
12. 特定相談支援 (計画相談支援・障害児相談支援)
13. 一般相談支援 (地域移行支援・地域定着支援)
14. 児童発達支援
15. 医療型児童発達支援
16. 放課後等デイサービス
17. 保育所等訪問支援
18. 居宅訪問型児童発達支援
19. 福祉型障害児入所施設
20. 医療型障害児入所施設
21. その他 ()

(2) 現在、障害福祉サービスを利用するにあたり、困っていることはありますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 利用時間・利用量が足りない
2. 利用できる事業所が少ない
3. ヘルパーや支援員の知識や技量などが不十分
4. サービス内容や利用料などに関する制度・手続きがわかりにくい
5. 障害の状況に応じたサービスが提供されない
6. 通所にかかる時間や費用などの負担が大きい
7. サービス利用料の負担が大きい
8. その他 ()
9. 特に困っていない



05 あなたのお仕事についておたずねします。

Q20 あなたのお仕事についておたずねします。

(1) あなたは今、仕事に就いていますか。(1つに○)

1. 企業や団体などで正社員・正職員として働いている
2. 企業や団体などで臨時職員・パート・アルバイトとして働いている
3. 福祉施設・作業所などで働いている
4. 自営業
5. 自営業の手伝い
6. その他(具体的に記入してください：)
7. 仕事はしていない(⇒8ページの(5)へ)

(2) (1)の質問で、「1.」～「6.」とお答えいただいた方におたずねします。

働いて得る1か月の収入(給料や工賃など)はどれくらいですか。

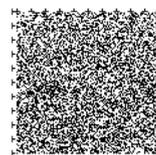
(1つに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 1万円未満 | 2. 1万円以上～2万円未満 |
| 3. 2万円以上～5万円未満 | 4. 5万円以上～10万円未満 |
| 5. 10万円以上～20万円未満 | 6. 20万円以上～30万円未満 |
| 7. 30万円以上 | 8. なし |
| 9. わからない | |

(3) (1)の質問で、「1.」「2.」とお答えいただいた方におたずねします。

仕事をしていて、困っていることはありますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 職場へ通うのに不便がある
2. 自分の能力に合わない
3. 人づきあいが難しい
4. 障害のことをわかってもらえない
5. 障害の内容や程度に応じた設備(入り口の段差など)が整っていない
6. その他(具体的に記入してください：)
7. 困っていることはない

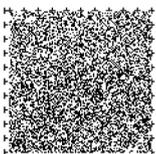


(4) (1)の質問で、「1.」～「6.」とお答えいただいた方におたずねします。
あなたは今後、どのように働きたいですか。(1つに○)

1. 今と同じように働きたい
2. 企業や団体などで正社員・正職員として働きたい
3. 企業や団体などで臨時職員・パート・アルバイトとして働きたい
4. 福祉施設・作業所などで働きたい
5. 自営業で働きたい
6. その他(具体的に記入してください:)
7. わからない

(5) (1)の質問で、「7.」とお答えいただいた方におたずねします。今、あなたが
仕事に就かれていない理由は何ですか。(1つに○)

1. 働きたいが、就職先が見つからない(求職活動中)
2. 働きたいが、自分にあった仕事が見つからない
3. 障害や病気で、働くことができない
4. 通学中、職業訓練中だから
5. 高齢であるため
6. 人づきあいが難しいから
7. 障害のことをわかってもらえないから
8. 働く自信がないから
9. 障害の内容や程度に応じた設備(入り口の段差など)が整っていないから
10. その他(具体的に記入してください:)



Q21

全ての方におたずねします。障害者の就労を進めるために、どんなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

1. 通勤手段が確保できること
2. 障害者に配慮した職場、設備などが整っていること
3. 短時間勤務や週の数日のみ働くことができる職場を増やすこと
4. 在宅で働くことができること
5. 職場に障害を理解してくれる人がいること
6. 就労後のフォロー援助など、職場と支援機関の連携があること
7. 仕事で困ったときに、職場以外で相談にのってくれるところがあること
8. 障害者同士が仕事の悩みを語り合ったり、ピアサポートなどの支援があること
9. その他（具体的に記入してください：）

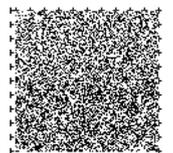
06 あなたの悩みや相談についておたずねします。

Q22

あなたが日常生活で困ったことや悩むことがあるとき、誰に相談していますか。

（最大3つまで○）

1. 家族・親せき
2. 友人・知人
3. 施設の職員
4. ホームヘルパーなどサービス事業所の人
5. 病院の職員
6. 相談支援事業所の職員
7. 学校や保育所などの先生
8. 介護保険のケアマネジャー
9. 障害者団体・家族会の人
10. 市町村の職員
11. 県の職員
12. その他の行政機関の職員（）
13. 発達障害者支援センターの職員
14. その他（具体的に記入してください：）
15. 相談できる人がいない
16. 相談することがない



Q23

いま、どんなことに困ったり悩んだりしていますか。
(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|-------------------------|--------------|----------|
| 1. 自分の障害のこと | 2. 健康、医療のこと | 3. お金のこと |
| 4. 住む場所のこと | 5. 家族のこと | 6. 学校のこと |
| 7. 仕事、就職のこと | 8. 福祉サービスのこと | |
| 9. 友人、人づきあいのこと | 10. 恋愛、結婚のこと | |
| 11. その他（具体的に記入してください：) | | |
| 12. 困っていることはない | | |

Q24

あなたが役場などの相談窓口を利用するときに、困ることはありますか。
(あてはまるもの全てに○)

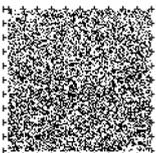
- どこに相談にいったらよいか、わかりにくい
- いくつもの相談窓口を転々としなくてはいけない
- 相談にいく度に、同じことを何回も説明しなければならない
- 夜間や休日などに対応してもらえない
- 担当者不在などで、相談できないことや長時間待たされることがある
- 相談窓口での意思疎通が困難
- その他（具体的に記入してください：)
- 特に困ることはない

07 外出や余暇活動についておたずねします。

Q25

あなたはどのくらい外出していますか（通勤、通学、通院、通所を除く）。
(1つに○)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 1週間に3～6回程度 |
| 3. 1週間に1～2回程度 | 4. 2週間に1～2回程度 |
| 5. 1か月に1～2回程度 | 6. 年に数回 |
| 7. 外出していない | |



Q26 | あなたが外出するときのことについておたずねします。

(1) あなたが外出するとき支援は必要ですか。(1つに○)

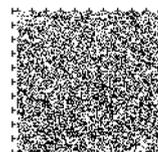
1. いつも支援が必要
2. 慣れた場所には一人で行けるが、それ以外は支援が必要
3. 普段は一人で行けるが、調子が悪い場合は支援が必要
4. いつも一人で外出できる

(2) (1)で「1.」～「3.」と回答した方におたずねします。
どのような支援で外出していますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 福祉サービス(居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護、移動支援)
2. 福祉タクシーなどの移送サービス
3. 医療機関の職員の付き添い
4. 家族の付き添い
5. 友人や知人、ボランティアなどの付き添い
6. その他(具体的に記入してください：)

Q27 | この1年間、どのような余暇活動をしましたか。(あてはまるもの全てに○)

1. コンサートや映画の鑑賞
2. スポーツ観戦
3. スポーツ活動(教室、大会、練習など)
4. 旅行、キャンプ、釣りなどの活動
5. 学習活動
6. 趣味の同好会、サークル活動(スポーツ活動を除く。)
7. ボランティアなどの社会活動
8. 障害者団体などの活動
9. 自治会、町内会活動
10. 芸術・文化活動
11. インターネットやメールを利用した交流
12. その他(具体的に記入してください：)
13. 特に活動しなかった



Q28 | 今後、どのような活動をしたいですか。（あてはまるもの全てに○）

1. コンサートや映画の鑑賞
2. スポーツ観戦
3. スポーツ活動（教室、大会、練習など）
4. 旅行、キャンプ、釣りなどの活動
5. 学習活動
6. 趣味の同好会、サークル活動（スポーツ活動を除く。）
7. ボランティアなどの社会活動
8. 障害者団体などの活動
9. 自治会、町内会活動
10. 芸術・文化活動
11. インターネットやメールを利用した交流
12. その他（具体的に記入してください：）
13. 特に活動したくない※（ ）内に活動したくない理由があれば記入してください。
（ ）

Q29 | Q28で「1.」～「12.」とお答えいただいた方におたずねします。

Q29 | Q28の活動をするために、どのようなことが必要ですか。

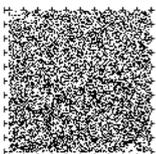
（あてはまるもの全てに○）

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 活動に関する情報 | 2. 開催場所までの移動手段 |
| 3. 介護者、付き添う人 | 4. 障害の内容や程度に応じた建物、設備 |
| 5. 一緒に活動する仲間 | 6. 適切な指導者 |
| 7. その他（具体的に記入してください：） | |

08 | あなたが必要な情報を集める方法についておたずねします。

Q30 | あなたは日常生活に必要な情報を何から集めていますか。（最大3つまで○）

- | | | | |
|------------------------|-----------|---------|-------------|
| 1. テレビ | 2. ラジオ | 3. 新聞 | 4. インターネット |
| 5. SNS | 6. 本・雑誌 | 7. 医療機関 | 8. 福祉施設 |
| 9. 当事者団体・家族会 | 10. 友人・知人 | 11. 家族 | 12. 自治体の広報誌 |
| 13. その他（具体的に記入してください：） | | | |



09 人権や権利擁護についておたずねします。

Q31 あなたが経験したことについておたずねします。あなたは過去5年間に、障害があることで嫌な思いをしたり、配慮してもらえなかったことがありますか。(1つに○)

1. ある (⇒ Q32 へ)
2. ない (⇒ 15 ページの Q33 へ)

Q32 Q31 で「1. 」と回答された方におたずねします。

(1) 嫌な思いをしたり、配慮してもらえなかったのは、どのような場所でしたか。(あてはまるもの全てに○)

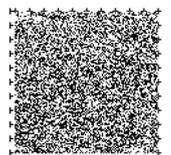
- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. 通所先または入所先 | 2. 学校・幼稚園・保育所 | 3. 職場 |
| 4. 家庭 | 5. 病院 | 6. 交通機関 |
| 7. 役所 | 8. 公共施設 | 9. お店 |
| 10. 近所 | | |
| 11. その他 () | | |

(2) それは、どのような内容でしたか。

(3) 嫌な思いをしたり、配慮してもらえなかったとき、誰かに相談しましたか。

(1つに○)

1. 相談した (⇒ 14 ページの (4)、(5) へ)
2. 相談しなかった (⇒ 14 ページの (6) へ)



(4) (3)で「1.」とお答えされた方におたずねします。誰に相談しましたか。
(あてはまるもの全てに○)

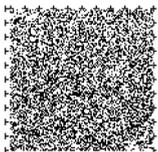
- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 家族・親せき | 2. 友人・知人 |
| 3. 民生委員・児童委員 | 4. 福祉施設・作業所の職員 |
| 5. 相談支援事業所の職員 | 6. 介護保険のケアマネジャー |
| 7. 障害者団体・家族会の人 | 8. 職場の人 |
| 9. 学校・幼稚園・保育所の先生 | 10. 医療機関の職員 |
| 11. 市町村の職員 | 12. 県の職員 |
| 13. 警察の職員 | 14. 人権擁護委員 |
| 15. 法務局の職員 | |
| 16. その他 () | |

(5) 相談した結果、どうになりましたか。(1つに○)

1. 自分と相手との間に入って調整してもらい、解決した
2. 自分の話を聞いてもらい、だいたい納得した
3. 自分と相手との間に入って調整してもらったが、解決しなかった
4. 自分の話を聞いてもらったが、納得できなかった
5. その他 ()

(6) (3)で「2.」とお答えされた方におたずねします。相談しなかったのはなぜですか。
(あてはまるもの全てに○)

1. 相談する先がなかったから
2. どこに相談したらよいかわからなかったから
3. 相談したくなかったから
4. 話を聞いてもらえるかどうか、不安だったから
5. 相談しても、解決できないと思ったから
6. その他 ()



Q33

すべての方におたずねします。障害を理由とする差別をなくすためには、どのようなことが必要とと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

1. 学校での教育
2. 行政、企業などでの職員研修
3. 住民向け講演会・研修会
4. 障害のある人とない人との交流
5. 広報・啓発
6. 障害者雇用の推進
7. その他（ ）

10 災害等の緊急時についておたずねします。

Q34

あなたは、災害等の緊急時に、一人でまたは支援を受けながら、安全に避難できる環境にありますか。（1つに○）

1. 一人で避難できる
2. 支援を受けながら、避難できる環境にある
3. 避難できない
4. わからない

Q35

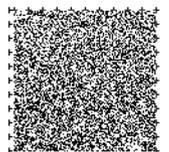
Q34の質問で「3.」とお答えいただいた方におたずねします。避難できない理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

1. 移動が難しいため
2. 介助者が周りにいないため
3. 避難場所が遠いため
4. 避難場所がわからないため
5. 緊急時の情報を得る手段がないため
6. 緊急時という判断がつかないため
7. その他（具体的に記入してください： ）

Q36

あなたは、地震や台風などの災害時に何が必要だと思いますか。（最大3つまで○）

1. 障害特性に応じた情報提供
2. 避難所など安全な場所への誘導や介助などの支援
3. 避難所の建物・設備などの整備、バリアフリー化
4. 人工呼吸器など医療機器の電源の確保
5. 避難所での介護やコミュニケーションなどの人的支援
6. 障害のある人を対象とした避難所の確保
7. 医療的ケアの充実と医薬品などの提供
8. その他（ ）



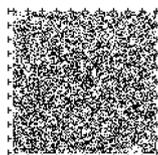
11 新型コロナウイルス感染症についておたずねします。

Q37 新型コロナウイルス感染症の拡大によって障害福祉サービスの利用に、どのような影響を受けましたか。(1つに○)

1. 障害福祉サービスの利用が減少した
2. 障害福祉サービスの利用が増加した
3. 特に影響を受けていない
4. 障害福祉サービスを利用していない

Q38 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、困っていること(困ったこと)は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

1. 障害福祉サービスの利用が減少した
2. 医療機関への受診の機会が減少した
3. 家族や親戚等による介助・支援が減少した
4. 収入が減少した
5. 就学の機会が減少した
6. 外出や余暇活動、友人と会う機会などが減少した
7. 心身の健康状態が悪化した
8. その他 ()
9. 特に困っていない



12 障害のある方への取組についておたずねします。

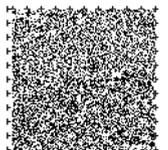
Q39

あなたが今後生活するうえで、充実させてほしいと思うことは何ですか。
(最大3つまで○)

1. 住まいの場 (グループホーム)
2. 住まいの場 (入所施設)
3. 企業などの働く場
4. 働くための訓練の場
5. 作業工賃
6. 日中活動の場
7. 住まいで受けられる訪問サービス
8. 相談の場
9. 余暇活動の場
10. 教育を受ける場
11. 当事者どうしの情報交換、交流の場
12. 医療費・介護費の負担軽減
13. 通学、通勤、通院のための移動手段
14. 道路、建物、交通機関のバリアフリー
15. 公共交通機関、公共施設の割引
16. 意思伝達、意思疎通支援
17. 成年後見制度
18. 災害時の支援
19. 活用できる制度などの情報提供
20. 障害の正しい理解を広める取組
21. 障害を理由とする差別の解消
22. 特にない
23. その他 (具体的に記入してください:)

Q40

あなたが今一番、夢中になっていることは何ですか。また、将来実現したいこと、やってみたいことがありましたら自由にご記入ください。



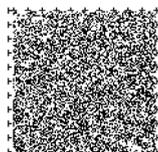
Q41

あなたへの質問は以上です。最後に、その他にご意見がありましたら自由にご記入ください。

Empty dashed box for user input.



次ページ以降の質問はあなたを介助・支援されているご家族の方にご記入をお願いしてください。



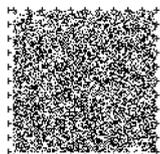
Q46

かいじよまた しえん 介助又は支援をするうえで、なや しんばいごと 悩みや心配事がありましたら じゆう きにゆう 自由にご記入
ください。

きょうりょく 協力ありがとうございました。

きにゆう お どうふう へんしんようふうとう がつ にち すい
ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒で11月30日(水)

ままでに、ゆうびん とう 郵便ポストに投かんしてください。



和歌山県障害者福祉に関する実態調査結果報告書

令和5年3月

発行：和歌山県 福祉保健部 福祉保健政策局 障害福祉課

TEL：073-441-2532 FAX：073-432-5567

メール：e0404001@pref.wakayama.lg.jp